

11-01

研究報告書第1号

〈特殊教育に関する調査研究〉

# 特殊学級における教育課程 及び指導計画の手引

平成3・4年度

茨城県教育研修センター

## 序

本県の特殊教育においては、昭和54年度の養護学校義務制施行後、この教育の一層の発展を期する上で、今なお検討を必要とする課題に特殊学級の教育内容、方法に関する問題や障害児の理解と就学指導に関する問題等がありました。

そこで、本研究は、昭和60年度から8か年計画（昭和60年度～平成4年度）で、茨城県教育振興計画や学校教育指導方針、さらには、臨時教育審議会の答申等を踏まえ、特殊学級における教育方法の改善について取り組んできました。昭和60年度に、特殊学級における「特殊教育に関する調査」を全県的な規模で実施し、昭和61年度には、調査結果の分析検討をし実態の把握に努めてきました。その結果、特殊学級の今日的課題である児童生徒の障害の状態からみた教育課程及び指導計画作成の指針を示すことになりました。

その後、「特殊学級における教育課程及び指導計画の試案」（昭和62・昭和63年度）を作成し、それをベースとして、各校から寄せられたアンケートを参考にしながら、「特殊学級における教育課程及び指導計画の試案(2)」（平成元・2年度）を作成しました。さらに、平成3・4年度は、「試案(2)」について各校の実践の結果をアンケート調査し、改善すべき点についての分析を進め、その結果を本報告書第1号にまとめました。

本報告書は、特殊学級担任の先生方が、一人一人の児童生徒の発達段階に応じた指導をする際、その指針になるようにという観点からまとめたものです。実際に活用するに当たっては、各校の児童生徒の実態に合わせながら、指導に生かしていただきたいと願っております。

最後に、この研究を進めるに当たり、御指導を賜りました講師の先生方や御協力いただきました各小・中学校の校長先生に厚くお礼申し上げますと共に、この報告書作成に当たって、執筆していただいた研究協力員の方々に心から感謝申し上げます。

平成5年3月

茨城県教育研修センター所長

高久清吉

# 目 次

第I章	研究の基調	1
1	研究の概要	1
2	研究の経緯	1
(1)	研究テーマ及び障害別研究テーマ	1
(2)	研究グループの構成	1
(3)	研究の年次計画	2
(4)	年次計画に基づく研究の経過	2
(5)	第四次研究経過	3
第II章	小・中学校精神薄弱特殊学級における教育課程編成上の方針	5
1	教育目標の設定	5
2	教育課程の基本構造	5
3	指導内容の選定と指導方法	5
(1)	指導内容の選定	5
(2)	指導方法	6
第III章	精神薄弱特殊学級の学級経営と学習指導計画	7
1	学級経営	7
(1)	経営方針	7
(2)	指導方法及び形態	7
(3)	入級の手続き	9
(4)	実態把握のための諸検査	9
(5)	年間指導計画と時間割の編成	11
(6)	学級の行事	19
(7)	指導記録のとり方	21
(8)	通信票	23
(9)	家庭との連絡	28
(10)	交流学习	29
(11)	理解・啓発	31
(12)	進路指導	32
2	小学校学習指導計画	36
・	生活単元学習	36
・	国語科	43
・	算数科	45
・	音楽科	48
・	図画工作科	50
・	体育科	52
・	作業学習	54
・	学級活動	56
3	中学校学習指導計画	58
・	生活単元学習	60
・	作業学習	62
・	国語科	71
・	数学科	74
・	音楽科	76
・	美術科	78
・	保健体育科	81

第IV章	難聴・言語障害特殊学級における学習指導計画作成上の方針	85
1	指導の基本的な考え方	85
2	指導内容の選定と指導の方法	85
3	指導計画作成上の留意点	86
第V章	難聴・言語障害特殊学級の学級経営と学習指導計画	87
1	難聴・言語障害とは	87
2	学級経営	87
(1)	経営方針	87
(2)	指導方法及び形態	87
(3)	通級の手続き	87
(4)	早期発見のための手だて	91
(5)	通常学級との連携	91
(6)	家庭との連携	92
(7)	学級の行事	92
(8)	運営の資料	93
3	学習指導計画	100
(1)	構音障害	100
(2)	口蓋裂	110
(3)	吃音	114
(4)	ことばの発達の遅れ	118
(5)	難聴	125
第VI章	情緒障害特殊学級における学習指導計画作成上の方針	133
1	指導の基本的な考え方	133
2	指導内容の選定と指導方法	133
3	指導計画作成上の留意点	134
第VII章	情緒障害特殊学級の学級経営と学習指導計画	135
1	情緒障害とは	135
2	学級経営	135
(1)	経営方針	135
(2)	児童生徒の実態・状態像把握のために	135
(3)	指導方法及び形態	136
(4)	通級の手続き	137
(5)	早期発見のための手だて	138
(6)	通常学級及び家庭との連携	138
(7)	学級の行事	140
(8)	運営の資料	141
3	学習指導計画	146
(1)	かん黙	146
(2)	登校拒否	150
(3)	自閉症	155
(4)	神経性習癖	173
第VIII章	指導内容系統表	175
1	指導内容系統表活用上の留意事項	175
2	指導内容系統表の見方	175
3	指導内容系統表	176
参考文献		205
	「特殊学級における教育課程及び指導計画の手引」作成委員	206

### 研究概要及び索引語

本県の特殊学級は、障害の状態が多様化し、学級内の個人差も大きい。そのため、より具体的・実践的な教育課程及び指導計画案が必要とされてきた。この課題の解明のため、組織的研究の核となる研究グループを構成し、昭和60年度から平成4年度まで特殊学級の教育方法に関する理論的・実践的な研究に取り組んできた。この研究成果を「特殊学級における教育課程及び指導計画の手引」としてまとめ発行した。

索引語（キーワード）：特殊教育，教育課程，指導方法，指導計画，個人差，学級経営

# 第1章 研究の基調

## 1 研究の概要

本県の小・中学校における特殊学級は、量的な面（入級児童生徒数や学級数）から見ると昭和54（1979）年度の養護学校義務制施行を境にして減少傾向をたどってきた。一方、教育の質的な面（教育内容等）からみると、精神薄弱特殊学級、難聴特殊学級、言語障害特殊学級及び情緒障害特殊学級（以下、それぞれ精神薄弱学級、難聴学級、言語学級、情緒学級と略記）のいずれの学級においても、障害の状態が多様化し、学級内の個人差も大きくなってきた。そこで、個人差の大きい児童生徒をどのようにして一つの集団として学習に取り組みせるか、あるいは、集団活動の中でどの様にして指導の個別化を徹底するか、ということが大きな課題となった。即ち、障害の状態や発達段階等、個人差に応じた教育課程及び指導計画案が必要とされてきたのである。一方、特殊学級担当者の交替が進み、特殊学級担当者の経験が浅く、特殊学級の経営方法や就学指導及び交流教育などについて、より具体的・実践的な手引が必要とされてきた。

旧茨城県立教育研修センターでは、この課題の解明のため、「特殊学級における教育方法の研究」の主題のもとに、昭和60年度から平成3年度まで年間継続的に研究を進めてきた。

本研修センターにおいても、その成果を基盤として、「特殊学級における教育方法の研究」の主題を継承し、組織的研究の核となる研究グループを構成し、特殊学級の教育方法に関する理論的・実践的な研究に取り組んできた。

## 2 研究の経緯

昭和60年度より平成4年度まで進められてきた本研究の経過は次のとおりである。

### (1) 研究テーマ及び障害別研究テーマ

#### ア 全体研究テーマ

「特殊学級における教育方法の研究」

#### イ 障害別研究テーマ

研究グループ	小学校精神薄弱	中学校精神薄弱	難聴・言語障害	情緒障害
研究テーマ	障害の状態及び発達段階等に応じた教育課程の研究		障害の状態に応じた指導計画の研究	

### (2) 研究グループの構成

精神薄弱学級、難聴学級、言語学級及び情緒学級の各学級の実態に応じて、実践的に研究を進める必要があり、学識経験者若干名、研究主事3名（平成4年度は指導主事4名）ほか、各学級担当教諭に研究協力員を委嘱し研究を進めてきた。

グループ 構成メンバー	小学校 精神薄弱 学級	中学校 精神薄弱 学級	難聴学級	言語障害 学級	情緒学級
教諭	5人	5人	2人	3人	5人

(3) 研究の年次計画

研究グループ 年次	小学校精神薄弱	中学校精神薄弱	難聴・言語障害	情緒障害
第一次 (昭和60・61年度)	教育課程実施上の問題点の分析		指導計画実施上の問題点の分析	
第二次 (昭和62・63年度)	学級の実態に応じた類型別教育課程 試案の作成		障害の類型別指導計画試案の作成	
第三次 (平成元・2年度)	試案に基づく児童生徒の変容の分析と試案(2)の作成			
第四次 平成(3・4年度)	試案(2)に基づく児童生徒の変容の分析と手引きの作成			

(4) 年次計画に基づく研究の経過

年次	主な協議題	講師	研究課題及び課題	研究報告書
第一次 (昭和60・61年度) 協議会 開催 各年度 3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実践的な研究とするため県下の特殊学級の現状と課題について調査を計画</li> <li>・調査項目の検討</li> <li>・県下693学級を対象に、教育課程及び指導計画の実施状況について調査及び集計</li> <li>・集計結果の考察</li> </ul>	<b>【茨城大学】</b> 尾崎久記 相馬壽一	<b>【調査結果から】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学級の児童生徒数が減り、集団活動がしにくく適応力を伸ばしにくい。</li> <li>・能力差が著しく、個に応じた指導が困難である。</li> <li>・特殊学級担任の経験が浅い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告書69号「特殊教育に関する調査研究—特殊学級における教育課程及び指導計画の実施に関する調査結果—昭和60・61年度(昭和62年3月発行)</li> <li>・各学校に配付。</li> </ul>
第二次 (昭和62・63年度) 協議会 開催 昭62年度 3回 昭63年度 2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第一次研究結果を踏まえて「教育課程及び指導計画の試案」の作成を計画</li> <li>・個人差・能力差に応じた類型別に教育課程及び指導計画を検討</li> <li>・指導内容系統表を作成し障害の状態に応じて選択できるようにする。</li> </ul>	<b>【千葉大学】</b> 小出進氏 <b>【東京学芸大学】</b> 谷俊治 小川仁 <b>【茨城大学】</b> 尾崎久記 相馬壽一 国立機関 宮崎直男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各領域・教科の具体的内容が明確になった。</li> <li>・障害の状態に応じて指導内容系統表から選択できるようになった。</li> <li>・個に即した指導計画の立て方にめやすができた。</li> <li>・能力差に応じた教育課程の大枠の研究から、細部への検討が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告書第75号「特殊学級における教育課程及び指導計画の試案」昭和62・63年度(平成元年3月発行)</li> <li>・各学校に配付。(以下「試案」と略記)</li> </ul>

年次	主な協議題	講師	研究課題及び課題	研究報告書
第三次 (平成元・ 2年度) 協議会 開催 平成元年度 5回 平成2年度 5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「試案」についてさらに分析・検討し、試案(2)の作成を計画</li> <li>・「試案」の実践結果について各学校へ調査</li> <li>・研究協力委員による検証授業</li> <li>・調査及び検証授業結果を分析・検討し試案(2)の内容を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【文部省教科調査官】大南英明</li> <li>【東京学芸大学】小川 仁</li> <li>【茨城大学】相馬壽一</li> <li>【国立特殊教育総合研究所】大石益男</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級経営に関する内容の充実を図った。</li> <li>・学習指導計画はフローチャート式にして計画しやすくした。</li> <li>・指導内容系統表は新学習指導要領に基づき、さらに内容を充実させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究報告書79号「特殊学級における教育課程及び指導計画の試案(2)」平成元・2年度(平成3年3月発行)</li> <li>・各学校に配付。(以下「試案(2)」と略記)</li> </ul>

#### (5) 第四次研究経過

第四次の研究では、第三次でまとめた「試案(2)」に基づき県内小・中学校の特殊学級で実践した結果をアンケート調査し、さらに検討を加え「特殊学級における教育課程及び指導計画の手引」を作成することにした。

研究経過と協力員会議の内容については次のとおりである。

	回	期 日	協 議 内 容	講 師
平成 三 年 度	1	5月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「試案(2)」に基づく実践結果について各学校への調査を計画</li> <li>・調査項目の内容を検討</li> </ul>	
	2	5月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査票及び調査実施要綱の内容検討</li> </ul>	【国立特殊教育総合研究所】 篠原吉穂
	3	8月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査結果についての集計と分析</li> </ul>	【茨城大学】 相馬壽明 【前勝田市立外野小学校】 小松沢勝雄
	4	8月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査結果の分析に基づく「試案(2)」の改善点の検討と分析</li> </ul>	
	5	8月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「試案」及び「試案(2)」から改善すべき点の検討及び「特殊学級における教育課程及び指導計画の手引」作成のための項立ての検討</li> </ul>	【筑波大学】 井田範美
	6	10月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特殊学級における教育課程及び指導計画の手引」の執筆内容及び執筆分担</li> </ul>	



	回	期 日	協 議 内 容	講 師
平成 四年 度	1	6月26日	・「特殊学級における教育課程及び指導計画の手引」の執筆	
	2	7月27日	・「特殊学級における教育課程及び指導計画の手引」の執筆及び第1次原稿校正	
	3	11月24日	・「特殊学級における教育課程及び指導計画の手引」執筆及び第2次原稿校正	

先に述べたように第四次の研究では、第三次研究でまとめた「試案(2)」に基づき県内小・中学校の特殊学級で実践した結果をアンケート調査した。その結果をふまえ次のような観点で研究を進めた。

- ① 「試案」と「試案(2)」では、実践例における指導形態や指導内容等について重複を避けて掲載するよう努めた。しかし、調査結果による各学級担当者の要望では、「試案」と「試案(2)」の内容を合わせた「特殊学級における教育課程及び指導計画の手引」作成して欲しい旨の要望が強いことから、「試案」及び「試案(2)」の内容を検討し、各試案の特徴を生かして「手引」を作成する。
- ② 特殊学級の経験年数の浅い担当者が多く、狭義の学習指導計画の手引きではなく、指導計画作成の基本的方針や学級経営及び時間割編成、就学指導や交流教育など特殊学級担当者として必要な指導内容を、さらに具体的に提示していく必要がある。
- ③ 指導内容系統表はさらに検討を加えるほか、小学校新学習指導要領の生活科の内容をも加えて段階的に示すなど、一層充実した内容にする必要がある。

## 第Ⅱ章 小・中学校精神薄弱特殊学級における 教育課程編成上の方針

### 1 教育目標の設定

近年、精神薄弱学級では、対象児の多様化・重複化に応じた指導の在り方が課題となっている。即ち学級内の能力差が著しいため、指導計画の立て方や個別指導の在り方が提起されている。この点については、昭和60～61年度に実施した本研修センターの調査でも明らかにされたところである。従って、これらを踏まえて教育目標を考えてみる必要がある。

精神薄弱学級の教育目標は、基本的には教育基本法に定められた教育目的に基づき、学校教育法小学校または中学校の教育目標を受けて設定することになる。しかし、精神薄弱児童生徒は、精神発達に遅滞があるので、小学校または中学校の教育目標をそのまま達成させることに困難さがある。そこで、精神薄弱学級の教育目標を設定するにあたっては、養護学校（精神薄弱）の教育目標を参考にし、児童生徒一人一人の特性や能力を具体的に把握し、目標を設定することになるが、特に次のようなことに重点をおく必要がある。

- 身辺生活の確立と処理
- 集団生活への参加と社会生活の理解
- 経済生活及び職業生活への適応

いずれにしても、精神薄弱学級の児童生徒一人一人の障害の状態、発達段階、興味・関心、家庭環境等を十分考慮し、児童生徒自らが生き生きと学習に取組み、社会的自立および職業的自立ができるようにしていくことが肝要である。そのためには、教師の実践の中から、具体的に問題点を掘り起こしながら教育目標の設定に当たることが、今後、一層重視されなければならない。

### 2 教育課程の基本構造

小学校及び中学校の教育課程は、各教科、道徳及び特別活動の3領域で編成されている。しかし、精神薄弱学級の児童生徒は、通常学級の教育課程を履修することが困難であるので、特別な教育課程によることができるよう学校教育法施行規則第73条の19によって定められている。精神薄弱学級の教育課程の基本的性格は、生活中心であることと指導の個別化を重視していることである。従って、精神薄弱学級における指導形態は、領域・教科を合わせた指導と教科別、領域別の指導により、それぞれの特性を生かして指導していくことが大切である。

### 3 指導内容の選定と指導方法

#### (1) 指導内容の選定

精神薄弱学級の指導内容については、小学校及び中学校の学習指導内容に加えて、盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領で示されている精神薄弱養護学校の各教科の内容並びに学習指導要領解説－養護学校（精神薄弱教育）編－で示している各教科の具体的内容を参考に必要がある。なお、指導内容の選定にあたっては、次のようなことを考慮していくことが大切である。

- ア 指導生徒が強い目的意識や課題意識をもてる内容であること。

イ 具体的な生活から発展したもので、総合的、具体的内容であること。

ウ 障害の状態や発達段階に合わせて、指導内容を精選すること。

特に指導内容を選定していく場合、各教科の指導内容表を作成しておき、その中から児童生徒の発達段階に応じて必要な内容を常に選びだせるようにし、その内容については、実際に指導していく過程で適宜、加除・修正していくことが必要である。

本研修センターにおいては、指導内容の選定の基となる「指導内容系統表」を作成した。

(第Ⅷ章 指導内容系統表を参照)

そこで、精神薄弱学級における「指導計画及び学習指導案」では、指導内容系統表からどのような内容を選びだしたかを明らかにするため、「関連する学習内容」欄を設け、略記号で示した。(略記号については本章末尾参照)

## (2) 指導方法

指導方法については、第Ⅲ章 小・中学校精神薄弱学級における教育課程編成上の方針に詳述してあるので参考にされたいが、次の基本的事項をおさえておく必要がある。

### ア 領域・教科を合わせた指導

精神薄弱児は、精神発達の状態が未分化であり、応用、総合等の能力が弱いため、知識・技能等の習得が断片的になりやすい。従って、具体的な生活場面において、領域・教科の一部または全部を合わせた指導形態によって、学習効果を高めていくことが、大切である。

なお、領域・教科を合わせた指導には、次の三つの形態が考えられる。

- 領域を合わせた指導
- 教科を合わせた指導
- 領域・教科を合わせた指導

### イ 教科別、領域別指導

教科別の指導は、生活単元学習や作業学習等で必要とされる知的学習の深化、発展(ドリル学習)、または、その関連的内容を強化・補足する意味で位置づけられることもあるし、それぞれの系統性を重視して、独立した形ですすめられることもある。いずれにおいても、学習効果が実際の生活に生かされるような配慮がなされなければならない。

### \*精神薄弱学級の指導計画及び学習指導案における略記号の見方

指導内容系統表の見方及び活用上の留意事項については、第Ⅷ章 指導内容系統表の冒頭部分を参照されたいが、各指導計画の中で「関連する学習内容」として略記号で示している。見方は次のとおりである。

【本報告書 38 ページ】

小学校「第3・4学年 生活単元学習指導計画」

指導計画(10時間扱い)

次	学習内容・活動	関連する学習内容	指導上の留意点
	1 学習の目当てを知る。 (1) 今までに先生に..(略)	国A II 1・6	・用意を頼まれて、できたことや失敗してしまった経験..(略)

国A II 1・6 → 本報告書の指導内容系統表「国語」の内容A「聞く・話す」の区分にあたり、II段階の1, 6に該当する内容である。

# 第三章 精神薄弱特殊学級の学級経営と学習指導計画

## 1 学級経営

精神薄弱学級の経営においては、心身に障害のある児童生徒の実態が多様化している現状を踏まえ、学習を効果的に進めるために次の二点を努力目標として押さえることが大切である。

- ① 心身に障害のある児童生徒の多様化に対応した指導内容、指導方法の研究・充実を図る。
- ② 心身に障害のある児童生徒の経験を広め、社会性を養い、好ましい人間関係を育てるとともに、特殊学級に対する地域社会の理解啓発を図る。

### (1) 経営方針

児童生徒が楽しく生き生きと学校生活を送れることを根底に据えて、将来に向け、「自ら生きぬく意欲を育てていく」ことを目指す。それには、児童生徒一人一人の実態に即して個々の可能性を引き出す工夫をし、自立への能力と態度を育てていくとともに、社会性を伸ばしていくことが大切である。また、地域社会への啓発を図り児童生徒が地域社会の中で適切に生活していけるよう働きかけることも必要である。小学校においては、社会人として自立できる素地を育成するため、基本的生活習慣の確立と集団参加能力、意思の伝達能力を向上させることに重点を置くこと、また、中学校においては、小学校の指導を基に、作業能力や忍耐力を培い、社会適応性を高めることが必要である。

努力事項としては、次のようなことが考えられる。

- 児童生徒の実態を的確にとらえ、個に応じた指導をする。
- 具体的経験の場を確保し、主体的に取り組める場を設ける。
- 社会生活に密着した基礎学力の定着を図る。
- 通常学級との連携を図り、適切な交流の場を設定して人間関係を円滑にする。
- 家庭と連絡を取りながら、基本的行動様式を身につけさせ集団参加能力を高めていく。
- 個に応じ、将来を見通した適切な進路指導を行う。
- PTA、手をつなぐ親の会などと交流を深め、校内及び地域社会の理解啓発に努める。

### (2) 指導方法及び形態

#### ア 指導方法

精神薄弱学級の児童生徒は、抽象化したり、一般化したりする能力が未発達であるため、各領域・教科の内容をそれぞれ独立させるのではなく、児童生徒の実態に応じて、弾力的に組み合わせて授業を行うことが望ましい。また、発展的に繰り返し指導した方が効果的な学習内容については、教科別、領域別に指導していくようにする。一般的には、障害の重いほど領域・教科を合わせた総合的な指導が適し、障害の程度が軽くなれば教科別、領域別の指導の方が効果が大きい。いずれにしても、児童生徒の能力・個性を大切に、その可能性を最大限に伸ばし、可能な限り社会に参加できる人間を育成することが大切である。そのためには、児童生徒の実態を的確に把握し、適切な教材・教具を選定して、教育課程の編成や指導計画の作成に当たる必要がある。

#### イ 指導形態

小学校及び中学校の教育課程は、各教科、道徳及び特別活動の3領域で編成されている。

しかし、精神薄弱学級の児童生徒は、通常学級の教育課程を履習することが困難であるので、養護学校小学部（図1）、中学部などの特別の教育課程によることができるよう学校教育法施行規則によって定められている。その内容は下記のとおりである。

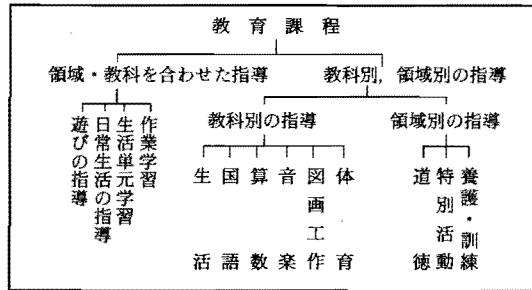


図1 指導形態（養護学校小学部の例）

㉞ 領域・教科を合わせた指導

○ 日常生活の指導

衣服の着脱や洗面、あいさつ、こと

ばづかいなど日常生活の流れにそった活動を通して、基本的生活習慣や、集団参加の能力を高めるため、全体及び個人別の指導計画に基づき、意図的、継続的に指導する。

○ 生活単元学習

生活上の課題処理や問題解決のための一連の目的活動を組織的に経験させることによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的、総合的に学習させようとする。指導に当たっては、児童生徒の興味・関心に基づいた学習内容で、自発的、主体的な活動を大切に、できるかぎり教師と児童生徒が共に活動することが大切である。

○ 作業学習

望ましい社会人の育成を意図し、作業活動を中心に社会生活に必要なことを経験させる。小学校においては、地域に基づいた身近な教材を、中学校においては、より社会生活に結びついた生産性のある教材を選定し、計画的に指導する。

○ 遊びの指導

模擬及び集団遊びなどを通して、生活に役立つ生きた能力や資質の伸長を図る。

㉟ 教科別、領域別の指導（系統性を重んじ、発達段階や進度に合わせ、個別的に指導する。）

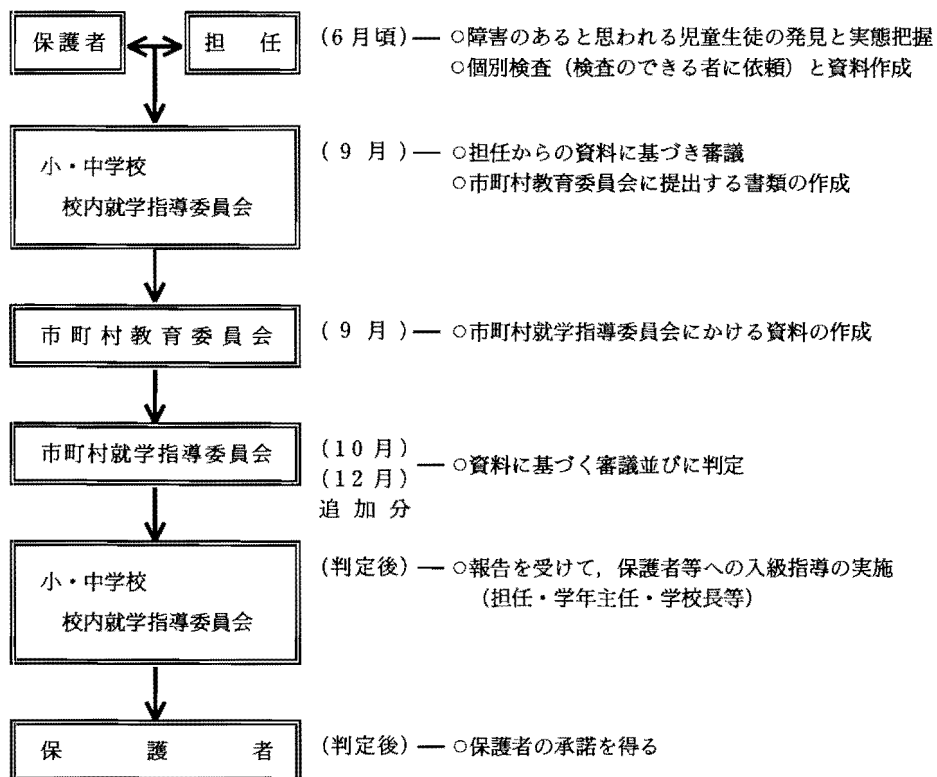
○ 教科別の指導

- ・ 児童生徒の発達水準に応じて学習集団を編成したり、時間数を適切に定めたりする。
- ・ 音楽、図画工作（美術）、体育（保健体育）、家庭（技術・家庭）などの技能教科は、通常学級との交流として行うことも可能である。
- ・ 学習内容は、個々の能力に合わせ個別に選択し、段階的、系統的指導に努める。生活科は、小学校低学年生活科の指導内容との関連に留意する。

○ 領域別の指導

- ・ 道徳 — 特設する場合は、児童生徒の実態に合わせて、内容によっては一単位時間を分割して指導の機械を多くする。特設せずに領域・教科を合わせた指導の中に位置づけて指導してもよい。
- ・ 特別活動 — 学級活動、クラブ活動、児童会（生徒会）活動など、交流学习として通常学級の児童生徒とともに活動することができる。本人の希望を大事にするとともに、少しでも参加できるものを選び、自発的、主体的に活動できるようにする。
- ・ 養護・訓練 — 障害の程度に応じ、領域・教科を合わせた指導及び教科別、領域別の指導課程の中で十分配慮する。また、必要に応じて個別に時間を設けて指導してもよい。

### (3) 入級の手続き



※ 入級対象児については、入級措置前に市町村教育委員会へ報告する。

#### [配慮事項]

- 〇該当児の把握 ———— 学習能力が低いということだけでなく、学級生活自体に困難性がみられる場合についても、入級対象として考える必要がある。
- 〇個別検査 ———— 審議・判定の資料として必要である。
- 〇保護者への入級指導 — 保護者の気持ちや立場を理解する。  
保護者と教師間の信頼関係を確立し、話し合いを重ね、よりよい解決に努める。
- 〇特殊学級理解のために — 特殊学級参観や通常学級担任との話し合いも大切になる。

(詳しくは特殊教育資料第28集「精神薄弱特殊学級入級指導の手引」を参照)

### (4) 実態把握のための諸調査

#### ア 留意事項

教育課程の編成や指導計画の作成に当たっては、児童生徒の実態を的確に把握することが必要である。そのための調査、検査を実施する際に留意すべき事項は次の通りである。

(ア) 目的にそって調査、検査を行い、得られた資料は目的に応じて分析し活用する。

- (イ) どのような指導内容や方法が必要であるかを把握するため、日常の様子や学習過程を累加的に記録し、結果を分析しておく。
- (ウ) 児童生徒の全体像を客観的に把握する。
- (エ) 児童生徒の生育及び現在の様子から、将来の姿についての見通しを持つ。
- (オ) 精神発達遅滞の程度は、環境条件によって影響されていることが多いことに留意し、現在の状態を固定的なものにとらえず、変容しているものにとらえる。
- (カ) 実態については、継続的な資料収集によって把握し、不十分であることが分かった時には調査や検査をやり直し、指導計画などの修正をする。

イ 検査（参考例）

検査名	事項	特徴	適応範囲	出版社	価格（H4.7 現在）	
					用具	手引書
知能検査	☆田中ビネー式知能検査	○両検査とも一般的な知的発達水準を知るために使われ、	2才～成人	田研出版株式会社	49,200	4,000
	☆鈴木ビネー式知能検査	就学指導の際に参考にされることが多い。	2才～16才	東洋図書	16,000	6,500
	☆WISC-R 知能検査	○言語性と動作性に分けて測定でき偏りや特性がつかめる。	6才～16才11ヶ月	日本文化科学社	58,000	3,400
	グッドイナップ人物画検査	○立位の人物を描画させることにより、知的水準を測る。	3才～12才	三京房株式会社	用紙50枚 8,000	3,000
	☆大脳式精神薄弱児・乳幼児用知能検査	○立方体と模倣図を使用し、心身の発達状態を測定する。	1才10ヶ月～6才	三京房株式会社	30,000	
社会性検査	新版S-M 社会生活能力検査	○移動、意志交換等の6領域から成り社会性の発達を見る。	乳幼児～中学生	日本文化科学社	用紙20枚 5,000	1,200
	社会成熟度診断検査	○社会生活能力の総合的な発達状況をとらえる。	3才～6才	日本文化科学社	20部 250	500
性格検査	幼児・児童性格診断検査	○性格や特性をとらえ、適応状況を把握する。	幼児～学童	金子書房	一人分 380	
	バウムテスト	○樹木画を描画させることにより人格診断の補助とする。	描画可能な人	日本文化科学社	20人分 7,300	2,060
	動的家族描画法	○描いた家族画を手がかりに家族状況を把握する。	4才以上	なかにしや出版		2,800
その他	遠城寺式乳幼児分析的発達検査	○運動、社会性、言語から成り心身の発達をとらえる。	0才～4才8ヶ月	慶応通信	用紙50枚 515	721
	☆幼児用運動能発達検査	○運動能力の発達水準を知る。	3才～6才	峯文閣	25,000	

☆は、器具使用検査

- ※ 所用時間は約1時間位（検査者の経験や被検査者の能力及びその時の状態等で異なる。）
- ＜検査を依頼できる機関＞ ・茨城県教育研修センター ・特殊教育諸学校 ・児童相談所
- ・市町村精神薄弱、難聴・言語、情緒障害特殊学級 ・県立メディカルセンター等
- ＜参考図書＞ 心理テスト入門 伊藤隆二、松原達哉著 「日本文化科学社」

## (5) 年間指導計画と時間割の編成

### ア 指導計画作成の手順と方法

精神薄弱学級における指導計画の作成に当たっては、まず指導形態を定めることが第一で、次に指導内容を明らかにし、さらにグループ編成や教材・教具、指導時間数など、より具体化していくことが大切である。指導計画作成の一般的な手順は、次のようである。

#### (ア) 年間指導計画の作成

年間を見通して指導の大綱を定めるものであり、この計画に基づいて学期・月・週・1日・1時間の計画や指導形態別の指導計画が作成される。その要点は次の通りである。

- 指導形態別の指導計画を作成する。どの時期にどの程度の時間をかけ、どんな題材で、何をどのように指導するかについて明らかにする。
- 指導形態相互の内容的・時間的な関連を照合し、機能的な学習ができるよう内容・時間の調整などの改善を加える。
- 年間総時数との関連において、指導形態ごとにその時間配当をする。その際、指導の効果が高められるよう効率的な時間配当を工夫する。

上記の作業をすすめる時、児童生徒の心身の発達の状況や学校・地域の実態に即して、効果的な指導が実施できるよう全体的な調和と均衡を図るようにする。

#### (イ) 学期別・月別の指導計画の作成

年間指導計画だけでは、実際の授業の展開方法までは読み取れない。そこで、これをもう少し具体化して指導目標を一層明確にしたり、年間指導計画に盛り込めなかったものを取り上げたり、また、この段階で学習活動や予定時数などの変更を再検討するなどして、指導計画改善の手がかりとする。

#### (ウ) 単元（題材）ごとの指導計画の作成

これは、通常「指導案」といわれているもので、その主な内容項目として次のようなものが含まれている。

- |               |                          |
|---------------|--------------------------|
| ①単元（題材）名      | ⑥本時の指導（指導過程等）            |
| ②単元設定の理由      | ・本時の目標                   |
| ③指導の目標        | ・展開（児童生徒の活動・指導上の留意点・教材等） |
| ④指導の計画（時間配当等） |                          |
| ⑤児童（生徒）の実態    | ・評価                      |

#### (エ) 週時程表の作成

これは、「時間割」といわれるもので、各指導形態の時数の割合とそれぞれの学校の日程表とを調整しながら作成する。「月曜日の2時間目は、いつも算数」というように固定的なものではなく、指導計画を作成する上での目安という性格をもっている。

#### (オ) 授業の1単位時間

授業の1単位時間については、小学校では45分・中学校では50分を常例とするが、学校や実態に即して適切に定めることとされている。指導内容によっては、長い時間の授業を行ってもよいし、45分あるいは50分の授業の間に短い休憩時間を設けたりしてもよい。しかし、児童生徒の実態に即して定めることであって、教師自身の都合のみで定めてよいというものではない。



年間指導計画一覧（小学校の例）

形態 月	領域・教科を合わせた指導			教科別の指導		
	生活単元学習	作業学習	日常生活	国語		社会
				低	高	
4	友だちになろう 春を見つけよう ●思い出のアルバムを作ろう（年間を通して）	↑↑↑ 花作り ↑↑↑ そらぎん作り ↑↑↑ きものせわ ↑↑↑ かご作り ↑↑↑ のれん作り ↓ ●かんそういも作り ↑↑↑ カレンダー作り ↓	あいさつ 持ち物の記名	かんげい会 自己紹介 日記を書こう	友だちの家 学校のまわり	
5	おいしい草だんごを作ろう 楽しい遠足に行こう		持ち物の整理 給食の準備と後片づけ	電話で話そう ことば遊び 詩を読もう	遠足に行くところ 私たちの町	
6	●みんなで作るものをさがそう ●いちごつみに行こう（合同）		清掃用具の使い方 歯みがき方	ことばを書こう 手紙を書こう	田や畑で働く人のしごと	
7	宿泊学習に参加しよう 夏を見つけよう		衣服の着脱 プールの使い方	●どう話を読もう 感想文の書き方	海で働く人のしごと	
9	楽しいまちのたんけんたい 秋を見つけよう		教室の整理整頓 手足の清潔	作文を書こう 「運動会」 むかし話を読もう	工場で働く人のしごと	
10	焼きいもを作ろう 人形劇の発表会をしよう		正しい姿勢 ろう下の歩き方	劇「ダイダラ坊」 かたかな集め かたかなの使い方	ゆたかな暮らし① ・くらしと水	
11	野焼きに参加しよう はたらく人に感謝しよう		自転車の安全な乗り方 お手つだい	紙しばいを作ろう かん字集め かん字の使い方	ゆたかな暮らし② ・くらしとごみ	
12	作品展に参加しよう① ・作品展の見学 くれのまちを歩こう		うがいのしかた 正月のあいさつ	年賀状を書こう ・住所・あて名 ・正月のあいさつ	ゆたかな暮らし③ ・安全を守る人のしごと	
1	作品展に参加しよう② ・作品展の見学 冬を見つけよう		お年玉の使い方 休み時間の過ごし方	書き初め ジャンボカルタを作ろう	むかしのくらし① ・むかしの遊びや道具しらべ	
2	おにたいじをしよう	寒い日の交通安全 掃除機の使い方	文集を作ろう	ゆたかな暮らし② ・むかしと今の学校のようす		
3	おわかれ会をしよう ・一年間のまとめ ●思い出のアルバムを作ろう（まとめ）	作品の整理 教室の整理	おせわになった人 手紙を書こう	むかしのくらしと うつりかわり		

形態 月	教科別の指導				領域別の指導		学校行事等
	算数		理科	図画工作	道徳	学級活動	
	低	高					
4	カレンダー かずあそび	大きなかず	アブリナ	友だちのかお 教室のかざり	あいさつ 自分のしごと	かかりをきめよう かんげい会	入学式・始業式 1年生をむかえる会
5	くり上がりのない たし算	くり上がりのある ひき算	きせつと 生きもの (春)	遠足の思い出 きれいなまよう	うさぎのえんそく ゆるしてあげる	自分のマークを 作ろう	青葉運動会 春の遠足 交通安全教室
6	くり下がりのない ひき算	くり下がりのある ひき算	じしゃく	ねん土で作る ●てづくりおもちゃ	時間をきめて こわれたふでばこ	雨の日のすごし 方を工夫しよう	プール開き 避難訓練
7	時間の見方 水あそび	時刻と時間 水の量	きせつと 生きもの (夏)	七夕かざり お話の絵	にんじんさん こびとともむし	夏休みのすごし 方 じゃがいもパーティを しよう(交流)	宿泊学習 七夕集会 大掃除・終業式
9	表とグラフ 絵グラフ の見方	棒グラフ の見方	天気のか わりかた	運動会の絵 おしゃれな魚	かぼちゃのつる ノートのひこう き	きまりよい生活 かかりをきめよう	始業式 夏休み作品展 運動会
10	かけ算九九① 重さくらべ	重さくらべ	きせつと 生きもの (秋)	楽しいかべか ざり 指人形	おばけごっこ ないたたぬき	わすれものゼロ さくせん	写生会 花祭り収穫祭 交通安全教室
11	かけ算九九② ●かいもの ごっこ	お金の計 算	風車	動く人の絵 楽しいぼうし	まめたろうが ん ばれ きつねとおどろ	落ち葉で遊ぼう 自転車の安全 て んけんをしよう	手をつなぐ子 らの 学習発表会 個人面談
12	かけ算九九③ 形しらべ	いろいろな 図型	虫めがね	ステンドグ ラス 年賀状	じろうくんのわ すれもの どっちがはやい	あぶない遊び 冬休みのすご し 方	クラブ発表会 大掃除 終業式
1	新しい年 長さくらべ	長さくらべ	きせつと 生きもの (冬)	かるた作り 紙版画	もちつき 冬をすごすつば め	今年のめあて ジャンボカルタ 会	始業式・書初展 手をつなぐ子 らの 作品展
2	かけ算 1位数× 1位数	2位数× 1位数	空気てっ ぼう	鬼の面作り かげ絵	ないた赤おに とべた子すずめ	学級の10大ニ ュースをえらば う	豆まき集会 版画展
3	わり算 1位数÷ 1位数	2位数÷ 1位数	きせつと 生きもの のまとめ	長い紙に絵を かこう(1年 間の思い出)	金色の魚 学校のうめの木	春休みのすご し 方	6年生を送る会 大掃除 終了式・卒業式

- ※ 音楽，家庭，体育は，通常学級で行うことが多いので省略した。
- ※ 道徳は，領域・教科を合わせた指導の中で総合的に行うこともできる。
- ※ 特別活動のクラブ活動は，交流学习として参加するため省略した。
- ※ ●印の題材は，指導計画・案を掲載した。

年間指導計画一覧（中学校の例）

形態 月	領域・教科を合わせた指導				教科別の指導		
	生活単元学習	作業学習				国語 (★★★★教科書使用の例)	社会
		A計画	B計画	C計画	D計画		
4	●私たちの学校 ・学級の組織 ・学級の設備 ・年間の行事	木 工 ・マガジンラック	栽培 (花づくり)	葉書づくり (牛乳パックの再利用)	●農耕 (全体計画) 縫工 (全体計画)	★～年生になって ★報告や届け ★わたしの町 ★連絡ノート	学校の歩みときまり
5	生活ときまり ・学校のきまり ・家庭のきまり ・社会のきまり	・花立 ・本立て ・壁かけ ●焼き板	金魚草 サルビア	(じいたけ栽培) (水かけ)	(エプロン)	●★電話になれよう ★本を読んでみよう (ないた赤おに)	お祝いの日
6	身体の成長と健康 ・自分の身体の成長 ・病気の予防と手当て		ベコニア クッションマム 大輪菊	(天地返し)	(製作)	★詩 辞書のひき方	社会のできごと
7	もうすぐ夏休み ・1学期の反省 ・夏休みの計画					★ローマ字 図書のつかい方	わたしたちの町やまわりのようす
9	体育祭 ・体育祭の計画 準備・練習・参加など	縫 工 ・エプロン ●なべつかみ ・クッション		(収穫・乾燥・貯蔵・販売)	(販売)	★記録文を読む (郵便局の見学) ★なぞなぞ	わたしたちの町や国のようす 交通のきまりと交通機関の利用
10	校外学習 ・校外学習の計画と実施 ●宿泊学習					★記録文を読む (郵便局の見学) ★なぞなぞ	世界の国々
11	作品展 ・作品展の準備 ・開催・展示 ・反省など					★作ってみよう ★標語	わたしたちの国のはじまりと移りかわり
12	年のくれ ・今年の出来事 ・年賀状を書く ・冬休みの過ごし方			(天地かえし)	(製作)	マスコミのことは ★年賀状	
1	働く人たちの仕事 ・卒業生のお話を聞く ・職業調べと職場見学	セメント コンクリート ・とうろろ ・U字溝	木 工 ・マガジンラック ・カセットケース			★作文 (冬休みの生活等) ★ていねいに話しましょう	生徒会役員の選挙
2	文集づくり ・文集の編集 ・印刷 ・製本			(水かけ)	(反省)	★ニホンザルの子ども	いろいろな公共施設とその利用
3	卒業生とお別れ会 ・お別れ会の計画・準備・開催					★卒業文集	わたしたちのくらしときまり

形態 月	教科別の指導			領域別の指導		学校行事等
	数 学	理 科	英 語	道 徳	学級活動	
4	四則の計算	生物の生活と環境①	ローマ字を読む	学校のきまり	学級のかかり当番のしごと	新入生歓迎会 健康診断
5	時刻の計算 整数と小数	ひとのからだ	自分の名前をローマ字で書く	整理・整とん	春の遠足 自分の歯を守るには	遠 足 修学旅行
6	量とグラフ いろいろな形 平均	病気の予防と治療	アルファベットの読み方	ことばや服そう 最後まで	校外学習の約束 自分の特徴を知ろう 1学期のレクリエーションの計画	宿泊学習
7	温 度 収入と支出	生物の生活と環境② 植物のからだのつくりとはたらき	動物・昆虫の名前	明るい家庭	レクリエーション 1学期の反省あぶない遊び	七夕まつり
9	長さとおさ	塗料と金属	花・果実の名前	働くよろこび 助け合い	交通のきまり	夏休み体験発表会
10	重さと体積	地 球 採種と球根うえ	簡単なあいさつ	思いやり あだな	学級の係りの改選 職業の種類 学級文庫の利用	調理実習 合唱祭 鑑賞教室
11	金銭事務 ●四則の計算 (ボーリング大会)	空気と燃焼	一週間の言い方	仕事と責任 信号は青でも	自分のつきたい職業 2学期のレクリエーションの計画	作品展見学 校外学習
12	こよみ	電 気	英語の歌	なくてなくせ	レクリエーション 火の用心 冬休みの生活	マラソン大会
1	割 合	生物の生活と環境③	12か月の言い方	私の趣味	初笑い大会	冬休み体験発表会
2	正の数・負の数 折れ線グラフ	食 物 動くおもちゃ	生活の中の英語集め	こづかい帳	働くということ 進路の計画	節 分 合宿訓練 生徒会役員選挙
3	分 数	観察のまとめ	四季の言い方	これからの生き方	感謝の大そうじ さようなら中学校	3年生とお別れ会

- ※ 音楽、美術、保健体育、技術・家庭は、通常学級で行うことが多いので省略した。  
(但し、音楽・美術・保健体育は指導計画・案が掲載されている)
- ※ 道徳は、領域・教科を合わせた指導の中で総合的に行うこともできる。
- ※ 特別活動のクラブ活動は、交流学習として参加するため省略した。
- ※ ●印の題材は、指導計画・案を掲載した。

イ 時間割の編成

- (ア) それぞれの学校の日課表と関連を持たせて編成する。
- (イ) 精神薄弱学級では、時間割の割り振りが多様に考えられるので、学級の実態に応じて編成することが大切である。
- (ウ) 時間割編成の手順としては、はじめに精神薄弱学級の時間割を優先的に組み、それに従って通常学級の時間割を組み入れるようにすると、交流学习への参加が容易になる。
- (エ) 交流学习の教科は、児童生徒の実態に応じて選定する。
- (オ) 編成された時間割については、固定的にとらえることなく、弾力的に扱うようにする。

小学校（例1） 障害が比較的重い場合

曜 校時	月	火	水	木	金	土
1	日常生活					
2	課題遊び					
	自由遊び					
3	生活単元					
4	生活単元					帰りの会
	給食・清掃					
5	国語	図画	算数	クラブ	国語	
6	ゆとり	図画 工作	帰りの会		ゆとり	
	帰りの会				帰りの会	

週時間数

指導 形態	領域・教科を 合わせた指導		教科別の指導			特活 (クラブ)	合 計	
	日常生活 生活単元	遊び	国語	算数	図工			
低学年	6	11	6	2	1	2	0	28
高学年	6	11	6	2	1	2	1	29

小学校（例2） 障害が中程度の場合

曜 校時	月	火	水	木	金	土
1	※ 日常生活					
	国語	生活単元		国語	生活単元	
2	生活単元					
	自由遊び					
3	国語	算数	図画 工作	算数	国語	生活 単元
4	音楽	国語		国語	算数	帰りの会
	給食・清掃					
5	体育	図画 工作	算数	クラブ	体育	
6	ゆとり		帰りの会		ゆとり	
	帰りの会				帰りの会	

週時間数

指導 形態	領域・教科を 合わせた指導		教科別の指導				特活 (クラブ)	合 計	
	日常生活 生活単元	国語	算数	音楽	図工	体育			
低学年	3	11	5	3	2	2	2	0	28
高学年	3	11	5	3	2	2	2	1	29

※ 実態に応じて、1時間を分割して取ることも可。但し、週時間数は小数時間にならないようにする。

小学校(例3) 障害が比較的重い場合

※ 音楽, 図工, 体育, 家庭, クラブ, 委員会, 交流学習



曜 校時	月	火	水	木	金	土
	朝	ドリル	ドリル	外遊び	ドリル	朝の集い
1	朝の会					
2	日常生活	生活単元	生活単元	生活単元	生活単元	生活単元
3	中間休み					
4	国語(書写)	算数	理科	算数	道徳	作業学習
5	算数	生活	算数	生活	国語(書写)	学級活動
6	給食					
7	昼休み					
8	清掃					
9	算数	社会	国語	作業学習	算数	帰りの会
10	帰りの会					
11	ゆとり(委員会)	ゆとり	ゆとり	クラブ	クラブ	クラブ

中学校(例1) 障害の程度が比較的重い場合

曜 校時	月	火	水	木	金	土
	朝	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会
1	全校朝会	自習	学級の時間	自習	学級の時間	自習
2	生活単元	美術	作業	数学	作業	家庭
3	保体	音楽	学習	国語	学習	家庭
4	保体	音楽	学習	国語	学習	家庭
5	数学	音楽	日常生活	技術	生活単元	家庭
6	ゆとり	ゆとり	クラブ	美術	ゆとり	家庭
7	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会

週時間数

学年	領域・教科を合わせた指導			教科別の指導									道徳	特別活動	合計
	生活単元	作業学習	日常生活	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	体育	家庭			
2年	5	1	1	4		4		2	2	2	3		1	1	26
3年	5	2	1	5	1	4	1		2	2	3		1	1	28
5年	5	2	1	4	1	3	1		2	2	3	2	1	2	29
6年	5	2	1	4	1	3	1		2	2	3	2	1	2	29

週時間数

形態	領域・教科を合わせた指導			教科別の指導									特別活動	合計
	生	作	日	国	社	数	理	音	美	保	技	英		
時	3	8	1	2	0	3	0	3	2	2	5	0	1	30

※火、金1校時については3年生のみ、他の先生による授業を受けた例を示した。

中学校（例2） 障害の程度が比較的に軽い場合

校時	曜	月	火	水	木	金	土
		朝の会	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会
		全校朝会	自習	学級の時間	自習	学級の時間	自習
1	日常生活	音楽 (3年国語)	生活单元	数学	美術 (3年数学)	国語	
2	数学	保健・体育	生活单元	国語	美術	作業学習	
3	作業学習	英語	数学	社会	技術・家庭	作業学習	
4	作業学習	作業学習	保健・体育	技術・家庭	技術・家庭	帰りの会	
5	保健・体育	作業学習	国語	理科	作業学習		
6	ゆとり	ゆとり	クラブ	音楽	ゆとり		
	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会		

週時間数

形態	領域・教科を合わせた指導			教科別の指導										特別活動	合計
	生単	作業	日常	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保・体	技・家	英語	選択		
時	2	7	1	3 mg	1	3 mg	1	2 km	2 km	3	3	1	1	1	31

・（ ）内の時数は3年生の授業時数である。

1年 2年  
特担任業  
3年A 3年B

中学校（例3） 障害の程度が比較的に軽い場合

校時	曜	月	火	水	木	金	土
		朝の会	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会
		全校朝会	自習	学級の時間	自習	学級の時間	自習
1	日常生活	国語	生活单元	国語	生活单元	国語	
2	理科	社会	数学 <small>音楽3-6 美術3-6</small>	教材研究 <small>音楽技家 美術音楽</small>	英語	作業学習	
3	数学 <small>音楽3-6 技家</small>	国語	社会	数学	作業学習		
4	教材研究 <small>美術技家 技家</small>	作業学習	作業学習	数学 <small>3-6 美術</small>	帰りの会		
5	数学 <small>美術3-6 技家</small>	作業学習	作業学習	理科	体育		
6	ゆとり	ゆとり	作業学習	選択	クラブ		
	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会		

※金曜日4校時の3年は選択教科で3年A美術、3年Bが音楽を選択した例を示す

週時間数

形態	領域・教科を合わせた指導			教科別の指導										特別活動	合計			
	生単	作業	日常	国語	社会	数学	理科	音楽	選択技家	美術	選択技家	保・体	技・家			選択技家	英語	
時	2	7	1	4	2	3	2	2	1	B1	2	1	A1	3	1	1	1	31

※上段は3年生の時間数を、下段は1、2年生の時間数を示す。

A,Bは3年生の生徒A,Bを示す。

## (6) 学級の行事

### ア 行事を実施する意義

精神薄弱学級で種々の行事を実施することは、児童生徒の経験を広め、社会性を養い、好ましい人間関係を育てる上で大いに役立つ。

学級独自で計画する行事、地域の特殊学級が合同で実施する行事、通常の見童生徒と一緒に参加する行事などを積極的に設けることが望ましい。

### イ 行事の種類

#### (ア) 精神薄弱学級独自で実施する行事

- ・歩く会 ・誕生会 ・もちつき ・校外学習 ・歓迎会 ・バーベキュー会
- ・在校生と卒業生の交流会等

#### (イ) 特殊学級合同で実施する行事

- ・宿泊学習 ・校外学習 ・学習発表会 ・山登り ・なし狩り ・つり大会
- ・スケート体験学習 ・文化スポーツ交流会 ・スポーツの集い等

#### (ウ) 通常学級の児童生徒と一緒に参加する行事

- ・学校行事……体育祭（運動会） 音楽会 鑑賞教室 入学式 卒業式等
- ・学年行事……遠足 宿泊学習 修学旅行 立志式 親子レクリエーション等

### ウ 行事の実施計画（例）

#### (ア) 精神薄弱学級独自で実施する行事の場合

3年8組	歩く会	実施計画	〇〇中学校
1 目的	(1) みんなと仲よく楽しい一日が送れるようにする。 (2) 学校と目的地の間を交通安全に気をつけて歩くことができるようにする。 (3) 見聞を広げ社会性を養うようにする。		
2 期日	平成〇年〇月〇日（ ） 雨天の時は中止とする。		
3 目的地及び見学先	玉造町西蓮寺		
4 参加生徒	男子3名 女子2名 計5名		
5 日程及びコース	学校（9：00発） → 開拓道路 → 西蓮寺（11：30着） //（16：00着） ← //（13：30発）		
6 引率者	3年8組 担任 〇〇〇〇		
7 準備する物	・持ち物 弁当 水筒 ・服装 上下とも体育用ジャージとする。		
8 実施の手順	予定コースの事前調査 → 目的地への使用了解の確認 → 学校行事等実施承認申請書の提出※ ← → 保護者への実施通知 → 実施 → 反省		

※様式など詳しいことは、茨城県教育庁教職員第一課編「教職員の服務と管理」を参照



(イ) 特殊学級合同で実施する行事の場合

〇〇町特殊学級合同校外学習実施計画

〇〇町教育研究会特殊教育研究部

- 1 期 日 平成〇年〇月〇日 ( ) 雨天決行
- 2 行き先 りんどう湖ファミリー牧場  
栃木県那須郡那須町高久丙414-2
- 3 目 標 (1) 他の学校の友だちと仲よくできるようにする。  
(2) 日頃体験できないことを経験したり秋の自然を味わわせる。  
(3) 計画的に小遣いを使えるようにする。
- 4 参加人数及び参加校数  
小学校7校計23名 中学校3校計20名 引率者13名 参加者合計56名
- 5 交通機関 大型観光バス(観光バス代は、町予算から出費する。)
- 6 集金額及び集金方法  
小学生900円(入園料206円 雑費694円)  
中学生・引率1,000円(入園料309円 雑費691円)  
各学校ごとに集金し、会計係に取める。
- 7 服 装 体育用ジャージ(上衣はジャンパーなど着用可) 紅白帽子 名札
- 8 持ち物 弁当 おやつ(500円程度) 水筒 手ふき 敷き物 雨具  
ちり紙 しおり 筆記用具 小遣い2,000円 中学生は時計
- 9 日 程  
7:30 公民館集合 グループ編成 集会 12:30 乳しぼり体験  
8:00 出 発 13:30 買い物  
9:15 上河内SA トイレ休憩 14:20 集 合  
10:10 りんどう湖着(ステージ前整列) 14:30 出 発  
10:30 グループごとに行動開始 15:30 上河内SA, トイレ休憩  
11:30 牧舎テント下集合 昼食 17:00 公民館着 集会  
レクリエーション 17:10 解 散
- 10 引率職員の係  
全体指揮 会計 救護(救急箱持参) 写真 レクリエーション
- 11 その他  
(1) 雨の時は、無料のカップを使用の予定。また、大きなテントも利用できる。  
(2) グループのみんなで楽しめるものに乗るように指導する。  
(3) グループ編成と指導者は、別表のようにする。(別表は省略)
- 12 実施の手順  
特殊教育研究部委員会(細案 事前調査 バス手配 しおり作成等)  
学校行事等実施承認申請書の提出 → 配慮を要する児童生徒の確認 →  
グループ編成と指導者の決定 → 保護者への実施通知 → 実 施 →  
反 省 → 事後指導(手紙を書く 年賀状を書く 電話をかける等)

(7) 指導記録のとり方

指導記録をとっておくことは、一人一人の児童生徒を理解し、変容をつかみ、個々の可能性を最大限伸ばしていくために大切なことである。

そのためには、児童生徒の日々の学習活動などの様子をよく観察し、具体的に記録しておく必要がある。その記録によって児童生徒の実態把握ができ、指導方法や進路指導などの参考資料として大いに役立つ。

なお、指導記録を取るときは、次の点に留意することが大切である。

- 客観的な態度をもって、できるだけ多面的に児童生徒を見ること。
  - ・ 先入観を持たず固定的な見方をしない。
  - ・ できるだけありのままを記す。
- 継続的に行うこと。
- 学期末、学年末の評価としての利用と児童生徒の足跡として残せるようにしておく。

記録の方法としては、自由記述法（連続記録法）、場面設定の記述法、継続時間記録の記述法などが考えられる。

ア 自由記述法（連続記述法）

- 児童生徒の行動を続けて記録する方法

一見簡単に見えるが児童生徒がいろいろな行動をするので記録しきれない。そこで、自分の知りたい行動に限定して記録する。

(例1)一日の中で目立った行動を個人ごとに記入する。

番号	月 日	○月○日	○月○日	○月○日	○月○日	○月○日	○月○日
	曜 日	月	火	水	木	金	土
	行事など						
1	N・S	一日荒れることもなく静かに学習できた。	ひとりごと多い(いつもより長い)	今日は朝から静かに学習に取り組む。	突然1の6に行き○子の名前を廊下から何度も言い注意うる。	昨日のようにしないよう朝から言うたか約5分で落ち着く。	登校と同時に興奮する。家で何かあったか約5分で落ち着く。
2	S・I		本人気分悪く欠席する。	普通に登校するが教室に入らず廊下をはいはいする。	8:30おう吐する 9:35おう吐する	気分悪く欠席する。	

(例2)一日の流れの中で目立った児童生徒の様子を記入する。※A,B,Cは児童生徒を示す。

月日	( ) 月	( ) 火	( ) 水	( ) 木	( ) 金	( ) 土
行事時	全校集会			愛校作業		
1	朝の会/生単 七夕飾り作り A:喜んで輪つなぎする。 同じ色ばかり	朝の会/生単 七夕飾り作り 輪つなぎ	朝の会/生単 七夕飾り作り 輪つなぎ	朝の会/生単 願いごとの短冊かき B:「げんき」と一人でかく。 すみでまっ黒にする	朝の会/生単 7月のカレンダー作り C:線引が上手になった。	道徳 6-3
2	生単 花だん手入れ 3人ともプランターの土入れよくやる。	図工 粘土 B:固くなっていたら手をぬらしてきてちぎる。	体育 プール B:シャワーをいやがり泣く。 A:さっとプールの中を歩く。	算数 草引き B:草引きできず教師とバケツに入れてする。	算数 買物 B:チラシの絵よくみる。 A:百単位まだよめず。	生単 カレンダー作り
休憩		A:図書室へアンパンマンの本をさがす。		A:歩きまわるが注意されると草を引く。	B:会う人ごとに「こんばんは」と言う。おはよう以外に覚えてもよう。	B:いつのまにかいなくなる。家にかえる。父につれられてくる。
3	算数 図形 C:コンパス指示通りつかう。	算数 図形 C:二等辺三角形作り A:コンパスで円ばかりかく。	書写	国語 文作り B:食べ物絵カードよくみる。	音楽 テレビ、キラキラ星 A:オルガンでひく。	音楽

イ 場面設定の記述法

- 特定の場面における行動を、詳細に記入する。

(例1) 宿泊学習のようす 中学 年 氏名 ( )

活動内容	食事	排泄	入浴 歯磨き	レクリエーション	夜の集い キャンプ 花火	集会所 閉所式 ( )	就寝 起床	その他
一日目 7/21	昼食は食がきべら夕飯は食がきべら	トイレ12時10分	歯磨き		物出し「キャホン」	静か	寝る	生活
二日目 7/22	好き嫌いを食べ	一日目と同様	歯磨き	フィールドワーク		紙しばい		

(例2) 精神薄弱学級での交流学习の様子

学習活動・内容	A子の様子	集団参加度合									
		3	2	1	⊕	⊖	1	2	3		
1. はじめのこぼ	・前に立つのがうれしくて、さっと出て大きな声で言う。										
2. 校長先生の話	・大勢の友達がかうれしく、にこにこ見まわす。話は聞かない。										
3. 誕生者の紹介	・呼名されると喜んで前に立つ。誕生月日は分からない。										
4. プレゼント	・首かざりをもって喜ぶ。お礼の言葉は指示されている。										
5. みんなでたのしく (歌)	・みんなと一緒に歌わず、時々大きな声で歌い出す。										
(ゲーム)	・ルールが分からず、プレゼントを一人でいじっている。										
(おやつ)	・スナック菓子の絵にこだわる。										
6. 先生のお話 (協力学級担任)	・プレゼントに手をやり、話はほとんど聞かない。										
7. おわりのこぼ	・B子が前に出ると自分もわきに行つて言おうとする。										

⊕ → 正の行動      ⊖ → 負の行動

ウ 継続時間記録の記述法

- 観察時間をきめて問題の行動がどのくらい続くか記録する。

(例) 指しゃぶり行動の観察記録

観察時間：午後7時～7時30分まで

指しゃぶりの回数	1回目	2回目	3回目	4回目	指しゃぶりの時間 計
口に指を入れている時間	3分間	5分間	3分間	4分間	

エ その他

- 教科別系統的指導における児童生徒の実態や変容を記録する。
  - ・ 指導内容系統表 (第8章 P121～) の利用
  - ・ 個票作成

(8) 通信票

通信票は、児童生徒の教育状況（学習、生活、その他）についての学校から家庭への連絡の手段である。保護者と児童生徒がよく理解できるものであること、それによって今後の学習指導に十分役立ち得ることが望まれる。

通信票の設定形式は、①評定項目方式、②自由記述方式、③両者の組み合わせによる方式などであるが、③の形式が①、②、の長所、短所を補う上で一般的に利用度が高い。

ア 基本的条件

- (ア) 学習内容や指導の方法と本人の反応や学校での様子がよく理解できるもの。
- (イ) 保護者や本人に希望や意欲をもたせる内容であること。
- (ウ) 評定項目や記録の内容が、具体的に詳しく分かりやすいこと。
- (エ) 家庭でのしつけや指導など、学校との協力の仕方などが具体的に示してあること。
- (オ) 一人一人にふさわしい記述ができる形式であること。

イ 評定の観点

- (ア) 意欲や態度、関心を重視し、自主的、意欲的に課題に取り組む態度や情意的な面を大切にしようといった流れをよく理解した上で取り組むことが望ましく、判定基準は、指導内容系統表を参照するとよい。
- (イ) 精神薄弱特殊学級の児童生徒は、年齢が同じであっても発達段階の差が大きいため、個々により、目標、内容を立て、それによって絶対評価をし、長所を書くようにする。
- (ウ) 通常学級担任や職員からの情報、家庭からの連絡などにより実態を把握して、児童一人一人のよさを積極的に評価し、豊かな自己実現に役立つような評定をする。

通信票は、小学校及び中学校の通常学級のものをそのまま使用している場合と、学級独自の形式を作成し使用している場合と、両方を併用している場合がある。

小学校（例1） （A…よくできる B…できる C…がんばろう）

	学 習 の よ う す					
	1 学 期		2 学 期		3 学 期	
	評定	所 見	評定	所 見	評定	所 見
国 語	A	拾い読みでなく、語 や文としてはっきり と読むことができます ようになりました。				
体 育	A	リズム運動が上手に できました				
特 別 活 動		学年集会では、クイズの 問題を意欲的に発表し、 その態度も立派でした。				

小学校 (例2)

平成 年度 学 習 の あ ゆ み

教科	学 習 内 容 ( 評 価 )	1学期	2学期	3学期	
国 語	聞 話	絵本、テレビ等を楽しんで見たり聞いたりする。			
		先生や友達の話をきちんと聞き取る。			
		聞かれたことにきちんと答えられる。			
		用件を落とさずに伝言できる。			
	読 書	経験したことを相手に分かるように話せる。			
		話合いに参加し、質問や意見が言える。			
		絵本や物語に興味を持ち読むことが出来る。			
		平仮名五十音の読み書きが出来る。			
		片仮名五十音の読み書きが出来る。			
		読んで書いてある内容を理解する。			
		身近なできごとや感じたことなどが書ける。			
		( 年 ) で学習する程度の漢字の読み書きが、出来る。			
		助詞 (は、が、の、に、を) が適切に使える。			
促音 (思っ、たっ等) が使える。					
拗音 (ちゃ、にゅ、しょ等) が使える。					
算 数	数	順番が分かり順序数が唱えられる。( )			
		数字の読み書きが出来る。( )			
		身近にある物の数が数えられる。( )			
	計 算	足し算の意味が分かり出来る。( )			
		引き算の意味が分かり出来る。( )			
		掛け算が出来る。( )			
量 と 測 定	割り算が出来る。( )				
	朝、昼、よる、午前、午後が分かる。				
	時計が分かる。( )				
	時刻の計算が出来る。				
	長さを表す単位が分かりはかれる。( )				
	重さを表す単位が分かる。				
	温度計や体温計が読める。				

金 銭	お金の種類が分かり数えられる。			
	両替が出来る。			
	基本の図形の形が分かる。( )			
図 形 表	分度器やコンパスが分かり使える。			
	身近な図表やグラフが分かる。( )			
生 活	毎日の日付や曜日が分かる。			
	四季の変化が分かり、天候などに関心を持つ。			
	カレンダーが分かり、読める。			
	体の仕組みに関心を持ち健康な生活が送れる。			
	自分の住んでいるところが分かる。( )			
	社会の行事や出来事への関心があり、分かる。			
	ジャンケンが分かり生活の中で使える。			
	簡単なルールが分かり、ゲームなどを楽しめる。			
音 楽	いろいろな職業や人々のくらしが分かる。			
	音楽を楽しんで聞いたり、歌ったり出来る。			
	楽器の音色の特徴や名前が分かる。( )			
図 工	音楽に合わせてリズム打ちが出来る。			
	簡単な曲なら階名が分かりオルガン等でひける。			
	基本的な色の名前が分かる。			
	絵の主題を決め描きたいものが表現出来る。			
	飾る、使うなど用途を考えて工夫して作れる。			
	版画の手順が分かり作れる。( )			

評定は、他人と比べてつけたのではなく、一人一人の努力の後を見つめてつけたものです。各項目については、3段階で示してあります。

◎一よくできる

○一だいたいできる

△一頑張っ欲しい

\* ( ) の中は、学習した内容です。

小学校 (例3)

平成 年度 第 学期 学 習 の あ ゆ み

第 学年 氏名 ( )

教科	学 習 内 容	評 定		
		出来る	もう少し	頑張る
国 語	絵本、テレビなどを楽しく見たり聞いたりする。			
	先生や友達の話をかきちんと聞き取る。			
	聞かれたことにきちんと答えられる。			
	用件を落とさずに伝言出来る。			
	平仮名、片仮名五十音が読める。( )			
	絵本ややさしい読物に興味を持ち読める。			
	読んで書いてある内容を理解する。			
	平仮名、片仮名五十音が書ける。( )			
算 数	漢字が分かる。( )			
	感じたことや思ったことが書ける。			
	長音、拗音、などが使える。( )			
	順番が分かり順序数が唱えられる。( )			
	丸、三角、四角などの形が分かる。			
	みじかにあるものの数を数えられる。( )			
生 活 単 元	足し算、引算が出来る。( )			
	時計が分かる。( )			
	お金が数えられる。( )			
	比較が出来る。( )			
	毎日の日付や曜日が分かる。			
	毎日の天気分かる。			
作 業 学 習	冬は寒く、夏は暑いなどの季節の特徴が分かる。			
	体の名称が分かる。			
	左右が分かる。			
	自分の住んでいる住所や電話番号が分かる。			
	家の人の名前や職業が分かる。			
	社会の行事や出来事への関心があり分かる。			
	ジャンケンが分かり使える。			
	草花をかわいがり手入れが出来る。			
小鳥や金魚をかわいがり世話が出来る。				

音 楽	楽器名が分かり楽器の音色の特徴がつかめる。			
	音楽に合わせてリズム打ちが出来る。			
	歌や曲に合わせて模倣表現が出来る。			
	自分の歌声に気をつけて歌うことが出来る。			
図 工	簡単な曲なら旋律楽器が使える。( )			
	見たり、経験したことを絵に表現出来る。			
	基本的な色名が分かる。( )			
	材料や用具の名前が分かり目的に応じて使える。			
体 育	粘土で好きなものを作ることが出来る。			
	版画が作れる。( )			
	合図が分かり行動出来る。			
	各種の運動の基礎となる動きが出来る。			
家 庭	運動器具を使っていろいろな遊びが出来る。			
	マットや鉄棒、跳び箱などの運動が出来る。			
	ボールの扱いが得意簡単なボールゲームが出来る。			
	水に親しみ水での遊びや泳ぎが出来る。			
日 常 生 活	針箱の用具の名が分かり扱える。			
	簡単なものが縫える。			
	調理器具やみじかな材料の名前が分かる。			
	食生活に関心を持ち簡単な調理が出来る。			
音 楽	小物類の洗濯が出来る。			
	衣服の着脱がきちんと出来る。			
	清潔なみだしなみが出来る。			
	自他の区別がつき持物の整理が出来る。			
	挨拶や返事がきちんと出来る。			
	自分の係が分かり責任を持って出来る。			
音 楽	給食の献立が分かり言える。			
	給食の準備や後片付けがきちんと出来る。			

通信表の見方  
 評定は、他人と比べてつけたのではなく、一人一人の努力のあとをみつめてつけたものです。各項目については、3段階で示してあります。( ) の中には学習した内容です。  
 ※ 学習していないものは、記入してありません。

中学校(例1) (A…できる) B…だいたいできる C…努力が必要である)

		学 習 の 記 録						所 見
国 語	学 習 意 欲	一 学 期	B	二 学 期		三 学 期		漢字を読むことはよくできるようになってきましたが、書くことはやや苦手なようです。何度も練習して漢字が書けるよう根気よく指導していきたいと思います。
	書 写		C					
	読 解		B					
	漢 字		C					
	作 文		C					
社 会	学 習 意 欲	一 学 期		二 学 期		三 学 期		
	社会への関心							
	郷 土							
	歴 史							

英 語	学 習 意 欲	一 学 期	B	二 学 期		三 学 期		初歩的な英語を使って、簡単な事柄を聞いたり、話をするにはできるようになりましたが、書くことが苦手なようです。何度も書く練習を指導していきたいと思います。
	聞 く		A					
	話 す		A					
	書 く		C					

通信票のみかた

評定基準について

- ・A……できる, よい, わかった
- ・B……だいたいできる
- ・C……努力が必要である

生徒は成長しています。その過程を評価したものです。したがって、この評価が絶対的なものではありません。

家庭における指導の手がかりにしていただければ幸いです。

中学校(例2) 文章表現の例 (評定は五段階評定54321の中の数字を○で囲む)

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語
一 学 期	漢和辞典の使い方がよくできるようになりました。  (評定5④321)	国の選挙のしくみを調べ、表や絵でまとめることができました。  (評定5④321)	計算することは苦手なのですが、図形の学習に興味を示しました。  (評定5④③21)	水溶液の性質を調べる実験に、大変積極的な取り組みが見られました。  (評定5④321)	話をしたり、読んだり、書いたりすることを熱心に取り組みました。  (評定5④321)

中学校 (例3)

学 習 状 況 ( ) 学 期

(A…できる) B…だいたいできる C…努力が必要である

教科	学 習 題 材 ・ 内 容	学習意欲	聞く	話す	読む	書く
国 語						
社 会	学 習 題 材 ・ 内 容	関 心	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
数 学	学 習 題 材 ・ 内 容	学習意欲	考 え 方	表現・処理	知識・理解	
理 科	学 習 題 材 ・ 内 容	関 心	思 考	技能・表現	知識・理解	
英 語	学 習 題 材 ・ 内 容	学習意欲	聞く	話す	読む	書く

中学校 (例4)

学 校 生 活 に つ い て

氏名 \_\_\_\_\_

学期 項目	一 学 期		二 学 期		三 学 期	
	( ) 次	( ) 次	( ) 次	( ) 次	( ) 次	( ) 次
学 習 面	国					
	社					
	数					
	理 英					
生 活 面	真面目に取り組んでいます。 家庭学習の忘れが目立ちます。		ていねいに説明するとよく分かります。 自分で計画的に進めることができると良いです。			
	非常にやさしく、人に親切です。  集団のなかにどんどん入っていきましょう。  人前での発表は、しっかりできます。  責任感が強く、安心して仕事を任せられます。		心やさしく、思いやりのある行動が見受けられます。  自分の持ちものの整理整頓をあと少し頑張らしましょう。  自信を持ってお話することができるようになってきつつあります。			
欠席・遅刻	6/17 (月) 早退 歯医者					



(9) 家庭との連絡

児童生徒の教育は、学校と家庭とで行われるものであり、両者の連携が図れてはじめて十分な効果が望めるものである。このことは、心身に障害のある児童生徒の教育に当たる特殊学級においては、特に重要な意味をもつものであり、担任は、きめの細かい連絡をとるよう努める必要がある。そして、不安や悩みの多い親の心を思いやり、心のつながりのもてるコミュニケーションに心掛けていくことが大切である。

家庭と連絡を取る方法としては、家庭訪問、授業参観、学級懇談会、学級だより、連絡帳、電話などがある。ここでは、連絡帳と学級だよりについて述べる。

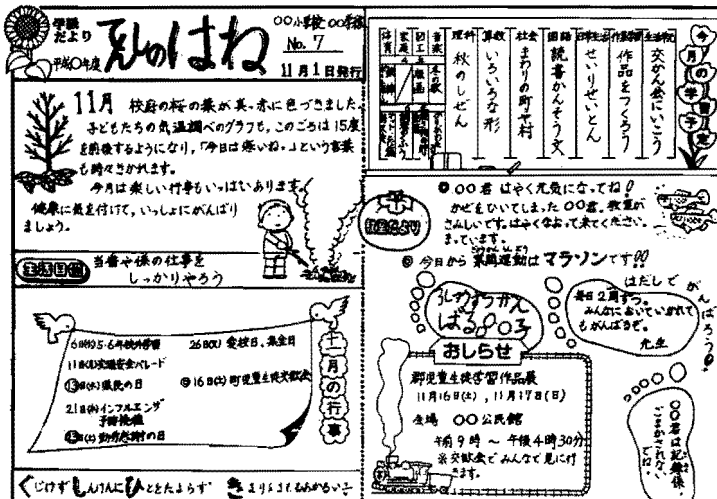
連絡帳は、児童生徒の学校での一日の生活の様子を要約して知らせたり、家庭での様子を知らせてもらったりするものである。書く内容は、一人一人の児童生徒の良い点を認め伸ばそうとするものが望ましく、親が対応できないような児童生徒の欠点や問題行動ばかりであっては効果が期待できないだけでなく、信頼関係を壊すことにもなってしまう。まして、担任の一方的な押し付けや怒りをぶつけるようなことは避けるべきであり、常に共に考え、育てていこうとする冷静な態度で書くよう心掛けなければならない。また、表記もできるだけ平易なものにし、体裁も気楽に書いて長続きするようなものを工夫すると良い。

学級だよりは、学級や学校での生活の様子を伝える場であるとともに、担任の学級経営の方針を理解してもらう場でもある。また、児童生徒の作品や保護者の投稿などのコーナーを設けることにより、理解を深め合う交流の場としても活用できる。そして、体裁、見出し、カットなどについても工夫し、保護者に読んでもらえるものにすることが大切である。

内容の例

- 学級経営に関するもの  
あいさつや経営上の方針、主な行事や学習の予定、生活目標、集金の連絡など
- 児童生徒に関するもの  
生徒の様子（成長の感じられる事柄を中心に）、作文や詩など
- 保護者に関するもの  
投稿、親の会の連絡など

学級だより（小学校の例）



## (10) 交流学習

交流学習とは、特殊学級の児童生徒と通常学級の児童生徒とが、実際に触れ合うことにより、互いの人間性を感性的・体験的に受けとめながら、社会性を養い、好ましい人間関係を育て、豊かな人間性を培うものである。

従って、交流の機会を積極的に設けるようにすることは、双方の学級の児童生徒にとってたいへんに有意義なことといえる。

しかし、実際の場合では、双方の児童生徒の間にある個性差、障害による能力差、生活体験や教育環境の違いなどにより、すぐに平等な立場で共感的な交流ができるとは限らない。そして、適切な配慮に欠けると、マイナスの面ばかりが目立つ交流にもなりかねない。

そこで、機械的な交流を避け、一人一人の児童生徒の実態に即して交流する教科（活動）を選定するとともに、必要に応じていつでも適切な援助や指導が行えるように配慮していくことが大切である。

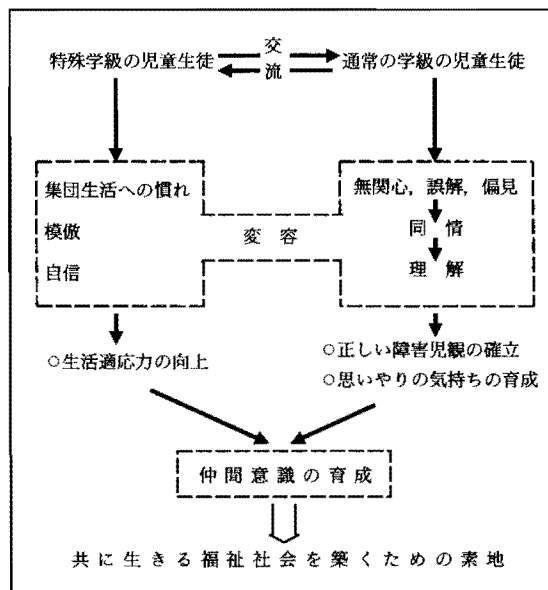
交流は、校内に限らず他校や地域社会との間にも行われるが、ここでは特殊学級と校内の通常学級との交流を中心として述べる。

### ア 交流学習のねらい

交流学習は、活動を共にすることを通して、特殊学級の児童生徒の側には、集団参加能力や生活適応力の向上を図ること、また、通常学級の児童生徒の側には、正しい障害児観の確立と思いやりの気持ちの育成を図ろうとするものである。

そして、このようにしてはぐくまれた仲間意識が、将来、共に生きる福祉社会を築くための素地となっていくのである。

教師は、このねらいをよく理解し、双方の学習効果を上げるよう指導に当たる必要がある。



### イ 交流学習の方法

児童生徒が同じ場所で直接触れ合う「直接的交流」の他に、手紙や作品、写真、録音テープ、VTRの交換などによる「間接的交流」がある。一般に、間接的交流は、直接的交流の事前・事後の指導の中で行われていることが多い。

また、交流を行う単位も「個人」、「集団の一部」、「集団全員」などが考えられる。

これらのうちのどの方法を選ぶかについては、交流のねらいや内容により適切に設定していく必要がある。

## ウ 交流学習の内容

- (ア) 教科…音楽，図画工作（美術），体育（保健体育），家庭（技術・家庭）等
- (イ) 特別活動…学校行事
- 儀式的…入学式，始業式，終業（了）式，卒業式等
  - 学芸的…音楽会，文化祭，学習発表会，観劇会，写生会等
  - 体育的…運動会（体育祭），なわとび大会，マラソン大会，歩く会等
  - 校外学習…遠足，社会科見学，宿泊学習，修学旅行等
- 学級活動，クラブ活動，委員会活動，部活動等
- (ウ) 学級内行事…誕生会，お楽しみ会，季節的行事（いもほり会，七夕会，もちつき会，ひなまつり会等）
- (エ) 学校外行事…他校との学習会，交歓会，地域の行事への参加等
- (オ) その他…休み時間，給食，清掃，登下校等

※ 交流学習の指導例はP とP を参照

## エ 交流学習を進める上での留意事項

- (ア) 通常学級の担任との連絡を密にし，協力関係を深めていくよう努める。
- 交流学習中の児童生徒の様子をよく聞くようにする。（連絡帳などの活用もよい。）
  - 交流学習による児童生徒の小さな変容を見逃すことなく，通常学級の担任へ交流の成果として伝えるようにする。
- (イ) 一人一人の児童生徒へ適切な援助や指導をするよう努める。
- 特殊学級の児童生徒の交流学習中も，担任は，必要に応じて援助や指導が行えるような時間割の編成に配慮する。
  - 一般的な援助としては，作品の製作の手助けや励ましなどを行うことが多いが，場合によっては，交流を一時止めたり，交流そのものを見直すなどの対応が必要となることもある。
- 慎重な対応が必要となる場合 —

  - ・ 過度の緊張状態が見られる。
  - ・ 交流を嫌がる様子が見られる。
  - ・ 活動に参加しようとしめない。
  - ・ 一方的に活動を乱す行動をする。
- 特殊学級と通常学級の担任が授業を交換して行ったり，二人の担任がチームを組んで指導に当たったり（チームティーチング）することも効果的である。
- (ウ) 交流学習の輪を学校内へ広げていくよう努める。
- 製作した物や栽培した物を他学級へ分けたり，交換したり，校舎内外に飾ったりすることなどは，よいきっかけとなることが多い。
  - 休み時間などに，遊び道具の多い特殊学級を開放することなどもよい方法である。

## (1) 理解・啓発

心身に障害のある児童生徒が、その障害に基づく種々の困難を克服して、強く生きようとする意欲を高め、積極的に社会に参加していくためには、この児童生徒に対する一般社会の人々の理解と認識を深めることが何よりも大切なことと考える。

しかし、地域によって考え方に違いが見られる場合があるので、理解・啓発は、あくまで地域の実態を考慮して、現段階で一番効果があると思われるものを実践していく必要がある。そして、誠意を持って担当者が障害のある児童生徒に取り組んでいる姿勢をみせることが理解・啓発の基本であることを念頭におくことが大切である。

そのために、精神薄弱特殊学級担任として、教職員をはじめ、PTA、地域社会の人々に心身障害児の理解をしてもらうための方法としては、次のようなことがあげられる。

### ア 学校内の教師・児童生徒への理解・啓発活動

(ア) 確かな実践の積み重ねを通して、児童生徒へ力をつけていく。

(イ) 学級の様子や学習方法、児童生徒の変容などについて、他の先生方へ話題を提供する。

- ・職員会議や学年会において、特殊学級の児童生徒の実態について理解してもらう。
- ・学級だより（学級の児童生徒と一緒に作ったものなど）を、他の学級へ配布する。
- ・学級の会食やお楽しみ会などに、先生方や通常学級の児童生徒を招いたりする。
- ・通常学級の中で認められるような場の設定をしてもらう。（グループの一員としての位置付けなど）
- ・校内で発表の場を設け、日頃の学習の成果を披露する。（学習発表会・校内放送・作品展など）

(ウ) 特殊教育研究部の活動の充実を図る。

- ・校内研修の場の設定。（校内特殊教育研修会の実施等）
- ・特殊学級経営案や校内就学指導の手引きなどを全職員に配付し、特殊教育に対する共理解と協力体制の確立を図るように努力していく。
- ・各種研修会への参加や自主的な研修を積極的に行い、専門的な知識・技能を高めるように心がける。

(エ) 通常学級の障害のある児童生徒について、相談に応じたり協力していくように心がける。

(オ) 担任と連携しながら、通常学級の児童生徒の指導も積極的に行っていく。

(カ) 管理職の理解を深めるため、報告や相談を密にし、進んで指導を受けるようにする。

### イ 地域社会に対しての理解・啓発活動

(ア) 保護者との深い信頼関係と連携を大切にする。（家庭との連絡を参照）

(イ) PTA広報誌などを利用して、担任の考えていることや、実践例の紹介など、好意を持って見守ってもらえるような内容を進んで発表していく。

(ウ) 作品展や各種行事などに積極的に参加し、児童生徒の活動を知ってもらうようにする。

(エ) 教育講演会の開催やPTA活動の一環としての養護学校などへの視察・見学を実施する。

(オ) 地域によっては、「手をつなぐ親の会」などを組織して、積極的に活動している所もある。

（例えば、「手をつなぐ親の会会報」などの独自の会報を発行している。）

## (12) 進路指導

特殊教育における進路指導は、社会自立という観点から特に重要である。進路指導はともすると卒業時の進学や就職の斡旋・指導ととらえられがちであるが、生徒の主體的な進路選択や適応に関する能力・態度の育成をはかることが中心でなければならない。従って、進路指導は学校生活全体を通して、できるだけ早い時期から継続的・計画的・総合的に行われることが望ましい。

### ア 進路指導の内容と具体的活動

#### (ア) 進路指導の前提

卒業後に円滑な社会生活を営むために、実社会において要求される能力や態度を学校教育のあらゆる機会を通して早期に、なおかつ継続的に指導し、育成しておくことが大切である。

##### ○ 知的能力の育成

文字の読み書き、計算などの知識技能と社会や自然についての基礎知識を育成する。

##### ○ 健全な性格・行動の育成

精神薄弱者の職場不適応の原因は、対人関係の失敗にあると言われている。感情をコントロールする力や困難を乗り越える力などを培い、自信を持たせておくことが大切である。

##### ○ 健康安全の指導

健康安全への意欲を高め、自己の健康管理、器具、機械などの安全な取り扱いができるよう指導しておく。

##### ○ 技術的作業能力の育成

目と手・足などの感覚・運動の協応力を高める訓練をして、安全で能率的な作業ができるようにする。

##### ○ 社会生活能力の育成

あいさつ・ことばづかいなどの基本的な生活習慣や異性をも含めた好ましい交遊関係のもち方、集団で協力する態度などを育成する。

##### ○ 労働への意欲の高揚

作業に対する明確な目的意識を持たせ、その成就感を味わわせるとともに集団への高い貢献度を感じさせることが大切である。

##### ○ 進路へのビジョンを持たせる。

様々な具体的場面において早い時期から進路について話し合い、できるだけ直接体験を通して進路へのビジョンを持たせる。

#### (イ) 進路指導の具体的活動

進学や就職などの進路を決めるための具体的活動であり、その機能面から大別すると次の6つの活動に分けられる。

##### ○ 生徒理解を深める活動と生徒に正しい自己理解を得させる活動

適切な進路指導を行うために、教師が生徒個人に関する諸資料を豊富に収集し、一人一人の生徒の障害の程度および能力・適性などを把握するとともに生徒にも将来の進路との関係において自分自身を正しく理解させる。

- 進路に関する情報を得させる活動
  - ・職業に関するもの（一般情報…職業の内容や特色，職業と報酬，職業と資格等）  
（具体情報…職業の特徴，仕事の性質，労働条件，収入等）
  - ・進学に関するもの（養護学校高等部，各種学校，高等学校，公共職業訓練校等）
  - ・精神薄弱児の施設に関するもの（精神薄弱児施設，精神薄弱児通園施設，コロニー  
精神薄弱者更生施設，精神薄弱者授産施設等）
  - ・家事・家業従事，在宅に関するもの
- 啓発的経験をさせる活動
 

職場・施設の見学や実習を通して，自己の能力・適性および興味などを理解させ，  
具体的，实际的に進路に関する情報を得させる。
- 進路に関する相談の活動
 

卒業年次に限らず，入学した時から，学校生活のいろいろな機会をとらえて，継続  
的に相談活動を進める。
- 就職や進学に関する指導・援助の活動
 

生徒の進路選択時における援助やあっ旋を具体的に進める。
- 卒業後の追指導に関する活動
 

卒業した生徒が，それぞれの進路先でよりよく適応し，さらに，進歩向上すること  
ができるように卒業後も引き続き指導・援助を行う。

#### イ 中学校特殊学級卒業後の進路状況

中学校特殊学級卒業後の進路は，①進学（養護学校高等部，高等学校，専修学校，各種学校，公共職業訓練校）②就職 ③精神薄弱者の施設，④在宅（家事，事業従事）などがあるが，本県では表1のように就職者が約50%，進学者が40%となっている。

また，主な就職先は，本センターのアンケート調査（平成元年度）の結果によ

ると，①機械組立業 ②縫製業 ③紡績・レース業 ④鉄金鉄工業 ⑤飲食業 ⑥建設業 ⑦サービス業 ⑧塗装業 ⑨左官業 ⑩自動車修理業などが多く，そのうち就職後の定着度が高いのは ①縫製業 ②簡単な部品の組み立て業 ③製造業の単純作業などで，反対に，店員やサービス業など人と接する機会の多い業種は長続きしない傾向にある。

従って，特殊学級における進路指導では，特殊学級卒業者が実社会の中で自立し，好ましい人間関係を維持しながら，生きがいをもって生活できる能力や態度を育て，身につけさせることを重点に進めて行くことが大切である。

表1 中学校特殊学級卒業生進路状況

進路先区別		男	女	計	%	
進学者	高等学校 本科	全日制	11	3	14	5.0
		定時制	5	1	6	2.1
		通信制		6	6	2.1
	盲・聾・養高等部		35	35	70	24.7
	専修学校 各種学校 公共職業訓練校		8	8	16	5.7
就 職 者		93	42	135	47.7	
そ の 他		21	15	36	12.7	
卒 業 者 総 数		173	110	283	100.0	

平成4年度「茨城の教育」（茨城県教育長教職員第二課特殊教育室発行）

## ウ 就職に関する指導および援助

### (ア) 職場開拓

中卒者、中でも精神薄弱生徒の就職先はきわめて限定されるので、日常的に職場開拓の努力をしなければならない。職場開拓には次のような方法が考えられる。

#### ○ 公共職業安定所からの紹介

職業紹介、職業指導などの業務を行うため国が設置する機関で、特殊学級の生徒および保護者に対しても職業相談を行い、職業能力評価などの検査をもとに本人の能力や希望に応じた職業を紹介してくれる。

#### ○ 新聞折込み「求人案内」、就職関係の雑誌からの紹介

記載されている文面から適当な職場を選び、電話をした上で実際に足を運んで確かめる。

#### ○ 縁故関係からの紹介

保護者の親戚、知人、PTAの役員などに紹介してもらう。

#### ○ その他

同校の卒業生が事業主になっている会社や先輩が就職している会社に依頼する。

### (イ) 職場見学、現場実習

適切な進路指導を行い、就職後も安定した勤務ができるようにするため、職場見学、現場実習は必ず行いたい。その際、次の点に留意すること。

#### ○ 教育活動の一環として、学校の年間計画に位置づけ、校長の許可を得ること。

#### ○ 公共職業安定所など、関係機関と綿密に連絡をとること。

#### ○ 実習場所の選択は、教育的に配慮されていること。

#### ○ 安全対策が十分なされていること。

### (ウ) 就職援助のための施設

公共職業安定所の他に、特に心身障害者の就職の援助を行う機関として次のようなところがある。

#### ○ 心身障害者雇用促進協会

心身障害者の雇用に関する雇用環境の整備や技術的事項などについて指導助言を行ったり、雇用に関する調査研究などの業務を行っている。

#### ○ 心身障害者職業センター

公共職業安定所との連携のもとに、心身障害者の職業相談、適正検査、職業指導および就職後のアフターケアなどを行っている。

本県の場合、友部町にある雇用促進協会の中にセンターが設置されている。

### (エ) 心身障害者の雇用に関する援護措置

精神薄弱者に対する就職援護措置（職場適応訓練）や事業主に対する雇用助成措置（雇用奨励金）などがあり、いずれも公共職業安定所が窓口になっている。

## エ 進路指導の年間指導計画

特殊学級における年間指導計画は、その学級のその年度に応じた計画が立案されるべきであるが、その際、進路指導主事を中心として学校全体の計画の中で立案されることが望ましい。

進路指導年間計画（中学校特殊学級の例）

月	教師の活動のための計画	生徒の活動のための計画	保護者に働きかける計画	対外諸機関と連携のための計画	卒業生の進路指導のための計画
4月	○校内の組織づくりと指導計画の作成  ○個票の作成と整理	○本人の進路希望調査 ○職業適性検査 ○個別面談	○保護者の進路希望調査 ○保護者会面談 ○家庭訪問	○職業安定所訪問 ○職場訪問および職開拓	○前年度の卒業生の進路状況一欄表作成 ○卒業生への進路指導
5月	○進路指導委員会 ○現場実習の計画と関係書類の作成、提出	○職業安定所面談 ○職場見学会、実習事業所訪問 ○生徒、保護者への進路と事前指導		○現場実習事業所訪問 ○実習関係書類の提出	○新就職者の事業所訪問
6月	○現場実習引率 ○現場実習評価	○現場実習（第1期） ○実習反省会	○実習事後報告指導	○現場実習事業所訪問	○卒業生が進学した学校訪問見学
7月	○進路情報の収集と整理 ○進路希望先見学会 ○夏季休業中の指導計画	○養護学校、産業技術学院、専修学校、高等学校等見学 ○学期末PTA面談		○学校見学依頼 ○職業能力評価依頼（職安）	○招集指導
8月	○事業所訪問、職場開拓 ○家庭訪問	○合同校外学習 ○職場見学	○家庭訪問 ○保護者による職場開拓	○事業所訪問と職場開拓	○家庭訪問
9月	○2学期指導計画作成 ○進路指導委員会（特殊学級卒業生進路対策会議）	○職業指導講話聴講（職安）		○職業指導講話依頼（職安） ○実習事業所訪問	
10月	○現場実習の計画と関係書類の作成、提出 ○現場実習引率	○職業能力評価（職安） ○現場実習（第2期）	○高校説明会 ○養護学校教育相談 ○実習先訪問	○養護学校教育相談依頼	
11月	○現場実習評価  ○職業相談票作成 ○私立高校推薦入学者判定会	○実習反省会  ○三者面談 ○職業相談（職安来校）	○実習事後報告指導	○現場実習事業所訪問	
12月	○就職希望者事前指導計画 ○内申書作成検討会 ○2学期のまとめと3学期の指導計画作成	○就職希望者事前指導	○学期末PTA面談	○就職面接打ち合わせ	○前年度卒業生への文書指導
1月	○高等学校出願 ○就職面談 ○県立高校推薦入学判定会	○就職面談	○就職面談		
2月	○高等学校、養護学校産業技術学院出願 ○選考試験に関する諸計画、書類作成	○高等学校、養護学校、産業技術学院出願および関係書類作成 ○就職内定者の現場実習	○就職内定先への訪問	○就職内定先への訪問	○内定先の卒業生との懇談
3月	○選考試験引率 ○進学、就職先の確認と未決生徒への援助 ○年間のまとめ	○選考試験受験  ○就職内定先での現場実習	○養護学校選考試験は保護者同伴 ○進路先の確認	○進路先、職業安定所、実習先への訪問 ○関係書類送付	○進路先卒業生との連絡



2 小学校学習指導計画

第2・3・4・5・6学年 生活単元学習指導案

1 単元名 いちごつみにいこう（市内小中学校合同学習）

2 単元設定の理由

いちごつみを通して地域の特産物であるいちごや郷土を理解させると共に、部会内の小中学校の児童生徒の親睦を図り、積極的に活動させ、豊かな体験をさせようとの単元を設定した。

友達と協力しながらいちごつみをし、お世話になった方や自然の恵みに感謝する気持ちを育て、友達と仲良く活動して学級間の友情を深めたい。

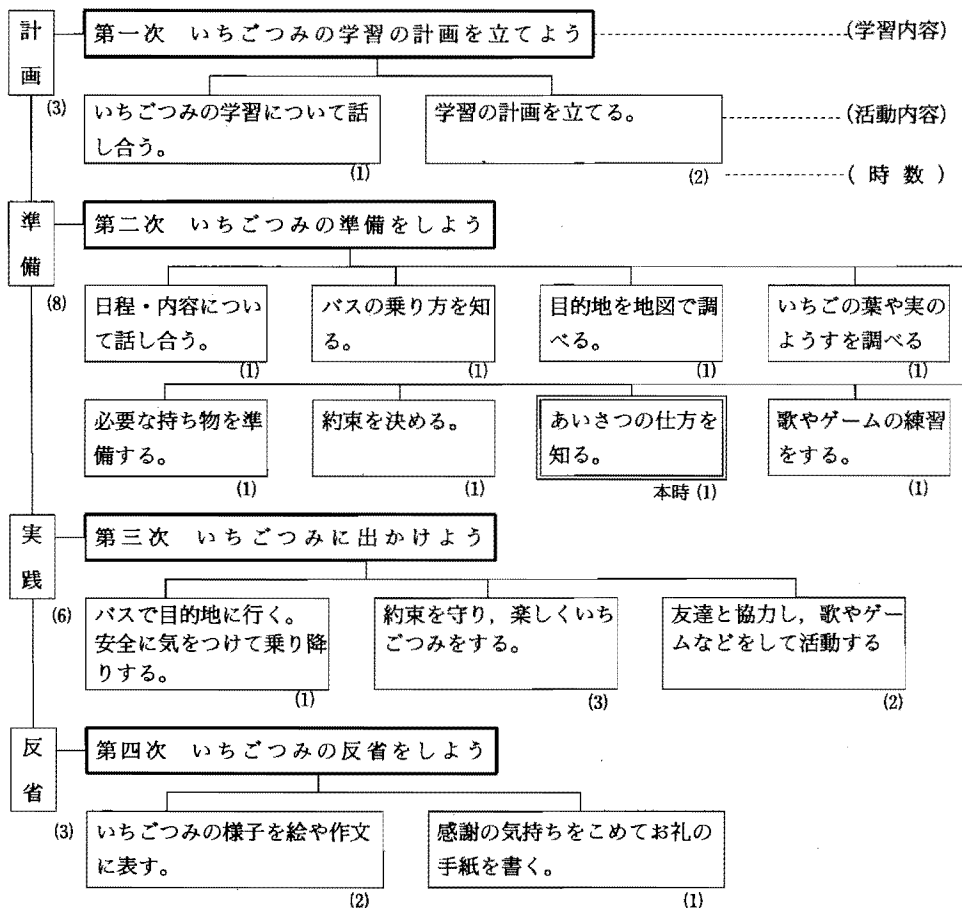
3 目標 (1) 友達と協力していちごつみをするを通して、お世話になった方や自然の恵みに感謝する気持ちを育てる。

(2) 集団の中でのルールを守り、協調して行動しようとする気持ちを育てる。

(3) 目的地や他の学校のある場所などを地図で確かめたり、地域の様子を理解させる。

(4) 感謝の気持ちをこめてあいさつしたり、手紙を書いたりする態度を育てる。

4 指導計画（20時間扱い）



5 本時の学習 ( 第二次 第7時 )

(1) 目標

- ア どんな時にどんなあいさつをすればよいか分かる。
- イ 心をこめたあいさつをしようとする気持ちを持つことができる。

(2) 展開

㊦IQ 75 以上    ㊧IQ 50～75    ㊨IQ 50 以下

学習内容・活動	関連する学習内容	指導上の留意点	教材・教具等
<p>1 本時の学習課題を確かめる。</p> <p>どんな人にどんなあいさつをすればよいでしょう。</p> <p>2 いちごつみでは、どんな人に会うか話し合う。</p> <p>○いろいろな学校の先生や友達</p> <p>○いちご畑のおじさんたち</p> <p>3 どんなあいさつをすればよいか考え、話し合う。</p> <p>○自分の考えをノートに書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>①行った時 OO小学校で (ほかの学校の先生や友達に)</p> <p>こんにちは、 よろしくお願ひします。</p> <p>いちご畑で (おじさんたちに)</p> <p>こんにちは、 お世話になります。</p> </div> <p>○どんなあいさつをしたらよいか話し合う。</p> <p>4 それぞれの場面でのあいさつの練習をする。</p> <p>○録音して聞き合う。</p>	<p>国AIII 1</p> <p>国CIII 2</p> <p>国AIII 10</p> <p>社AIV 7</p> <p>社AIII 7</p> <p>国AIII 7</p>	<p>・たくさんの人に会う良い機会なので、時と場所に応じたあいさつを心をこめてしようとする意欲を高めさせる。</p> <p>㊦㊧いちごつみの予定を思い起こさせながら、どこでどんな人に会うのかを考えさせる。</p> <p>㊨一緒に行く人やいちご畑にいる人について教える。</p> <p>・行った時、帰る時、いちご畑の人たちに、先生や友達にというように、いろいろな場面でのあいさつを考えさせる。</p> <p>㊦どんなあいさつがよいか相手の気持ちになって考えさせる。</p> <p>㊨あいさつを教え、ノートに書かせる。</p> <p>・基本的なことば以外は、一人一人の考えを大切にす。</p> <p>㊦話し合いの中で友達の考えの良い例を取り入れられるよう助言する。</p> <p>㊦㊧あいさつは心がこもっていることが大切なことを理解させ、工夫しながら練習させる。</p> <p>㊨あいさつする相手になってやり練習させる。</p>	<p>・生活単元帳</p> <p>・いちごつみのしおり</p> <p>・ワークシート (単元帳)</p> <p>・テープレコーダー</p>

(3) 評価

- ア それぞれの場面でどんなあいさつをしたらよいか分かったか。
- イ 心をこめてあいさつの練習をすることができたか。

### 第3・4学年 生活単元学習指導計画

1 単元名 みんなでたからものをさがそう

#### 2 単元設定の理由

学校の児童たちは、自分の教室の中にいることが多く、校内の行動範囲は極めて狭い。そのため、いろいろな特別教室がどこにあるのかわからない児童もいる。また、担任以外の先生と話をしたりすることも少なく、誰とでも話をするということが苦手である。中には、積極的に話ができて、聞き取りが悪く、相手の話の内容が理解できていない児童もいる。伝言などを頼んでも十分に用が足せなかったり、必要に応じて先生に聞いてくるということが困難である。

そこで、「たからものをさがす」という活動をみんなで協力して遂げさせる中で、多くの先生と話をしたり、しっかりと話を聞いたりする態度を養わせたいと考えた。また、いろいろな教室に行く経験をさせることによって、廊下を正しく歩くことや、教室を訪問する仕方なども合わせて指導していきたいと考え、本単元を設定した。

- 3 目 標 (1) 「たからものをさがす」という一つの目的を、みんなで協力し合って成し遂げさせ、その成就感を味わわせる。
- (2) いろいろな先生と積極的に話をしようとする態度や、話をよく聞こうとする態度を養う。
- (3) 正しい廊下の歩行や、礼儀をわきまえた教室訪問ができるようにする。

#### 4 指導計画 (10時間扱い)

次 (時数)	学 習 内 容 ・ 活 動	関連する 学習内容	指 導 上 の 留 意 点	教材・教具等
第 一 次  (1)	1 学習のめあてを知る。 (1) 今までに、先生に用事を頼まれて、他の教室や先生のところへ行った経験について話し合う。 (2) 担任以外の先生と話をした経験について話し合う。 ○いつ、どこで、どんな話をしたか。 (3) 大事な物をしまい忘れ探した経験について話し合う。 (4) これから学習することを知る。 学校の中で、みんなで協力して宝物を探す。	国A II 1・6 社A III 6	・用事を頼まれて、できたことや失敗してしまった経験を十分に引き出す。 ・話をよく聞くことの大切さに、気づかせる。 ・話をしたことのある先生は誰か、児童の実態を把握する。 ・探し物をした経験と宝物探しを関連させるようにする。 ・学習内容を理解させておくことによって、学習意欲を高める。	
	2 宝物探しの方法について知る。 (1) 宝物は、自分が一番大切		・宝物探しの意欲を高めるよ	

<p>第 二 次  (2)</p>	<p>している物を持ってくる。 (2) 先生にたずねたり、メモ、地図を見たりして宝物の在りかを探し出す。 (3) 宝物を探すのに必要なことを練習する。 ○廊下の正しい歩き方 ○教室を訪問する時の礼儀 ○校舎内の地図を見ながら、赤色で染めてある教室に行く。 ○先生に対する話し方</p>	<p>社 A III 1 国 A III 9  社 B III 2・4    国 A III 10</p>	<p>うにする。 ・メモに書いてあるとおりに行動すればよいことを理解させる。 ・先生の話をしっかり聞き取る練習をさせる。  ・教室に入る時、出る時の礼儀をしっかり練習させる。 ・地図の見方を分からせる。  ㊦敬語を使って話さなければならぬことに気づかせる。</p>	<p>・校舎内の地図</p>
<p>第 三 次  (4)</p>	<p>3 先生の宝物探しをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">職員室に行って、校長先生に会う。</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">校長先生と話をして、メモをもらう。</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">メモを読み、メモに書いてある教室に行く。</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">教室で、空カンを見つける。</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">空カンの中の校舎内地図に示された教室（保健室）に行く。</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">養護の先生と話をして、メモをもらい読む。</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">メモに書いてある教室に行き、宝物を見つける。</div>	<p>国 A II 4   社 A III 3 社 A V 1 国 A III 1・7 国 A IV 8  国 A II 4・9 国 B III 9    社 E II 1   国 A IV 10 社 A III 7   国 B III 6 社 E II 1</p>	<p>・初めに、担任の宝物を探させる。  ・先生方との話は、テープレコーダーに吹き込んでおく。  ・校長先生に聞きたいことを、前もって考えさせておく。  ㊦メモ帳に書いておかせる。 ・廊下の右側を一列に並んで歩くようにさせる。  ・先生と話をしたり、メモを読んだりすることは、どの児童にもやらせる。  ・ドアをノックし、「失礼します。」をはっきり言わせる。  ・前もって、協力していただく先生方と打ち合わせをしておき、メモや地図を渡しておく。  ・一回目だけは、担任も同行し、児童の様子を観察し、教室での指導の材料とする。</p>	<p>・担任の宝物  ・テープレコーダー  ・メモ帳 ・指示内容を書いたメモ  ・空カン  ・校舎内の地図    ・ビデオカメラ</p>

	<p>4 友達の宝物探しをする。</p> <p>(1)Aちゃんの宝物を探す。</p> <p>(2)Bちゃんの宝物を探す。</p> <p>(3)Cちゃんの宝物を探す。</p>	社EⅡ 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適度の援助を与え、できたという喜びを味わわせる。</li> <li>・会う先生や、宝物のある場所を変えたりして探させる。</li> </ul>	・児童たちの宝物
第 四 次	<p>5 宝物探しの反省をする。</p> <p>(1)廊下を正しく歩けたか。</p> <p>(2)教室訪問の礼儀がきちんとできたか。</p> <p>(3)先生方と、はきはきと話ができ、話もよく聞けたか。</p> <p>(4)みんなで協力してできたか。</p>	社BⅢ2・4 社AⅤ 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオにとっておいたものを見ながら話し合う。</li> <li>・一人一人のよくできているところを見つけ、賞賛する。</li> </ul>	・ビデオ
	<p>6 協力してくれた先生方へ、お礼の手紙を書く。</p>	国AⅢ 7 社AⅢ 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能力に応じて書かせるようにし、プレゼントと一緒に渡すようにさせる。</li> </ul>	・作文用紙 ・封筒
	<p>7 お礼のプレゼントを作る。</p> <p>(1)何を作ったらよいか、個人か共同にするか、などを話し合う。</p> <p>(2)協力し合ってプレゼントを作る。</p>	国AⅢ1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感謝の気持ちとして、自分たちでできるものを心をこめて作らせる。</li> </ul>	・おり紙類 ・包そう紙 ・リボン
(3)	<p>8 プレゼントを先生方に届ける。</p> <p>(1)何と言って渡したらよいか話し合い練習する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ずつ、お礼の言葉を言って渡すようにさせる。</li> </ul>	・プレゼントを作る材料 ・プレゼントの品

## 5 評 価

- (1) 友達と協力し合って、宝物を探すことができたか。
- (2) 先生方と恥ずかしがらずに、はきはきと話すことができ、しっかりと話も聞けたか。
- (3) 正しい廊下の歩行、礼儀をわきまえた教室訪問ができたか。

## 6 配慮事項

- (1) 話し言葉を伸ばしたり、話を聞き取る力をつけるためには、国語教材で「ぼくは新聞記者」というような単元を設定し、記事を書くために、いろいろな先生にインタビューをした経験をもたせることもよい。
- (2) 校内だけでなく、校庭も使ってやれば、距離等の算数的内容をふくらませたり、また、メモを探しながら、メモに書いてある指示の通りに行動して、宝物の在りかに辿り着くようなゲーム的なものへと展開させることも考えられる。
- (3) ここでの学習が、校外で見知らぬ人に道をたずねたり、いろいろな人と積極的に話をしたりする時に生かされるように発展させる。
- (4) この学習を進めるに当たっては、場面や能力に応じて適度の援助をし、自分で探せたという成就感を持たせるようにする。

第4・5・6学年 生活単元学習指導計画

1 単元名 思い出のアルバムを作ろう

2 単元設定の理由

6年に進級した児童を中心に、アルバムを作りたいという願いが出された。受け身の生活になりがちな児童たちにとって、一年間にわたる活動に継続的に取り組むことは、日々の学校生活への関心を高め、主体的な生活態度をはぐくむことにもなる。また、この活動をやり通すことによって、成就感を十分に味わうことができるものと思われる。

そこで、これまでに行ってきた毎月のカレンダー作りや生活単元帳作りの活動も組み入れ、学校生活の記録でもある思い出のアルバム作りを年間を通した単元として設定した。

3 目標 (1) 協力して思い出のアルバムを作り上げた喜びを味わわせる。

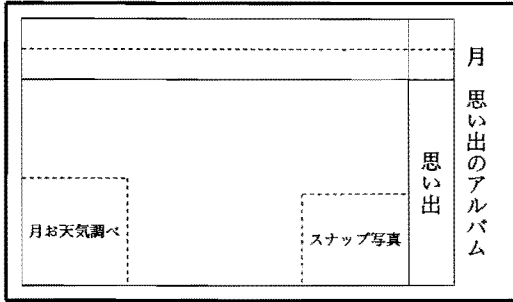
(2) 日々の生活や学習の記録をしていく活動を通して、学校生活に対する関心を高め、意欲的な生活態度を育てる。

4 指導計画 (63時間扱い)

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
内容	← 月毎に思い出のアルバムを1ページずつ作る → ・学習の計画 (各月5時間扱い) ・一冊にまとめる										

次 (時数)	学 習 内 容 ・ 活 動	関連する 学習内容	指 導 上 の 留 意 点	教材・教具等
第 一 次  (2)	<p>1 学習の計画を立てる。</p> <p>(1) 思い出のアルバムにのせる内容を話し合っ て決める。</p> <p>○行事とその感想</p> <p>○学習</p> <p>○写真</p> <p>○お天気調べ</p> <p>○イラスト</p> <p>(2) 1ページ分のレイア ウトを話し合っ て決める。</p> <p>(3) 1年間の活動の見通し を話し合う。</p> <p>○月毎に1ページず つ3月に1さつにまとめる。</p>	<p>生二AⅢ5</p> <p>生二AⅢ10</p>	<p>・日常生活の中で取り組ん でいる活動をまとめた記録 であることを分からせる。</p> <p>・写真係、ワープロ係、イラ スト係など主な役割分担も 話し合っ て決め、各自の活 動を具体化するとともに共 同の活動であることをつか ませる。</p> <p>・1年後には、りっぱなアル バムができることを予想さ せ、意欲を高めるようにす る。</p>	・見本となる アルバム

<p>第 二 次  (55)</p>	<p>2 月毎に思い出のアルバムを1ページずつ作る。</p> <p>(1) 4月のページを作る。</p> <p>(2) 5月のページを作る。</p> <p>⋮</p> <p>(11) 3月のページを作る。</p>	<p>国BV8</p> <p>生九BIII4</p> <p>社AIV5</p> <p>生九BIII1</p> <p>理CbIII1</p>	<p>・行事は、児童の興味・関心の高いものの中から取り上げ、短い感想やメモ、スナップ写真などを付けるようにさせる。</p> <p>・学習の記録は、分かってうれしかったことやびっくりしたことなどを中心にまとめさせる。</p>	<p>・思い出のアルバム用紙</p> <p>・写真</p> <p>・ワープロ</p> <p>・色えんぴつ</p> <p>・色えんぴつ</p>
<p>第 三 次  (5)</p>	<p>3 月毎に作った11枚のページをとじて、思い出のアルバムに仕上げる。</p> <p>○表紙、裏表紙</p> <p>○とびら</p> <p>○目次</p> <p>○後書き</p> <p>○奥付</p>		<p>・児童の特性に合わせて役割分担をし、協力して一さつのアルバムに編集させる。</p>	<p>・厚紙</p> <p>・リボン</p> <p>・パンチ</p>
<p>第 四 次  (1)</p>	<p>4 反省をする</p>	<p>生九BIII4</p>	<p>・一年間の活動をお互いに認め合わせながら、十分に賞賛する。</p>	



## 5 評価

- (1) 協力して、思い出のアルバムを作り上げることができたか。
- (2) 思い出のアルバム作りの活動に意欲的に取り組むことができたか。

## 6 配慮事項

- (1) 内容は、その月の学級の生活の中から適切なものを選択し、盛りだくさんになりすぎないようにする。
- (2) アルバム作りの活動においては、役割分担をしながら協力し合って活動する場を多く設けるようにし、自分の周りの友達や生活へのかかわりを広げていくようにする。

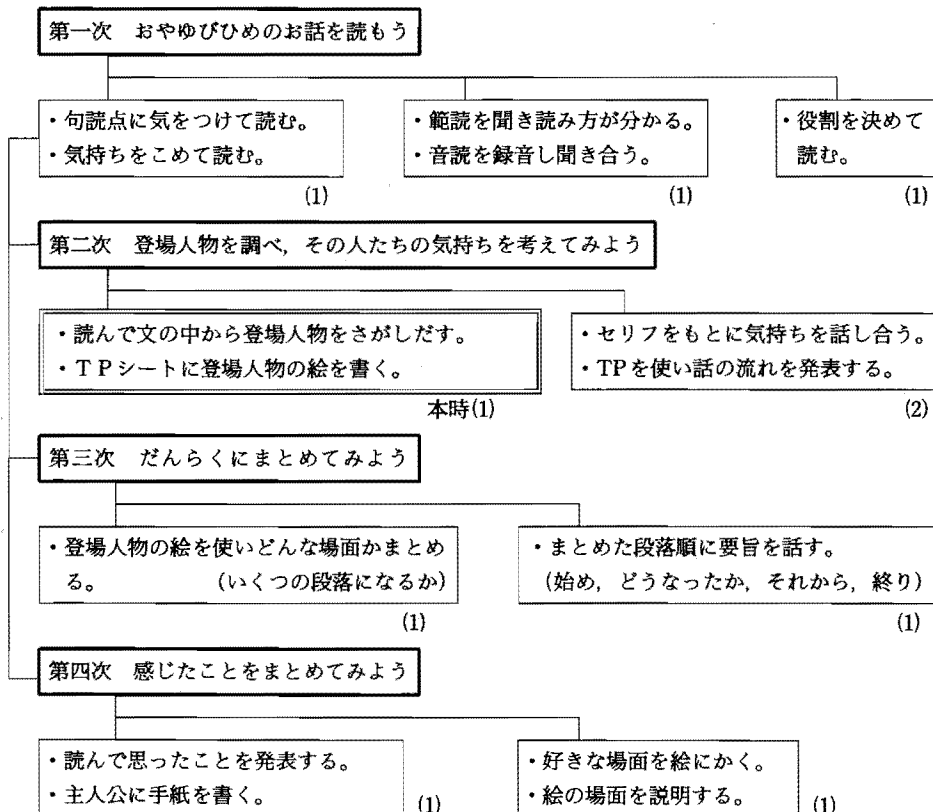
1 単元名 お話を読もう「おやゆびひめ」

2 単元設定の理由

読みの力をつけることは、日常生活や社会生活に適応していくためには、極めて大事なことである。絵本や童話を読むことにより、語彙を増したり想像力を高めたりと、言語能力を伸ばすこともできる。しかし、この子供たちは文字への抵抗が大きい上、テレビなどの影響で本を手にすることが少なくなっている。そこで、児童の能力にあったもので興味を示す絵本や童話を取り上げ、読む楽しさを味わわせたいと考える。教材として取り上げた「おやゆびひめ」は、テレビでもアニメ化されており子供たちも良く知っているお話である。このお話は、場面の變化が順序だっておりあらすじがとらえ易い。また、子供たちに親しみのある小動物がでてお話が展開したり、夢があったりと児童が興味を持てる。更に、小さなものや自然に対するやさしさも感じられる作品である。発展として自分を主人公に置きかえてみたり、言葉調べや朗読を工夫することにより、心情や、情景を考えて読む読みの深さも能力に応じて指導したい。

- 3 目標 (1) 絵本を読んで話のすじが分かり、内容をとらえることができるようにさせる。  
 (2) 絵本や童話に関心を持ち、自分から本を読もうとする意欲を持たせる。

4 指導計画 (10時間扱い)





5 本時の指導 (第二次 第1時)

(1) 目標

- ア おやゆびひめのお話に登場してくるものが分かる。
- イ TPシートに登場人物の絵を書き、感じたことを発表できる。

(2) 展開

学習内容・活動	関連する学習内容	指導上の留意点	教材・教具等
<p>1 本時の学習内容を知る。</p> <p>おはなしの中に出てくるものをしらべる。</p> <p>2 挿絵をもとに各場面の様子をつかむ。</p> <p>(1) 絵本を読みながら出てきたものに印をつける。</p> <p>おやゆびひめの誕生 ↓ 花の国の王子との結婚</p> <p>(2) 会話文を読む。</p> <p>ア 感情をこめて読む イ 役割分担して読む</p> <p>(3) セリフをもとに各々の気持ちを話し合う。</p> <p>&lt;予想される主な発表&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おやゆびひめ—かわいそう</li> <li>・ひきかえる—いじわる</li> <li>・のねずみ—しんせつ</li> <li>・もぐら—いばっている</li> <li>・つばめ—やさしい</li> </ul> <p>3 TPシートに好きな場面の絵を描き様子を話す。</p> <p>(1) かきたい場面を捜す。</p> <p>(2) マジックでかき色をぬる。</p> <p>(3) 発表する。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 何が出てきたか発表する。</p> <p>(2) どんなお話だったか話す。</p>	<p>国 A III 1 国 B III 4</p> <p>国 B II 6</p> <p>国 A V 11</p> <p>国 A IV 5</p> <p>図 Aa IV 1</p> <p>国 A IV 5</p> <p>国 A III 5</p>	<p>・前時に役割読みをしたことを思い出させ導入とする。</p> <p>・カードを読ませめあてを明確にさせる。</p> <p>・テープの範読を一度聞かせる。</p> <p>④ 挿絵を手がかりに文の中から捜させる。</p> <p>④ 文を読み出てきたことばと絵を一致させ印をつけさせる。</p> <p>④ 文を読み出てきたことばをノートに書きださせる。</p> <p>・絵カードをもとにその時の情景を思いおこさせる。</p> <p>④ その時の様子を動作化させて理解できるようにする。</p> <p>④ 誰が何をしているかを場面ごとにおさえさせ理解させる。</p> <p>④ ⑤ どういう理由でそう思うのか、感想も言えるようにさせる。</p> <p>・友達の発表を良く聞かせ感じ方の異同をみつけさせる。</p> <p>・OHPで参考絵を写してみせる。</p> <p>・挿絵を参考にかきたい場面を伸び伸びとかがせる。</p> <p>④ 何の絵か分かるように話す。</p> <p>④ ⑤ 誰がどこで何をしている場面か発表させる。</p> <p>・板書や絵カードなどを利用してあらすじをまとめさせる。</p>	<p>・絵本「おやゆびひめ」あかね書房</p> <p>・カード</p> <p>・絵カード</p> <p>・カセットテープ</p> <p>・TPシート</p> <p>・マジック</p> <p>・OHP</p>

(3) 評価

- ア 挿絵を見ながらどんなものが出てきたか見つけることができたか。(発表. 印)
- イ 好きな場面の絵をかき様子や感じたことを発表できたか。(TPシート. 観察)

第3・4・5・6学年 算数科学習指導案

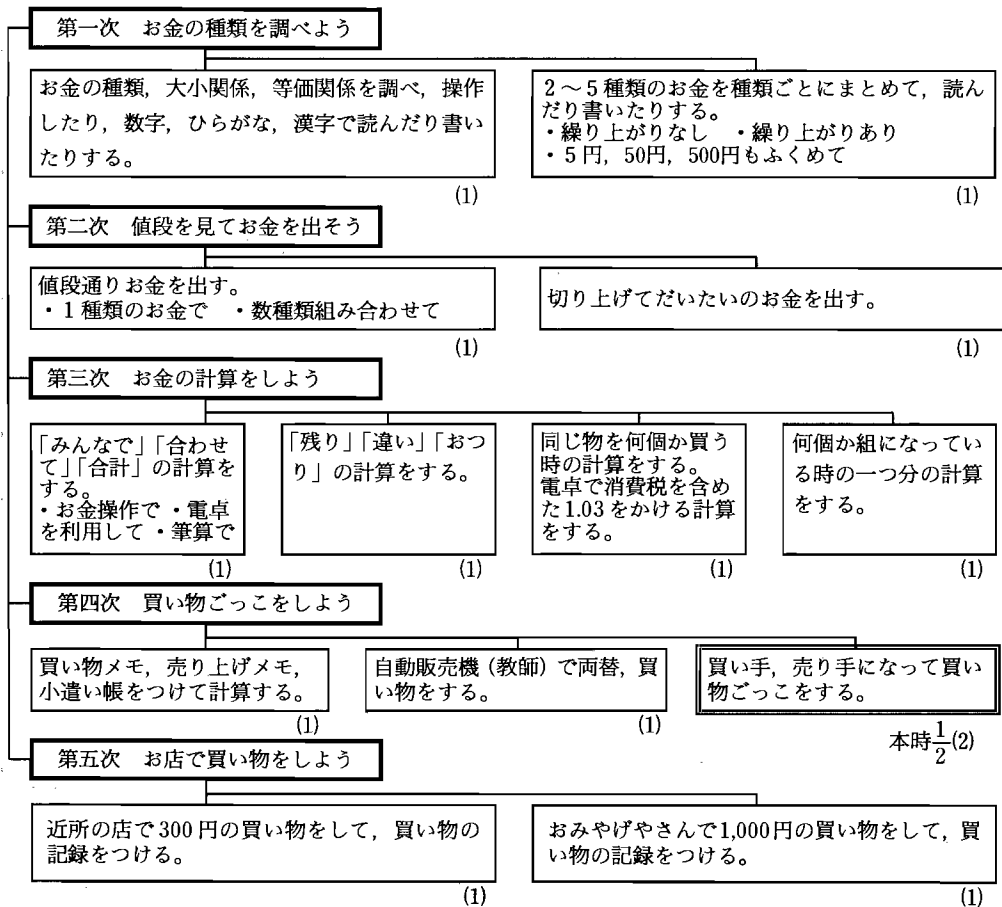
1 単元名 売り買いじょうず ○○ショップ

2 単元設定の理由

買い物は、自立して生活するために必要・不可欠なものである。また、十進法で貨幣のかわる金銭の学習は、数の仕組みを理解するにも、10・20・30…、100・200・300…と数えるにも大変便利である。そして何より、自分の欲しい物が買える力がつくという喜びが学習意欲を高めてくれる。年間を通して、生活単元学習、作業学習、国語科、社会科、学校行事などと関連づけて買い物学習を計画しているが、今回は、遠足に向けて、おやつとおみやげを自分の力で買うことをめあてに本単元を設定した。

- 3 目標 (1) 品物の値段が分かり、それに見合った適切なお金についての理解を深めさせる。  
 (2) 加法、減法、乗法、除法を使って、正しく買い物ができるようにする。  
 (3) お金の価値が分かり、お金を大切に扱って自分できちんと買い物ができるようにする。

4 指導計画 (14時間扱い)



## 5 本時の指導 (第四次 第3時)

### (1) 目標

- ア 品物の値段が分かり、値段に合ったお金で売り買いができる。
- イ 1円, 10円, 100円, 5円, 50円の等価関係が分かり、両替ができる。
- ウ お金, 電卓, 筆算で, 合計, 「〇円のいくつ分」の計算ができる。
- エ お金, 電卓, 筆算で おつり, 残金の計算ができる。

### (2) 児童の実態と個人目標 (男3名, 女3名 計6名)

IQは田中ビネー式知能検査結果  
SQはS-M社会生活能力検査結果

係	氏名	学年	IQ	SQ	計算・買い物に関する児童の実態	個人目標
買 い 手	A 男	5	60	69	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お金の名前, 大小は分かるが, 同種類のお金でも5個以上あると分からなくなる。</li> <li>○電卓など細かい作業は不得手。</li> <li>○実生活で, 100円でおつりをもらう買い方をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○10円を1円に, 100円を10円に両替できる。</li> <li>○何円, 何十円, 何百円が値段通り出せる。</li> </ul>
	B 子	3	70	68	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お金の名前, 大小関係は分かるが, 10以上の表記に誤りが多い。</li> <li>○1位数+1位数の繰り上がりが具体物を使ってできる。</li> <li>○社会性が低く実生活で一人で買い物をしたことがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5円, 50円も入れて, 10円, 100円が両替できる。</li> <li>○位取りが分かり, 正しく表記できる。</li> <li>○買い物への意欲を持つ。</li> </ul>
	C 男	5	65	78	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5円, 50円の入った両替ができる。</li> <li>○繰り上がり, 繰り下がり計算ができる。</li> <li>○九九が正しく唱えられる。</li> <li>○実生活ではあまり買い物をしていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5円, 50円が有効に使える。</li> <li>○買い物の記録を書き, 電卓で計算できる。</li> <li>○乗法が利用できる。</li> </ul>
売 り 手	D 子	6	43	51	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お金の名前は分かるが, 10円, 1円が混ざると何十何円が分からない。</li> <li>○情緒的に不安定ではあるが積極性があり, 行きつけの店で100円の買い物ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○10円, 20円…100円と数えられる。</li> <li>○10円を1円に 100円を10円に両替できる。</li> <li>○数字を聞いて電卓が押せる。</li> </ul>
	E 男	4	65	78	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1円, 10円, 100円がそれぞれ9個以内なら合わせていくらか分かる。10個以上, 2種類混ざると分からない。</li> <li>○1位数+1位数の繰り上がり 十いくつ-1位数ができるようになってきた。九九も唱えられる。</li> <li>○友達と一緒に買い物ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5円, 50円が有効に使える。</li> <li>○お金の種類が混ざっても位取り用紙にお金を載せて繰り上がりができる。</li> <li>○算法決定をして電卓を利用できる。</li> </ul>
	F 子	6	68	80	<ul style="list-style-type: none"> <li>○両替が自由にできる。</li> <li>○数種類のお金が混ざった繰り上がりは不正確。</li> <li>○生活力があり, 多めのお金を持って行き頼まれた品物を数種類買って帰ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1,000円程度の合計, 残金の計算が一人でできる。</li> <li>○乗法が利用できる。</li> </ul>

### (3) 準備

1人300円のお金 位取り用紙 値段表 自作商品 (10円, 100円, 5円, 15円, 2円, 98円の品) 買い物メモ 売り上げメモ 電卓 ヒントカード お金模型 両替用お金 (1円, 10円)

(4) 展 開

学習内容・活動	指導上の留意点	個人目標達成への手だて		
<p>1 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1人300円を使って、正しく買い物ごっこをしよう。</p> </div> <p>○300円持っているか確かめる。 ○品物の値段を確かめる。 ○各自のめあてをつかむ。</p> <p>2 買い物メモをもとに、模擬店で買い物ごっこをする。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;買い手&gt;</p> <p>A男 100円を10円、10円を1円に両替してから買う。</p> <p>B子 100円を50円、10円を1円に両替してから買う。</p> <p>C男 100円を50円、10円を5円、1円に両替してから買う。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;売り手&gt;</p> <p>D子 10円、100円の物を教師と一緒に売る。</p> <p>E男 5円、15円の物を売り、電卓で計算する。</p> <p>F子 2円、98円の物を売り、筆算で計算する。</p> </td> </tr> </table> <p>3 買い物の記録を整理する。</p> <p>○売り上げメモ、売り上げ金の確かめをする。 ○買った物、残金の確かめをする。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>○学習の感想を発表する。 ○次時のめあてを知る。 ○後片付けをする。</p>	<p>&lt;買い手&gt;</p> <p>A男 100円を10円、10円を1円に両替してから買う。</p> <p>B子 100円を50円、10円を1円に両替してから買う。</p> <p>C男 100円を50円、10円を5円、1円に両替してから買う。</p>	<p>&lt;売り手&gt;</p> <p>D子 10円、100円の物を教師と一緒に売る。</p> <p>E男 5円、15円の物を売り、電卓で計算する。</p> <p>F子 2円、98円の物を売り、筆算で計算する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金を大切に扱うことを話した後、各自の実態に合わせて、100円、10円、50円、5円を組み合わせたお金を渡し、位取り用紙に載せて300円あるか確かめさせる。</li> <li>・各自、買いたい物を決め、買い物メモをもとに値段通り、または切り上げたお金で払えるか考えさせる。</li> <li>・「いらっしゃいませ。」 「〇を〇個ください。」 「〇と〇をください。」 「はい、〇円です。」 「〇円のおつりです。毎度ありがとうございます。」 などの言葉を元気に言い合って、楽しく買い物させる。</li> <li>・売り手は「( ) さんへ〇円が〇こで〇円」の売り上げメモをつけ、売り上げ計算に利用させる。</li> <li>・買い手、売り手2人1組で協力し合い、買った物の合計、残金計算をする。実態に応じて電卓を利用させる。</li> <li>・友達の頑張りや工夫を認め合うことで、買い物への意欲を高める。</li> <li>・お金を紛失しなかったかを位取り用紙に載せ確認する。</li> </ul>	<p>⑤ 品物の値段を書きお金を並べる活動では教師の援助でA男、D子を活躍させ、学習意欲を高める。</p> <p>・1円玉が欲しい子には、10円と両替させる。</p> <p>⑥ 買い物の計画が立たない時にはヒントカードを渡し、お金の絵とお金を1対1対応させる。</p> <p>⑦ B子、E男には数種類のお金を組み合わせて値段通りに出させたり、おつりのある売り買いをさせる。</p> <p>⑧ C男、F子には、5円、50円を有効に使わせたり、同じ物を数个売り買いする場面で乗法を活用させる。</p> <p>⑨ 情緒が不安定なD子には特に賞賛、励ましの言葉かけをする。</p> <p>・売り上げ計算は教師を中心に全員で行い、繰り上がりの計算、乗法利用を意識づけ、個人目標に応じた意図的指名を行う。</p>
<p>&lt;買い手&gt;</p> <p>A男 100円を10円、10円を1円に両替してから買う。</p> <p>B子 100円を50円、10円を1円に両替してから買う。</p> <p>C男 100円を50円、10円を5円、1円に両替してから買う。</p>	<p>&lt;売り手&gt;</p> <p>D子 10円、100円の物を教師と一緒に売る。</p> <p>E男 5円、15円の物を売り、電卓で計算する。</p> <p>F子 2円、98円の物を売り、筆算で計算する。</p>			

(5) 評 価

- ア 何円、何十円、何十何円など値段通り、または切り上げただいたいのお金が出せたか。
- イ 10円、100円の両替、5円、50円の利用ができたか。
- ウ 加法、乗法を使って、2つ以上の品物の合算ができたか。
- エ 減法を使って、おつり、残金の計算ができたか。

1 題材名 みんなできらきら星を演奏しよう。

2 題材設定の理由

児童は歌を歌ったり、やさしい曲を演奏することに興味をもっている。音楽に親しみをもつことにより、生活に安らぎと明るさをもたせ、協力して曲を演奏することにより、心の結びつきが生まれる。

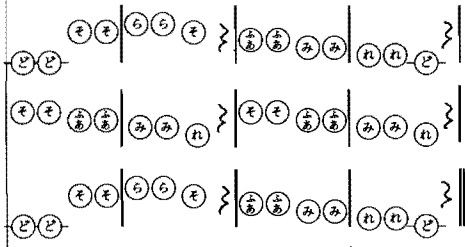
「きらきら星」は、季節感にあふれ、メロディー、リズムとも簡単で、明るく親しみやすい曲である。ハ長調で、ドから始まる4拍子で、A-B-Aと一部繰り返しがあり、2小節目の最後に休符というリズムで統一されている。従って、児童にとって興味をもって受けとめやすい曲と考え、本単元を設定した。

3 目標 (1) 比較的単純なリズム感を身につけながら、楽しく歌わせる。

(2) 階名唱を練習させ、合奏に慣れさせる。

(3) いろいろな楽器に慣れ親しみ、合奏する喜びを体得させる。

4 指導計画 (7時間扱い)

次 (時数)	学習内容・活動	関連する 学習内容	指導上の留意点	教材・教具等
第 一 次	1 カセット「きらきら星」を聞き、学習のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">美しい夜空の星のように きらきら星を演奏しよう</div>	国A III 1	・星について話し合わせる。 ・季節感のある楽しい曲にひたれるよう、絵図を通して情景を把握させ、表現への意欲をもたせる。	・情景図 ・カセット
	2 主旋律を歌う (1) 歌詞で歌う。 (2) 階名で歌う。 	音Ac III 1・4	・カセットに合わせ、口を大きく開けて、元気に歌わせる。 ・拡大譜により階名を読むことに慣れさせてから歌わせる。	・揭示用拡大階名譜
	(3) プリント楽譜に、階名を書き込む。		⑧ 読み方の分からない児童には、個別指導する。	・児童用プリント
	3 身体表現をする。 (1) リズム打ちをする。 (2) 階名唱をしながら、手拍子を打つ。	音Aa III 1 体G III 1	・休符のところは、手を開いて休ませる。	

第二次 (1)	(3) いろいろな打楽器で、リズム打ちをする。	音Ab III 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大階名譜を見ながら、リズム打ちをさせる。</li> <li>・カスタネット、タンブリン、トライアングル、大・小太鼓などで打たせる。</li> <li>㊦ 階名譜と対比させ、実際のリズムと音を結びつけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カスタネット</li> <li>・タンブリン</li> <li>・トライアングル</li> <li>・大・小太鼓等</li> </ul>
第三次 (2)	4 主旋律を鍵盤ハーモニカでひく。 (1) 階名唱をする。 (2) Bの部分を練習する。 (3) Aの部分を練習する。	音Ab III 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦ 階名を書いたシールを鍵盤にはり、分かりやすくしておく。</li> <li>㊦ タンギングを丁寧にさせる。</li> <li>・指を鍵盤に固定させる。</li> <li>㊦ ㊦ ソとラは、小指でひかせ、ファ〜ドは、指を固定させるよう留意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・揭示用拡大階名譜</li> <li>・鍵盤ハーモニカ</li> </ul>
第四次 (2)	5 パート分けをし、練習する。 (1) 各自で楽器を選ぶ。 (2) リーダーを中心に、パート別に練習する。	音Ab III 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の力に合った楽器を選ぶように指導する。</li> <li>・各パートの人数は、編成上、教師側で指定する。</li> <li>・リーダーを中心に、パートで合わせるようにし、何回か繰り返すようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大・小太鼓</li> <li>・トライアングル</li> <li>・鍵盤ハーモニカ</li> <li>・ピアノ等</li> </ul>
第五次 (1)	6 合奏する。 (1) 全体合奏を練習する。 (2) 録音して聴く。 (3) 感想や反省を話し合う。	音Ab III 4・5	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦ 指揮に合わせて、しっかりと演奏させる。</li> <li>・良かった点、悪かった点、協力し合えた点など話し合いまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上述の楽器</li> <li>・テープレコーダー</li> </ul>

## 5 評価

- (1) リズミカルに楽しく歌えたか。
- (2) 歌や合奏に、積極的に取り組めたか。
- (3) いろいろな楽器に慣れ親しみ、その使い方や演奏の仕方ができたか。

## 6 配慮事項

- (1) 能力に応じて楽器を選ばせ、自分でも「出来た」という喜びを味わわせるようにする。
- (2) 生活の中で音楽に親しむよう、機会をとらえて音楽に触れさせる。

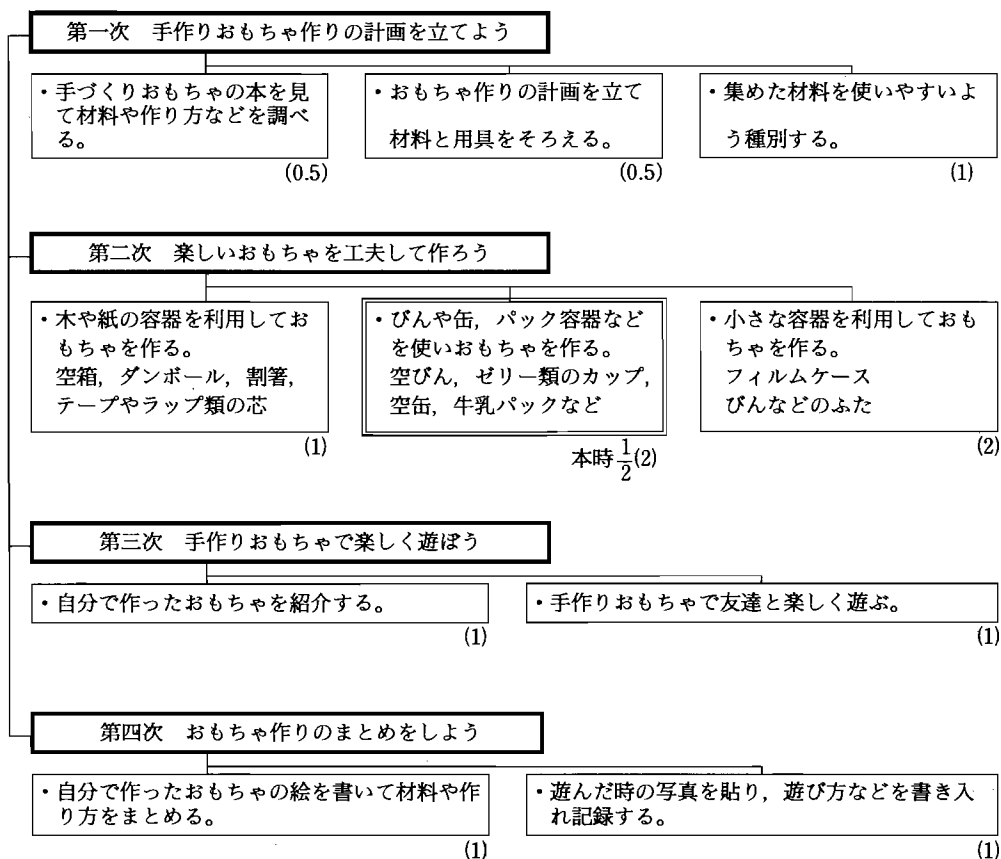
1 題材名 手作りおもちゃを作ろう

2 題材設定の理由

おもちゃは、最近種々様々なものが売られており、それらは年々豪華なものとなっている。子供たちには欲しいものがすぐ手に入り、おもちゃは買うものという概念が強い。そこで、身近にあるものを利用して楽しく遊べる“おもちゃ”が作れるということをつからせたいと考えた。身のまわりにある不用品を集め、それらの素材を生かして遊べるものを作らせる。自分で工夫しながら作ったものは、見かけは悪くとも愛着が持て、みんなで楽しく遊べると思われる。更にこの学習を通し、いろいろな材料に関心を持ち、組み合わせを考えたり使い方を工夫したりすると共に、物を大切にすることも育つのではないかと考え、本題材を設定した。

- 3 目標 (1) 身のまわりにある材料を使い、楽しく遊べるおもちゃを作れるようにさせる。  
 (2) 紙やプラスチック容器、発泡スチロールなどいろいろな材質の物に関心を持たせ、その取り扱いや組み合わせ方が工夫できるようにさせる。  
 (3) 自分が作ったおもちゃで友達と楽しく遊ぶことができるようにさせる。

4 指導計画 (12時間扱い)



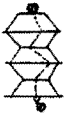


## 5 本時の指導 (第二次 第3時)

### (1) 目標

ア 空パックや空缶等の材料を工夫して使い、自分なりのおもちゃを作ることができる。

イ 道具の使い方に慣れ、材料の組み合わせ方を考えながら、意欲的におもちゃ作りに取り組むことができる。

### (2) 展開

学習内容・活動	関連する学習内容	指導上の留意点	教材・教具等
1 本時の学習内容を知る。 手づくりおもちゃを作る。	国 A III 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>見本を動かして遊ばせ、おもちゃ作りへの興味やイメージを持たせる</li> <li>見本や本を参考にして作りたいものを決めさせ材料を選ばせる。</li> <li>穴の位置や大きさは自由に考えさせるがビー玉より大きくすることに注意させる。</li> <li>重ねる数は実態に応じて加減させる。</li> <li>穴あけはむずかしいので丸でなくとも良い。</li> <li>顔は自由にかかせ、つのをついたりしっぽをつけたり実態に応じて工夫させる。</li> <li>空パックの大きさや形によって動き方が違うことに気づかせる。</li> <li>粘土や砂などの量によって重さを加減させる。</li> <li>顔や動物の絵など好きなものを書いて貼らせたり数字を書いたりさせる。</li> <li>色紙などを貼ってきれいにする。</li> <li>各自動かしてみせどこが良くできたか発表させる。</li> <li>友達のも良く見させ、次時作成の参考となるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おもちゃの見本</li> <li>本「手づくりおもちゃ」(集英社)</li> <li>いちごの空パック</li> <li>厚紙</li> <li>ビー玉</li> <li>カッター</li> <li>はさみ</li> <li>ポスカ</li> <li>マジック</li> <li>カップ麺のパック</li> <li>ひも</li> <li>ボンド</li> <li>牛乳の空パック</li> <li>粘土か砂</li> <li>ガムテープ</li> <li>のり</li> <li>色紙</li> </ul>
2 見本や手づくりおもちゃの本を見て作りたいものを決め材料をそろえ作る。 (1) ビー玉コロコロ  <ul style="list-style-type: none"> <li>ビー玉の大きさにあわせパックと厚紙に穴をあける。</li> <li>パックと厚紙を上図のように重ねて接着する。</li> </ul>	図 Ab IV 4		
(2) ビー玉ゴロペー  <ul style="list-style-type: none"> <li>カップ麺の空容器に好きな絵を書き色を塗る。</li> <li>中にビー玉を入れ斜面を転がして動かす。</li> </ul>	図 Ad III 2		
(3) ボーリング  <ul style="list-style-type: none"> <li>牛乳パックに砂や粘土を入れる。</li> <li>口を閉じ絵を描いたり点数を貼る。</li> </ul>	図 Aa II 4 図 Ab III 3		
3 後片付けと次時の話を聞く。 (1) 用具類を片づける。 (2) 作ったものを見せ合う。 (3) 感想を発表する。 (工夫したところなど)	国 A IV 7 図 B II 1		

### (3) 評価

ア 身のまわりの空容器などを利用し、工夫しておもちゃを作れたか。(作品)

イ 道具の使い方に慣れ、安全におもちゃ作りに取り組めたか。(観察)



第3・4・5・6学年 体育科学習指導案

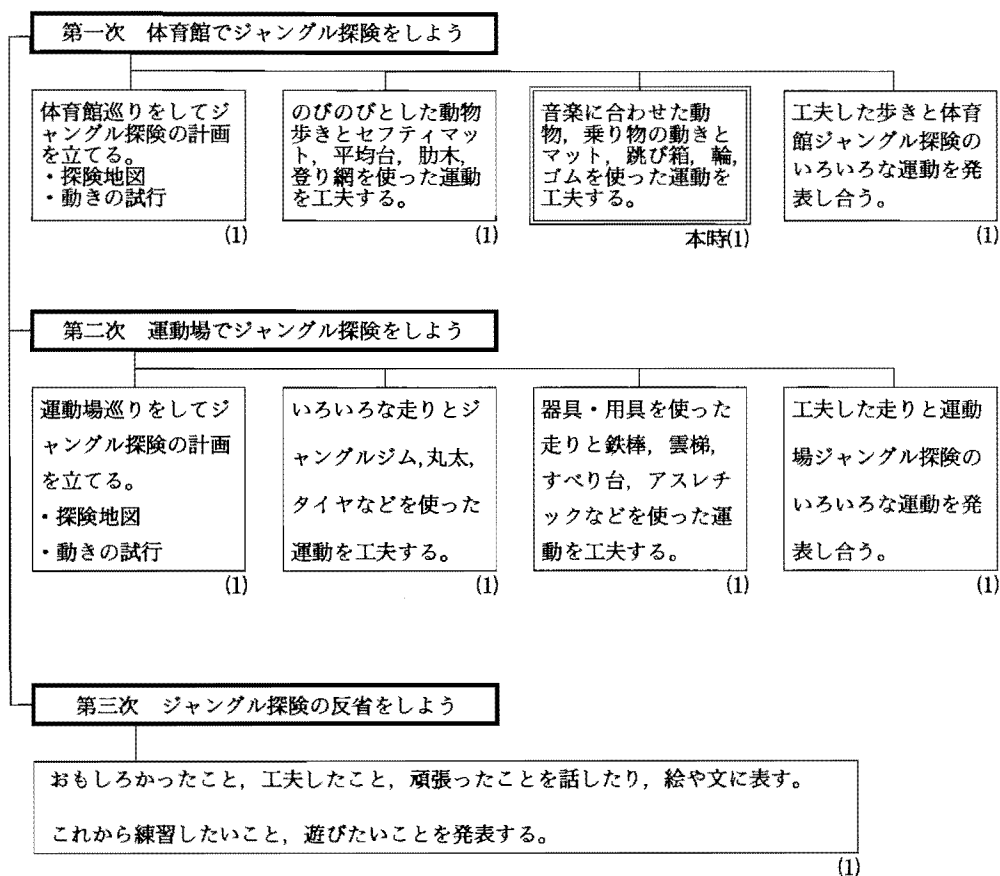
1 単元名 ジャングルたんけん（器械運動を中心に）

2 単元設定の理由

動きが固く不得手意識が強い子たちなので、いろいろな固定施設・器具・用具を使って楽しく体を動かすことにより、動きの幅を広げ体の柔軟性や各種の運動の基礎となる動きを伸ばしたいと考え、本単元を設定した。

- 3 目標
- (1) 体を動かす楽しさを味わわせ、進んで運動しようとする意欲を育てる。
  - (2) 固定施設や器具の使い方のきまり、よりよい運動の仕方を知って、安全に力いっぱい体を動かすことができるようにする。
  - (3) 順番を守り、友達と励まし助け合って学習を進めることができるようにする。

4 指導計画（10時間扱い）



5 本時の指導（第一次 第3時）

(1) 目標

- ア 固定施設や器具・用具を活用し、いろいろな動きがのびのびとできる。
- イ 友達と協力し、順番や約束を守って、安全に楽しく運動ができる。

## (2) 展開

学習内容・活動	関連する学習内容	指導上の留意点	教材・教具等
1 集合し、話し合いをする。		・健康状態や服装を確かめ、本時の学習内容や各自のめあてについて話し合う。	・絵カード
2 準備運動をする。 (1) いろいろな乗り物になって動き、体をほぐす。 ・飛行機 汽車 船 自動車	体 G I 2	・ジャングルに行くことを想像しながら乗り物の動きをしたり、音楽に合わせて動物になりきって動いたりして、探険の雰囲気盛り上げる。	・カセットテープ ・タンバリン
(2) 音楽に合わせていろいろな動物になって工夫して歩く。 ・アヒル ライオン 熊 うさぎ くも かに 馬 ワニ 象	体 G II 1, 2	⑨ 速さ、正しさ、複雑さなど動きの幅・質を高めさせるようにする。 ⑩ いろいろな動きをたくさん経験させ、動きの幅・広がりを持たせるようにする。	
3 ジャングルめぐりをする。 (1) 助木を使ったがけ登り	体 B b c I 1	・自分の力にふさわしいめあてを持って各種のよりよい動きに挑ませ、それを達成したときの喜びが味わえるようにする。	・助木
(2) 登り網を使ったターザン	体 B b c II 1		・登り網
(3) 跳び箱、マットを使った山越え谷越え	体 B d I 1		・跳び箱 ・マット
(4) 平均台を使った橋渡り	体 B d II 1, 2		・踏み切板
(5) 輪、ゴムなどを使った川渡り		⑨ マットでは技を組み合わせること、跳び箱ではリズムカルにより高い段を跳ぶことや各種の工夫した越え方などに挑戦させる。	・平均台 ・輪 ・ゴム
4 ジャングル探険の動きを工夫する。 (1) マット	体 B C III N 1, 2	⑩ マットでは柔らかな動き、跳び箱では安全な越し方ができるよう段階を追って練習させる。	
(2) 跳び箱	体 B d III N 1, 2		
5 整理運動をする。		・頑張ったことなどを発表させ、互いに認め励まし合い自信をつけさせる。	
6 反省と次時の話し合いをする。			
7 後片付けをする。		・後片付けも学習の一環として行う。	

## (3) 評価

- ア いろいろな施設、器具、用具を使って、楽しく力いっぱい運動できたか。
- イ 自分のめあてに向って練習、工夫し、動きの進歩があったか。
- ウ 約束や注意を守って、仲良く安全に運動できたか。
- エ 協力して用具の準備や後片付けができたか。

第3・6学年 作業学習指導計画

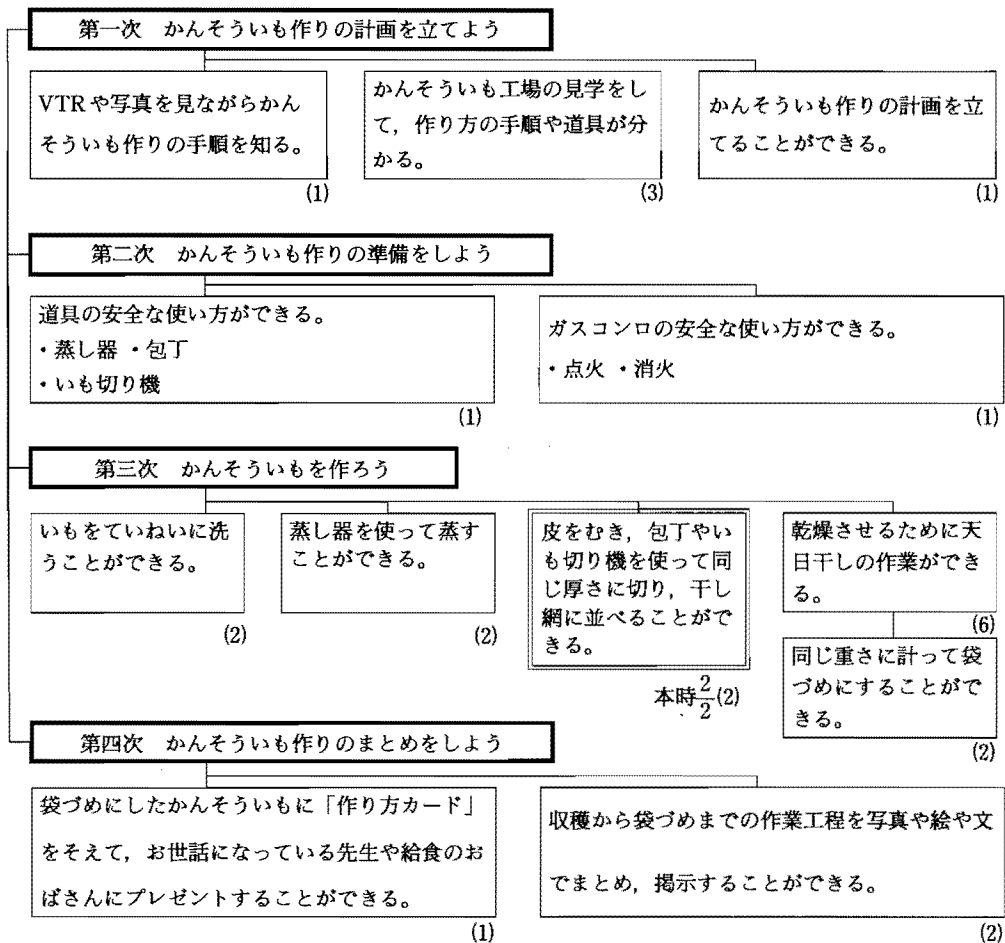
1 作業種目 かんそういも作り

2 選定の理由

- (1) 身近な野菜であるサツマイモは比較的栽培し易いので、かんそういもを作り上げるまでの作業を通して継続的に働く態度を養うことができる。
- (2) サツマイモを洗う、蒸す、皮をむく、干すなどの作業工程の中で、注意力、集中力、根気強さを養うことができる。
- (3) 繰り返しの作業の中で自分の役割を自覚し、一人一人の能力に応じた成就感を味わわせることができる。

3 目標 サツマイモからかんそういもを作る一連の活動を通して、意欲的に作業に取り組む態度を育て、成就感を味わわせる。

4 指導計画 (24時間扱い)

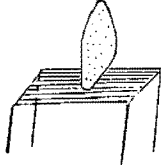
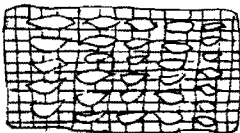


5 本時の指導 (第三次 第6時)

(1) 目標

- ア かんそういも作りの作業手順が分かり、計画に合わせて作業に取り組むことができる。
- イ 皮をむき、同じ厚さに切る作業を安全に気をつけ協力し合って進めることができる。
- ウ 食品を製造する作業なので身じたくを整え、衛生に気をつけて作業することができる。

(2) 展開

学習内容・活動	関連する学習内容	指導上の留意点	教材・教具等
1 身じたくを整え、作業の準備をする。	家 I a IV 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の製造作業なので、エプロン、三角巾で身じたくを整え手をよく洗い衛生的に作業に取り組ませる。</li> <li>・身じたくがよくできているか2人組で確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エプロン</li> <li>・三角巾</li> <li>・いも切り機</li> <li>・まな板</li> <li>・包丁</li> <li>・ざる</li> </ul>
2 蒸してあるサツマイモの皮をむき同じ厚さに切る。 	家 H c III 3 社 A IV 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いもはさめてから手で皮をむき、包丁の安全な使い方を十分指導してから同じ厚さに切る作業に取り組ませる。</li> <li>④ 包丁でいものへたを切り落とす。</li> <li>④ いも切り機使用</li> <li>④ 包丁で同じ厚さに切る。</li> </ul>	
3 切ったいもを干し網に広げて干す。 	家 H c III 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薄く切ったいもはくずれ易いのでいねいに切り扱うようにする。</li> <li>④④ 1枚ずつ数えさせながら重ならないようにいねいに並べさせる。</li> <li>④ 野鳥に食べられないように協力して囲い網を張らせる。</li> <li>・自分の役割は最後まで行わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干し網</li> <li>・囲い網</li> </ul>
4 後片付けをする。 ○ 作業に使った用具をよく洗い元の場所にもどす。	家 H c III 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包丁、まな板、いも切り機は、次に使うことを考えてよく水洗いをし乾燥させておくようにする。</li> <li>④ 生ごみの後片付け</li> <li>④ まな板の後片付けと布巾の洗濯</li> <li>④ 包丁、いも切り機の後片付け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たわし</li> <li>・ふきん</li> </ul>

(3) 評価

- ア かんそういも作りの手順が分かり、計画に合わせて作業に取り組むことができたか。
- イ 皮をむき、同じ厚さに切る作業を安全に気をつけ協力し合って進めることができたか。
- ウ 身じたくを整え、衛生に気をつけながら作業に取り組むことができたか。

第4・5・6学年（特殊学級）

第4学年（協力学級）学級活動指導案

1 題材 ジャがいもパーティーをしよう（交流を目的とする集会活動）

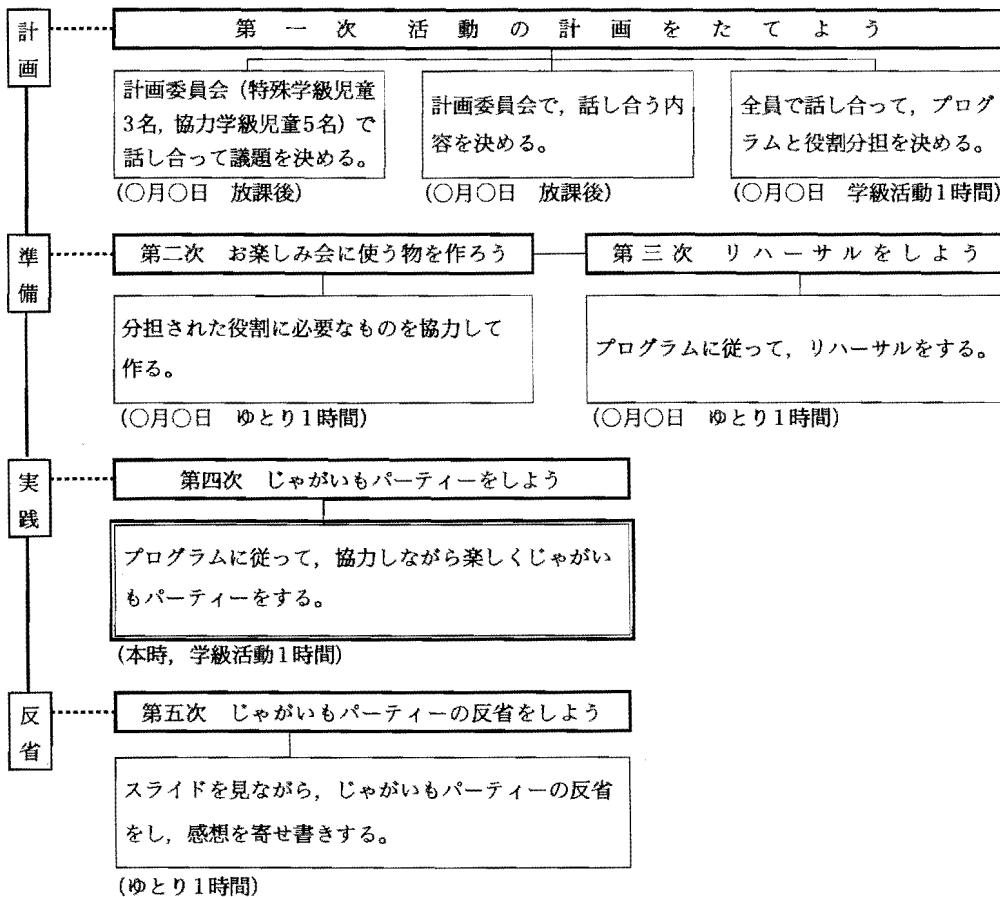
2 題材設定の理由

特殊学級と通常学級との交流は、主に音楽、図工、体育の各教科とお楽しみ会を通して行ってきた。これまでのお楽しみ会では、紙芝居、ゲーム、合奏、合唱などを行い、交流を深めるために、練習する過程で一緒に活動する時間を多く取るよう努めてきた。

しかし、一方の学級がもう一方の学級を招待するという形で行ってきたために、交流会当日は一方が「お客さま」として過ごしていた。

そこで、今回は、理科学習で育てたじゃがいもの収穫祭を兼ねて、両方の学級が合同でお楽しみ会を行うこととした。そして、発案、計画、役割分担、運営までの一連の活動を、特殊学級児童3名、協力学級児童37名、担任2名が一緒に行うことにより、一層深まりのある交流を行いたいと考え本題材を設定した。

3 指導計画



#### 4 本時の指導 (第四次 第1時)

##### (1) 目標

特殊学級…分担された役割を果たしながら、交流学級の友達と楽しく活動できる。

協力学級…交流学級の友達と仲良く助け合いながら、楽しく活動することができる。

##### (2) 展開

活動過程	活動の内容	関連する学習内容	指導・援助の留意点 (A-特殊学級の児童 C <sub>2</sub> -協力学級の児童)	教材・教具等
活動の開始	○司会 (A, C <sub>1</sub> ) ○はじめのことば (C <sub>2</sub> ) ○今月の歌 (指揮 C <sub>3</sub> )	生十C III 5 音 Ac III 3	●本時のCT (チーフリーダー) とST (サブリーダー) を児童に知らせておく。 ●Aには、十分に練習させ、側で励まし、不安を和らげる。	・移動用黒板 ・カード ・カセットテープ ・レコーダー
活動の展開	○イントロクイズ ○ウルトラじゃがいもクイズ ○手つなぎゲーム ○おやつタイム	生八A II 1 生八A II 3 生十C III 7	●教師の助言は、原則として審判児童が判断に困った時と、予定時間を超えた時のみとする。 ●ゲームの勝者には、拍手で賞賛するようにさせる。 ●通常学級の児童には、援助・介助の仕方を、特殊学級の児童には、援助を受けた時の感謝の言葉を指導しておき、スムーズな交流が行われるよう配慮する。 ●ゲームには、CT, STも加わり、参加できにくい児童への援助を行う。また、リーダー的児童へも思いやりのある行動を促しておく。 ●問題行動が見られた場合は、関係児童をゲームから一時外し、STが指導に当たる。	・テープレコーダー ・○×カード ・ホイッスル ・おやつ
活動のまとめ	○先生のお話 ○おわりのことば (C <sub>4</sub> )	国 A III 1 生十C III 4	●各系の活動を十分に賞賛するとともに、思いやりのある行動を特に取り上げ、賞賛することによって学級内への拡大を図る。 ●後片付けは、各係長を中心に助け合って行うよう励ます。	

##### (3) 評価

特殊学級…自分の役割分担を果たしながら、楽しく活動することができたか。

協力学級…友達と仲良く助け合って、お楽しみ会ができたか。

### 3 中学校学習指導計画

#### 第1・2・3学年 生活単元学習指導計画

#### 1 単元名 私たちの学校

#### 2 単元設定の理由

小学校から中学校に入学して間もない時期の新入生にとって、新しい環境に早く慣れさせることは、楽しい学校生活を送る上でも重要なことである。

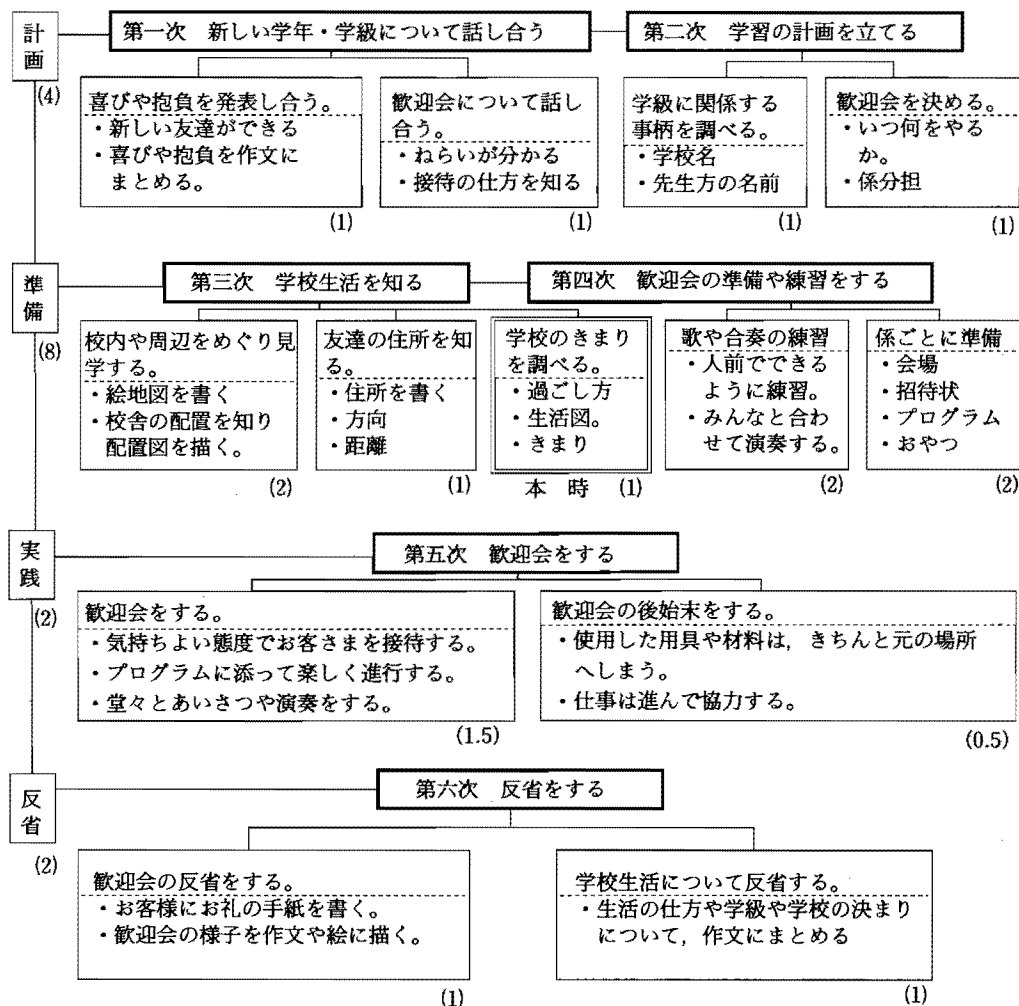
不安と期待が入り交じった不安定なこの時期に、環境への適応を援助し、友達と協力し合う活動を通してスムーズな中学校生活への移行が図れるようこの単元を設定した。

#### 3 目標 (1) 自己紹介をし合い、中学生になった喜びや抱負を語り合わせる。

(2) 楽しい雰囲気の中で歓迎会を行い、その様子を絵や作文に表現させる。

(3) 学校や学級のきまりを理解させ、進んで守ることができるようにする。

#### 4 指導計画 (16時間)



5 本時の指導 (第三次 第4時)

(1) 目標

- ア 学校には、どのような決まりがあるのかを調べることができる。
- イ 中学生としての過ごし方を知り、一日の生活を図に表すことができる。

(2) 展開

学習内容・活動	関連する学習内容	指導上の留意点	教材教具
<p>1 本時の学習内容を知る。</p> <p>2 学校にはどんな決まりがあるか、聞いたり調べたりする。 (1) 2・3年生から話を聞く。</p> <p>(2) 生徒手帳・新入生のしおりで調べる。</p>	<p>社 B III 2 社 B IV 2 国 A IV 7 道 4 IV (1) 学活 Bh III 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活と決まりについて関心を持たせ、調べようとする意欲を高めさせる。</li> <li>・1, 2年生には発表させる事で再度きまりを意識させる。</li> <li>④ 他人に分かるように話す事を心がけさせる。</li> <li>・質問し、答えのやり取りから、中学校生活と決まりについて考えさせる。</li> <li>④ 服装や時間に関する決まりなど、すぐに必要な決まりに線を引いて印象づける。</li> <li>④ 自分で調べようとする活動を通して、意識していなかったきまりを発見させ、生活と関連づける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒手帳</li> <li>・新入生のしおり</li> </ul>
<p>3 一日の過ごし方を図に表す。 ○登校から下校までの生活をプリントに書き入れる。</p>	<p>学活 Bh IV 1 数 Ba IV 1 数 Ba V 1 数 Ba I 1 数 Ba III 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・線はものさしを使って正しく引くようにさせる。</li> <li>④ プリントで生活の区切りを意識させ、午前と午後の違いをとらえさせる。</li> <li>・色を塗る事で生活区分に目を向けさせ、中学生としての過ごし方を考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日課表</li> <li>・時間割</li> <li>・プリント</li> <li>・参考図</li> <li>・色鉛筆</li> <li>・ものさし</li> </ul>
<p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>道 4 V (6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校と中学校の違いを生活の決まりや一日の過ごし方からまとめ、これから意欲的に生活しようとする気持ちを高める。</li> </ul>	

(3) 評価

- ア 学校には、どんな決まりがあるか理解できたか。
- イ 学校での一日の過ごし方を知り、一日の生活を図に表すことができたか。



1 単元名 宿泊学習をしよう

2 単元設定の理由

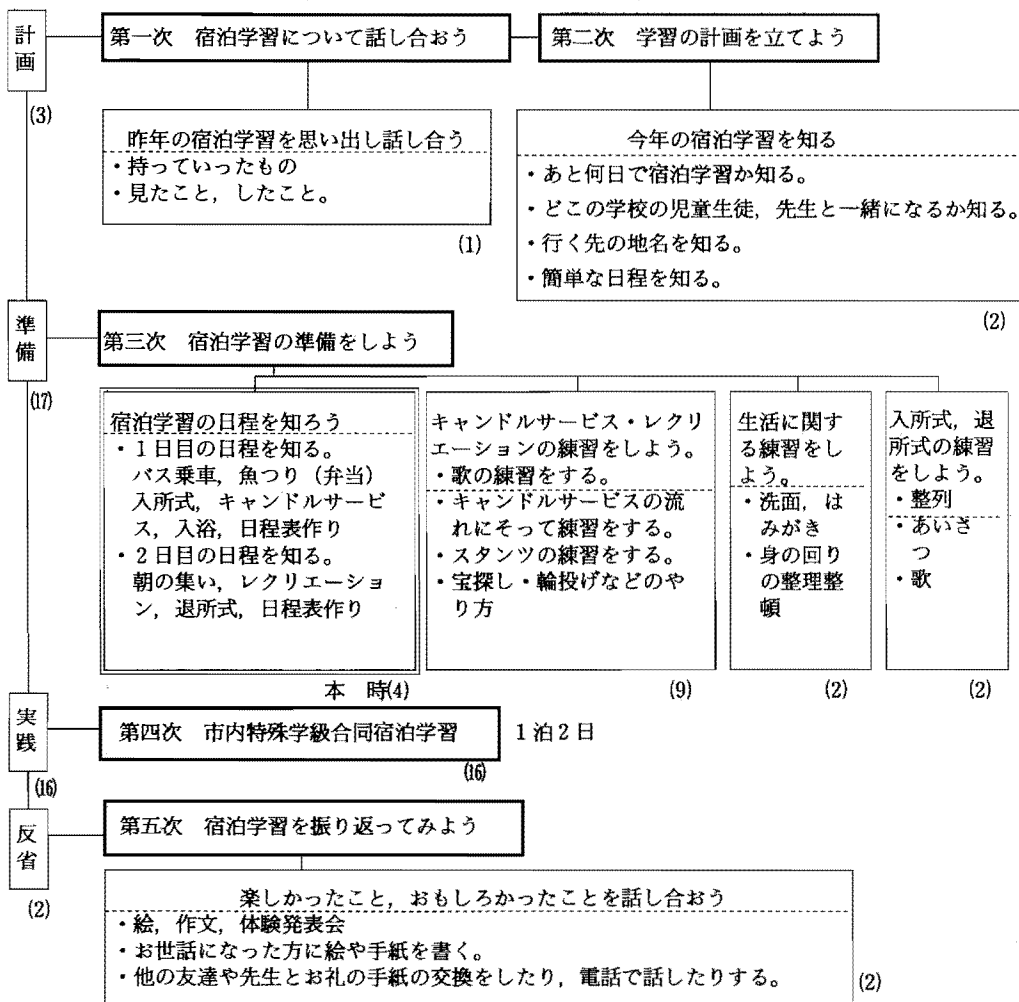
平素の学校生活の中で、生徒は少人数による個別指導を中心にして学習しており、まとまった人数での集団活動の機会は相対的に少ない。

そこで、共同生活を通して、集団でのきまりや日常生活に必要な基本的な生活態度を身につけ、協力し合う経験の場としてこの宿泊学習を設定した。

3 目標 (1) 平素の生活と異なる体験を通して、新しい環境への適応能力を高めさせる。

(2) 各個人の能力に応じた活動を通して、意欲の喚起を図り、独立心と協調性を高めさせる。

4 指導計画 (38時間扱い ただし1泊2日を16時間とする)



5 本時の指導 (第三次 第1～4時)

(1) 目標

- ア 宿泊学習でどんなことをするのか、理解できる。
- イ 自分の役割が分かり、みんなと協力して日程表作りができる。

(2) 展開

学習内容・活動	関連する学習内容	指導上の留意点	教材・教具
<p>1 始めのあいさつをする。</p> <p>2 宿泊学習について話を聞く。</p> <p>(1)期日, 場所について</p> <p>(2)施設について</p> <p>(3)日程について</p> <p>(4)当日までの学習について</p> <p>3 日程表を作る。</p> <p>(1)どんな日程表を作るか話し合う。</p> <p>日程表作りをする。</p> <p>[1日目の主な内容]</p> <p>学校出発, 養魚場見学, 昼食, 茜平着, 荷物整理, 入所式, キャンドルサービス, 入浴, 夕食, 反省会</p> <p>[2日目の主な内容]</p> <p>起床洗面, 朝の集い, 朝食, 荷物整理, レクリエーション, 昼食, 退所式, 帰校</p> <p>(3)でき上がった日程表を基に話し合う。</p> <p>○練習しなければならない事。</p> <p>○準備しなければならない事。</p> <p>○決めておかなければならない事。(係, 部屋割等)</p> <p>4 まとめをする。</p> <p>○日程表作りについての反省</p> <p>5 終わりのあいさつをする。</p>	<p>国AIII1 国BV8</p> <p>社AIV5 国CV1 国CV2 数BeII2 数BeV3 道4IV2</p> <p>国AIV7 理CaIII1 学活BhIV3 社AV6 道2IV2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カレンダーを基に宿泊学習実施の期日を知らせ, 当日までのおよその学習内容を理解させる。</li> <li>⑧ 絵カードなどを用いて魚つりやキャンドルサービスの楽しさを知らせ, 当日への期待感を持たせる。</li> <li>・生徒の実態を考慮し, 難易度により役割を分担しながら, 全員で参加できる日程表作りになるよう配慮する。</li> <li>⑧ 楽しい行事がたくさんある事に目を向けさせ, 参加意欲を高めさせる。</li> <li>・1日の流れが分かるよう, 活動内容順に組み立て, 工夫させる。</li> <li>⑧ 日程表全体の配置や色の使い方など, 楽しく見やすい表にするための工夫をさせる。</li> <li>⑧ 日程表の時刻の動きから昼, 夜, 朝を確認させ, 一泊する事を理解させる。</li> <li>・夜のつどいの歌やスタンツなど楽しい出し物について話し合わせ, 期待を持たせる。</li> <li>・持ち物や部屋割等を確認させる。</li> <li>・一人一人の役割でどんなところが良かったか発表させ, 賞賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カレンダー</li> <li>・絵カード</li> <li>・文字カード</li> <li>・写真</li> <li>・宿泊学習計画表</li> <li>・模造紙</li> <li>・画用紙</li> <li>・のり</li> <li>・はさみ</li> <li>・クレヨン</li> <li>・絵の具</li> <li>・色鉛筆</li> <li>・フェルトペン</li> <li>・日程表</li> </ul>

(3) 評価

- ア 宿泊学習では, どんなことをするのか, 理解できたか。
- イ 自分の役割が分かり, 日程表づくりに意欲的に参加できたか。

第1・2・3学年 作業学習指導計画

1 作業種目 農耕 しいたけ栽培

2 選定の理由

しいたけ栽培は、自然の中で体全体を動かしながら、原木運びや井桁積みなどの単純な作業から、穴あけ、植菌など難解な技術を要する作業であり、しかも、生産から販売まで年間を通し一貫した作業活動が含まれている。また、作業の組み立て方によっては、生徒の能力差、体力差など生徒の実態に応じて段階的な活動ができると考え選定した。

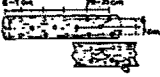
3 目 標

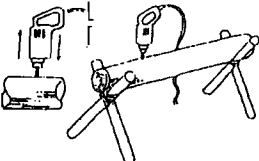
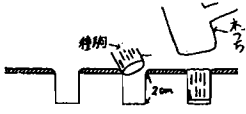

- (1) 道具や用具の使い方を体得させるとともに、ガスや電気を安全に扱う基本的な動作を身につけさせる。
- (2) 身体全体を動かす事により、体力、気力を養う。
- (3) 協力して作業を最後までやり遂げる態度を養う。
- (4) 生産から販売を通して、作業の成就感を味わわせる。

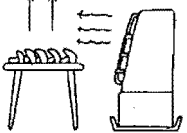

4 栽培の年間指導計画 (132時間扱い)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
工 程	全体計画 植菌		天地返し	←—————→				天地返し		天地返し		水かけ
					水かけ	収穫・乾燥 貯蔵・販売						

5 展 開

次 時 数	学習内容・活動	関 連 す る 学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	教 材 ・ 教 具 等
第 一 次 (4)	<p>1 全体計画を立案する。</p> <p>(1) 作業手順の概要を知る。</p> <p>(2) 植菌の方法を知る。</p> <p>○ 植え穴の配列は下図のようになる。</p>  <p>○ 種駒では横の間隔を6～7cm縦の間隔を20～25cmにする。(長さ100cmの原木には16～20個が標準)</p>	<p>国AIV1</p> <p>数BaIV1</p> <p>1・2 数BaIV2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各工程を理解させ、学習に意欲を持たせる。</li> <li>・雑菌防止のために、木口の部分、枝を切った所や枯れ枝の後ろの上下にも植菌する事を理解させる。</li> <li>・種駒を植菌する時の適当な間隔の必要性を分からせる。</li> <li>・長さについて分からせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原木</li> <li>・巻き尺</li> <li>・チョーク</li> <li>・ものさし</li> </ul>
	<p>2 植菌をする。</p> <p>(1) 原木を準備する。</p>	<p>国AIV4</p> <p>職A f IV</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の力で原木を持ち、けがをしないように運ばせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・椎茸菌 (種駒)</li> </ul>


<p>第 二 次  (10)</p>	<p>(2) 植え穴をあける。</p> <p>⑨ 手打ち用穿孔機を用いて、植え穴をあける。</p> <p>⑩ 電気ドリルを用いて、植え穴をあける。</p>  <p>(3) 植菌する。</p> 	<p>職B a III 3 職B b III 1・4 数B a IV 2 職A e IV 1</p> <p>職B b IV 1 職A c IV 2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木片がとぶ側に生徒を近づけないように注意する。</li> <li>・電気ドリルは教師が直接について指導する。</li> <li>・穴あけ作業が安定して行えるように木馬を使わせる。</li> <li>・木づちの打ち方に気を付けさせる。</li> <li>・種駒の上下を間違えないように注意させる。</li> <li>・一本打ち終った時、全部打たれているかを確認させる。</li> <li>・植菌を終えた木は、地面に落したり、置いたりしないようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原木</li> <li>・手打ち用穿孔機</li> <li>・電気ドリル</li> <li>・木づち</li> </ul>
<p>第 三 次  (10)</p>	<p>3 伏せ込みをする。</p> <p>(1) 植菌したほだ木を伏せ込み場へ運ぶ。</p> <p>(2) 井桁積みをする。</p>	<p>職A a III 1, 2 職A b IV 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けがをしないように運ばせる。</li> <li>・ほだ木の状態をよく見て、崩れないようにきちんと積み上げさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一輪車</li> <li>・ブロック</li> <li>・こも</li> </ul>
<p>第 四 次  (50)</p>	<p>4 水かけをする。</p> <p>⑨ バケツやじょうろを使って水を運び、ほだ木に水をかける。</p> <p>⑩ ホースを使って水かけをする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほだ木全体に、むらなく水をかけるように注意させる。</li> <li>・水かけの必要性を分からせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バケツ</li> <li>・じょうろ</li> <li>・ホース</li> </ul>
<p>第 五 次  (18)</p>	<p>5 天地返しをする。</p> 	<p>職A a III 1, 2 職A b IV 1 職A c IV 1・2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほだ木の手渡しは、生徒たちのペースに合わせて行うよう注意させる。</li> <li>・運ぶ力のついた生徒には、運ぶ本数を徐々に増やすように工夫させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一輪車</li> <li>・ブロック</li> <li>・こも</li> </ul>

第六次 (30)	<p>6 収穫をする。</p> <p>7 乾燥をする。 ○送風式ストーブを使う。</p>  <p>8 貯蔵をする。 ○ビニール袋や貯蔵袋に入れる。</p> 	<p>保B a III 2 職A e IV 1 職B b V 2 職A e IV 1</p> <p>職A f IV 3・5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい椎茸は収穫しないようにさせる。</li> <li>・椎茸の柄を持ってもぎ取り、ひだに手が触れないように収穫させる。</li> <li>・椎茸を収穫したら、なるべく早く乾燥させる。</li> <li>・乾燥後すぐビニール袋は二重にし、密封して冷蔵庫に入れさせる。</li> <li>・作業が終了したら、後片づけをさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫かご</li> <li>・ストーブ</li> <li>・ビニール袋</li> <li>・貯蔵箱</li> </ul>
	第七次 (8)	<p>9 調整、販売をする。</p> <p>(1) 選別をし袋詰めをする。</p> <p>(2) 文化祭や収穫祭などで販売をする。</p> <p>(3) 収益金を貯金する。</p>	<p>職A c IV 2 職A f IV 5 職A d IV 1 家G a IV 3 社CIV 1 社CIV 6</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い物と悪い物をよく分けさせる。</li> <li>・生徒の実態に合わせて計量させ、袋詰めさせる。</li> <li>・販売に際しては、接客態度に注意させる。</li> <li>・正しいお金の取り扱いができるようにさせる。</li> </ul>
第八次 (2)	<p>10 まとめ</p> <p>(1) 感想文を書く。</p> <p>(2) 話し合いをする。</p>	<p>国C III 3 国A IV 7</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が頑張って作業に取り組んだことを賞賛するようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート</li> </ul>

## 6 評価

- (1) 電気器具、木づちを注意して取り扱うことができたか。
- (2) しいたけ栽培に自信を持って最後までやり遂げることができたか。
- (3) しいたけ栽培について、全体的な作業内容が理解できたか。
- (4) 責任感や成就感を体験し、働く態度が身についたか。
- (5) 友達と協力して作業ができたか。

## 7 配慮事項

- ・生徒の実態に応じて作業内容を分担し、一人一人が次の作業へ取り組める自信となるようにする。
- ・収穫された椎茸は、調理実習などで試食させ、生産した喜びを味わわせる。
- ・の生徒は、一生懸命やろうとする姿勢がみられれば善しとする。

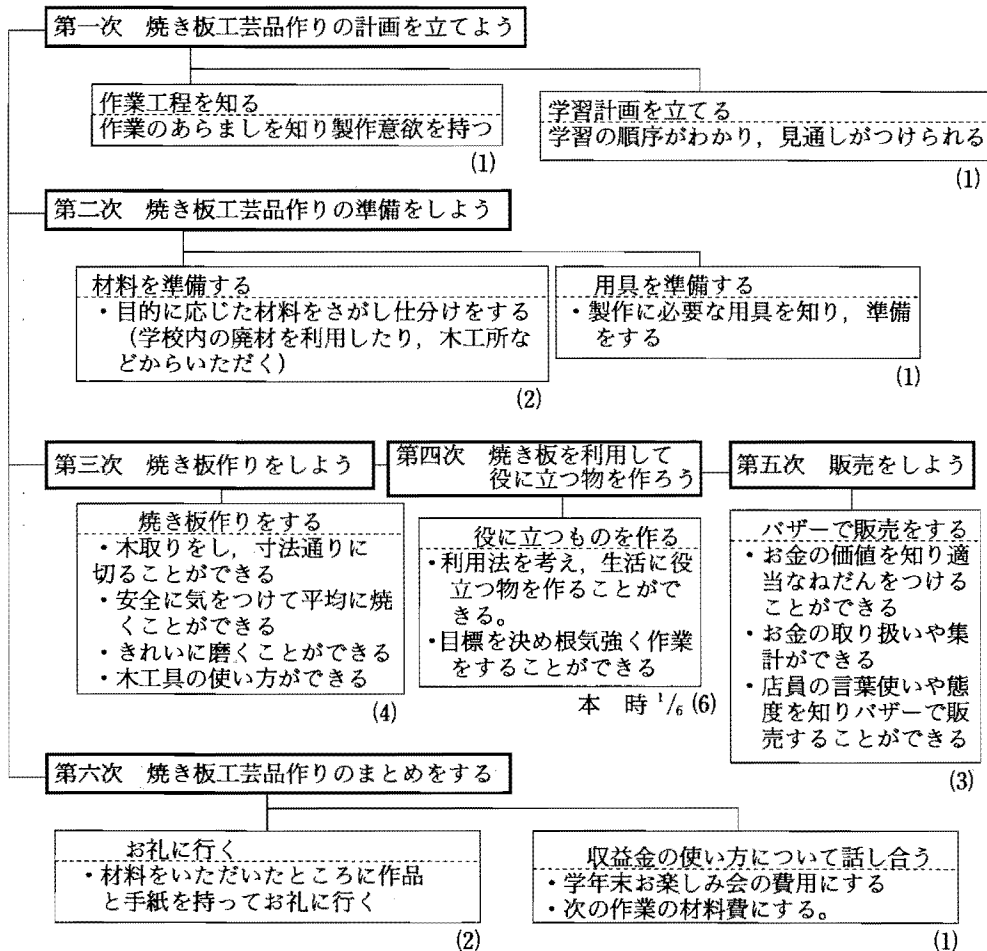
1 単元名 木工 焼き板工芸品作り

2 単元設定の理由

焼き板工芸品作りは、バーナーで板を焼く、たわしで磨いて木目を出す、のこぎりで切って組み立てる、販売するなど様々な作業工程を含んでおり、多様化した障害に対応できる作業種目である。また材料も身近な廃材を利用することができ、それらが身の回りで使える表札や花びん台に生まれ変わるなど、工夫によって生活を豊かにすることを学ばせることができる。また、販売を通して自分たちで作ったものを売る喜びを味わったり、お金の取り扱い、接客の態度を学ぶなど、楽しみながら将来の職業生活につながる能力を育てられると考え、本単元を設定した。

- 3 目標
- (1) 簡単な道具や機械を正しく安全に使うことができるようにする。
  - (2) 最後までがんばり、作業目標を達成させることができるようにする。
  - (3) 販売をすることにより、お金の計算の仕方や価値を分からせる。

4 指導計画 (21時間扱い)



## 5 本時の指導 (第四次 第1時)

### (1) 目標

- ア 焼き板の利用法を考えることができる。(㊦)
- イ 焼き板を加工した作品を考えることができる。(㊦)
- ウ 安全に気をつけて、楽しく作品作りができる。

### (2) 生徒の実態と個人目標



氏名	学年	I	Q	S	Q	生徒の実態	本時の目標
A男	1	44		62	(8-0)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まわりの生徒の作業の様子を見てからでない活動ができない。</li> <li>○不器用だがこつこつと長続きできる。</li> <li>○道具の扱い方は経験不足。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○模倣しながら、焼き板を組合せた作品づくりができる。</li> <li>○友達と協力して作品作りができる。</li> </ul>
B男	2	50		68	(8-11)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手順を理解し、作業に取りかかることができる。</li> <li>○釘打ちは上手にできない。</li> <li>○のこぎりはうまく使えない。</li> <li>○あきやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○焼き板を組み合わせた作品を考えることができる。</li> <li>○道具の使い方の指導を受け練習を経て、作品作りができる。</li> </ul>
C男	3	74		90	(11-9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲的に取り組み最後まであきずにがんばれる。</li> <li>○かなづち、くぎぬき以外の道具の使い方には慣れていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○焼き板を組合せた作品を考えることができる。</li> <li>○道具の使い方の指導を受け、練習を経て、作品作りができる。</li> </ul>
D子	3	75		98	(12-9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲的で良く意見を出し、協力して作業ができる。</li> <li>○自分の作品として、自分の力で作りたいと思っている。</li> <li>○初めての道具でも、使えると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○焼き板を組み合わせた作品を考えることができる。</li> <li>○道具の使い方を知り、自分の力で作品づくりができる。</li> </ul>
E子	3	46		62	(8-0)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人では、活動が始まらない。</li> <li>○創作することができない。</li> <li>○がんばろうとする気持ちは強い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○焼き板を台として利用する方法を考えることができる。</li> <li>○具体物を台にのせて鑑賞することができる。</li> </ul>
F子	3	53		67	(8-9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手先が極めて不器用である。</li> <li>○集中力に欠け、1人では活動できない。</li> <li>○やろうとする気持ちはあるが、いい加減になりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○焼き板を台として利用する方法を考えることができる。</li> <li>○具体物を台にのせて鑑賞することができる。</li> </ul>

### (3) 準備

くだもの、花びん、鉢、コーヒーカップ、ポンド、のこぎり、釘、ねじ、金づち、ネジまわし、白ペンキ、ふで、きり

### (4) 展開

学習内容・活動	予想反応	指導上の留意点	個人目標、達成への手だて
○1 本時の作業について話を聞き、課題をつかむ。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○協力し合う大切さにもふれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○B男は最後まで話が良く聞けるように注意を促す。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     焼き板を利用して、生活に役立つ物を作ろう                 </div>			

<p>2 考え発表する</p> <p>(1) どんな利用法があるか</p> <p>(2) 自分の参加する作業を決める</p>	<p>○焼き板一枚としての利用 (置物台、表札)</p> <p>○加工(組合せ)利用 (足をつけた台、箱(木鉢)類)</p>	<p>○考えついたアイデアの発表をほめる。</p> <p>○それぞれにあった作業を選べるよう助言する。</p> <p>○考えた物が作品として仕上がるよう助言を加える。</p> <p>○実際に乗せる物をさがして鑑賞させる。</p> <p>○生徒の自由な発想を大切に</p>	<p>○E子とF子には焼き板にコーヒーカップを置かせ、感想を言わせる。 自分でもやってみようかという気持ちをおこさせる。</p>
<p>3 作業活動に入る</p> <p>(1) 1枚板利用組 (E子, F子)</p> 	<p>○どんな物を探して焼き板の上に置くだらうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーヒーカップ</li> <li>・花びん</li> <li>・植木</li> <li>・果物</li> <li>・鉛筆立て</li> <li>・犬小屋の表札</li> </ul>	<p>○片付けの方法として、またかべかけとして、穴を開けると便利であることを知らせる。</p>	<p>○きりを使う生徒と抑える生徒を交互にして協力して作業を進めさせる。(E子, F子)</p>
<p>○きりで板に穴を開ける</p> <p>(2) 加工(組合せ)利用組 (A男, B男, C男, D子)</p> 	<p>○加工組は自力でのこぎりで板を切ってボンドやくぎで接着しているいろいろな物が作れるであろう。</p>	<p>○再度手ほどきしてのこぎりは押す時は力をぬき引く時に力を入れることを指導する。</p>	<p>○A男, D子は自分の考えで、どんどん作業を進めさせる。</p> <p>○A男, B男は友達にたずねて、解決法をさぐらせる。</p>
<p>○のこぎりの使い方を知る</p> <p>○接着の方法 (ボンド、釘)を知る。</p> <p>○実際に組合せてみる。</p>	<p>○力強くのこぎりを使うであろう。</p> <p>○押さえが十分でないであろう。</p> <p>○必要以上にボンドを出すかも知れない。</p> <p>○釘はまがるかも知れない。</p>	<p>○ゆっくりリズミカルに押し引くをわからせる。</p> <p>○適量を教える。</p> <p>○金ずちの凸面であつように指導する。</p> <p>○あわてないで時間をかけて取り組ませる。</p> <p>○作業への努力、想像力をほめる。</p>	<p>○A男B男が定規で測った通りに切れなくても、かえって味のある作品となるので、それを利用させる。</p> <p>○切る時にはお互いに抑え合わせる。</p> <p>○何度やってもくぎがまがってしまう生徒には、くぎうちだけ取り出して別の板にきりで穴を開けてやったりして練習させる。</p>
<p>4 作品を鑑賞し合いよいところを発表する</p> <p>5 次時の作業内容を知る。</p>		<p>○発展として、教室や家庭での実際の利用ができるように話す。</p> <p>○たくさん作って販売する計画を知らせ作業への意欲を持たせる。</p>	<p>○E子, F子は自分が1番置きたい物を板に置いて、みんなに見てもらおう。</p> <p>○C子D子の作品をほめる。</p> <p>○A男, B男が完成できなくても次時に援助し完成させる意欲を持たせる。</p>

## (5) 評価

ア、焼き板の利用法を考えることができたか。

イ、焼き板を加工した作品を考えることができたか。

ウ、安全に気をつけて、楽しく作品作りができたか。



第1・2・3学年 作業学習指導計画

1 単元名 縫工 (なべつかみの制作)

2 単元設定の理由

- (1) 素材が身近にあり、各種の作業内容や作業工程をもっているため、能力差に応じた活動ができる。
- (2) 注意力、集中力、根気強さを養うことができる。
- (3) 年間を通して生産でき、それを販売することによって、社会生活や経済生活などに必要な基礎的知識を身に付けることができる。
- (4) 生活に必要な物を自分で作るという態度を育てることができる。


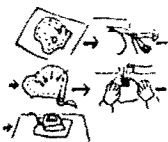

- 3 目標
- (1) 縫工用具の正しい扱い方を身に付けさせる。
  - (2) 縫工作業に必要な知識と技能を習得させる。
  - (3) 最後まで根気強く作業をし、作る喜び、成就感を味わわせる。
  - (4) 販売学習を通して、製品の価値や労働の意識を理解させる。

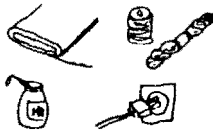

4 指導計画 (○内は取り扱い時数)

4月	5月	6月	7月	9月	10月
←計画⑩→		←準備⑳→			←制作 (文化祭出品作品)㉔→
←調理※					
11月	12月	1月	2月	3月	
←製作 (販売品)㉑→			←販売㉒→	←反省㉓→	
←調理㉕→		←調理㉖→			

5 展開

次 (時数)	学習内容・活動	関連する 学習内容	指導上の留意点	教材・教具 等
計画  第 一 次  (10)	1 作業計画を知る。 2 熱くなったおなべ等をつかむ時、どのようにしているか話し合う。 ○つかんだ時の経験。 ○家での様子。 3 市販のなべつかみについて調べる。 ・形・布・値段	社 C IV 3  国 A IV 1   社 A III 4 社 D III 5	・1年間の予定をつかませ、作業意欲を持たせる。 ・家庭や調理自習の時間などを思い出させ、なべをつかむ時のやけどの危険性となべつかみの必要性をわからせる。 ・店に行って調べさせる。 ・校外学習と関連させる。 ・交通事故に気をつけさせる。	計画予定表 ・メモ用紙 ・筆記用具
準備	4 布集めをする。 ・縫製会社・知人 ・全校生徒・職員 5 デザインの工夫をする。	国 A IV 4	・布質、厚さを変えてなべをつかませ、ふさわしい布を集めさせる。 ・呼びかけ方を工夫させる。	・各種布

<p>第二次 (30)</p>	<p>6 型紙を作る。 更紙で、→検討 →厚紙で</p>  <p>7 縫工用具, 材料を確認する。</p> <p>8 手縫いの基礎練習をする。 ・玉止め ・なみ縫い</p> <p>9 ミシン練習をする。 ・針, 糸のつけ方 ・からぶみ ・直線, 曲線縫い ・縫い代, 糸のしまつ</p>	<p>国AbIV3・4 図AfIII3</p> <p>職AfIV2</p> <p>家AcIII1 家AcIII2</p> <p>家AcIV2 職BbIV3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市販品の調査を参考に, 形, 大きさを考えさせる。</li> <li>・物さしのあて方, 目盛りの読み方に注意させる。</li> <li>・<b>低</b>目盛りの読み方のむずかしい生徒には, フリーハンドで作らせる。</li> <li>・使いやすく, 楽しい形, 大きさを考えさせる。</li> <li>・過不足の確認と能率的, 安全に使用できるように用具を配置させる。</li> <li>・ほめながら練習をさせ, やってみようという意欲づけをする。</li> <li>・練習段階表を作り, シールを貼付し, 進捗を確かめさせる。</li> <li>・安全に十分気をつけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケッチブック</li> <li>・物さし</li> <li>・更紙</li> <li>・厚紙</li> <li>・はさみ</li> <li>・縫工用具</li> <li>・布</li> <li>・型紙</li> <li>・手ぬぐい</li> <li>・さらし</li> <li>・針</li> <li>・木綿糸</li> <li>・ミシン</li> <li>・針, カタン糸</li> <li>・練習用紙</li> <li>・練習用布</li> <li>・糸切りはさみ</li> </ul>
<p>製作 第二次 (54)</p>	<p>10 手順の確認をする。</p> <p>11 裁断する。 ・布選び ・型紙配置 ・印付け ・裁つ。</p>  <p>12 しつけをし, ミシンがけをする。 ・しつけかけ ・ミシン操作</p> <p>13 仕上げをする。 ・糸のしまつ ・アイロンかけ ・製品の検査 ・生徒→教師 ・後始末</p>	<p>家AcIII3 職AaIV3</p> <p>職BbIII1 職AaIV2</p> <p>家AcIV2</p> <p>家AbIV5 保BaIV2 職AeIV1 職BcIV1 職AfIV3・5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・布地の配布, 回収, 用具の出し入れ等の係を決め, 毎回, 約束通り動くようにさせる。</li> <li>・デザインにあった色, 柄, 大きさ, 布質, 厚さのものが選べるようにアドバイスをする。</li> <li>・針, はさみの安全な使い方に気をつけさせる。</li> <li>・裁つという作業は, まちがえるとやり直しができないので, 十分に注意させる。</li> <li>・布がしっかり止まっているか留意させる。</li> <li>・ミシンの試し縫いをさせる。</li> <li>・糸端のしまつをきちんとさせる。</li> <li>・アイロンの温度に注意させる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手順図</li> <li>・布</li> <li>・待ち針</li> <li>・ルレット</li> <li>・チャコペーパー</li> <li>・物さし</li> <li>・はさみ</li> <li>・型紙</li> <li>・糸</li> <li>・しつけ糸</li> <li>・カタン糸</li> <li>・ミシン</li> <li>・アイロン</li> <li>・アイロン台</li> <li>・霧吹き器</li> </ul>

販売	14 原価の計算をする。 	職BaIII1 算AbIV 1 算EaIV1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何を使って作ったかを考えさせる。</li> <li>・計算機に慣れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算機</li> </ul>
	15 販売価格を決める。 			
第四次 (12)	16 販売する。			
まとめ	17 出納簿へ記帳し、売上額を預金する。  18 感想や反省をまとめる。	社DIVII  国AIV7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郵便局、銀行の利用の仕方を分からせる。</li> <li>・出納簿、通帳は最後に教師が確認する。</li> <li>・楽しかったこと、苦労したこと、売上金の使途について話し合わせる。</li> <li>・1人1人ががんばったことについてほめ働く喜びを味わわせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金銭出納簿</li> <li>・預金通帳</li> <li>・学習ノート</li> </ul>
第五次 (6)				

## 6 評価

- (1) 安全のきまりを守り、作業が進められたか。
- (2) ミシン操作がスムーズにできるようになったか。
- (3) 根気強く最後まで仕事が続けられたか。
- (4) 販売学習を通して、働くことの意義と心がまえについて理解できたか。

## 7 配慮事項

- (1) ㊸の生徒には、手袋式のようなある程度複雑なものを作成させるようにする。また、生高をグラフに表させ、生産意欲を高めるようにする。
- (2) ㊸の生徒には、フリーハンドで書いた型紙や既成の型紙を使用させる工夫をしたり、ミン、アイロン、針、はさみ等の使用上の安全に対する注意が大切である。場合によっては手縫いでさせる。
- (3) 作業工程がいろいろあるので、能力差があっても、工程のどこかの部分で個人を生かせるように配慮する。

1 単元名 電話で話そう

2 単元設定の理由

現代社会において電話はなくてはならぬものであり、特殊学級の生徒たちにとっても、自信を持って電話を利用することができるようにすることが重要である。しかし、相手に応じた正しい言葉遣いや対応の仕方がうまくできず、相手に不愉快な感じを与えてしまうことがある。また、電話を取り次いだり、伝言をしたりする場合もあり、正確にメモをとることも必要になってくる。そこで、電話での基本的な対応の仕方や簡単なメモの取り方を学ぶことにより、日常生活の中で、より積極的に電話を活用することができるようになると考え、本単元を設定した。

- 3 目標
- (高) (1) 相手に応じて適切な言葉遣いをし、要件を正しく伝えることができるようにさせる。
  - (高) (2) 必要に応じてメモをとり、相手の話を正確に聞き取ることができるようにさせる。
  - (高) (3) 日常生活の中で、電話を有効に活用しようとする態度を身につけさせる。
  - (中) (1) 基本的な対応の仕方が分かり、電話で話すことに慣れさせる。
  - (中) (2) 必要があれば、簡単なメモをとることができるようにする。
  - (中) (3) 日常生活のなかで、電話を積極的に活用しようとする態度を身につけさせる。
  - (低) (1) 電話を利用する場合の基礎的知識を身につけさせる。
  - (低) (2) 電話を受けたり、かけたりする時の基本的な話し方ができるようにさせる。
  - (低) (3) 日常生活の中で、電話を活用しようとする態度を身につけさせる。

4 指導計画 (11時間扱い)

学 習 内 容		活 動
(高)	(中)	(低)
第一次 (1)	第一次 (1)	第一次 (1)
1 これから学習することのめあてを知る。  2 (1) 先生や友達と模擬電話機で話をする。 (2) 自分が電話で話している様子をテープで聞く。 国AV1  (3) 相手に応じた対応の仕方について学習することを知る。	2 (1) 先生と模擬電話機で話をする。 (2) 電話をかけたり受けたりした時のことを話し合う。 ○困ったこと、難しかったこと。 国AIV7、職FIV2  (3) 電話で話すことに慣れるための学習することを知る。	2 (1) 模擬電話機で電話ごっこをする。 (2) 電話を使った時のことについて話し合う。 国AIII7  (3) 電話のかけ方、受け方について学習することを知る。
第二次 (3)	第二次 (3)	第二次 (3)
1 電話を受ける場合の言葉遣いについて知る。	1 いろいろな場合の電話の受け方について知る。	1 基本的な電話の受け方について知る。

○敬語の正しい使い方  
(敬語対応表)

**国AV10**

2 電話を受けてメモをとる練習をする。

○メモ用紙に要件を簡潔にしてまとめる。

○電話内容の復唱。

なまえ	
用件	
だれに	
月・日	月・日

メモ用紙

**国AV4, 社AV2  
職GbV1**

3 相手や場面に応じた電話の受け方の練習をする。

**国AV8・10, 社AV1  
職GbV1**

○自分への電話

○自分以外の人への電話

**国AIV8・10**

2 電話を受けた時のメモの取り方について知る。

○相手の名前、電話番号、用件などを聞く。

○不明な点は聞き返す。

○メモをしたことの復唱

**社AIV2, 職GbIV1**

3 いくつかの場面を想定して電話の受け方の練習をする。

**国AIV1・8・10, 社AIV2・7**

○電話を受ける時の言葉

○電話を取り次ぐ時の言葉

**国AIII8・10**

○取り次ぐ人が不在の時は、相手の名前と電話番号をメモする。

○電話番号の復唱

○相手の名前の復唱

**国AIII8・10, 社AII2**

3 基本的な電話の受け方の練習をする。

**国AIII8・10社, AIII2**

第三次(4)

第三次(4)

第三次(4)

1 言葉遣いに気をつけて電話をかける練習をする。

○敬語の正しい使い方  
(敬語対応表)

○相手に応じた話し方

**国AV10, 社AV2・7**

2 少し複雑な要件を電話で伝える練習をする。

○簡単なメモを見ながら話す。

○ゆっくり、はっきり話す。

**国AV10, 社AV2・7**

3 電話帳の利用の仕方を知る。

○市外局番と市内局番

○名前の探し方

1 電話をかける時に必要な事柄について知る。

○市内局番と市外局番

○電話の種類

(ダイヤル式と  
プッシュホン式)



2 電話のかけ方の基本を練習する。

○呼び出し音と通話中の音  
(カセットテープ)

**国AV10, 社AIV7**

3 電話ごっこをしてみて、かけ方の練習をする。

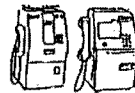
○いろいろな場面想定

○役割演技

**国AIV10・11, 社AIV2**

1 電話についていろいろなことを知る。

○ダイヤル式とプッシュホン式



○テレホンカード

2 電話のかけ方の基本を知る。

○呼び出し音と通話中の音  
(カセットテープ)

○電話をかける時の言葉  
「もしもし、私は○○と申しますが・・・。」

**国AIII10, 社AIII2・7**

○いろいろな場面想定

(家の人、友達、先生)

**国AIII8, 社AIII2**

<p>○番号案内の利用について</p> <p>4 「私の電話帳」を作る。</p> <table border="1" data-bbox="218 236 479 307"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>名前</th> <th>電話番号</th> <th>住所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>国BV1</p>	No	名前	電話番号	住所	1				2				<p>4 「私の電話帳」を作る。</p> <table border="1" data-bbox="547 236 808 307"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>名前</th> <th>電話番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>国BIV1</p>	No	名前	電話番号	1			2			<p>4 自分の家の電話番号がわかる。</p> <p>国BIII1</p>
No	名前	電話番号	住所																				
1																							
2																							
No	名前	電話番号																					
1																							
2																							
<p>第四次 (3)</p>	<p>第四次 (3)</p>	<p>第四次 (3)</p>																					
<p>1 電話を利用する時のエチケットについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かける時・切る時・待たせた時・通話時間・まちがえた時</li> <li>・態度や言葉遣い</li> </ul> <p>国AV1・4・8・10, 職AdV3</p> <p>2 実際に電話を利用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○電話ノートをつける。 (月日, 相手, 要件, 反省)</li> </ul> <p>3 実際に電話を利用した時の経験について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○電話ノート○自己評価表</li> </ul> <p>国AV7, 社AV6</p>	<p>1 電話を利用する時のエチケットについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○かける時○切る時</li> <li>○通話時間</li> </ul> <p>国AIV1・10, 職AdIV3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家の人, 親戚の人, 友達, 担任の先生</li> <li>○電話ノートをつける。 (月日, 相手, 用件)</li> </ul> <p>3 評価表(先生, 家の人)</p> <p>国AIV7, 社AIV6</p>	<p>1 電話を利用する時のエチケットについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○かける時○切る時</li> <li>○通話時間</li> </ul> <p>国AIII1・10, 職AdIII3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家の人, 友達, 担任の先生</li> <li>○電話の内容を伝える。 国AIII2・8・10</li> </ul> <p>3 評価表(先生, 家の人)</p> <p>国AIII2・8・10</p>																					

## 5 評価

- (高)
- (1) 電話を使用した時, 場面や相手に応じて適切な言葉遣いで話すことができたか。
  - (2) 相手の電話の要件を正確に聞き取ることができたか。
  - (3) 必要に応じて電話をかけ, 用件を正しく伝えることができたか。
  - (4) 電話を有効に利用しようとする態度が身についたか。
- (中)
- (1) 電話での対応の仕方が分かり, 電話を使用することに慣れたか。
  - (2) 電話を使用する時の基本的な事柄が分かり, いろいろな場面で電話をかけることができたか。
  - (3) エチケットに気を配りながら, 進んで電話を利用しようとする態度が身についたか。
- (低)
- (1) 電話を受けたりかけたりする時の基本的な知識を身につけることができたか。
  - (2) 電話を受けたりかけたりする時の基本的な話し方ができるようになったか。
  - (3) 日常生活の中で, 自分から電話を利用しようとする態度が身についたか。

1 単元名 ボーリング大会をしよう

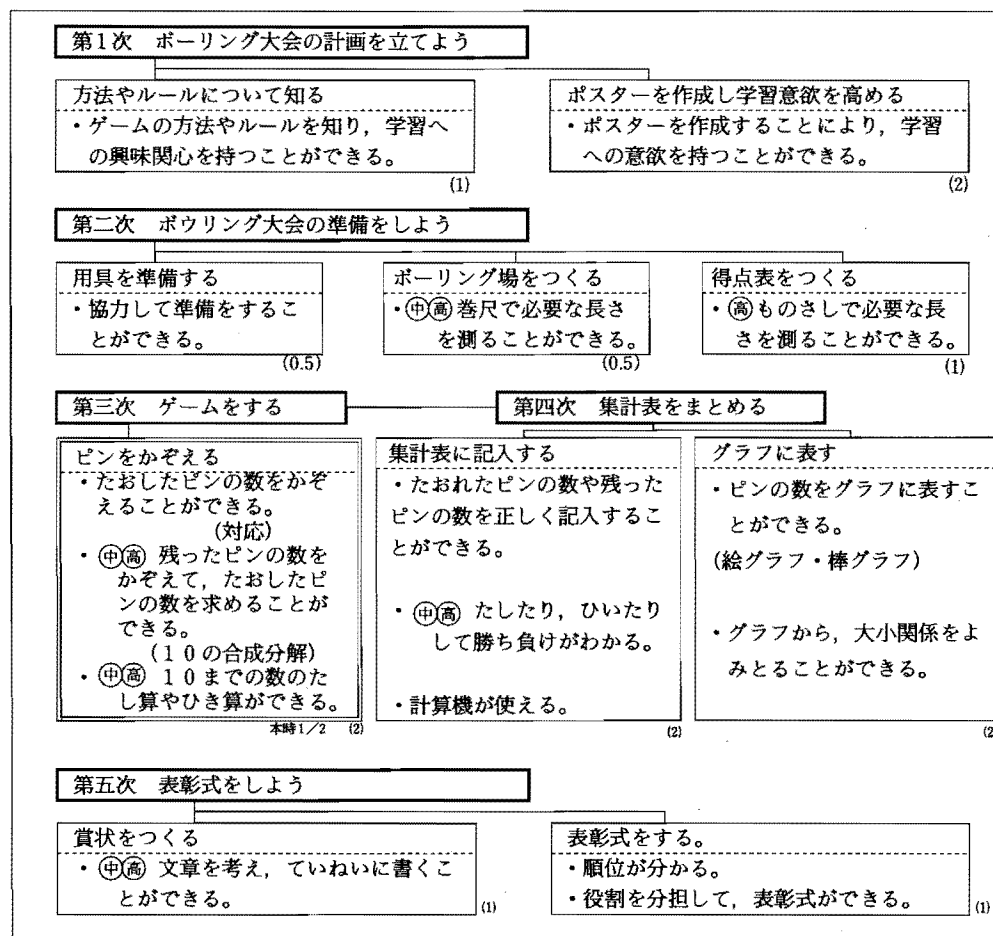
2 単元設定の理由

本学級では毎年ボーリング大会を開いている。生徒達はボーリングゲームが好きであり意欲的に取り組んでいる。ボーリングゲームの得点の計算は、数や計算への興味関心、基礎的な能力を養うものとして適切である。

生活単元学習と関連づけて、ボーリング大会の準備、運営などに積極的に取り組ませるなかで、数や計算への興味を育てると同時に、能力に応じた様々な活動ができるようにしたいと考え本単元を設定した。

- 3 目標 (1) それぞれの能力に応じた活動場面に積極的に取り組ませることにより、意欲をもって学習に参加する態度を養う。  
 (2) ボーリングゲームを通して数への関心を高め簡単な計算ができるようにさせる。  
 (3) 協力して学習を進める態度を養う。

4 指導計画（13時間扱い）



5 本時の指導 ( 第三次 第1時 )

(1) 目 標

- ア たおれたピンの数を数えることができる。
- イ 残ったピンの数を数えて、倒れたピンの数を知ることができる。(中)(高)
- ウ ルールを守り、協力してなかよくゲームをすることができる。

(2) 展 開

学 習 内 容 ・ 活 動	関 連 する 学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	教材・教具等												
<p>1. はじめの会をする。(司会○○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲームの方法・ルールの確認</li> <li>○役割分担の確認</li> <li>○順番を決める</li> <li>○スクラムを組んでがんばろうコールをする</li> <li>○ピンをセットする</li> </ul> <p>2. ゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ボールをころがして、ピンを倒す。</li> <li>○倒れたピンの数をかぞえる。</li> <li>○残ったピンの数をかぞえて、倒れたピンの数を求める。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 40%;">残っている数</th> <th style="width: 50%;">たおした数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回目</td> <td>3</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3. まとめと反省をし、次時の学習について知る。</p>		残っている数	たおした数	1回目	3	7	2回目	4		3回目			<p>国AV1</p> <p>体EII1</p> <p>数AaI5 数AaI1 数AcIII1</p> <p>数AaI5</p> <p>国AV1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方法やルール役割分担を確かめ、やる気をおこさせる。</li> <li>・ピンはあらかじめつけておいた印の上に三角形にセットし、全部で10本であることをおさえる。</li> <li>・(中)(高)投げる位置は生徒の実態に応じて変え、意欲を持たせる。</li> <li>・投げる順番は、じゃんけんなど公平な方法で生徒に決めさせる。</li> <li>・記録とピンの整理は交代で協力して行わせる。</li> <li>・ピンのねらい方やフォームに気をつけて投げさせる。</li> <li>・ピンと対応させ、10までの数をかぞえられるようにする。</li> <li>・(中)(高)残ったピンの数をかぞえることにより、倒したピンの数を求められることに気づかせ、10の合成分解ができるようにする。</li> <li>・数にこだわりすぎてゲームの楽しさをそこなないように気をつける。</li> <li>・勝敗だけでなく、よかった点を褒め、次時の学習への意欲をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピン10本</li> <li>・ボール</li> <li>・得点表</li> </ul>
	残っている数	たおした数													
1回目	3	7													
2回目	4														
3回目															

(3) 評 価

- ア 倒れたピンの数(10までの数)を数えることができたか。
- イ 残ったピンの数を数えて、倒れたピンの数を求めることができたか。(中)(高)
- ウ ルールを守り、協力して仲良くゲームをすることができたか。



第1・2・3学年 音楽科学習指導計画

1 単元名 好きなリズムを作ろう

2 単元設定の理由

遊びの中で生まれた自由なリズムをいろいろな曲の中に生かしていくことで、音楽の楽しさを味わい、生活を明るく楽しいものにしていきたいと考え、この単元を設定した。

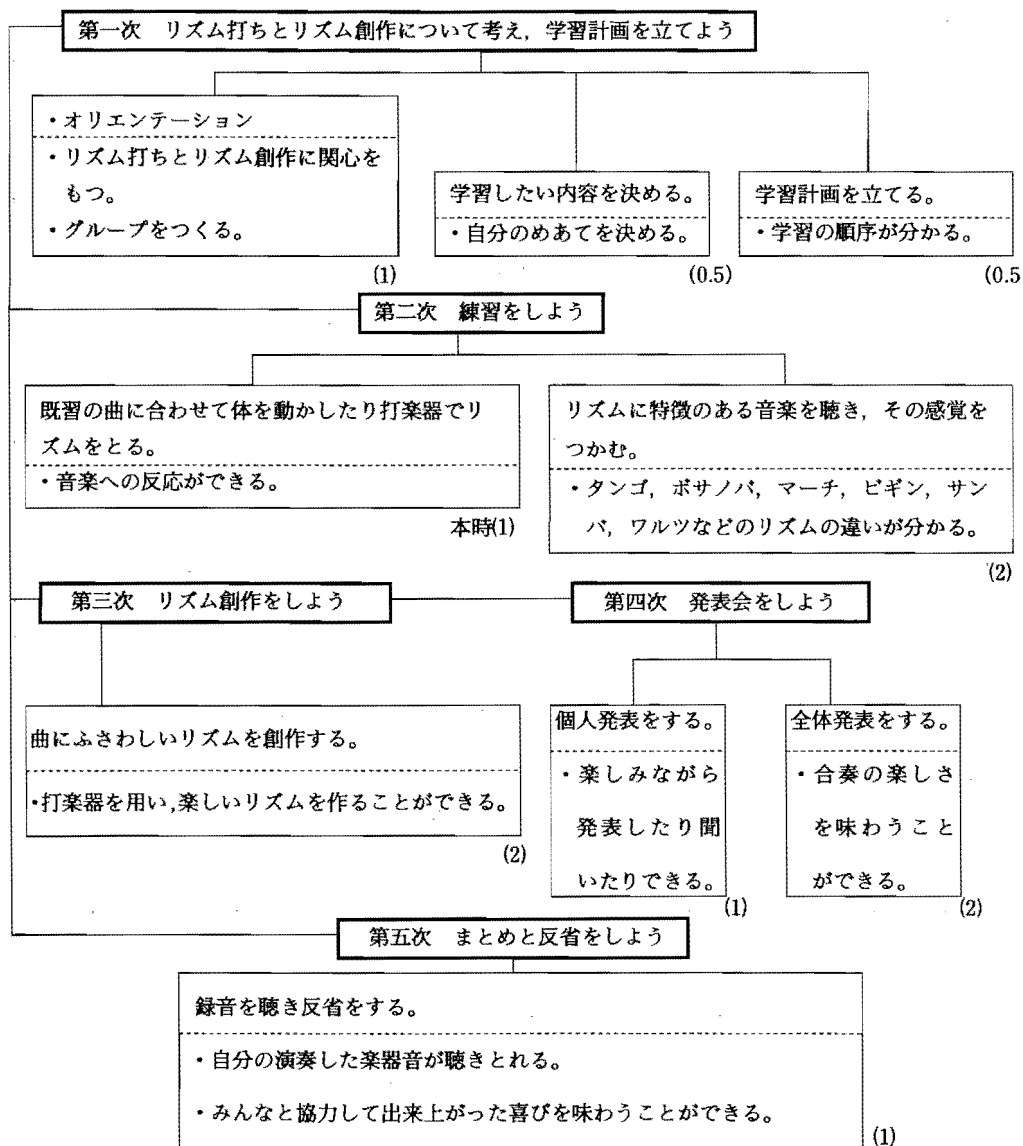
3 目 標 (1) 音楽に合わせて自由にリズムを表現させる。

(2) 音楽に楽しいリズムやおもしろい音色を加え楽しさを味わせる。

(3) リズム感をつかませる。

(4) 音色、強弱の工夫をさせる。

4 指導計画 (11時間扱い)


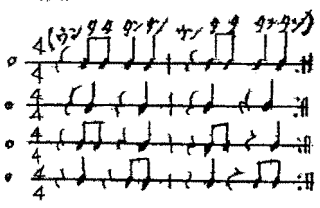


5 本時の指導 ( 第二次 第1時 )

(1) 目標

- ア 音楽に合わせて楽しくリズム打ちができる。
- イ みんなと一緒に協力し合って、一つのまとまりのあるリズムを創ることができる。
- ウ リラックスして積極的に授業に参加できる。

(2) 展開

学習内容・活動	関連する学習内容	指導上の留意点	教材・教具等
1. 本時の学習の課題をつかむ。 「ラバースコンチェルト」に合うリズムを工夫しみんなで楽しく演奏しよう	国AIV1		・レコード 「ラバースコンチェルト」
2. 「ラバースコンチェルト」に合わせて自由に動く。 	音AaIV3	・軽快なリズムを感じとらせる配慮をしながら、自由に動かせる。 ・体全体でリズムをとり、リラックスさせる。 ・楽しそうにリズムを打って、雰囲気盛り上げるように励ます。 ・個性的な表現ができるよう励ます。 ・個性的な表現ができるよう励ます。	・棒 ・はし ・タンブリン
3. いろいろなりズム創りを行う。(例) 	音AbIII1 音AbIV2	・生徒が作ったリズムを板書する。(音符またはウタタ……) ・たたいて音の出るもの以外にも生徒の希望する楽器はできるだけ使わせる。 ・手拍子でもよい。	・カスタネット ・マラカス ・小太鼓 ・オルガン ・笛
4. みんなで楽しく合奏したり分担奏をしたりする。	音AbIV4 音BIV4	・最初は全体として雑音になってしまうが、個人の表現を大切に ⑤リズムにのれない生徒がいても積極的な授業参加を大切にする。	
5. テープ録音をし、聴いて感想を話し合わせる。	国AIV1	・いろいろな曲によって自由に楽しくリズムを打つことができることを大切にしたい。	・テープレコーダー ・カセットテープ
6. 次時の学習内容についての話を聞く。	音AbIV5		

(3) 評価

- ア 音楽に合わせて楽しくリズム打ちができたか。
- イ みんなと一緒に協力し合って、一つのまとまりあるリズムを創ることができたか。
- ウ リラックスして積極的に授業に参加できたか。

第1・2・3学年 美術科学習指導計画

1 単元名 私は陶芸家

2 単元設定の理由

陶芸は粘土を適度の硬さに練り、自由に手で形を変えたり、表面に模様をつけたりして、表現の喜びを味わうことができるので、生徒達の大好きな題材の一つである。また、陶芸を通して美的感覚を養い、豊かな情操を培うこともできると考え、本単元を設定した。

- 3 目 標 (1) 形や表面の装飾を工夫する楽しさを知り、自由な発想が出るようにする。  
 (2) 使いやすい安定のある形を考えて作らせる。  
 (3) 最後までがんばって作品を作らせる。

4 指導計画 ( ) 内は取り扱い時数

4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月
○折り紙細工	○デザイン(16)	(霧吹き)	○人物画(12)		○木版画(8)
1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	
○年賀状づくり(20)		○焼きもの(20)+課外(乾燥, 焼成)			

5 展 開

学習の流れ	学習内容・活動	関連する学習内容	指導上の留意点	教材・教具等
<p>学習の確認 (1)時間</p> <p>成形技法を知る (2)</p> <p>デザイン (2)</p> <p>成形技法の選択</p>	<p>1 学習内容について知る。</p> <p>2 日常生活の中での焼きものについて話し合う。</p> <p>3 先輩の作った参考作品を見ながら、製作方法を知る。</p> <p style="text-align: center;">アイデアスケッチ ↓ 適切な技法での製作 ↓ 成形の仕上げ ↓ 焼成</p> <p>4 デザインを考える。 ・形、大きさ、模様 ・安定感 ・スケッチ→実物大</p> <p>5 デザインにあった技法を選ぶ。</p>	<p>国AIV1</p> <p>国AIV9</p> <p>職AbIV1・ 図AaIV1</p>	<p>・焼きもの学習について見通しをもたせる。</p> <p>・生徒の発表を取りあげ作品づくりの意欲を高めるようにする。</p> <p>・粘土の塊、製作途中、生乾き、完全乾燥、素焼き、本焼き等の実物を見せ製作過程を分からせる。</p> <p>・成形技法については、実演指導をして分らせる。</p> <p>・厚紙で実物大に作らせ、検討させる。</p> <p>・手びねり、板づくり、ひもづくりの中から選ばせる。</p>	<p>・各種陶器</p> <p>・完成作品</p> <p>・段階作品</p> <p>・製作過程図</p> <p>・成形技法図</p> <p>・スケッチブック</p> <p>・厚紙</p> <p>・セロテープ</p> <p>・成形技法図</p> <p>・はさみ</p>

成 形

(1)

- 6 粘土練りをする。  
 ・粘土の量 1人1kg  
 ・耳たぶ程度の硬さに練る



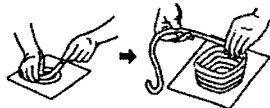
体重をかけてもむように練る

- 7 玉やひも状、板状に作る。



塊をたたいて延ばす のし棒で厚みをそろえる。

- 8 組みたて、形を整える  
 ・ひもづくり



底部から巻き上がる。指先でかぶせるように積みあげる。

- ・輪積み



- ・板づくり



①粘土の板を切る。 ②針を使うとよく切れる



③どべで接着し組み立てる。

- ・手びねり



①底部をつくる。 ②指をそろえて土を延ばす。



③厚みを均一にする。

- 9 作品のできばえを話し合う。

職Aa III1・2  
 算Bb IV1・2

図Ad III1・2  
 図Ad IV2・3  
 職Bb III1

図Ad III1  
 図Ad IV3

図BIV1  
 職Bc III1

- ・市販の焼成用粘土を使うとよい。その時に硬さが程よい場合は、練りを省いてもよい。
- ・回数を数えながら、元氣よく練らせる。

- ・グループ別、個別に指導する。
- ・均等にできるように練習する。

- ・納得できるまで、やり直しをさせる。
- ・接合箇所は、教師が確認する。
- ・あきずに形づくりができるようにさせる。
- ・完成するまでは、乾燥させないようにする。

- ・粘土の板の厚さが均一になるように、のし棒をころがせる。
- ・粘土の上下にビニールの風呂敷等を使うと美しい粘土板ができることを分からせる。
- ・⑨粘土板に少し手を加えるだけの皿なども考えられる。
- ・厚さが均一になるようにさせる。

・粘土  
 ・粘土板

・粘土ペラ (平ペラ)  
 ・粘土板  
 ・ビニール袋  
 ・手ぬぐい

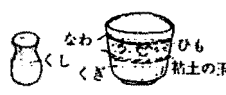
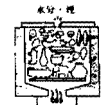
・粘土板  
 ・のし棒  
 ・ビニール

・たたら板 (厚さを均一にするための木の板)

- ・友だちの感じ方をよく聞き、自分の印象と比べさせる。(形、厚さ、接着等)

評価

(1)

<p>模様 つくり</p>	<p>10 生乾きにし、表面に簡単な模様をつける。 (本焼きをする生徒は省く)</p> 	<p>国 AIV7 図 Aa III2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考案した模様に合わせて、ひも、へら、なわ、くし、くぎ等をえらばせる。</li> <li>・一人一人の良さを認め励ましながら進める。</li> <li>・完全に乾燥させる。</li> <li>・焼成した時にひびわれするので、たっぷりと時間をかける。</li> <li>・最初の温度上昇が大切であることを分からせる。 (徐々に上げる)</li> <li>・作品が上まで真っ赤になったら、火を止めて冷まさせる。</li> <li>・やけどをさせないようにする。</li> <li>・湯飲み、花びん等、水物を入れる器は、しみ出さないようにさせる。</li> <li>・一人一人の生徒の良さを見つけほめる。</li> <li>・みんなの目に触れるところに置くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひも・へら</li> <li>・なわ・くし</li> <li>・くぎ</li> <li>・新聞紙</li> <li>・乾燥かご</li> <li>・窯</li> </ul>
<p>乾燥</p>	<p>11 作品の乾燥をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日陰</li> <li>・安定した置き方</li> </ul>			
<p>焼成</p>	<p>12 焼成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・温度を700～900度に上げる。</li> </ul> 	<p>保 Ba IV2</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・とぎ汁</li> <li>・鍋</li> <li>・完成品</li> </ul>
<p>仕上げ</p>	<p>13 冷めた作品を、米のとぎ汁で煮る。(水もれ防止)</p>			
<p>評価</p>	<p>14 観賞しあう。</p>	<p>図 BIV1 国 AIV7</p>		

## 6 評価

- (1) 使いやすく、安定した形ができたか。
- (2) 楽しく学習が進められ、完成の喜びが味わえたか。

## 7 配慮事項

㊸の生徒には、くりぬき、型づくりで成形させてもよい。焼成では、素焼きの後、施釉をして本焼きに挑戦させ自信をもたせる。

[本焼き=冷めた素焼きの作品の表面に紙やすり(240番)をかけ、滑らかにする→楽焼き用絵の具で模様を描く→乾いてから釉薬をつける→窯の中を温める(1時間)→焼く→透明になったらとり出し冷ます→完成]

㊸の生徒には、失敗しても粘土を練り直して成形することができるので、楽しみながらのびのびと取り組ませるようにする。また、デザインの考察では、あまり規制しないようにし、場合によっては模様がなくてもよいと考える。また、物を入れる器などに限定せず、自動車や動物など生徒のつくりたいものを幅広くとりあげることによって意欲を引き出すことも考えられる。

第1・2・3学年 保健体育科学習指導計画

1 単元名 リズムによって楽しく踊ろう（表現運動）

2 単元設定の理由


表現運動は、日常生活の中での感動をリズムカルな動きで創造的に表現し、それを伝達する運動であり、勝敗を競ったりする運動でないところに特色がある。


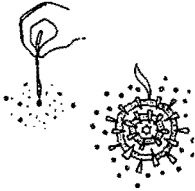

子どもによっては、全身に力を入れ、身体各部を大きく動かしたり、すべての力をぬいて、身体を弛緩状態にしたりすることができない場合が多い。そこで動物の動きをしたり、音楽に合わせて体を動かすなど、数多くの動きをすることによって、緩急の動きを身につけさせたい。


また、楽しく遊びながら自然に身体を動かせるようになることは、自己表現を豊かにする上で大切であるし、友達と協力しあいながら踊ることで、安心感、満足感なども得られると考え、本単元を設定した。

- 3 目標 (1) 音楽のリズムに合わせて、動物や乗り物、自然の様子になりきって、楽しく体を動かさせるようにする。  
 (2) テーマの特徴をとらえた表現ができるようにする。  
 (3) 互いに協力して動きを工夫するとともに、友達の表現をみて表そうとしている感じが分かるようにする。

4 指導計画（9時間扱い）

次 (時数)	学習内容・活動	関連する 学習内容	指導上の留意点	教材・教具等
第 一 次  (2)	1 オリエンテーション ・グルーピング 2 曲に合わせて歩いたり走ったりする。 ○スキップ ○ターン ○ジャンプ 3 アニメの歌に合わせて、軽く、楽しく体を動かす。 ○音楽への反応（手足の協応）	国AⅢ1  体GⅡ1 音AaⅢ1・3	・楽しい雰囲気づくりに気をつける。 ・体育館の床の線を利用して運動させる。  ・いろいろなリズムの曲に合わせて動かすようにさせる。 ・準備運動として各部位を動かせる。 ・巧緻性、リズム感を養う。	・CDラジカセ  ・音楽テープ
第 二 次  (2)	4 模倣遊びをする。 ○あり歩き ○くま、その他の動物 ○乗り物 	音AaⅠ3 理AbⅣ1・2	・生きている「あり」の動きを観察させる。 ・動物や乗り物等の動きのビデオを見せる。 ・㊦動きのできない生徒には教	・VTR

			師が師範し、模倣させる。	
第 三 次	5 自由表現	音AaIV1・3 体GIV1	・㊦テーマに合う曲を流し、わかりやすく説明を加えながら気象状況をつかませる。	・CDラジカ ・音楽テープ
	(1) 曲を聞いてその感じを想像し、身体表現をする。 ○風、雨、台風などの身近な自然現象を表現する。		・㊧擬態語、擬声語等の音声表現も取り入れる。 ・個性的な表現を大切にし、順番に発表する機会をもうけ、みんなで見合わせると同時に、やる気を起こさせる。	
			・題を知らせ、しっかりねらいをつかませる。 ・暗やみで線香花火を観察させる。	
	(2) 題材にあった動きをする。 題材例「線香花火」 ○線香花火の特徴について話し合う。	国AIII7	・点火から消えるまでの変化の様子を音声表現するなどして、順序よく特徴をつかませる。	・線香花火 ・マッチ ・バケツ ・小太鼓
			・言葉かけ（「ジー ジー」 「カサッ」 「パチパチパチパチ」 「ジュルー」 「ボトン」 等）や声の大きさ、太鼓の打ち方等を工夫させ、動きを引き出すようにする。	
	○線香花火になりきって各自が表現する。	体GIV1		
				
(4)	○グループに分かれて線香花火の表現をする。 ○グループで表わしたい動きについて話し合う。	国AIII7・IV1	・各自の動きを見せ合い、良い動きを見つけさせる。 ・動きが小さくならないよう高さ、方向、場所等の変化がもてるようにさせる。	

	<p>(3) グループ毎に発表する。</p> <p>(4) 各グループの良い表現をとり、一つにまとめる。</p> <p>(5) 発表会をする。</p>  <p>(6) ビデオ鑑賞する。</p>	<p>国AIV5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊張しないように楽しい雰囲気の中で発表させる。</li> <li>・良い表現は、みんなでほめるようにする。</li> <li>・表現と表現のつなぎ方はむずかしいので、助言指導しながら工夫させる。</li> <li>・実際の花火の音を録音し聞かせる。</li> <li>・機会を見つけ多くの友達や保護者の前で発表させ、身体表現に自信をもたせるようにする。</li> </ul> <p>・線香花火になりきれたか精一杯表現運動しているか、ビデオを見て各自に反省させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CDラジカセ</li> <li>・録音テープ</li> <li>・VTR</li> </ul>
第四次(1)	<p>6 学習のまとめ</p> <p>○反省と感想を発表する。</p>	<p>国AIV6</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そのものになりきって楽しく活動できたか、反省させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ノート</li> </ul>

## 5 評価

- (1) 曲に合わせて、楽しく体を動かすことができたか。
- (2) 元気よく、動物や乗り物のまねができたか。
- (3) 花火の特徴をとらえた表現ができたか。
- (4) 友達と協力し、グループ活動ができたか。

## 6 配慮事項

- ・㊦の生徒は、課題曲に合わせてダンスを創作し、楽しく踊ったりすることができるように発展させる。
- ・㊦の生徒は、できるだけ身近にいる動物の動きを観察させ、動きやすい動物の模倣遊びから、自由に楽しく身体表現をさせるようにする。
- ・上手に表現できなくても楽しく参加し、最後まで頑張れるようにさせる。





## 第IV章 難聴・言語障害特殊学級における 学習指導計画作成上の方針

### 1 指導の基本的な考え方

人間は豊かな言語をもっている。言語の機能として、第一にコミュニケーション機能があげられる。私たちは主としてことばや文字により、他人の意思が分かり、自分の意思を相手に伝えている。聴覚や言語に障害があると、相手の言うことが分からないとか、自分の言いたいことがうまく表現できず相手に十分受け止められない等、意思の伝達に困難が生じやすい。そのために、人間関係において円滑さを欠くばかりでなく、言語と思考との密接な関係から言っても、思考の形成に問題を生じる可能性がある。さらに、それは劣等感や疎外感の原因になって、人格の形成にも影響を及ぼしやすい。

このようなことから、難聴・言語学級における指導は、言語障害の改善及び軽減と対人関係への適応に関することが指導の中心となる。難聴・言語学級における対象児童は、構音障害、口蓋裂、吃音、ことばの発達の遅れ、難聴等さまざまな障害をもっており、さらに同じ障害でも程度や状態の違いがさまざま、これらの障害の多様化に対応する計画が準備されなければならない。

指導の基本は、児童の実態を把握し、それに基づいて計画を立て、実践し、評価し、計画へ修正を加える等、つねに児童の立場に立った計画が望まれる。ややもすると、言語障害の改善及び軽減の指導にのみ目を向けやすいが、言語は対人関係の中で育つものであり、難聴・言語学級だけの限られた時間内での指導や、担当者と児童の一对一の関係だけでは、十分な効果が期待できない。児童の日常の生活すべてが、ことばの改善に深くかかわりがあり、適切な言語指導が継続的に実践されるようにすることが、指導を進める上での基本となるように計画されなければならない。

さらに、学校と家庭との緊密な連携のもとに指導が進められるよう、計画の中には、それぞれの立場における指導についての役割と内容を位置付けることが大切である。担当者だけで言語を改善しようとして、逆に遅らせてしまうことのないように留意しなければならない。

### 2 指導内容の選定と指導の方法

難聴・言語障害は、単なる聴覚や言語だけの問題でなく、知能や情緒、社会性の問題等が複雑に絡み合って形成されている。従って、その児童の診断は過去から現在までの生育の状況、現症の分析だけでなく環境条件等も合わせた資料に基づいて行われる必要がある。難聴・言語学級における指導においては、児童の学習意欲を喚起し、課題への集中力を高めていくため、障害の状態に応じて指導内容を精選することが前提となる。また障害が対人関係に波及することから、コミュニケーションの問題や環境改善、対人関係の適応に関する内容を指導の中に盛り込まなければならない。

難聴・言語学級での指導は個別指導が中心となるが、障害の程度から考えて個別指導よりは集団指導によってより効果が期待されることもある。従って、指導の方法は、児童の障害の種類、程度、状態によって、個別指導あるいは小集団指導といった弾力的な方法をとることが必要である。こうした指導計画の作成及び実行に当たっては、通常学級の担任との共通理解を緊密に図ることに特に留意したい。

### 3 指導計画作成上の留意点

一人一人の顔が異なるように、障害をもつ児童の示す様相は千差万別であり、言語障害児例外ではない。それゆえ、指導計画も、通常の、一般的なものであってはならず、一人一人の障害の種類・程度及び状態等の情報を収集・分析・総合し、そのうえに立って指導計画の立てに当たらなければならない。その際に、通常学級担任、家庭、関係機関等との連携を計画の中に位置付けておくことが大切である。ややもすると、難聴・言語学級だけの指導だけを考えたものであるが、児童の1日の学校生活と家庭生活まで含めた全生活の中で、どんな指導をしていくかについても考慮して指導計画を立てる必要がある。

なお、指導計画作成に当たっては、次の事柄について留意する必要がある。

#### (1) 障害の状態を的確に把握すること

生まれてから現在までの言語獲得の状況等の経緯を明らかにすると共に、現在の障害の状態を的確に把握することが大切である。そのためには、障害の程度や状態のみに目を向けず、その背景にある諸要因についても十分に調査することが大切である。

#### (2) 言語発達の過程に応ずること

児童が言語を発達させていく時期や条件をできるだけ活用すること。特に5～6歳頃の1期は言語を獲得することが容易な時期であることを考慮して計画すること。

#### (3) 児童が主体的に学習できること

言語の指導は、児童自身が誤った発音などの障害を改善しようとする意欲をもつように計画し指導に当たらねばならない。そのためには、児童が興味・関心をもって取り組む指導内容の工夫を図ることが大切であり、マンネリ化しないようにしたいものである。

#### (4) 児童の発達段階を考慮すること

児童の知能や社会性等の発達段階に応じた指導計画が大切である。障害の改善や軽減には長期間を要することが多いので、効果を焦らずに先を見通した、無理のない計画が望まれる。

#### (5) 通常学級の担任との共通理解を図ること

集団への適応から考えると、コミュニケーションがうまくいかないために、消極的行動に陥りやすい。そこで、通常学級の担任との連携を深め、学級集団が障害を理解し、自信をもって生活できるように援助の手だてを計画の中に位置付けておくことなどの配慮がなされていくてはならない。このことは、通常学級で学ぶ時間の方が、大半を占めていることから特に大切である。

#### (6) 家族や保護者の協力を得ること

1日のうちで、児童と一緒に生活する時間が最も長い母親などの保護者が「良き先生」になることが、指導の効果を高める上からも大切である。

#### (7) 病院等の専門機関との連携を図ること

児童にとっては、口蓋裂のように医学的診断や治療が先決の場合がある。また、聴覚に問題があると疑われる言語障害児や知能や情緒に問題があると疑われる言語障害児の場合には、医学、臨床心理学、教育学等の専門家の助言・指導の機会を計画的に組み入れておくことも必要である。

## 第V章 難聴・言語障害特殊学級の学級経営と学習指導計画

### 1 難聴・言語障害とは

言語障害とは、話しことばの働きが障害されている状態を言う。話しことばは、自分の考えや気持ちを他の人に伝えるための道具であるが、聞き手の注意が話の内容よりも話し方に向けられてしまうような異常な状態、及びそのために本人が欲求不満や引け目を感じたり、社会生活に不都合を来したりするような状態である。

言語障害は、耳で聞いた特徴から構音障害、声の異常、吃音などに分類され、ことばの発達という立場からことばの発達の遅れ、原因や伴っている病気から口蓋裂、失語症、脳性まひなどに分類される。

難聴とは、何らかの原因により耳の聞こえに異常を来している状態のことである。普通の人の聞こえる音が聞きにくい、聞くことができない、声は聞こえるが何と言っているのかことばがよく分からないなどの状態である。

難聴は、それぞれの目的によって聴力の程度、聴力型、難聴の始まった時期、病巣部位、原因、進行の仕方などにより分類される。

### 2 学級経営

#### (1) 経営方針

難聴・言語学級における指導は、言語障害の改善や軽減ばかりでなく、対人関係への適応を図り、豊かな人間づくりをすることも目的とされている。また、対象児童の障害も多岐にわたっており、さらに重複化、重度化の傾向にあるので、それぞれに対応する指導計画が準備されなければならない。

ア 対象児の早期発見、早期指導に努める。

イ 医学、心理学、教育学などの分野の専門家との連携を図り、的確な診断を行う。

ウ 言語指導、聴能訓練など一人一人の障害や能力に応じた指導を進める。

エ 指導の効果を高めるために、通常学級の担任、養護教諭、家庭、関係機関との連携を重視する。

オ 個に応じた教材教具の工夫をし、常に研修に努める。

#### (2) 指導方法及び形態

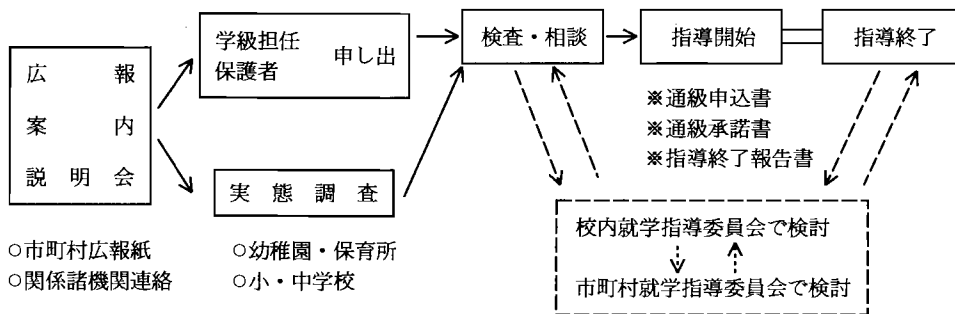
ア 日常の学習は通常学級で行い、言語指導の時間だけ通級させる。指導は、個別または2～3人の小集団で行う。

イ 児童がもつことばの障害の内容や程度、及び通常の学級の条件に応じて、通級の回数や時間を決める。

ウ 両親に対しては、指導助言が重要な意味を持つことが多いので、児童の状態に合わせて教育相談やカウンセリング、各種調査等を行う。

#### (3) 通級の手続き

難聴・言語学級への通級の手続きは、次のような手順で行う。



通級申込書は、保護者から児童在籍学校校長へ、児童在籍学校校長から難聴・言語学級設置学校長へ提出する。(資料1)

通級承諾書は、難聴・言語学級設置学校長から児童在籍学校長へ通知する。(資料2)

指導終了の報告は、難聴・言語学級設置学校長から、児童在籍学校長になされる。(資料3)

なお、入級及び指導終了は、随時行われる。

#### 資料1 通級申込書の例

- 保護者から児童在籍学校長へ

ことばの教室通級申込書

\_\_\_\_\_立\_\_\_\_\_小学校長\_\_\_\_\_様

ことばの教室に通級したいので申し込みます。

平成 年 月 日

児 童 名 \_\_\_\_\_

保 護 者 名 \_\_\_\_\_ ㊟

- 児童在籍学校長から、難聴・言語学級設置学校長へ

ことばの教室通級申込書

\_\_\_\_\_立\_\_\_\_\_小学校長様

\_\_\_\_\_学 校\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_組

氏 名 \_\_\_\_\_

保 護 者 \_\_\_\_\_ ㊟

上記の児童が貴校のことばの教室で指導を受けたいので  
許可して下さるようお願いいたします。

平成 年 月 日

\_\_\_\_\_学校長\_\_\_\_\_ 職印

資料2 通級承諾書の例

**ことばの教室通級承諾書**

立\_\_\_\_\_小学校長\_\_\_\_\_様

貴校\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_組\_\_\_\_\_のことばの教室への通級について  
 下記のように承諾しました。つきましては、「通級の日時・注意」にしたがって通級して下さる  
 よう お願い申し上げます。

平成\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日

立\_\_\_\_\_小学校長\_\_\_\_\_ 職印

記

1 通級の日時

毎週	曜日	午前・午後	時	分～	時	分まで
	曜日	午前・午後	時	分～	時	分まで

2 通級における注意

- 交通及びその他の安全確保のため、保護者の付き添いを原則とします。
- 通級に際しては、学校の方は出席扱いとなります。
- 学校の行事（遠足・運動会など）とことばの教室へ通う日時が重なった場合は、学校の行事を優先させて下さい。
- 指定の日時に遅刻や欠席をする場合には、事前に連絡をして下さい。

\* 連絡先 小ことばの教室 ☎ 担当〇〇〇〇

資料3 指導終了報告書の例

**指導終了報告書**

立\_\_\_\_\_小学校長\_\_\_\_\_様

貴校\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_組\_\_\_\_\_の言語指導を下記により終了いたしますのでお知らせ  
 いたします。

通級に際しましては、長らく御配慮いただきありがとうございました。  
 今後とも本教育に一層の御理解と御協力をお願いいたします。

平成\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日

立\_\_\_\_\_小学校長\_\_\_\_\_ 職印

記

◎ 指導期間 \_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日～\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日

◎ 指導経過

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

(4) 早期発見のための手だて

心身障害児の教育は、早期発見、早期指導が重要である。特に、難聴・言語障害児の指導は発生の予防と悪化防止という点で、社会の多くの人々の正しい理解と協力が必要である。具体的には、次のような方法で行われている。

ア 関係機関（県教育研修センター、保健所、保健センター、福祉課、福祉事務所、児童相談所 幼児教育相談機関等）との連携を密にする。

- 1歳半、3歳児健康診査で「きこえとことばの教育相談」を行っている。難聴・言語学級では、これらの結果を早急に把握して乳幼児の実態を知ること大切である。

イ 保育所、幼稚園、各小学校との連携を密にする。

- 実態調査、選別検査の例（資料4）
- 巡回相談
- 個別面接調査
- ことばの教育相談（随時、就学時健康診断等）

ウ 家庭との連携を深める。

- 家庭からの直接の申し込みによることばの教育相談（乳幼児、小学生）

エ 心身障害児早期療育委員会、教育委員会の就学指導委員会等との連携を密にする。

オ 難聴・言語学級に対する理解を深めるための広報活動に力を入れる。

- 市町村の広報紙、学級だより等

カ 医療機関との連携を図る。

キ 地域の特殊教育担当者との情報交換・連携に努める。

資料4 言語障害児実態調査書の例

(平成 年 月 日現在) ( 年 組) 担任名 ( )

種 別	主 な 症 状 ( 観 点 )	該 当 児 童 名
発音の異常	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「さかな」を「タカナ」、「はさみ」を「ハシャミ」「アサミ」、「ずぼん」を「ジュボン」などと発音している子供</li> <li>・他の健常児と異なるように思えたら、よく注意して聞いてみてください</li> </ul>	
声の異常	<ul style="list-style-type: none"> <li>・極端にしわがれる声やかすれ声、鼻声、大きすぎる声、小さすぎる声、低すぎる声、かん高い声、苦しそうな声、抑揚のありすぎる声、ない声</li> </ul>	
吃音	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音やことばを繰り返す「ボボボくのうちのネネこがね……」</li> <li>・初めの音を伸ばす「オーんなの子とオーとこの子が……」</li> <li>・ことばの言い始めや途中でつまる状態が激しい子供 からだをゆすったり、しばらく黙っている状態の子供</li> </ul>	
ことばの発達の遅れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんど話しができない ことばの数が少ない</li> <li>・ことばがうまくつながらない（一語か、二語文が大部分）</li> <li>・赤ちゃんことばが多く、表現が幼稚 ことばがはっきりしない</li> </ul>	
口蓋裂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生まれつき口蓋の一部または全部が裂けている子供</li> <li>・唇に手術のあとのある子供</li> <li>・鼻声がひどい ・発音に癖がある</li> </ul>	
脳性まひ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・極端にのろい話し方</li> <li>・声が弱く苦しそうで、話す時顔をしかめる</li> <li>・手足の動作が不器用だったり、不自由なところが特に目立つ</li> <li>・運動神経がひどく鈍い</li> </ul>	
難聴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補聴器を装着している子供</li> <li>・日常の会話で「え？」とたびたび聞き返したり、呼んでもすぐに返事をしなかったり反応を示さない子供</li> <li>・普通の会話音では通じるが、5～6m離れたところから小さな声で話しかけても通じない子供</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の場面などでは何を尋ねても返事をしない子供</li> <li>・日常全く口をきかない子供</li> <li>・その他ことばに問題のある子供</li> </ul>	

## (5) 通常学級との連携

難聴・言語学級の指導だけでは、指導効果をあげることは大変難しい。なぜならば、学校生活の大半を通常学級で過ごしているからである。その意味で、通常学級の担任の果たす役割は非常に重要なものになる。そこで、難聴・言語学級での学習状況、進歩の様子などを知らせると共に、必要に応じて通常学級の担任が児童の立場を理解し、援助していけるようにすることも重要である。

具体的には、次のような方策をとっている。

ア 担任連絡会、研修会などを開催し、共通理解を図る。

- 通常学級の担任の役割、難聴・言語学級担任の役割について
- 通常学級における児童に対して配慮すべき点 (資料5)
- 障害の程度、補聴器(難聴)について
- 難聴・言語学級における児童の状態などについて
- 難聴・言語学級の授業公開

イ 通常学級における児童の状態を知るために

- 通常学級の授業参観をする。
- 実態チェック表を作成し、通常学級の担任に記入してもらう。 (資料6)
- 連絡ノートを活用する。

### 資料5 教室におけるかかわり方の例

ことばに問題をもつ子の担任の先生へ(学級での扱い方) No.1 ○○小学校 ことばの教室
ことばに問題をもつからといっても、他の子とかわりません。子供の感情は同じ発達をしていきます。 冷たく扱われれば不安になり、自信をなくし、ひかんで素直でいられなくなります。話しことばが征しく使ひこなせないために、「はっきり言いなさい。」「もっと大きな声で言いなさい。」「ゆっくり言いなさい。」「もう一言言ってごらん。」といつも注意されたり、叱られたり、学級の友達からまねされたり、笑われたりしたら、子供は話す場面から逃げ出したいと思うようになります。
1. ことばへの注意や、無理に言わせようとすることはやめてください。 2. 子供に恥ずかしい思いをさせないように、聞き手が突ったりしないようにしてください。 3. ことばが変だから、指名して言わせるのはかわいそうだと指名をさける必要はありません。本人が拒否しないかぎり、他の子と同じように扱ってください。 4. 子供の話を、一生懸命聞いて分かってやってください。全然通じない話し方でも慣れてくると何となく分かってきます。 5. 子供への話しかけを多くしてください。担任の先生から声をかけられたり、笑いかけてもらえたり、一緒に遊んでもらったりしたことで、子供は教師を信頼し、何でも話すようになります。 6. 子供が学級の中で認められるように配慮してください。走る事が素晴らしい、計算が早い、掃除をよくやる、係活動を責任を持ってやるなどと、学級の子供たちに認めてもらえるように心掛けてください。 7. ことばの教室に通っていることを隠さないでください。先生が、その子が教室にいないときに、簡単に話し説明してやってください。

### 資料6 実態チェック表の例

教室における児童の実態調査 No.1 ○○小学校 ことばの教室
児童名 _____ 担任名 _____ _____ 小学校 年 組 _____ 記入期日 年 月 日
1. 教室での状況(当てはまる項目を○印で囲んでください。) (1) 国語学習について ア 発表について ① 進んで発表しますか。 する しない ② 指名したとき発表しますか。 する しない ③ 発表するときの声の大きさはどうか。 大きい 中つう 小さい イ 音読について ① 進んで音読しますか。 する しない ② 指名したとき音読しますか。 する しない ③ 音読するときの声の大きさは 大きい 中つう 小さい ウ 国語学習に対する評価(5段階) ① きくこと よい 中つう おとる ② 話すこと よい 中つう おとる ③ 読むこと よい 中つう おとる ④ 書くこと よい 中つう おとる
2. 学級への適応について (1) みんなとよく遊びますか。 よく遊ぶ 遊ばない (2) 友達の数が多いですか。 多い(10人前後) 中つう 少ない(人) (3) 自分のことばを気にしていますか。 気にしていない 気にしている



## (6) 家庭との連携

難聴・言語学級における指導の前提として、担任と保護者が互いに信頼し合える人間関係をつくる必要がある。この人間関係を基盤としてよく連絡を取り合い、前記の通常学級の担任と共に、それぞれの立場で、児童生徒の指導を分担していくことが望ましい。

難聴・言語学級担任の立場として、保護者に対して次のことを配慮する必要がある。

- ア 難聴・言語障害についての基礎知識を身に付けてもらい、よりよいことばの環境作りにつ  
力してもらうための準備をする。
- 個人面接 ○ 参考図書・ビデオテープなどの貸し出し
  - 保護者教室においての保護者相互の話し合い ○ 先輩の保護者の経験談を聞く会
  - 講演会 ○ 各地での研修会や親の会主催の行事
- イ 常に保護者の話のよい聞き手になるように心がける。保護者は、話しているうちに不安が  
軽減し、自分の養育態度の不足している部分や間違っているところに気付き、それを改める  
努力を始めるようになる。
- ウ 児童生徒の指導についての共通理解を図るための工夫をする。
- 連絡ノート ○ 授業参観
- エ 保護者と通常学級の担任との橋渡しの役目をし、協力関係が保てるようにする。

## (7) 学級の行事

難聴・言語学級は、特別に編制された学級ではあるが、学校の中の一つの学級であり、通常  
学級との交流を積極的に図らなければならない。そこで、すべての学校行事はもちろん、当  
年・学級の行事にも実態に応じてできる限り参加させることが大切である。

また、難聴・言語学級では障害に応じた指導が行われているので、個別指導がほとんどで  
あり、通級児全員を集めての指導はない。そこで、通級児同士がお互いを知り、相互の親睦を  
図るために、難聴・言語学級独自の行事も計画されている。

さらに、特殊学級が学校に1～2学級のところが多いので、市町村内の特殊学級で合同で行  
われる行事も多い。

### ア 学級独自の行事

- 歓迎会、お別れ会 ○ いちご摘み、なし狩り（ぶどう、りんご、かき、みかん等）
- 展覧会 ○ お楽しみ会（七夕、クリスマス等）
- 誕生会 ○ 親子遠足
- 親子レクリエーション
- 保護者教室
- 学級だよりの発行 ○ 文集の発行

### イ 市町村特殊学級合同の行事

- 校外学習 ○ 宿泊体験学習
- 手をつなぐ子らの作品展参加、見学
- 手をつなぐ子らの学習発表会参加、見学
- 講演会 ○ 研修会



親子お楽しみ会

(8) 運営の資料

ア 指導記録の例

(ア) 構音障害児の指導記録 (k音の指導例)

○ 指導計画の例

指導内容	第 1 期			第 2 期			第 3 期			第 4 期		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
指導のねらい	9.9	10.8	10.14	11.5	11.11	11.18	11.25	12.8	12.11	12.16	12.23	1.13
観察 諸検査 情報収集 レポートづくり	◇グッドイナフ人物検査 ◇WPPSI知能診断検査 ◇絵画語い発達検査 ◇構音検査(ことばの対しん) ◇弁別力検査 ◇被刺激性の検査 ◇楽しい遊び						◇単語の弁別 (絵カードで)			◇構音検査 (語頭, 語中, 語尾)		
耳の訓練	「k音の聞き分け」 ☆いろいろな音の分離と確認 ☆単音での弁別 ☆無意味音節での弁別 ☆単語での弁別 ☆語頭, 語中, 語尾での弁別 ☆無意味音節で ☆単語で ☆正誤弁別			・カ音の入った歌を聞かせる ・カ音の入った絵本(大好きな仮面ライダーを中心に) ・紙芝居, 自然な会話の中でk音に関心を持たせる ・楽しい遊びの中で指導者がカ音をできるだけ多く用いる (絵かき, 輪投げ, 動く自動車, 積み木, パズル遊び, すごろく遊び, かるた, じゃんけん等)						無意味音節の構音練習(2~3音節) (さいころ遊び, 型はめパズル等)		
	「k音を中心に」 ☆単音で ☆無意味音節で ☆連続音で ☆単語で ☆短い文の中で ☆歌の中で			単音(カ)の発語練習 (鳴き声, 迷路遊び) (とびしよぎ, かくしっこ, 絵つなぎ, スポンジ板に乗って) ・カ音の入った歌を歌う(かえるのがっしょう, かつこう, きらきらぼし等)						単音(ク, ケ, キ)練習 (じゃんけんゲーム, 絵つなぎ等) 区別して出し分ける練習(k音とt音) 文, 日常会話練習 (ことばのおけいこ, かるた遊び)		
その他	両親指導			§SM社会生活能力診断検査 §社会成熟度検査 §幼児, 児童性格検査 §親子関係検査			・検査結果について ・ことばへの注意を しない					

○ 指導の実際

指導回数	主な指導内容	子供の反応と変容
第 8 回 12月8日	<ol style="list-style-type: none"> <li>楽しい遊びの中で, 無理なく単音練習をさせる。 *とびしよぎ *かくしっこ *迷路(プリントで) *絵つなぎ遊び</li> <li>カ音で歌を3曲うたう。</li> <li>単語の弁別(絵カードで)(カ行とタ行)</li> <li>絵本を読む(仮面ライダー) *自然な会話を楽しみ, 誤りを指摘したり, 言い直させることをしないようにして, 正しい発音を聞かせるようにする。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カ音を出させることへの抵抗は, ほとんど感じられなくなった。</li> <li>○遊びに熱中する中で, 遊びの一つとして“カーカ”“カーカーカーカーカ”など, 指導者の模倣して時にリズムに乗りながら発音した。</li> <li>○コに近いカからしだいに, 軽い発音に変化してきた。</li> <li>○“たきーかき”など全問弁別でき, 10/10の正解だった。</li> <li>○あか, たあくん, ろく, じゅうく, きいろ, かえる, がっこう, こうもりかいじんと会話の中で言えた。主に語頭の中で。</li> <li>○“あたちゃん”など主に語中での誤りが多くみられた。(t/k) きかな→サカナ, なかま→ナタマ, せいかいじん→セイタイジン, あかちゃん→アタチャン等</li> </ul>

(イ) 難聴児の指導記録 (80分授業)

H. 2. 6. 16

ききとりチェックカード

ワークブック『はつらつ』(国語の補充)

「何が返ってきますか。」という質問に対して「さようなら。」という答えを書いた。

『帰って』ということばにつながったようだ。

○と○と○ (聞き取り指導→タッチ絵の『島』)

少し離れたところに絵を置いたところ、1回では聞き取れないことが多かった。1回で聞き取れたのは、8回中3回。

袋の中身 (はし箱) (会話指導)

形と音で、すぐに当ててしまった。

何の仲間 (会話指導)

絵カードを見ながら、問いかけに答えさせた。問いかけに上手に答えられなくて、絵カードを見て、答えを言うてしまうことが多い。

「色は？」→「トマト」

「鳴き声は？」→「うし」

母親と一緒に考えさせながら、答えさせた。

しばらく練習の必要あり。

なわとび・スキル学習・コミュニケーションセット (省略)

1	はくちよう	○	からす	○	ひよこ	○
2	ふくろう	×○	つばめ	○○	にわとり	○○
3	ペンギン	○	あひる	○	はくちよう	○
4	すずめ	○	ふくろう	○	からす	○
5	にわとり	×○	ペンギン	○○	は と	○○
6	つばめ	×○○	ひよこ	××○	ふくろう	○○○
7	は と	○○	からす	×○	ペンギン	○○
8	あひる	×○	はくちよう	×○	すずめ	○○

本児の実態

平成2年4月に入級。両耳共に、平均聴力レベル95dBの高度難聴児。補聴器装着時の平均聴力レベル63dB。幼児期は聾学校の幼稚部に通い、ことばはかなり獲得していた。文字を使って、簡単な文も書ける。

通常学級に適応させるために、大きなねらいを次のようにした。

- 話し相手の声を、聞き取ろうとする態度を育てる。
- 話し相手に、自分の声を聞き取ってもらおうと努力する態度を育てる。

通常学級の中で、本児が進んで会話する場面を作るために、聞き取りの『ことば遊び』を作って持たせ、週1回『朝の会』の時間にやってもらっている。

聞き取りの『ことば遊び』

- 平成2年4月～9月 …………… ○と○と○ (聴覚的記憶力を育てることば遊び)
- 〃 10月～12月 …………… なぞなぞ遊び (本児が作った五つものなぞなぞに答える)
- 平成3年1月～11月 …………… お話出てこい (4コマ、8コマの絵物語の紙芝居)
- 12月～平成4年3月 …… 動作絵カードの作文 (本児の作文の朗読を書き取る)
- 平成4年4月～7月 …………… こゆびどうわ (本児の童話の朗読を書き取る)



# 生育歴調査

( 年 月 日記入)

昭和  
本人氏名 \_\_\_\_\_ 平成 年 月 日生 男・女 歳 月  
住 所 \_\_\_\_\_ 連絡先 ☎ \_\_\_\_\_  
保護者氏名 \_\_\_\_\_

この調査は、聞こえやことばの障害に関する診断やこれからの指導の正しい指針を立てる上の大切な資料になりますので、よく思い出してできるだけ詳しく書いて下さい。  
(お書きくださった内容については固く秘密を守ります。)

1 お困りの問題について (該当する項目に○印をつけてください。)

- (1) 耳が遠い。耳が遠いらしい。
- (2) 口がおそい。ことばが遅れている。
- (3) 知能が遅れている。知能が遅れているらしい。
- (4) ある音の発音ができない。  
(さかな→チャカナ つみき→チュミキ らっぱ→ダッパ からす→タラスなど誤って発音する)
- (5) どもる。
- (6) 話すときに顔をしかめたり、手足や首を動かしたりして苦しそうにする。
- (7) 声が極端にしまわれたり、かすれたりする。
- (8) その他 ( )

※ 耳の聞こえやことばの問題に気づいたのは 歳 月頃の頃である。(当時の様子を書いてください)

( )

2 生まれてから6ヵ月までの様子について

- (1) 妊娠中の母親の健康 ( 良好 良くない ) 病気や異常 ( )
- (2) 出産直後の状況 : 体重 g (すぐ泣いた。仮死状態が 分続いた。)  
新生児黄疸がひどく 日ぐらい続いた。 体重がすぐ回復 ( した しなかった )
- (3) カンがつよくはげしく泣いてばかりいた。( いいえ はい )
- (4) 乳の飲み方は ( 普通だった 飲む力が弱かった 乳が鼻から出ることがあった )
- (5) ひどい熱の出る病気をしたことが ( ない ある )  
生後 月に にかかり、 度ぐらいの熱が 日続いた。

3 発達の様子について

- (1) 首がすわった。 歳 か月
- (2) 一人で歩けるようになった。 歳 か月
- (3) おしっこを知らせるようになった。 歳 か月
- (4) 排泄は完全に一人でするようになった。 歳 か月

4 知能・性格について

- (1) 知恵づきは ( 年齢なみ 少し遅れている 相当遅れている —おおよそ 才ぐらいの子どもに相当する ) と思う。
- (2) 両親がそばにいても平気である。
- (3) 人見知りが多い。
- (4) さわられると敏感に反応する。
- (5) 気が散りやすい。
- (6) 怒りっぽい。
- (7) ひどく狂暴になることがある。
- (8) 何か欲しいときはねだる。
- (9) 泣きやすい、涙を流しやすい。
- (10) 家では柔直にいうことをきく。
- (11) 小鳥や犬をかわいがる。
- (12) 友達とよく遊ぶ。
- (13) 周囲の人に無関心である。

5 日常生活について

- (1) 食べ物の好き嫌いは多い方ですか。(はい いいえ)
- (2) すぐに倒れたり、ふらついたりしますか。(はい いいえ)
- (3) 物をよくつかめますか。(つかめる つかめない)
- (4) 寝起きの時間は(規則正しい 不規則である)
- (5) 外でよく(遊ぶ 遊ばない) 友達(多い 少ない)
- (6) 家の中にいるときが(少ない 多い) 家の中で一番親しい人は(母 祖母 その他)
- (7) テレビを(よく見る 見ない)
- (8) 音楽が(好き きらい) 歌を歌うことが(大好き 普通 無関心)

6 ことばの発達について

- (1) 赤ちゃんの時、オックンオックンとかモグモグとかい<sup>は</sup>ゆる「喃語」の時期が(なかった 分  
らなかつた あつた 月から 月まで)
- (2) それは、だんだん活発に(なった 普通 あまり変わらなかつた)
- (3) はじめて意味のあることば「マンマ、バイバイ」などを言ったのはおよそ 歳 月頃
- (4) 2語を組み合わせて「オンモ イク」などと言えるようになったのはおよそ 歳 月頃
- (5) ことばの面で進歩が特に遅いと思われた時期は(ない ある 歳 月頃)

7 ことばの理解について

- (1) 簡単な言いつけが分かる。たとえば「新聞を持ってきてね」(はい いいえ)
- (2) 「あとで」と言えばそれに従う。(はい いいえ)
- (3) お子さんにこちらの言うことがどのくらい分かると思いますか。(年齢のみだと思  
う およそ 歳 月頃の子供と同じくらいだと思う)
- (4) 欲しい物があるときは(人を引っ張っていく 欲しい物を指さす ことばで言う)
- (5) 現在言えることばの数は(10以下 100以下 何でも言える)
- (6) お子さんの言うことばを聞いた場合どの程度分かると思いますか。  
・誰でもよく分かる。 ・そのつもりで聞けば分かる。 ・家の人ならどうやら分かる。  
・ときどき分かることばがある。 ・ほとんど分からない。
- (7) うまく話せるときとそうでないときとは差が(ない ひどくある)

8 家族のことについて

- (1) このお子さんは兄弟 人中 番目
- (2) 家族や親類の方で話しことばや声に普通と変わったところのある人がいますか。  
(いない いる) その人は( )
- (3) 現在一緒に住んでいる人を記入してください。

	氏名	年齢	職業	健康		氏名	年齢	職業	健康
1					4				
2					5				
3					6				

9. 今まで受けた検査とその診断や判定について

今までに病院などで聴覚、精神発達遅滞(知恵遅れ)、言語発達遅滞、構音障害、吃音、口蓋裂、脳性まひ、失語症、音声障害等と診断されたことがありましたら、次に記入してください。

検査時の年齢	受けた場所	診断・判定の結果	検査時の年齢	受けた場所	診断・判定の結果

ウ 実態把握のための諸検査 (◎○は必要の度合いを示す)

検査名		障害名				
		構音障害	口蓋裂	吃音	ことばの発達の遅	難聴
言語発達検査	言語障害児選別検査 (ことばのテスト絵本)	◎	◎	◎	◎	◎
	ITPA 言語学習能力診断検査	○	○	○	◎	◎
	乳幼児分析的発達検査法 (遠城寺式)	○	○	○	◎	◎
	PVT (絵画語い発達検査)	○	○	○	◎	◎
	言語発達診断検査	○	○	○	◎	◎
構音能力検査	※絵カード構音検査	◎	◎	○	◎	◎
	※文章構音検査	◎	◎	○	◎	◎
	※会話による構音検査	◎	◎	○	◎	◎
	※被刺激性の検査	◎	◎	○	◎	◎
	※語音弁別力検査	◎	◎	○	◎	◎
	※聴覚的記憶力検査	◎	◎	○	◎	◎
聴覚検査	純音聴力検査	◎	◎	○	◎	◎
	語音聴力検査	○	○	○	○	◎
吃音検査	吃音検査票			◎		
	※音読・日常会話による吃音検査			◎		
知能検査	田中ビネー式知能検査					
	WPPSI 知能診断検査					
	WISC-R 知能検査	○	○	○	◎	◎
	大脳式精神薄弱児・乳幼児用知能検査					
	グッドイナフ人物画知能検査					
	PBT (ピクチャブロック知能検査)					
性格検査	幼児・児童性格診断検査					
	CAT (絵画統覚検査)					
	DAP (人物画テスト)	○	○	◎	○	○
	バウムテスト					
	P-F スタディ絵画欲求不満テスト					
運動機能検査	乳幼児精神発達診断法 (津守式)	○	○	○	◎	◎
	改訂茨城式運動機能検査	○	○	○	◎	○
その他	社会成熟度診断検査	○	○	○	◎	◎
	新版S-M 社会生活能力診断検査					
	親子関係診断テスト	◎	◎	◎	◎	◎

※は、必要に応じて工夫する。

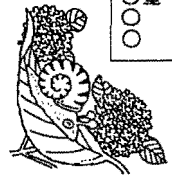
エ 参考備品・設備・教材教具一覧

<p>指 導 室</p>	<p>黒板, 掲示板, 扇形指導机・椅子, 幼児用机・椅子</p> <p>個人補聴器, 聴能言語訓練器, S・N・Fo インジケーター, 発音直視装置</p> <p>発音指導電話器, 電話式会話指導器 (親1 子3)</p> <p>遅延式反復式言語訓練器, 言語訓練器 (ランゲージマスター, ラボ)</p> <p>移動式鏡, オルガン, テープレコーダー, インターホン, テレビカメラ</p> <p>教材教具 (各種)</p> <p>検査器具・検査用紙 (各種) (96ページ参照)</p> <p>図書 (各種)</p>
<p>検 査 室</p>	<p>防音室, 冷暖房器, マジックミラー</p> <p>オーディオメーター, テープレコーダー</p> <p>大テーブル</p> <p>ストップウォッチ, 温度計</p>
<p>遊 戯 室</p>	<p>黒板, 掲示板, 整理戸棚</p> <p>学習台, インターホン, 集音マイク</p> <p>CDプレーヤー, カセットテープレコーダー, ピアノ</p> <p>落書きボード, 大型さいころ, 六角さいころ</p> <p>果物・野菜・動物模型セット, 積み木, ブロック, ミュージックベル</p> <p>ソフトリング (大小), すべり台, 平均台, トランポリン, 三輪車</p> <p>水遊び水槽, カラーバケツ, 遊具 (各種)</p> <p>絵本 (各種), 紙芝居 (各種)</p>
<p>観 察 室</p>	<p>マジックミラー, スピーカー, 放送機械一式, モニターテレビ</p>
<p>研 修 室</p>	<p>教師用机・椅子, 黒板, 掲示板, 行事予定板, 文書箱, 書庫</p> <p>ファイルキャビネット, 用紙整理棚</p> <p>研究図書 (各種)</p> <p>カメラ, テレビ, モニターテレビ, 電話, 時計</p>
<p>待 合 室</p>	<p>応接セット, テレビ, ビデオカセット</p> <p>図書 (各種)</p>

ことば

〇〇小学校 ことばの教室  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

6月



子供たちの大きな楽しみのひとつだったリレー大会、修学旅行、宿泊学習、春の遠足などの行事が終わりました。これらの行事を通して、仲間とのふれあいに感動したり、精一杯取り組んだ充実感を味わったり、新しい自分に出会ったり・・・などなど、多くの学びを体験したことでしょう。  
 学級の一員としての自覚も高まり、先生や友達とも心おだやかなかわりがあるようになってきた六月は、充実の時、飛躍の時です。子供の目の高さになって見つめ、感動し、悩み、励まし、より輝かしい個性を引き出す一言をいえるよう、学び合っていきたいものです。

六月の行事予定

- 十日(月) 三歳児健診 一時半〜 〇〇〇〇
  - 十四日(金) 〇〇〇〇教室 九時半〜 〇〇〇〇
  - 十八日(火) ことば両親教室 九時半〜 ゆうぎ室
  - 十九日(水) 課題研訪問
  - 二十四日(月) 校務会
- ☆右の行事のある日は、指導ができないことがありますので、担当の先生とよく連絡を取って下さい。



両親教室の案内

◎テーマ 「心とことばの発達」 ・子どもへの対応のしかた  
 ・日時 六月十八日(火) 九時三十分〜十一時  
 ・場所 ことばゆうぎ室

五月二十一日(火)の両親教室には、多数ご参加いただきました。ありがとうございました。初めて通級するようになった方、また通級するほどではないけれども教育相談を希望している方などにも、くわわっていただきました。



六月にも、子供を伸ばすポイントについて学び合って生きたいと思えます。五月に都合の悪かった方は、是非参加して下さいようお待ちしております。

両親の勉強室

発達之三つの側面と「話す」「聞く」能力の発達

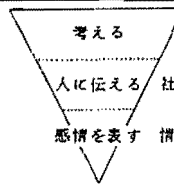


バランスのとれたことばの働きと発達

・すべての働きが組み合わされて、「聞く、話す」という行動がおこなわれており、相互に助け合っている。  
 ・三角形の構造を示すのが理想的である。  
 ・その中でも、「情緒的な働き」が基本として重要である。この働きが、「聞く、話す」とする気持ちの根源となっている。

・それについて、相手を意識した「社会的な働き」が重要な働きとなっている。

・逆三角形になって、知的な働きだけがそだっても、良い「聞き方、話し方」はできない。



バランスのとれていないことばの働き

情緒を安定させるためのかわり方

・二歳までの(乳幼児期)母子のかわり方が、愛情にみち、母親への愛着が強いものであること。(人間は、抱きかかえ型の動物である。)  
 ・最初の半年で一番大事なのは、お母さんです。そのお母さんのもっている性質のなかで最も大切なのは、二十四時間いつでも、子供がしがみつきたいときにそばにいてくれることです。

・母子一体の心地よい関係がとれなかったことが思い当たる場合は、子供の年令にこだわることなく、母子の愛着関係を深めるかわりをやりなおすくらいの気持ちの切り替えが必要です。

・母親は子供にとって、心の安全基地のような存在です。心の安全基地であるような母子関係は、発達途上の乳幼児期、学童期を通して、きわめて大事なことです。





### 3 学習指導計画

#### (1) 構音障害

##### ア 構音障害とは

日本語の話しことばにある特定の語音を、多少とも習慣的に誤って発音するものであり、語音の「置き換え」「省略」「ひずみ」などのタイプがある。構音技術もことば全体の発達と同様、人に教えられて習って覚えるものであるが、構音障害というのは、ことばの発達の途上で何らかの要因が「あった」ために、構音学習の面だけにきわだった発達の遅れないしひずみを起こした結果である。従って、原因はすべて言語発達の途上、発音を習って覚える時期にあったものであり、現在ではすでにその原因が存在しないことが多い。学齢で平均2～3％に見られ、学年が進むにつれて減少する。

##### ㇺ 機能的構音障害

話し手の構音器官に器質的な障害がなく、聴覚にも障害が見られないのに、話しことばを構成する個々の音（語音）が正しく発音されないために、一般の聞き手に内容が理解されにくい状態、あるいは異常な感じを与える状態をいう。

これは、言語習得の途上において、何らかの要因により誤った構音の習慣が固定したものと考えられている。

##### ㇻ 器質的構音障害

口唇、歯、舌、口蓋などの構音器官の構造や運動の障害等によって、話しことばを構成する個々の音（語音）が正しく発音されないために、一般の聞き手に内容が理解されにくい状態、あるいは異常な感じを与える状態をいう。歯の欠損や歯列の不整、脳性まひによる構音器官の運動障害、口蓋裂などによる構音障害がその例である。

口蓋裂児の構音障害は、医学的診断や治療によって器質的障害を取り除いても、習慣化した構音障害はそのままでは改善されない場合が多いが、その取り扱い機能的構音障害と同じである。脳性まひ児の構音障害は、75％の率でみられる。

##### ㇼ 構音の誤りのタイプについて

###### ○ 省略 omission

ある音を発しなければならない場合に、その音を全く発せず省いているもので、例えば、ハッパをアッパと言ったり（h省略）、ラッパをアッパと発音する（r省略）などである。年少児に多く、誤り方は一貫したものでない場合が多い。

###### ○ 置換 substitution

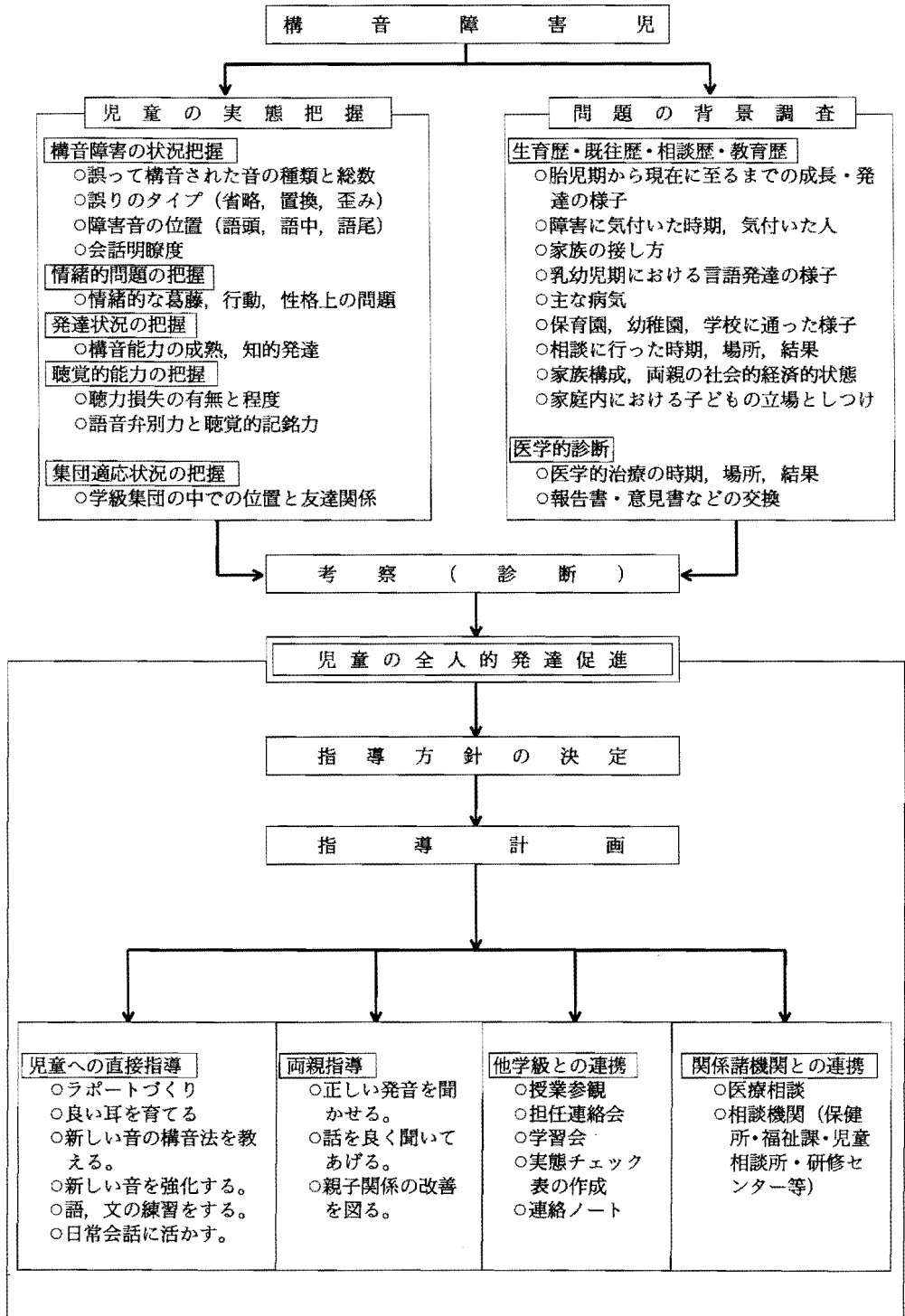
ある音を発しなければならない場合に、その音を他の音に置き換えて発するもので、例えば、カラスをタラスと言ったり、ハサミをハタミ、ライオンをダイオン、クツをクチュと発音したりするなどである。これも年少児に多く、また一貫した誤り方ではない場合が多い。

###### ○ ひずみ distortion

省略でも置換でもないが、正常な音とは異なっており、表記することが困難な音が聞かれる場合を言う。これは、比較的年長児や成人に多く見られ、前の二者に比べて、その誤り方は一貫性を帯びている。

イ 指導の実際

(ア) 全体計画



(イ) 指導方針

- 現在なお障害を存続させている原因を、できるだけ小さくしていく。
- 耳の訓練によって、正しい音と誤った音との聴覚的弁別力を高める。
- 単音→無意味音節→単語→文→文章の段階を追って構音指導をし、日常会話中の構音を安定させる。
- 両親に正しい情報を知らせ、望ましい言語環境を作る。
- 通常学級の担任との連携を密にし、指導効果の向上を目指す。

(ウ) 指導の内容及び留意点

レポートづくり

- 自由会話、自由遊び等
- ボール遊び、輪投げ、積み木遊び、なわとび、トランポリン、リズム遊び、すもう等。
- 絵かき、折り紙、パズル遊び、すごろくゲーム等。
- 音節分解すごろくゲーム、同じ音節のことばを見つけるゲーム等。

<留意点>

- ・教師が子供と一緒に遊んで遊び、子供の感情を自由に表現させる。
- ・子供が教師を好きになり、安心のできる心地良い場である雰囲気をつくるようにする。
- ・子供の発達に応じた話しことばで相手をし、自然な調子で話しかけるようにする。

よい耳を育てる

- 物の音や他人の音を弁別する能力を高める。
- ・音を正確に聞き取る学習

〔例〕①動物の鳴き声、乗り物の音などを聞き、それを当てる。

②サ音が聞こえたときだけ手をたたく。「カ、タ、**サ**、マ、**サ**……」

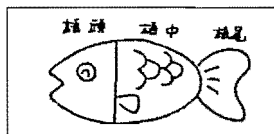
③ことばがいくつの音節できれているかを当て、その数だけおはじきを拾う。

④サ音の入ったことばのときだけ魚をバケツに入れる。「ウ**サ**ギ、トケイ……」

⑤一つの音がことばの中のどこ（語頭、語中、語尾）にあるかを聞き出させる。

「**ク**ラ、カ**ク**、ヤ**ク**イ、ア**ク**ガオ……」

サ音が聞こえた所におはじきを置く。



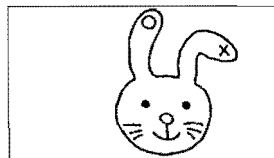
⑥正しく育てたい音を含んだ歌や遊びをたくさんする。

歌……七つの子、おさるのかごや、たなばた、さっちゃんなど

遊び……せっせっせ、ずいずいずっころばしなど

- ・音の違いを正確に聞き取る学習

〔例〕①二つの音が同じに聞こえたら、うさぎのまっすぐな耳におはじきを置く。違って聞こえたら折れ曲がった耳におはじきを置く。



「サーサ」「チャーサ」「サーサ」「サーシャ」

②さるを描いたカードを用意し、さるの名前が2回とも同じように聞こえたらさるのカードを二つ投げる。

「サルーサル」「サルータル」「サルーサル」

- ・他人の音の正誤を聞き分ける学習

〔例〕①「魚が気持ちよさそうにスースーと泳いでいます」スースーと正しい音のときには積み木を積む。

「スー、スー、チュー、スー、シュー……」

②「サカナ」と正しく聞こえたときは、箱におはじきを入れる。

「カカナ、シャカナ、サカナ、チャカナ、サカナ……」

③二つのことばを聞いてどちらが正しいか当てる。

「サカナーチャカナ」「サルータル」「ウサギーウタギ」

- 自分の音を弁別する力を高める。
  - ・他人の音と比較して、自分の音の誤りに気付かせる。
- 〔例〕教師が子供の誤り音のまねをして、正誤の弁別をさせる。
- ・自分の音をフィードバックして、ある音の構音ができていないことに気付かせる。

〔例〕録音テープ、ランゲージマスター、スピーチシューなどに  
より教師の出す正しい音と自分の音を比較する。



(留意点)

- ・子供に答えさせるときは、いろいろな動作を工夫し変化をもたせる。
- ・よく聞いて、正しい反応、聞き分けをしたときは、大いに褒め、励ます。

#### 正しい音の構音法を教える

- 正しく構音できている語 (key word) を利用する。
- 刺激法  
強い聴覚刺激を与え、その時の構音器官の構えや動きを観察させ、模倣させる。

- 結果としてその音が出るような動作をさせる。

- ・かむ能力の向上 (ガム、スルメ)
- ・舌、唇の機能向上、改善 (舌の運動、唇のジャンケン遊び、チョコレートなめ遊び、ウエハーメソッド)



- ・軟口蓋の運動促進 (ガラガラうがい)
- ・口腔内の空気の圧力を変化させる。(ストロー遊び、ろうそく消し、ピンポン玉吹き、風船、風車、しゃぼん玉、へび笛、吹奏楽器)

- [k] 音の指導

- ・うがいの練習をする。

①正面を向いたまま水を口に含む。

②口に含んだ水を水鉄砲のように「ピュー」と飛ばして出す。

③水を含んだまま上を向く。(口は閉じたまま)

④水を口に含み、顔を上向きにして口をほんの少し開き、この状態で息を出す。(ガラガラブクブクする。)

⑤うがいができるようになったら、顔を上向きのまま、水なしで「カー」「コー」と言う。

- ・同じ破裂音の仲間パ行音、タ行音より誘導する。

p a - t a - k a    p o - t o - k o    p e - t e - k e

- ・水滴落とし（砂糖水がよい。）（図1）

水の入ったコップにストローを入れ、ストローの頭の部分を人差し指で押さえて、ストローに水を蓄え、子供の奥舌（図の・印）に水滴を落として（人差し指を離せば落ちる）「カッ」と口外へ飛ばさせる。水滴の量をだんだん少なくし、最後には水滴なしで落とすまねだけで、「カッ」と言えるようにする。



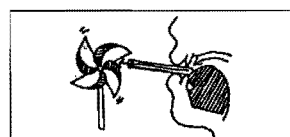
図1 水滴おとし

- ・鳥の羽毛、綿花、紙片を手のひらに乗せ、「カッ」と飛ばす。
- ・ろうそくの火を「カッ」と吹く。
- ・コップに入れた紙吹雪を「カッ」と吹く。

### ○〔s〕音の指導

サスセソの子音〔s〕は、呼気が上顎前歯の裏側で舌と歯茎の間で作られた細いトンネルを通ることによって作られる無声の摩擦音である。強い呼気の流れがこの細い通路を通過して歯の先端にあるので、笛を吹くときのような雑音が発せられるのである。サスセソは、その〔s〕の音と、それぞれの母音を一息に発音した音節である。

- ・ストローを上下の前歯の間にはさんだまま小さな風車を吹いて回させ、徐々にストローを抜き取る。
- ・マッチ棒またはつまようじを上下歯にはさみ、そのすき間から、「スー、シー」と摩擦音を出す。
- ・コップに水を7、8分目入れて、ストローでブクブク吹きながら遊ぶ。
- ・コップの水を3分目位にし、舌先を下歯裏に軽くつけ、ストローを上下の歯ではさみ、コップの水がブクブクなるように吹く。
- ・羽毛、紙片、粉をs・ʃの構えで吹く。



### ○〔r〕音の指導

ラリレロの子音〔r〕は、最初、舌先を硬口蓋の方へ反り上げておいて、呼気を出し始めてから舌先を歯茎に一度打ちつけ、そして、すぐその舌を離すと発せられる有音の弾音である。

- ・舌の体操をし、舌の動きを活発にする。

口の周りを舌先で丸くなめ回す。

口の周りの所々に薄いせんべいの切れ端をくっつけ、舌先で取り、口の中へ入れる。

前歯茎に舌先につけ舌をはじく。

薄いせんべいの切れ端を硬口蓋にくっつけ、それを舌先を反り返らせて取る。

砂糖なめ遊びによって舌を自由自在に動かせるようにする。

- ・鏡を見て模倣する。（舌の動き）
- ・擬声語遊びをする。

カラカラ、タラタラ、コロコロ（ボール遊び）、チラチラ（雪降り）、クルクル（こま）、トロトロ、キラキラ（星）、ハラハラ（落ち葉）、ヒラヒラ、ツルツル、フラフラ



(留意点)

- ・母親指導を通して、家でも遊びの中で練習ができるようにする。
- ・児童が固くならずリラックスした状態で伸び伸びと行えるよう配慮する。
- ・無用に発語器官そのものを意識させると、吃音その他の望ましくない状態を生む危険も大きい。かえって健全なことばの発達や構音技術の成熟を阻害する恐れもある。幼児、学童に適用する場合には、特にこの面についての慎重な配慮が大切である。

新しい音を強化する

○ [s] 音の練習

- ・単独で引き伸ばして [s] の音を出す。
- ・一呼吸ごとに、できるだけその音を長く引き伸ばして出す。(10回連続でできるまで)
- ・短かく区切って正しく出せるようになるまで練習する。(25回連続でできるまで)
- ・[s] の練習記号を書きながら、同時に [s] の音を出す。
- ・[s] を含む無意味音節の練習。この練習の主な目的は、その音と他の音とを結びつけることである。

[e-s-s] [e-s] [es] [s-s-e] [s-e] [se]

[a-s-s] [a-s] [as] [s-s-a] [s-a] [sa] など

- ・ささやき声で聞き取る練習をする。
- ・ゲーム化して楽しく取り組めるよう工夫する。

単語、文の練習をする

○ [s] 音の練習

・単語

[sa] を含む単語<語頭>さかな さくら さる さら ささ さけ さとう さお  
<語尾>あさ くさ かさ えさ はやさ ふかさ ひがさ  
<語中>うさぎ おうさま はさみ ものさし けいさつ あさり

・区別して出し分ける練習

[s] と [t] さけ-たけ, せんいん-てんいん, そめる-とめる, さい-たい  
きせん-きてん, せきせつ-てきせつ, せきにん-てきにん

・文の練習

さとう君は、まいあさうさぎにえさをやります。  
ささやぶに、あさひがさらさらしている。  
さかなやさんからさんまとさばをさん匹ずつ買いました。

○ [k] 音の練習

・単語

[ka] を含む単語<語頭>かえる かき かみ かばん かるた かぎ かけっこ  
<語尾>あか いか せなか りか ろうか たか まんなか  
<語中>みかん しかく なかよし やかん さかな ちから

・区別して出し分ける練習

[k] と [g] かい-がい かいけい-がいけい かいしょく-がいしょく  
[k] と [ŋ] ゆうき-ゆうぎ つき-つぎ かき-かぎ こけ-こげ

〔k〕と〔t〕 かきーたき いかーいた あけるーあてる けんこうーてんこう

・文の練習

カーカーカー、からすがかきの木の上であいかかきの実を食べています。

かえるとめだかは、なかよくかわでかくれんぼをしています。

おかあさんがかいものに出かけて、みかんときんかんをかってきてくれました。

<留意点>

- ・一般的には、語頭、語尾、語中とやさしい順に練習を進めた方がよいが、単語によっては必ずしもそうとは限らないので、練習の順番を変えてもよい。
- ・無意味語が確実に不安なくできるようになったところで有意味語の中に応用していく。
- ・初めはできるだけなじみの薄い語を使う方が安全である。それから次第に日常会話で子供が多く使う語へと移る。
- ・不安定な時は、すぐ前の段階に戻って練習する。
- ・特に耳の訓練の復習は、毎回欠かさず行う。

日常会話に生かす

- 音読や会話等で定着指導をする。
  - ・絵本や国語の教科書の音読をする。
  - ・ごっこ遊びや人形劇、役割演技などにより、会話の練習をする。
  - ・絶えず耳の訓練を続けることが大切である。
  - ・通常学級の担任、家族とは常に情報を交換し、特に誤りやすい語があればそれを報告してもらって特に重点的に指導する。

音にひずみをもつ子の指導

- ・以下の順序でことばの練習を行う。
  - ①母音の構造(ア、イ、ウ、エ、オ)が正確にできるようにする。
  - ②口形を整え、大きく動かし、歯切れよく発音できるようにする。



- ③指導者は、その子の出している「ひずみ音」を模倣して出させるようにする。
- ④子どもには、ひずみの模倣音と正常音を交互に十分聞かせ、その違いを分からせるようにする。
- ⑤鏡を見ながら、自分が出している「ひずみ音」の特徴(舌先のゆがみ等)をつかませる。
- ⑥テープレコーダーや肉声(模擬音)を聞かせて、音のザラザラ(雑音)に気付かせる。
- ⑦自ら、それに気付くまでそれを注意したり指摘したりしないようにする。
- ⑧並行して、次の運動をさせる。
  - ・うがいの徹底(ガラガラ遊び) — 奥舌を下げるための基礎訓練 —
  - ・口の体操(アクアク遊び) — 話し方に弾みをつけ、歯切れよくする訓練 —
  - ・口唇運動(モグモグ遊び) — 口唇周辺の筋肉の固い緊張をときほぐす訓練 —
  - ・舌尖運動(ペロペロ遊び) — 舌尖の安定をはかり、舌尖を伸ばす訓練 —

- ・奥舌運動（ンカンカ遊び） — 奥舌の挙上沈みを感覚的につかませる訓練 —
  - ・構音運動（エーイー遊び） — 後続母音と連結させる正しい構音動作の訓練 —
- ⑨確かな「エーイー遊び」により習得された安定した「エ列音」の構音状態から、すばやく「イ列音」に移行させるコツを習得させる。

⑩舌先を安定させ、平らにまっすぐ伸ばし、エ列音に近い構音状態で、ゆっくりと引き伸ばすようにして出させる。

〔例〕〔キ〕音 ケーケーキー、ケーキー、ケキー、ケキ……

⑪単音が出せるようになったら、速さのリズムを変えて、くり返し練習させる。

⑫単音が充分安定したら単語、文の練習へと進める。

⑬日常会話に生かすための練習をする。

#### (4) 両親指導

- ことばを身につけるために
  - ・生まれてから3年間が大切な時期である。
  - ・好きな人からよく学ぶ。大好きなお手本（親）とやりとりする楽しみが、はげしい学習を支えている。
  - ・ことばの数だけでなく、概念の発達の助けになるように、一つのことばのいろいろな意味が身に付くようなかわりが大切である。
- 発音の異常が起こる原因として考えられるもの
  - ・発音の器官に故障がある場合
  - ・耳の聞こえが悪い場合
  - ・ことばの環境が悪い場合
  - ・子供の気持ちが不安定な場合
  - ・知能の発達が遅れている場合

以上があげられるが、一つの原因から発音の異常を起こしている例は、ごくまれである。発音を習い覚える途中にいくつかの問題があって、それがお互いに関係し合って、子供の発音を悪くしているとみるべきである。
- 是非やってもらいたいこと
  - ・進んで話す子に育てる
  - ・子供にたくさん話しかける
  - ・子供の話をよく聞いてあげる
  - ・幅広い豊かな経験を与える
  - ・できるだけ早く近くの言語教室などで相談を受ける
- 是非やめてほしい扱い方
  - ・ことばに対して注意をすること
  - ・無理に話させようとする
  - ・発音を直そうとする
- 正しい発音を育てるために
  - ・お母さんが正しい発音をたくさん聞かせ、誤った音と聞き分けられる良い耳を育てる。
  - ・日常生活を心豊かに過ごさせるように心掛け、さり気なく楽しいかわりの中で行うこと



が大切である。

ウ 参考資料

(ア) 日本語の語音とその表記法

表 1 国語標準音表記法

		両唇音	歯音	歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
子	破裂音	無声	p	t		k	
		有音	b	d		g	
	通鼻音	無声					
		有音	m		n ɲ	ŋ ŋ	
	摩擦音	無声	f s	ʃ	ç		h
		有音	w	z	ʒ	j	
音	破擦音	無声	ts	tʃ			
		有音		dʒ	dʒ		
	弾音	無声					
		有音			r		
母音	小開き母音				i	u	
	半開き母音				e	o	
	大開き母音				a		

語音はふつう、音韻という形で書き表わされる。日本音声学会において標準音として認めている日本語の音韻の種類とその表記法は表1の通りである。

(イ) 主な子音の構音点 (図2)

構音点 (または構音域) というのは、呼吸しないし声の通路の中でその音が作られるときに最も狭くなる場所、または閉鎖の起こるところを便宜上一つだけ選んだものである。

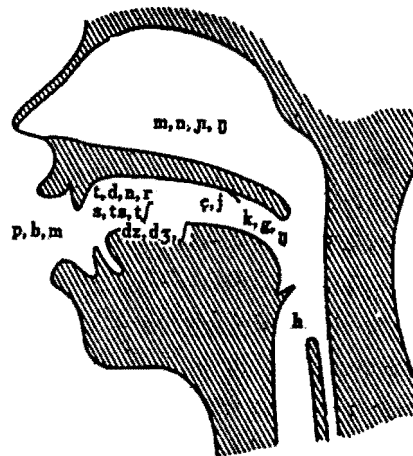
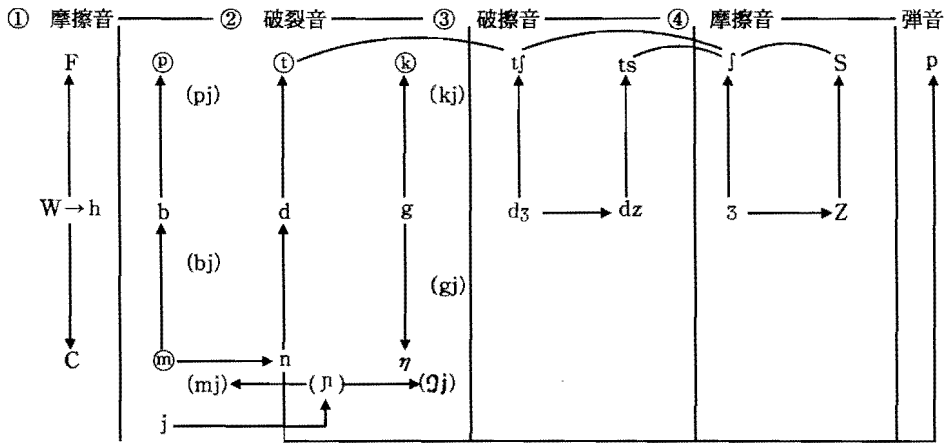


図 2 主な子音の構音点

(ウ) 指導の系統や順序

一人一人異なった障害があるので、一概にこうすべきだとはいえないが、一般的に使われている系統表を、表2としてあげておく。

表2 構音指導の一般的系統



(エ) 構音指導の4段階 (チャールズ・バン・ライバー)

どの音から指導をするか、指導方針が決まったら、指導の手順、段階を表のように進めることが通例である。

表3 チャールズ・バン・ライバーの構音指導の4段階

内容	段階	a 耳の訓練	b 比較と照合	c 新しい音を教える	d 新しい音を安定させる
内容 方法		・自分以外の人 の音をきいて	・自分自身の音 と標準音との	(1)漸次接近法 (2)聴覚刺激法	(1) 単音 (2) 音節
		(1)分離=その音だけをききわける (2)確認=その音だけをきき出す (3)弁別=その音をききくらべる (4)刺激=その音を大きく、はっきり きく		(3)構音の位置づけ法 (4)他の音を変える法 (5)鍵になる語を使う法	(3) 単語 (4) 有意味文 (5) 会話

(オ) 日本語における構音能力の発達

表4 幼児の構音能力の発達

3歳までに確実になる	t, ʃ, ɒ, d
3歳までにほぼ獲得	j, m, n, ɲ, b, p, k, g, w, tʃ, dʒ, mj, bj, pj
3:0~3:5	kj, gj, ʃj
3:6~3:11	h, F, f
4:0~4:5	ʃ, s, ts, dz
4:6以後	r

いくつかの研究結果から、幼児における子音の構音能力の発達を推察すると、およそ表のようになる。

(坂内俱子：「子どもの構音能力について」言語障害研究会会報より)

(2) 口蓋裂

ア 口蓋裂について

図3は口腔内を表している。口蓋裂は口腔内の天井にあたる部分、すなわち口蓋が前後方向に裂けている状態をいう。これは胎生7～12週の間において、何らかの要因がはたらいて結合すべき組織が完成しないままになってしまったものである。その要因の作用した時期と期間によって、図4のように、唇裂のみ、唇顎裂、硬軟口蓋裂、軟口蓋裂、唇口蓋裂といった形で現れる。

また、外見上口蓋の裂は持たないが、左右の口蓋筋層が結合しておらず、軟口蓋の正中部粘膜だけで覆われている粘膜下口蓋裂といわれるものもある。

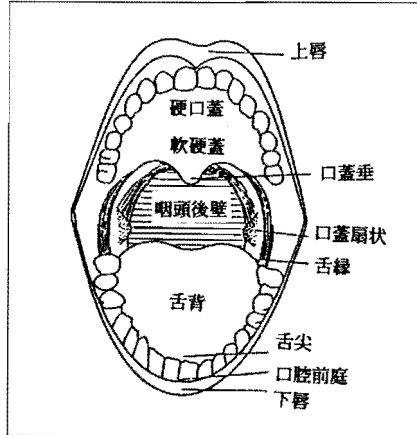


図3 口腔

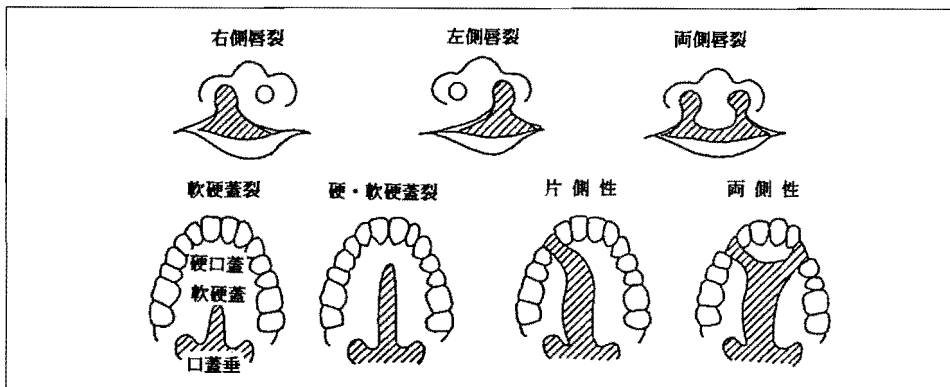


図4 口蓋裂の種類

口蓋裂児については、近年は遅くても2歳までに機能的に良好な口蓋形成手術を行うことが多くなり、就学期までに正常言語を獲得する子供が多くなっている。しかし、医学的診断治療によって器質的障害を取り除いても、習慣化した構音障害はそのままでは改善されない場合があり、その取り扱い、機能的構音障害と同じである。現在では、早期発見、早期療育が充実しているので、学童期において言語治療指導を受けなければならない児童は減少傾向にある。

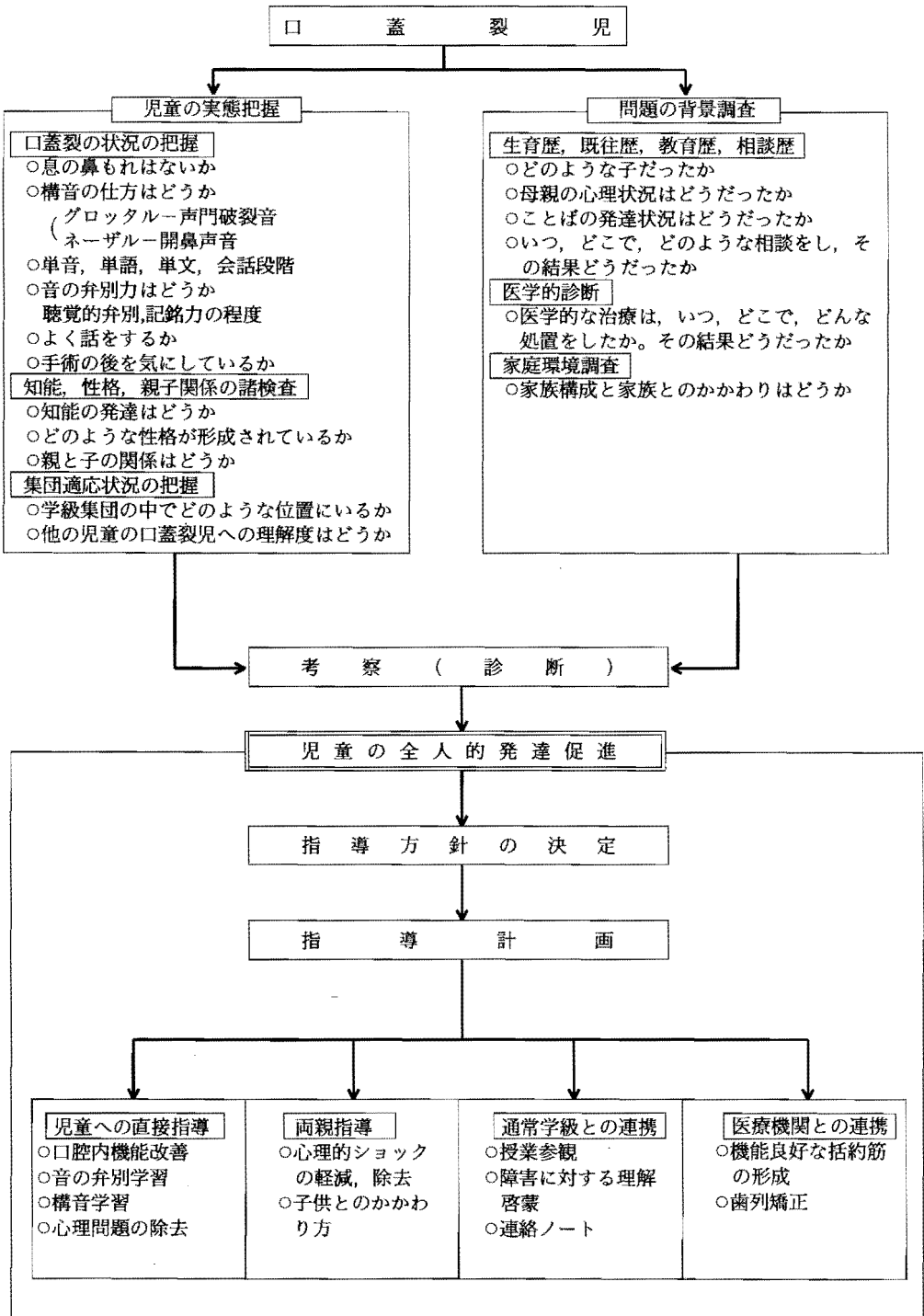
口蓋裂による言語障害を残した子供の指導効果を高めるためには、多くの人の協力が必要になってくる。なぜならば、言語障害のみならず、年齢が大きくなるに従って、子供自身も自分の障害を意識し、引け目を感じ、そのために性格、行動などにゆがみをもってくるという二次障害を引き起こす可能性が大きいからである。

従って、両親や専門医はもとより、通常学級の担任の協力が不可欠である。

これらのことを念頭に置き、観察や生育歴、諸検査などによって、子供の障害の状態、その背景を的確に把握し、指導方針を立てることが望ましい。

イ 指導の実際

(7) 全体計画



(イ) 指導方針

- 医師との連携により、容易、完全、迅速に口腔内圧を形成し得るだけの運動機能を持つ良好な括約筋を形成し、機能向上を図る。
- 個別の面接や保護者教室などの機会を利用して、できるだけ早い時期から指導を進め、物理的ショックからの立ち直りを援助すると共に、子供への望ましいかわりができるようする。
- 個々の子供の特性に基づき、最も適切な刺激を与え、ことばの学習を援助する。
- 家族や通常学級の協力により、言語環境を整え、ことばの刺激を多くし、正常発達を促す

(ウ) 指導内容及び留意点

ラポートづくり <構音障害参照> P 101

口腔内機能改善

- 吹く力を高める。
  - ・ストロー吹き（15～25秒を目安とする）
  - ・ろうそく吹き消し
  - ・シャボン玉
  - ・けん盤ハーモニカ、笛、ラッパ
- 吸う力を高める。
  - ・ストローで吸う
  - ・ティッシュ、セロファンを吸う

(留意点)

- ・①口で吸う、口で吐く ②口で吸う、鼻で吐く
- ・③鼻で吸う、鼻で吐く ④鼻で吸う、口で吐く
- の4つの呼吸の様子を意識させながら、組み合わせて遊ぶようにする。
- かむ力を高める、舌の動きを高める。
  - ・するめ、ガム、せんべい
  - ・舌のじゃんけん
  - ・t, d, rの練習
- 口蓋咽頭筋の動きを高める。
  - ・うがい
  - ・かいじゅうごっこ
- 口唇の動きを高める。
  - ・p, b, mの練習
  - ・口じゃんけん

音の弁別 <構音障害参照> P 101

構音学習

- [k]音の指導
  - ① [g]音より[k]音の導き方
    - ・うがいから「ガー」という音を出せるようにし、続いて水無しでうがいのまねをさせ



吹く訓練



吸う訓練



構音の学習

「ガー」と言わせる。

- ・十分言えるようになったところで、「ガー」とささやき声で言わせる。そうすると、ほとんどささやき声の「カー」になる。
- ・ささやき声で〔k〕音の練習を反復して行う。（カーカ、カオカオなど）
- ・無意味音節で〔k〕音を練習する。（カコカコ、カケコカケコなど）
- ・単語で練習する。（カメ、カニ、カモメ、イカ、メダカ、イルカなど）
- ・単文で練習する。（カンコちゃんはカラスのあかちゃんですなど）
- ・歌や文で練習する。（七つの子、かごめかごめなど）
- ・普通の文章や日常会話の中で定着を図る。

## ② 〔n〕音より〔k〕音の導き方

- ・口を開けたままで「んあ〜」の練習を行い、奥舌を軟口蓋に近付ける。
- ・十分「んあ〜」ができたところで、「んがあ〜」と発音させる。
- ・かいじゅうの鳴きまねで、「んがあ〜→があ〜」と練習させる。
- ・以後は、前述した①の導き方と同じである。

### (留意点)

- ・うがいの練習については、構音障害〔k〕音の指導 P102を参照
- ・構音学習については、指導の系統や順序について考慮する。
- ・教材教具を工夫し、児童が楽しく遊びながら学習できるようにする。
- ・児童が現在持っている力を十分に考慮した教材教具を準備し、成功感を味わわせることによって、意欲的に学習することができるように配慮する。
- ・学習の経過をテープに記録し、成果を認識させ、児童の意欲を持たせる。

### (イ) 両親指導

障害児が生まれたことによって大きなショックを受けて悩む両親と話し合い、両親が安定した精神状態で子供を受け入れることができるように指導することが大切である。それには、口蓋裂やそれに伴う問題についての知識を与え、正しい言語環境の育成を図ると共に、積極的に親のすべきことを果たそうとする態度を身に付けさせ、望ましい育児ができるように援助していかなければならない。

口蓋裂は他の障害と違って、単にことばの問題だけでなく、その後の歯列矯正、口唇、鼻翼の修正などに10年以上かかって一つ一つ治療していくわけであり、どんなことでも気軽に相談できるような関係が育つように配慮しなければならない。

### (ロ) 関係機関との連携

口蓋裂児の場合、早期発見や予防指導が重要である。乳幼児相談、三歳児健診、就学時健康診断などの結果を考慮し、障害が発見されたら、早期手術、育成医療の手続き（無料で入院し手術が受ける仕組み）をする。手術前後のことばの指導などについては、関係機関（病院、保健所、児童相談所等）と密接な連絡をとり、早期措置の効果をあげるようにすることが大切である。

また、スピーチエイドやその他の装具の利用、再手術などについて、口腔外科、耳鼻咽喉科、形成外科、整形外科医などと連絡して、互いに協力しながら指導を進める必要があり、成人するまで観察指導ができるように配慮する。

### (3) 吃音

#### ア 吃音とは

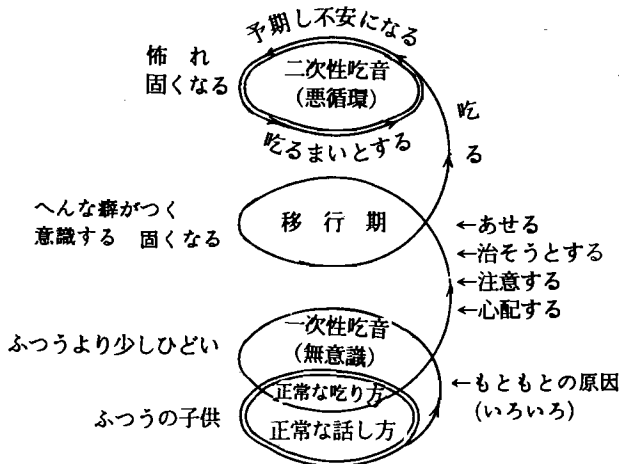
吃音とは、話しことばが流ちょうに出てこない状態をいう。変動性に富み、様々な状態を示す。そこで、吃音の問題を理解するには、単に吃音状態のみにとらわれず、その背景にある諸々の原因（発達状況、心理、性格、環境、吃音歴、吃音の変動に影響する条件など）をとらえることが大切である。そして、これらの要因を分析、検討して総合的に判断しなければならぬ。

吃音には、次のようなタイプがある。

- 連発型（同じ音をくり返す） 「ポポボクね」など
- 伸発型（ある音を引きのばす） 「アーしたね」など
- 難発型（初めの音が出にくい） 「……ボクね」など
- 中阻型（話の途中がつまる） 「ネ……コがね」など

連発型や伸発型に比べて、難発型や中阻型の症状の方が重いと言われている。また、重くなると口をとがらせたり、手で調子をとったり、足をバタバタ動かしたり、顔を赤くしたりするような随伴運動が見られる。

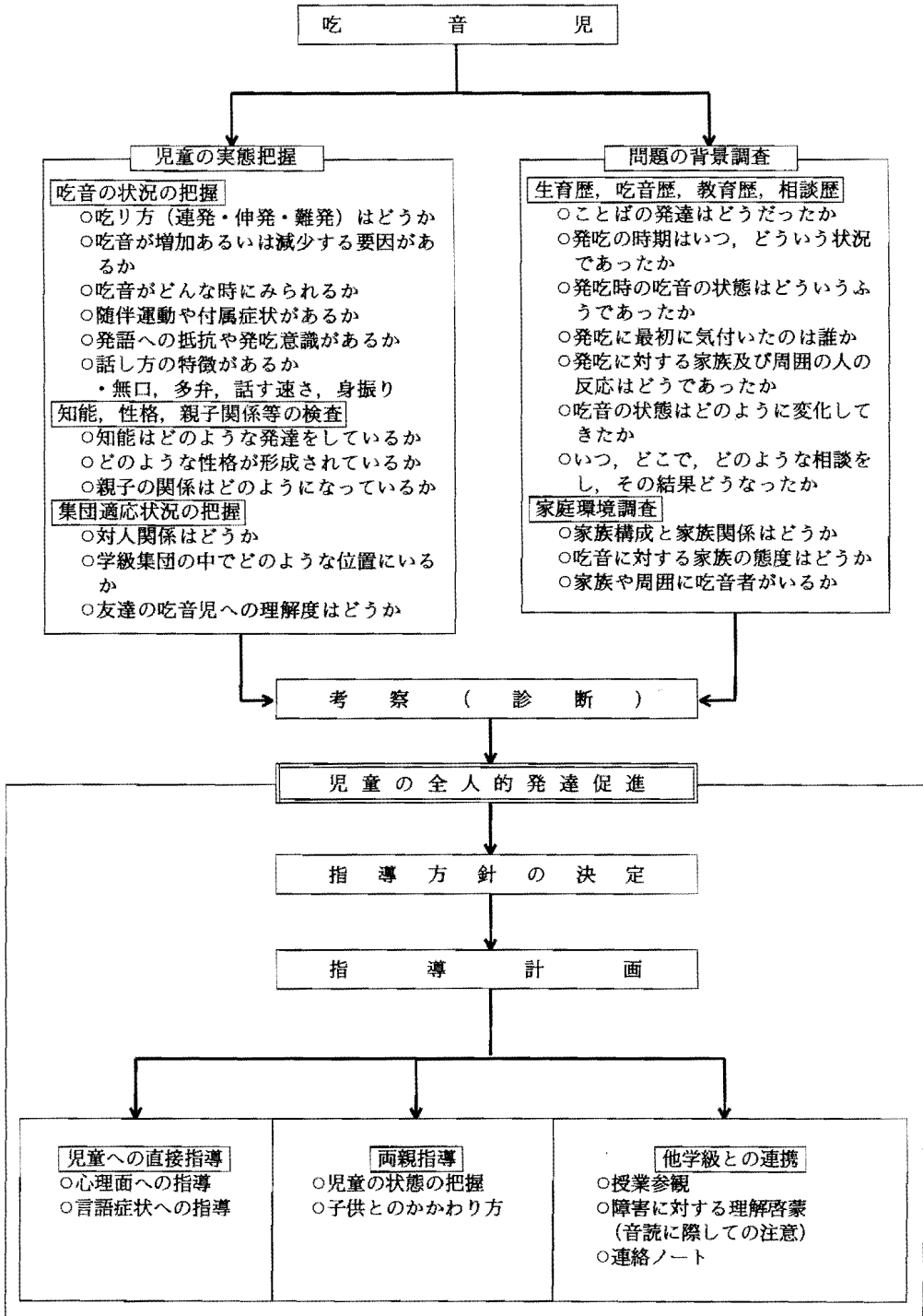
吃るといことが両親にとって問題になり始めるのは3～4歳ごろに最も多い。始まっばかりの吃音、すなわち、主として親によって吃音と診断されたばかりの子供の話し方そのものは、同年の普通の子供の話し方とさほど違ってない。この時期に周囲の者、特に母親が騒ぎ立てて口やかましく注意したり矯正しようとしたりすると、それが誘因となって二次性の吃音という一種の「悪循環」状態にまで進展してしまう。



こうした悪循環の輪は、いったん回り始めると、上へ上へと独りでに回転し続ける。子供はしだいにつかえることを気にし、恐れるようになる。特定の聞き手や場所に会おうと、またつかえるのではないかと思っ、話し始める前から身を固くし、ことばはますます出にくくなる。それを無理に出そうとして更に体を緊張させ、顔をゆがめたり手足をぐいと突っ張ったりという奇妙な癖を覚え、一層人目を引くことになる。

イ 指導の実際

(7) 全体計画





(イ) 指導方針

児童の吃音状態や、その背景にある諸要因により指導の方針も変わってくるが、ここでは次の三つの面から考えてみたい。

- 言語面では、話しことばに対する抵抗を減らし、できるだけ滑らかに話すことができるようにする。
- 心理面では、情緒の安定を図り、耐性を高める。
- 環境面では、吃音についての正しい情報を提供し、環境の調整を図る。

(ウ) 指導内容及び留意点

吃音の指導内容は、子供の発達状況、吃音歴、吃の頻度、吃音の型、環境などによって異なるが、大別すると、心理面への指導、言語症状への指導、環境調整の三つが考えられる。ここでは、子供への直接指導にかかわる心理面及び言語症状への指導について述べることにする。

**心理面への指導**

自発的な表現の場を設定し、自信を与えるような配慮のもとに情緒的な安定感を与え、吃音に対する意識や考え方を変え、適切な対処の姿勢を促すことを目的として行う。

○ 遊びによる指導

遊戯療法的手段を用いて、遊びの中から人間関係の豊かさを伸ばし、人間関係におけるたくましさを育てる。なお、吃音は対人関係の中で生ずるものであるため、個人的な1対1の遊びから徐々に小集団の中での遊びの指導をねらうようにする。

○ 遊びの中に言語活動を多くした指導

難発や随伴運動が激しく、発声の困難な幼児や小学生を対象とする。

遊びの指導の中に意図的に発声、発語の場面を設定し、滑らかな発声や発語を促すようにする。

○ 縫いぐるみや指人形による指導

幼児や小学生を対象とする。

自分の持った人形の役柄そのものになった気持ちにさせて、即興的に会話をすることで子供の持つ不満、葛藤、抑圧された感情を表現させるようにする。

○ 役割演技法（ロール・プレイ）による指導

小学校の中・高学年以上を対象とする。

与えられた役を数人の友達の前で、即興的に台本無しで演技させ、話す場面への適応性をつけ、発語意欲や自己表出を促し、自信を高めていくようにする。

○ カウンセリングによる指導

小学生高学年以上を対象とする。

吃音に対する考え方、吃音の受容、吃音への態度変容など自己洞察の中から自己の問題を改善していくようにする。

○ 自律訓練法による指導

小学校高学年以上を対象とする。

心身の弛緩を主とした自己催眠により、吃音に伴う緊張や不安を和らげていくようにする。

## 言語症状への指導

吃音の言語症状を軽減、除去することを目的として行う。

### ○ 斉読法による指導

一斉読みの形式により、心理的圧力が少なくなり、吃らずに読めた経験から自信を育てていくようにする。

### ○ 個別的な音読による指導

吃音状態が激しく、難発型で随伴運動の著しい小学校高学年以上を対象とする。

正常な発音や呼吸法、リズム法、注意転換法などにより、滑らかな発声や発語ができるようにしていく。しかし、これらの方法は効果が一時的で持続性に欠けるため単独に使用するのでなく、複合した指導が必要である。

(留意点)

吃音の指導においては、吃音児の数だけ指導方法があると言われるほどであるが、一つの方法にとらわれずに、個々の子供の状態を的確に把握し、それに基づいた指導計画を立てて指導を試み、その経過を検討することによって指導計画を修正していくという柔軟な対応が必要である。

### (エ) 両親指導

吃音児の症状には、周囲の人たちのかかわり方が大きく影響する。特に家庭環境を改善することが重要である。そこで、両親指導では、指導者と両親のよりよい人間関係を確立しながら、次のようなことに理解と協力を求めていくことが大切である。

- 両親がゆっくりと落ち着いた気持ちで子供に接する。
- 子供の長所を見つけ、それを更に伸ばすように子供を励ます。
- いくら吃っても、それを笑ったり、批判したりしない。
- 「はやく」「急いで」と話をせかさない。
- やたらに無理な要求をして、子供を困らせない。
- 何事も控え目にして、口うるさい小言はさける。
- 「食べる」「吃り」ということばは絶対に口にしない。
- 話しながら随伴運動があっても、決して、それを指摘しない。
- 吃りながら話しても、「ゆっくり」「落ち着いて」などと注意しない。
- 親の心で子供を包み込むような態度で子供の話に耳を傾け、最後までよく聞いてあげる。

#### (4) ことばの発達の遅れ

##### ア ことばの発達の遅れとは

ことばの発達の遅れとは、その年齢に当然のように期待される程度にことばが発達していない状態で、同年齢の子供たちの中で遅れの目立つ子供のことをいう。

その中には、

- ことばの刺激の不足、発語の励ましの不足など、ことばによる働きかけが極端に少なかったり悪かったりと、環境に恵まれなかったために遅れた子供。
- 成長過程において問題があったために、全体的に遅れた子供。
- 情緒的に問題のある子供。特に、自閉的傾向のある子供などのように、対人関係がうまく育たなかったり、社会性の発達の遅れている子供。
- 聴覚障害のように、器質的な障害を伴っているために遅れた子供。
- 知能の発達に遅れがあるために、ことばがうまく育たなかった子供。

等々、その原因は様々で、これらの原因となることが複雑に重なりあっている子供もたくさんいる。

ことばの発達の遅れた子供は、その程度や性質によっていろいろな症状を示し、その現れ方は、それぞれの子供によって違っている。

- ほとんど声を出さないほど重度な子供。
- 声は出せるが、それを社会的機能として役立てていない子供。
- ことばにならない声を出し分けて、伝達や感情表現に役立てている子供。
- マンマ、プープーなど、いくつかの幼児語が使えるだけの子供。
- 一語文の段階にいつまでもとどまっている子供。
- テレビのコマーシャルなどはよく覚えるのに、伝達に必要なことばを全く覚えようとしない子供。
- 何とか話せるが、話にまとまりがなくて、人に伝えることが上手にできない子供。

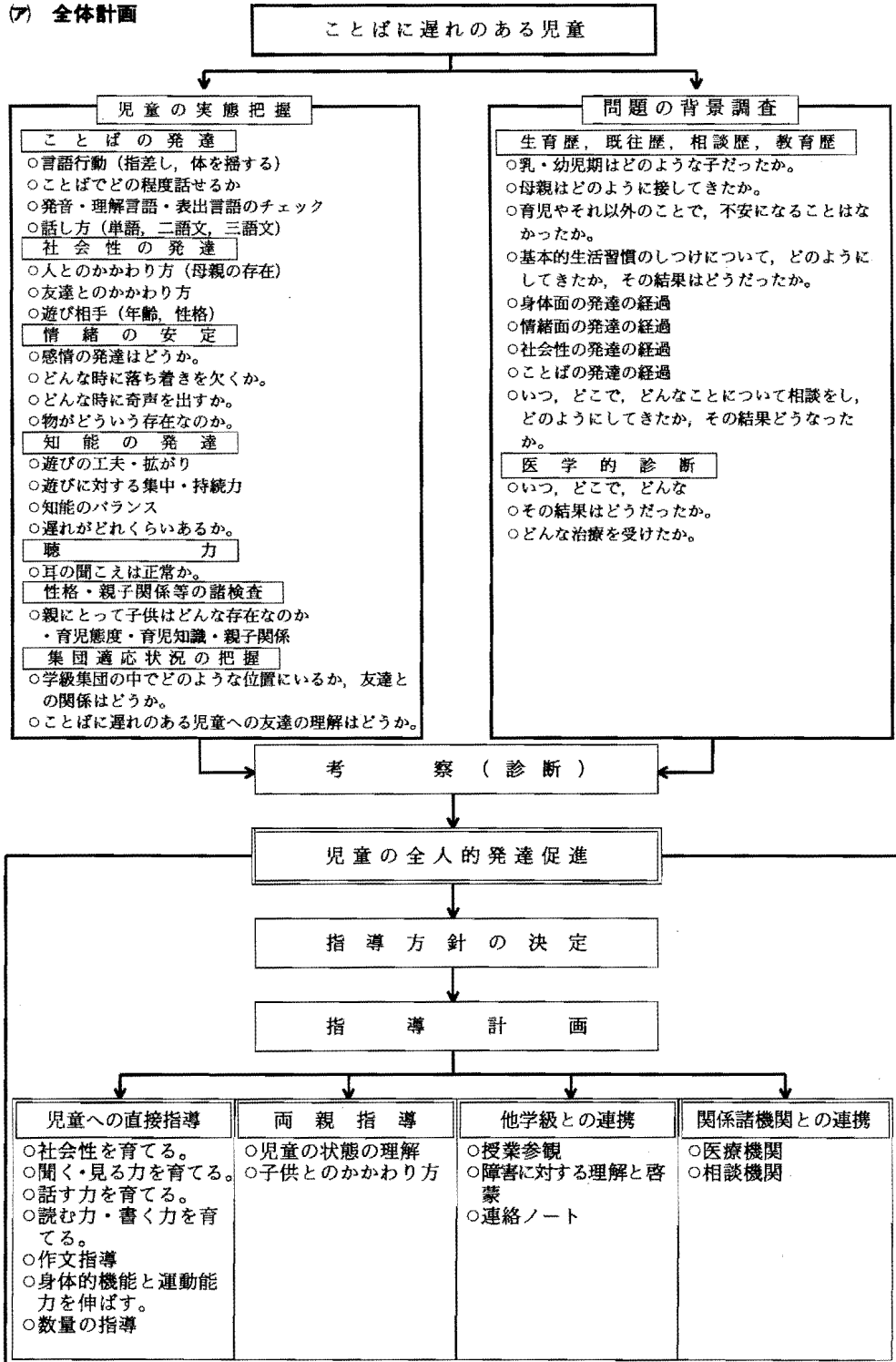
このような子供たちの話しことばを聞いていると、次のような話しぶりが目立つ。

- 片言で話す。
- 赤ちゃんことばを使う。
- ことばがうまくつながらなくて、意味のとれない話をする。
- 発音に異常がある。(幼児音等)
- 助詞(て・に・を・は)を上手に使って、文の形で話すことができない。
- 接続詞や形容詞を使って話をするのが下手である。
- 過去・現在・未来を区別して話ができない。
- 進んで話そうとしない。

このような子供のことばを育てていくには、小さなことばの芽も見逃さないようにすることが大切である。

イ 指導の実際

ア) 全体計画



#### (イ) 指導方針

- ことばの障害の背景となっている諸要因を、諸検査・諸調査を実施することによっていろいろな方向からの確に把握し、それを基盤にして個に応じた指導法を研究する。
- 児童の言語発達に悪影響を及ぼしている要因について、最大限に改善していくように努力する。
- 指導にあたっては、ことばだけを取り出して訓練するのではなく、五感に刺激を与えるような総合的な指導をする。
- 児童の興味関心を大切に、触る→見る→聞く→話す→読む→書くの発達段階を踏まえた指導をする。
- 家庭とのコミュニケーションを密にし、両親がその時期の児童の実態を理解して受容できるようにする。
- 通常学級の担任、関係諸機関との信頼関係を確立し、協力が図られるようにする。

#### (ウ) 指導内容及び留意点

##### 社会性を育てる

- 母子関係を育てる。
  - ・体に触れて遊ぶ。  
くすぐりっこ、おんぶ、だっこ、たかいたかい、肩車、すもう等。
  - ・できる限り一緒に生活して、話し掛ける機会を多くする。  
お手伝い、散歩、買い物、絵本などを楽しく読み聞かせる等。
- 感情を育てる。  
いろいろな感覚体験を数多く繰り返す中で、感覚機能を育てると共に、自分の感情を表現することができるようにする。  
砂遊び、どろんこ遊び、水遊び、積み木遊び、粘土遊び等。
- 身辺の自立  
一日の生活を考えながら、その中でできないことをチェックして、少しずつ自立させていく。  
顔を洗う、歯を磨く、食事をする、洋服を着る、トイレに行く、鼻をかむ等。
- 対人関係を育てる。
  - ・小集団活動の中で、友達と一緒にやろうとする気持ちを育てると共に、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わわせる。  
ボール転がし、輪投げ、ぎっこんぱったん、いろいろなゲーム、じゃんけん遊び、役割交換のあるサーキットゲーム（折り返しリレー等）、縄跳び等。
  - ・ごっこ遊びをしながら、いろいろな場面での対応について練習し、それらが実生活の中で活かせるようにする。  
ままごと、買い物ごっこ、電話ごっこ、乗り物ごっこ等。

##### (留意点)

- ・リーダーシップは、子供にとらせるようにする。
- ・人慣れしていない子供には、最初から強い刺激を与えないようにする。

## 聞く・見る力を育てる

### ○ 聴知覚能力を育てる。

#### ・聴覚的記憶力を育てる。

言われた品物を取ってくる遊びを繰り返す中で、品物の数を一つからだんだん増やしていきながら、聞き取った品物を記憶する力を伸ばしていく。

○と○と○を取ってきて（一つの品物から五つの品物が取れるようになるまで、いろいろな遊びを工夫しながら継続していく。）

#### ・聴覚的認知力を育てる。

聞き取ったことが何のことなのかを分からせる遊びを、初歩的なものから繰り返していき、話の内容が聞き取れるようにしていく。

音あて遊び、動物の鳴き声あて遊び、音節数を意識させる遊び（音の数いくつ）、絵カード拾い、かるた取り、なぞなぞ、紙芝居、絵本の読み聞かせ等。

### ○ 視知覚能力を育てる。

#### ・見ようとする気持ちを育てる。

入れ物と実物（お菓子等）のマッチング、絵カード探し、品物探し、影絵、隠し絵、かくれんぼ等。

#### ・模倣する力を育てる。

手遊び歌、まねっこ遊び、ジェスチャー、リトミック等。

#### ・目と手の協応を考えながら、注視力（注意力・集中力）を育てる。

かるた取り、トランプ、積み木、ブロック、間違い探し、はり絵、ぬり絵、迷路、パズル、なぞり絵、はさみで切る学習、ビーズ通し（玉のれん等）、フロスティッグの視知覚学習等。

### ○ 位置や方向の認識を育てる。

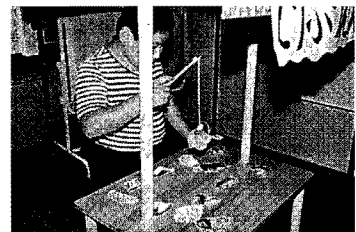
自分のロッカーの位置、時計の針の位置と読み方、空間位置の聞き取り等。

#### （留意点）

- ・聴覚的認知力を育てる指導と視知覚能力を育てる指導は、併せて指導することが多い。
- ・ことばの発達に遅れのある児童の指導には繰り返が多いので、実物・模型・写真・絵カード・ペープサートなどいろいろな教材を工夫して、興味関心を持続させることが大切である。



聴覚的記憶力を育てる遊び  
『○と○と○（動物園）』



視知覚能力を育てる学習  
はさみで切る『丸の動物』



視知覚能力を育てる学習  
記号と色のマッチング  
『スキルスクリーン』

## 話す力を育てる

- 発語器官の機能を高める。<口蓋裂 参照> P110
- 話しことばのレディネスを育てる。

問いかけに答えることばと、見たもの・触ったもの・聞いたものに対して発することばを、簡単なものから少しずつ引き出していく。

袋の中身、これなあに、何の仲間、何をしていますか等。

- 言語理解力を高める。

語い表などを使って、知っていることばをチェックし

ていきながら、知らないことばを遊びの中に取り入れて、語いを増やしていく工夫をする。

いろいろな絵カード遊び、ことばの仲間集め、なぞなぞ遊び、ジェスチャー、しりとり、絵のさいころを使った遊び等。

- 言語表現力を高める。

表出言語・理解言語をチェックして、いろいろな場面作りをした中で、表出言語はどんどん使用させて生活の中で使えるようにすると共に、理解言語は繰り返し聞かせながら表出できるようにしていく。

あいさつ、ごっこ遊び、人形劇遊び、お話作り、自由会話、日記等。

(留意点)

- ・会話の出にくい子供には、『ふき出し』を使うと効果的である。人や動物の口元に『ふき出し』を持っていたり、会話場面で『ふき出し』を使ったりすると会話が出やすい。

## 読む力・書く力を育てる (文字指導)

- 線や絵をなぞることができるようにする。
- ・線や絵をなぞるための楽しい遊びを工夫する。

指先・手首の力をつける、なぞり絵、絵かき歌、ぬり絵、迷路、なぞりゲーム、線引き、視知覚訓練、トレーシング(なぞり書き)、コピーイング(曲線・図形・文字・数字・絵等の視写)等。

- 音節遊びを工夫して、音節に合わせて操作したり動いたりすることができるようにする。

- ・音節に合わせて操作する遊び

絵のさいころや隠し絵カードを使ったおはじきゲーム、玉入れゲーム、すごろく、マグネット並べ、同じのどれだ(同じ音節数のことばを捜す遊び)等。

- ・音節に合わせて動く遊び

リングゲーム、輪跳びすごろく等。

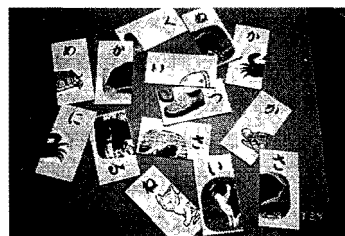
- 文字に興味を持たせる。

- ・絵の横に書いてある文字を読ませる。

配列絵カード(絵の上や横に文字を書き、それを音節数に切ったもの)、絵本、隠し絵カード等。



問いかけのことばに答える遊び  
「何の仲間」

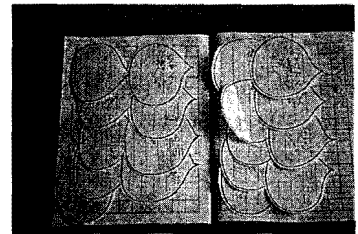


文字に興味を持たせる遊び  
「配列絵カード」

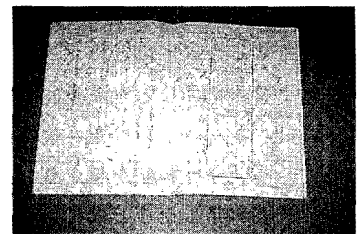
- ・文字カードを使った遊びをさせる。  
絵カードと文字カードのマッチング、文字配列カード読み当てゲーム、かるた拾い、文字カードと文字拾い、背文字当てゲーム等。
- ・文字をなぞらせる。  
文字カード書き当てゲーム、絵の横に書いてある文字のなぞり（絵をノートに貼ったりプリントにしたりして、横に文字を書きなぞらせるようにする）等。
- 読む力を高める。
  - ・読めるようになった文字をチェックしながら、その文字の入ったことばや簡単な文から読めるようにしていく。  
文字カードと絵カードのマッチング、かるた取り、文のカードと絵カードのマッチング、音読カード、絵本読み等。

### 作文指導

- 絵を見て、簡単な文を書かせる。
  - ・動く絵カードなどを使って、二語文から文作り指導を系統的に継続していく。
  - ・助詞や接続詞の指導は、その都度取り上げて、何回も練習させながら定着させていく。
- 感覚ことば、様子ことば、感情ことばを育てる。
  - ・絵本や教科書の挿し絵などに『ふき出し』をつけて、感覚ことば、様子ことば、感情ことばを書き込ませていく。出てこない時には、書いてやって読ませながら覚えさせていく。
- 日記を書かせる。
  - ・一日の出来事の中から、おもしろかったこと、うれしかったこと、悲しかったことなどを一つ取り上げて、日記に書かせていく。その日記に、質問などを書いて、日記の内容を深めていくと共に、『ふきだし』をつけて会話を書き込ませていく。
- 題材を決めて、作文を書かせる。
  - ・一つの品物を見ながら、作文を書かせる。はじめは、食べ物など身近にあるものを見て2、3文から書かせていく。『ふき出し』をつけながら文の数を増やしていくと、抵抗がなく効果的である。
- 体験したことを作文に書かせる。
  - ・はじめは、一緒に思い出しながら文にしていき、作文の書き方に慣れさせる。その後、少しずつ部分部分を一人で書いていかせる。これにもヒントとして『ふき出し』を使うと効果的である。



『ふき出し』を使った会話指導  
『ふくろの中身』



『ふき出し』を使った日記指導



### 身体的機能と運動能力を伸ばす

- 粗大運動
  - ・体全体を使ってする運動。  
走る、歩く、はねる、輪跳び、なわとび、マット、平均台、跳び箱、鉄棒、ボール運動  
サーキット運動、水泳、遊具遊び等。
- 微細運動
  - ・手先を使ってする運動。  
粘土遊び、紙ちぎり、シール貼り、はり絵、ビーズつまみ、ビーズ通し、折り紙、  
はさみ切り（直線・曲線）、ジグソーパズル等。

(留意点)

- ・ただ運動するだけでなく、その中にことばの指導を取り入れることが大切である。

### 数量の指導

- 物と数の対応訓練
  - ・はじめは、果物やお菓子などの実物を使い、徐々に  
おはじきや数え棒、指などへと進めていく。
- 数の大小
- 1～10までの数唱・逆唱。
- 数の合成分解
  - ・0～5まで、0～10まで、0～20まで。
  - ・実物や具体物、指などで理解できるまで学習して  
から、数だけの問題へと進めていく。
- 100までの数唱・数列。
- 簡単なたし算・ひき算
  - ・1位数+1位数=1位数(2位数)
  - ・1位数(2位数)-1位数=1位数
- 金銭の使い方、時計の見方、カレンダーの読み方など、生活に密着した能力を育てる。



1～10までの数唱  
「数とおはじきのマッチング」

### (イ) 両親指導

#### 児童の状態の理解

- 子供の障害について正しく理解してもらう。
- 子供の实態と変容を認識させる。

#### 子供とのかかわり方

- できるだけ子供と接する時間を多くとれるように、生活時間を工夫する。
- 子供の喜ぶことを数多くしてあげるように指導する。
- たくさんお手伝いをさせて、その中で日常生活用語をたくさん投げかけるようにする。
- いろいろな体験を与える。
- 子供が発したことばには必ず応じるようにし、話にもよく耳を傾ける。
- 子供のことばに誤りがあっても、罰を与えないようにして、正しいことばをたくさん聞かせるように工夫する。

(5) 難聴

ア 難聴とは

(ア) 聞こえの仕組みと難聴

音は外耳道を通して鼓膜を振動させ、中耳の耳小骨に伝わり、内耳に入り、内耳液→蝸牛の内のコルチ器→聴神経→脳の順に伝えられる。

難聴とは、外界の音が耳から入り、脳に伝えられるまでの経路に何らかの発育上の原因や病気等によって異常を来し、大脳で正常な音として認知できない状態をいう。

聞こえの悪さの性質は、耳の機構のどこが障害を受けるかによって異なってくる。

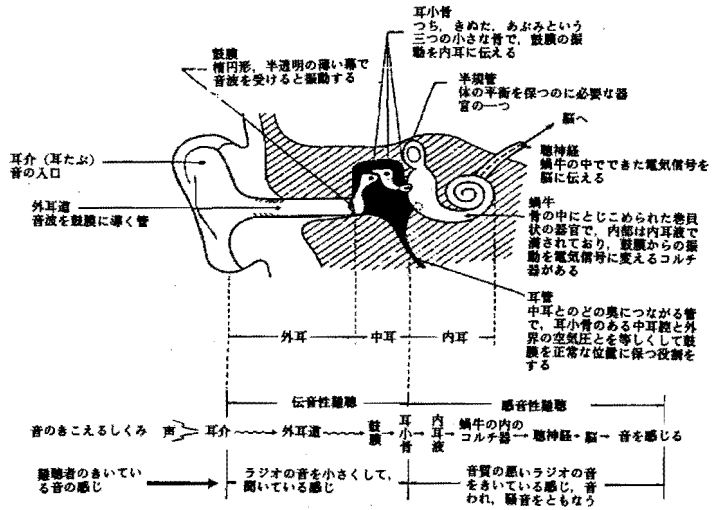


図5 音の聞こえ方

難聴の種類は、伝音性難聴と感音性難聴の二つに大別される。

伝音性難聴は、外耳や中耳、鼓膜付近の故障から、音が内耳に伝わりにくいために起こる難聴である。この種の難聴は、内耳から先は正常なので、補聴器を装用すれば聞き取りの問題が解決し、医学的な治療も可能である。

これに対し、感音性難聴は、内耳より奥の音の振動を感ずる聴細胞や、それを脳に伝える聴神経、さらに脳の聴覚中枢経路などの故障で起こる。伝音性難聴に比べて、難聴の原因や症状が複雑であり、補聴器装用の効果は上げにくく、医学的治療は困難である。

(イ) 聴力の検査と難聴の程度

難聴の検査は、普通オーディオメーターを用いて行う。左右それぞれの耳について、125～8000ヘルツの間の七つの周波数について測定し、オーディオグラムに表す。さらに、会話能力に関係が深い500, 1000, 2000ヘルツの値を用いて平均聴力レベルを求める。この平均聴力レベルにより、難聴の程度を軽度・中度・高度・聾に分類する。

$$\text{平均聴力レベル} = \frac{500\text{Hz} + (2 \times 1000\text{Hz}) + 2000\text{Hz}}{4}$$

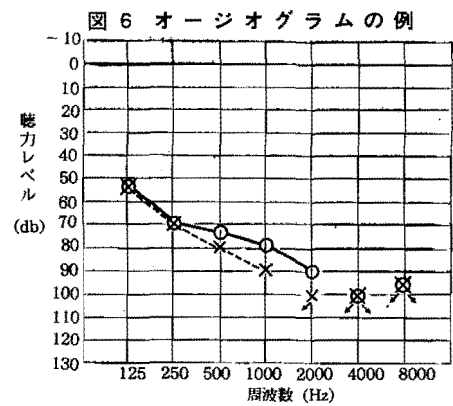


図6 オーディオグラムの例  
右耳—○—○—, 左耳—×—×—×—で記入する。測定不能(スケールアウト)の場合は○×で記入し線で結ばない。

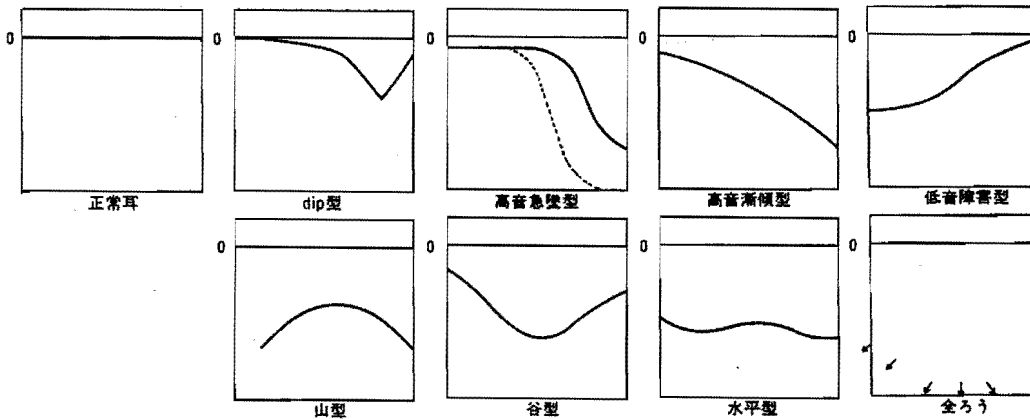
表5 聴力レベルによる聞こえの目安

難聴の程度	聴力レベル	聞こえの目安
軽度難聴	30～50dB	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ときどき聞きもらしがある。</li> <li>・大勢のまちまちの話し声のある中での会話では、聞き取りがあいまいになり、話に食い違いが生じることがある。</li> <li>・ところどころ発音に誤りが生じることがある。</li> </ul>
中度難聴	50～70dB	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やかましい程に音量を上げて、テレビやラジオを聞く。</li> <li>・隣席の人とならば、普通の話し声で会話ができる。</li> <li>・発音が幾分ぎごちないことがある。</li> </ul>
高度難聴	70～100dB	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耳のそばで大声で話し掛けると、およそ話の内容を理解する。</li> <li>・1～2m 離れると、大声で呼びかけても知らん振りをしている。</li> <li>・発音が不めいりようで、聞き取りにくい。</li> </ul>
聾	100dB以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耳のそばで大声で話しても、声からは話の内容をくみ取らない。</li> <li>・後ろから大声で名前を呼んでも、振り向かない。</li> <li>・発音が不めいりようで、何を言っているのか分からないことが多い。</li> </ul>

(ウ) 聴力型

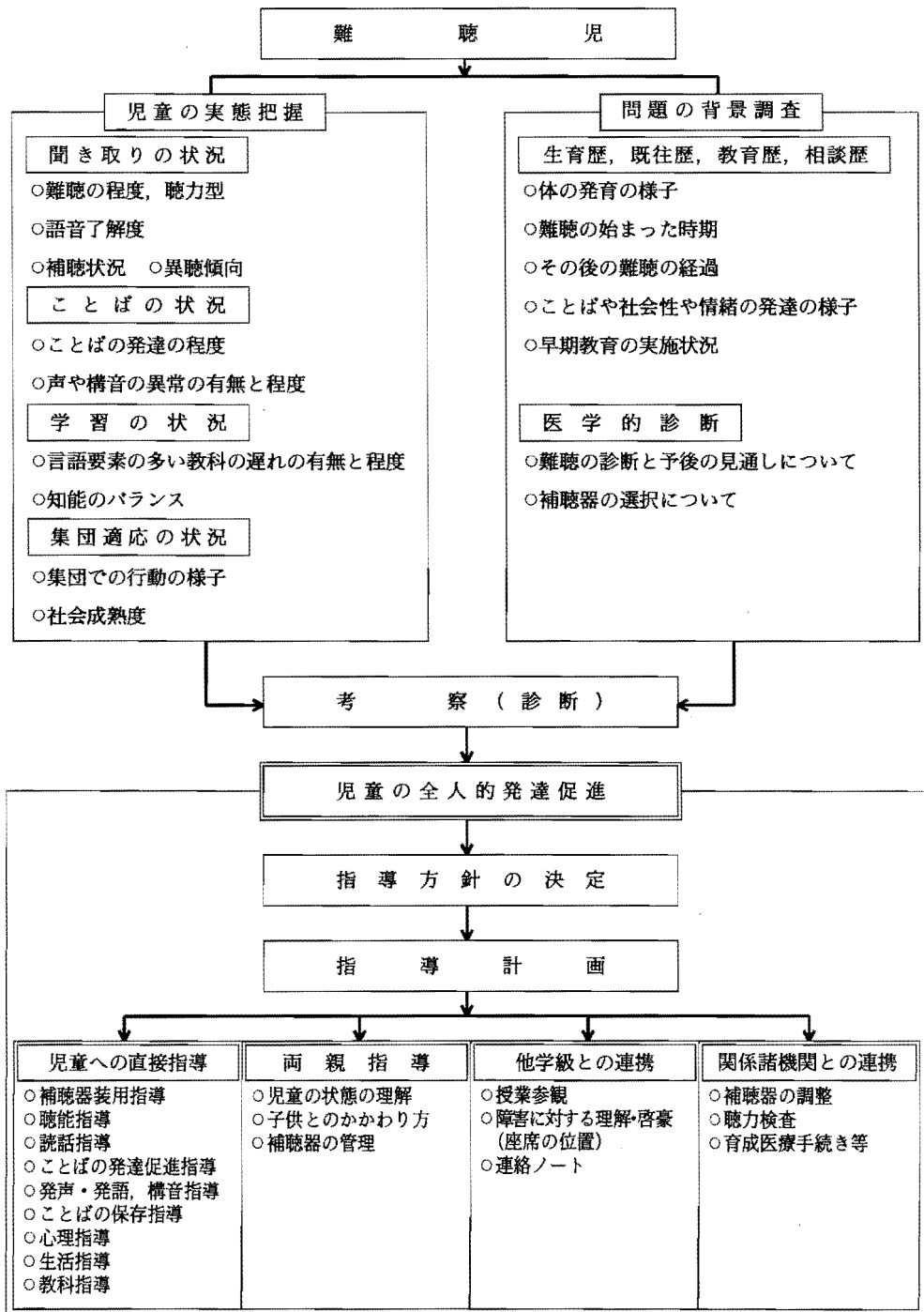
オーディオグラムに記入された気導聴力レベルの曲線の型を聴力型という。聴力型は難聴の状態や原因を知るために重要であり、補聴器装用の参考になる。

図7 聴力型のいろいろ



イ 指導の実際

(ア) 全体計画



#### (イ) 指導方針

聴覚は、学習の最も有力な入り口であり、乳幼児期及び学童期は、社会生活のための重要な学習の時期である。従って、聴覚障害児の教育においては、できるだけ早く問題を発見し、実態を明らかにし、可能性を伸ばすことが、よりよく社会生活に適応していける人間に育てていくことになる。

- 補聴器が必要な場合は、できるだけ早く補聴器をつけさせ、装用指導や聴能指導を行い、音への意識を育て、ことばを理解する力を伸ばしていく。
- 視覚を利用した読話指導を行い、日常生活や学習理解の補助手段とする。
- ことばの発達の遅れに対しては、促進指導を行う。
- 声や構音の障害に対しては、発声・発語訓練、構音指導を行う。
- 中途失聴や進行性難聴の子供には、耳に代わる感覚路の訓練を行い、現在持っていることばがくずれないようにする。
- 実態に即した教科指導を行って学力をつけ、通常学級への適応を図る。
- 通常学級の担任や保護者に対しては、子供の障害の実態を正しく理解してもらい、聴覚的環境作りに協力してもらう。
- 補聴器の調整や定期的な聴力検査を行うと共に、専門家や医療機関との連絡を密にする。

#### (ウ) 指導内容及び留意点

##### 補聴器装用指導

##### ○ 補聴器の選定

専門家に依頼して必要な検査を受けさせ、耐性や実用性を十分調べてから、器種の選定や装用耳の決定をする。

補聴器が適切かどうか、随時装用域値を測定する。

補充現象（感音性難聴の一部に起こる）や聴力低下に対して、十分な配慮をする。

##### ○ 補聴器に慣れさせる。

補聴器が体の一部に感じられるようになるまで、段階的に訓練を行う。

静かに話を聞かせたり、テレビの音やレコードの音楽を聞かせ、しだいに音源の音量が大きいものや大きく変化する音に慣れさせていく。

自分の声、歌、楽器等の音も楽しく聞けるようにし、指導室でほとんどの場面で長時間補聴器を使用できるようになってから、通常の教室の授業場面で使用させる。それから徐々に、すべての学校場面で使用できるようにしていく。

子供が自分でスイッチを入れたり切ったり、その場の状態に合わせてボリュームを調節したりできるように、教材を工夫して興味を持たせながら指導していく。

##### 聴能指導

〈構音障害参照〉 P101

##### ○ 音に注意を向ける習慣をつける。

発達段階に合わせて、音に気付かせる、音を楽しませる、音で遊ばせる等の指導をする。

音に親しませ、音を聞いて楽しむ機会をできるだけ多く与える。

いろいろな自然音を聞かせ、その音源に気付かせる。

やさしい童謡や、比較的単純なリズムの曲に合わせ、運動や遊戯をさせる。

視覚的にも聴覚的にもつかみやすい刺激を与え、それに反応する遊びを行わせる。

- 語音の聞き分け  
語を構成している音節、たとえば「オトーサン」「オカーサン」のととカを何度も繰り返して交互に聞かせ、聞き分けさせる。  
反応のさせ方は、動作、口答、筆記と、子供の能力や興味に合わせて工夫する。  
弁別しやすい音の組み合わせから、次第に難しいものへと進める。さらに、語、文の弁別訓練をする。
- 文の聞き取りから、次第に文章（お話、説明文）の聞き取りに慣れさせていく。  
〈例〉リングはどれ、バナナちょうだい — ままごと、絵カード遊び  
絵を見ながら説明を聞き、質問に答える。

### 読話指導

- 母音と母音を見分ける。（絵カード遊び等で）  
アシ — ウシ、アメ — ウメ、カイ — カオ
- 母音とパバマ群、ワ群  
アリ — マリ、ウエ — ウメ、アス — バス、カワ — カバ
- 母音とタダナ群  
オビ — トビ、アミ — タビ、ダリヤ — ハイヤー
- パバマ群とタダナ群  
マネ — タネ、パイプ — タイプ、マメ — マネ
- 文中の語を読み取る  
タマゴをわりました — タバコをすいました  
ハサミできりました — ハナビであそびました  
タイコがなりました — ダイコンをきりました  
アセをかきました — カゼをひきました  
カタをもんでください — カサをもってください



読話は、視覚を通して音声言語刺激を受け止める技術で、耳の代わりに目で話されたことを読み取り理解する方法で、読唇ともいわれる。正しい指導を経て一定の態度と技術が身に付くと、大きな効果を発揮する。

読話指導を行う際には、子供が指導者の口や顔、のどを見やすい配置にし、話し手は自然な話し方をすることが望ましい。

指導は毎日短時間、集中的に行うことが効果的である。

具体的なものから抽象的なものへ、見分けやすいことばから難しいことばへと進める。

### ことばの発達促進指導

〈ことばの発達の遅れ参照〉 P119

- 豊富な言語刺激を与える。  
聞きやすい条件のもとで、見やすく、分かりやすく、すべての感覚路（触れる、においをかぐ、体を動かす等）を活用する。  
子供の発声には十分な受け答えをし、ことばを使う意欲を育てる。
- 語いを増やす。  
絵カードのマッチング、かるた取り、ペープサートを使つてのマッチング、絵のさいころ、はめ絵、絵合わせ、絵本、お店の品物、なぞなぞ封筒、箱庭等教材教具を工夫して行う。

例えば、ペープサートを使って絵と絵、絵とことばのマッチングをする。児童の知っているものを入れておき、一つずつ覚えさせたいものを加えていく。

○ 読解力を高める。

絵本の読み聞かせ、言語概念の拡充等行う。

知っている単語を含む文を聞かせて、それに合う絵カードを指示させる。3～4の短文を読ませた後に質問する等。

〈例〉屋根の上に猫がいます。白い小さな猫です。とくどき鼻がピクピク動きます。

- ・何の話ですか。 ・猫はどこにいますか。 ・どんな猫ですか。
- ・ときどき動くのは何ですか。 ・どのように動きますか。

○ 構文能力を高める。

行動、経験、生活の言語化、文章化の指導をする。助詞等の使い方を指導する。

絵を見て作文させる。

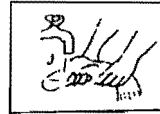
〈例1〉

- ・女の子がかさをさしています。
- ・レインコートを着ています。
- ・雨が降っているので、かさをさしました。



〈例2〉

- ・タオルを水でぬらしました。
- ・タオルをきゅっとしぼりました。



助詞を省略した文を示し、その助詞を答えさせる。格助詞の指導から始め、二語文からだんだん増やしていく。

接続助詞「から」の使用 — 勉強してから、お使いに行きましょう。

助動詞「たら」の使用 — ハンカチを拾ったら、追いかけてみましょう。

絵日記や“ふき出し”を使った作文指導等。

**発声・発語、構音指導** 〈構音障害参照〉 P102

指導の方法は構音障害と同じであるが、難聴児の場合は聴覚の手掛かりが十分に使えないので、視覚や触覚などを併用しなければならない。

声の指導は、聴覚的な手掛かり以外が役立ちにくいので、大変難しい。

**ことばの保存指導**

中途失聴児や進行性難聴の恐れのある子供には、現在のことばがくずれないように、保存指導を行っていく。

子供の耳に代わる感覚路を十分に訓練して、正しい発語をする場合の運動感覚などをしっかりと身に付けさせ、現在持っていることばがくずれないように守ってやる。

- 声の大きさや高さの調節
- ことばの抑揚とリズム
- 話す速さの調節
- 各語音の構音の運動感覚、身体感覚

**心理指導** <吃音参照> P115

- 日常会話やスキンシップ、共感場面を多くして情緒の安定を図る。
- 遊戯療法を行ったり、賞賛を十分与えたりし、行動に自信を持たせる。

**生活指導**

- 体力や耐性をつけ、基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- 生活経験を豊かにさせ、集団生活に適応できる能力を育てる。
  - ・子供会など、地域社会での交流をさせる。
  - ・ルールのある遊び、勝敗のあるゲームを通して、規則を守ることを教える。
  - ・家庭では役割を分担させ、責任を持たせるようにしてもらう。

**教科指導**

- 基礎教科の補習を行う。
- 重複障害児で精神遅滞がある場合は、文字指導、数量指導を行う。  
但し、教科が分かる言語力をもつまでは、言語指導を優先させ、ことばの発達に重点を置いた指導をする。

(エ) 両親指導

難聴児の教育において、両親及び家族の役割は重要である。個別面接や保護者教室などを計画し、保護者が養育環境を整えていけるように援助する必要がある。保護者に対する援助は、次のようなことがある。

- 子供の障害について正しく理解し、率直にそれを受け入れる態度を取ってもらうために、難聴についての科学的情報を分かりやすく話して聞かせる。参考図書やビデオの貸し出しなどを行う。
- 子供の聴力の状態だけでなく、言語発達面、知能面、適応面等についての問題と適切な教育の方針について説明し、理解してもらう。そして、保護者の積極的協力が必要であることを分かってもらう。

具体的な内容は、次のようなものである。

- |                                    |                 |
|------------------------------------|-----------------|
| ・耳の働きと難聴の起こり方                      | ・医療機関との連絡       |
| ・補聴器の扱い方                           | ・難聴児のもつ問題       |
| ・コミュニケーションが成り立っているかの確認（聴覚以外の感覚の併用） | ・豊富な言語刺激の必要性    |
| ・健常児と同じしつけをすること                    | ・教科学習の家庭での援助の仕方 |
|                                    | ・進路について         |

(オ) 医療機関との連携

聞こえの状態を正しく理解するために、定期的または必要に応じて医療機関と連絡を取ることが必要である。反応が悪くなった時などは、必ず診察を受けるように家庭に連絡しなければならない。





## 第VI章 情緒障害特殊学級における 学習指導計画作成上の方針

### 1 指導の基本的な考え方

特殊学級は、通常学級で、学習面でも行動面でも適応上困難をきたす児童生徒を特別な教育的配慮によって指導するために、編成された学級である。従って、特殊学級における指導計画は、部分的にせよ、全面的にせよ通常学級の指導計画とは異なる指導計画が要求され、児童生徒の実態にふさわしい指導計画が用意されなければならない。

とりわけ、情緒障害特殊学級の指導形態がおおむね通級制をとっていることや、指導の対象となる児童生徒が、神経性習癖、かん黙、登校拒否、自閉症等と多様であることから、その状態に対応して指導計画が多様化することは当然である。例えば、情緒が不安定で対人関係に様々な問題行動が頻発する子の指導計画を作成する場合、単に乱暴するといったような表面にでた行動だけを改善しようとするだけでは、決して十分な指導は成立しない。あるいは、以前同じような乱暴する子の指導に効果的であった指導計画が、そのまま適用できないことも多い。つまり、現象は同じであっても、起因する状態の違いやその問題行動が現われてからの周りの対応等の違いによっても、指導の内容や形態が異なってくるはずである。

そう考えると、この障害この問題行動には、この指導法が最適であるということはないはずで、まさに、指導計画の個別化、多様化は避けることのできない課題ということになる。そして、指導計画の個別化、多様化を考える際には、その子を取り巻く学級や学校、家庭、地域等の環境を考慮し、指導計画のなかにそれらの指導要素をはっきりと位置づけることが大切である。

それらを十二分に考慮して作成された指導計画も、問題の改善に役立たないことも起こりうる。考えてみれば、情緒障害特殊学級での個に対応するための指導計画の是非は、計画に基づく実践を通して検証されることになるわけで、実践前の段階での指導計画は、仮説ということになろう。それは、今回の手引きの中で明らかにされた指導計画についても同じことがいえよう。試案、試案(2)と研究を進め「手引書」に至る過程においては、実践に基づく検討やアンケート調査を基にした検討を繰り返し続け、できるだけ実践に役立つ指導計画の作成に心がけてきたつもりである。しかし、前述したように、この手引書の指導計画の内容を個々の子供たちや問題行動にあてはめるのではなく、個々の状態に合うような個別化、多様化する際のひとつの参考にしていただければと考えている。

### 2 指導内容の選定と指導方法

情緒障害特殊学級においては、対象児の情緒の安定を図り、通常学級においてもごく普通に日常生活が営めるようにすること、すなわち、年齢相応に生活ができるようにすることを最終目的にすることになろう。換言すれば、対人関係の改善に始まり対人関係の強化で終わるということになろう。つまり、指導の初期の段階においては、通常学級への導入のための指導内容が選択され、通常学級への導入が部分的に開始された後にはより積極的な参加、適応をめざした指導内容が選択されることになろう。

指導内容は、指導形態とも大きく関係してくる。障害の状態がより重度、または未発達

階では、個別指導が中心となり、対人関係の改善に関する学習や認知学習、基礎的な運動に関する指導及び基本的な言語指導等が内容として選択されることになろう。また、状態が改善するに従い、個別指導で獲得した学習を生活場面に般化させるために、小集団での指導形態を徐々に導入し、運動、作業、教科領域をあわせた指導内容を選択していく必要がでてくる。

具体的には、下記のような内容が考えられるが、通常学級との役割分担を明確にし、緊密な連携を取り合って指導を進めることはいうまでもない。

(1) 対人関係の改善、向上に関すること。

- ・言語、コミュニケーション、話しかけ、ごっこ遊び等

(2) 心身の適応に関すること。

- ・学習態勢の確立、自己統制力等

(3) 感覚機能の向上に関すること。

- ・動作模倣、協応動作、応答学習、概念形成等

(4) 運動機能の向上に関すること。

- ・身体各部の協応、感覚と運動の統合等

(5) 意志の伝達に関すること。

- ・表出、理解、応答、伝達、伝言、言葉づかい、日記、手紙、文章読解、対話等

(6) 領域・教科を合わせた指導に関すること。

- ・日常生活指導、基本的な生活習慣、校外学習、宿泊学習、お楽しみ会、お別れ会、買い物学習調理実習等

### 3 指導計画作成上の留意点

情緒障害特殊学級における指導計画を考える際、ややもすると、学級における指導内容だけを考えがちである。しかし、通級制という指導形態によって指導時間が制限されることを考えると情緒障害特殊学級の指導だけでは、十分な成果は期待できない場合も考えられよう。最終的な目標を、普通の日常生活が営めるようにすると考えれば、通常学級の担任や家庭との連携をはかりながら学校生活や家庭生活における指導についても考慮して指導計画を考えることが大切である。指導計画の作成にあたっては、次のようなことについて留意する必要がある。

(1) 児童生徒の能力・特性を正確に把握して指導のステップを考える。

(2) 児童生徒の興味・関心に配慮し、取り組みへの意欲が喚起できるようにする。

(3) 児童生徒の状態に応じて集団活動を取り入れ、その中で人間関係が育つよう配慮する。

(4) 指導計画を固定的なものと考えず、指導の中で計画に修正を加え続け、指導の効果がより高まるように心がける。

(5) 通常学級の担任や保護者と綿密な連携を保ち共通理解に基づいたかかわり方ができるように配慮する。

(6) 病院等の専門機関との連携を図り、必要に応じて助言・指導が受けられるようにする。

## 第VII章 情緒障害特殊学級の学級経営と学習指導計画

### 1 情緒障害とは

情緒障害とは、情緒の現れ方が激しすぎたり偏っていたりして、自分の意志ではコントロールしにくい状態になり、不敵応行動を呈する状態を指す。しかし、一過性の不適応行動についてはそれほど問題にすることはなく、その行動が、極端な現れ方をしたり、長期間持続したり、固定化してしまった場合には、情緒障害児としての治療教育的なかかわりが必要となる。

情緒障害には、外に向かって攻撃的な行動をとる「非行」や、内にこもる行動としての「かん黙・登校拒否」などがある。また、生理的な面への影響を受けて出る行動としては「チックや夜尿」などの問題がある。さらに、情緒の現れ方の問題ではなく情緒そのものが希薄であったり、欠けている問題としての「自閉」も、情緒学級での指導がすすめられている。

### 2 学級経営

茨城県における情緒学級は、昭和46年度に初めて設置されて以降、年々発展拡充の傾向にあり、今でもその数を増している。現在の学級数は、精神薄弱学級に次いで2番目になっている。

また、対象児は、開設当初の自閉症中心の学級から、心因性のかん黙、登校拒否、神経性習癖など、多様な障害へと広がってきている。

情緒学級における指導は、障害のある児童へのアプローチだけでは、改善の方向に至らない場合も多い。通常学級や家庭との連携も重視していくような、障害のある児童を取り巻く環境の改善を、直接的にアプローチする必要に迫られる場合も多い。

#### (1) 経営方針

情緒障害児の深い理解の上に立って、一人一人の能力や特性を把握し、情緒の安定を図りながら、それぞれの可能性を引き出す指導を通して、基本的生活習慣の確立や集団生活への参加、通常学級での適応行動の獲得を目指す。

ア 問題行動や障害の状態を分析して、症状に応じた指導計画を作成し、実践する。

イ 児童生徒の状態に応じて、個別指導や小集団指導を行う。

ウ 通常学級と緊密な連携を保ち、指導内容について相互の理解を深める。

エ 児童生徒への、より良いかかわり方などについて、家庭との連携を図る。

#### (2) 児童生徒の実態・状態像把握のために

対象児の状態を正確に把握することは、指導の方針や計画を立てるうえで重要である。

次に、その状態像を把握するために、両親や担任との面接の際に明らかにする項目を列記する。それぞれの項目の中から、障害の内容、程度に応じて取捨選択する必要がある。また、指導と並行しながら、検査や面接をすすめ、漸次状態像を明らかにしていくことも必要になる。

##### ア 行動観察

- ・来室時の反応（不安、会話）
- ・保護者との分離状態
- ・保護者との対話、接触状態
- ・指導者との対話、接触状態
- ・学習課題への反応
- ・遊びの内容と動作
- ・その他の特異な行動 等

イ 生育歴

- ・周産期の状況
- ・乳児期の発達状況
- ・幼児期の発達状況
- ・保育, 教育の状況
- ・家族構成
- ・家族の養育態度
- ・病歴と家族の対応
- ・家庭生活の状況
- ・地域とのかかわり
- ・本人の性格特性
- ・主訴とその状態像
- ・相談歴 等

ウ 諸検査

児童生徒の障害の状態を明らかにするためには, 各種の検査が必要である。どの種の検査を用いるかは, 児童の障害によって異なってくる。

検査内容	検査名
知的能力検査	○WISC-R ○田中ビネー ○WPPSI ○PBT ○グッドイナフ人物画検査 ○大脳系精薄児用検査 ○乳幼児分析的発達検査(遠城寺) ○乳幼児精神発達診断(津守式)
行動・社会性に関する検査	○S-M社会生活能力検査 ○社会成熟度診断検査(田研式) ○ABS適応行動尺度
性格・人格に関する検査	○向性検査 ○不安傾向検査 ○問題性予測検査 ○バウム・テスト ○幼児・児童性格診断検査 ○精研式文章完成テスト ○精神健康度診断検査 ○ロールシャッハ法 ○基本的欲求検査
知覚・感覚に関する検査	○ベンダー・グシュタルトテスト ○フロスティック視知覚発達テスト ○視力検査 ○聴力検査
言語の発達・理解に関する検査	○ITPA言語学習能力診断検査 ○言語障害選別検査 ○絵画語い発達検査 ○ことばの聞き方テスト
家族関係検査	○親子関係診断テスト ○家庭診断テスト ○PCR親子関係検査 ○母親性格検査
その他の検査	○狩野・オゼレッキー式運動能力発達検査 ○学級適応診断検査 ○精研式CLAC-III(行動療法用) ○精研式CLAC-II(一般用) ○ソシオメトリックテスト ○ゲス・フーテスト

エ 集団適応

- ・身辺自立の状況
- ・園, 学校での生活状況
- ・園, 学校での交遊関係と遊びの状況
- ・学業成績
- ・製作活動や学習への参加状況
- ・地域での遊びの状況 等

(3) 指導方法及び形態

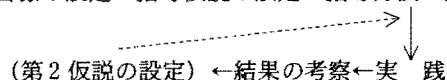
ア 方法

(ア) 対人関係を中心とした環境要因に基づく情緒障害(登校拒否・神経性習癖等)に対しては, 問題行動の除去, 不安や緊張の解消の両面から指導を行う。また, 親の指導, 通常学級との連携を図ることにより環境調整もすすめる。

(イ) 器質性障害に基づく情緒障害(多動・自閉症等)に対しては, 不適切反応の消去, 課題学習等個々の状態に応じて指導計画を作成し, 指導をすすめる。

(ウ) 指導に当たっては, 次のようなプロセスで実践する。

情報収集→指導目標の設定→指導仮説の設定→指導方法の決定



## イ 形態

### (7) 通級・固定による指導

通級とは、在籍、在籍外にかかわらず、児童生徒の障害や発達 の程度により、指導時間 の配当を考え、児童生徒は、配当された時間に来室して指導を受けるシステムである。指導計画を作成するに当たっては、交流、在籍する学級や学校と十分な連携をとる必要がある。特に、各教科・領域のうち、児童生徒の学習が可能なものは、交流、在籍する学級や学校で学習できるように配慮することが大切である。

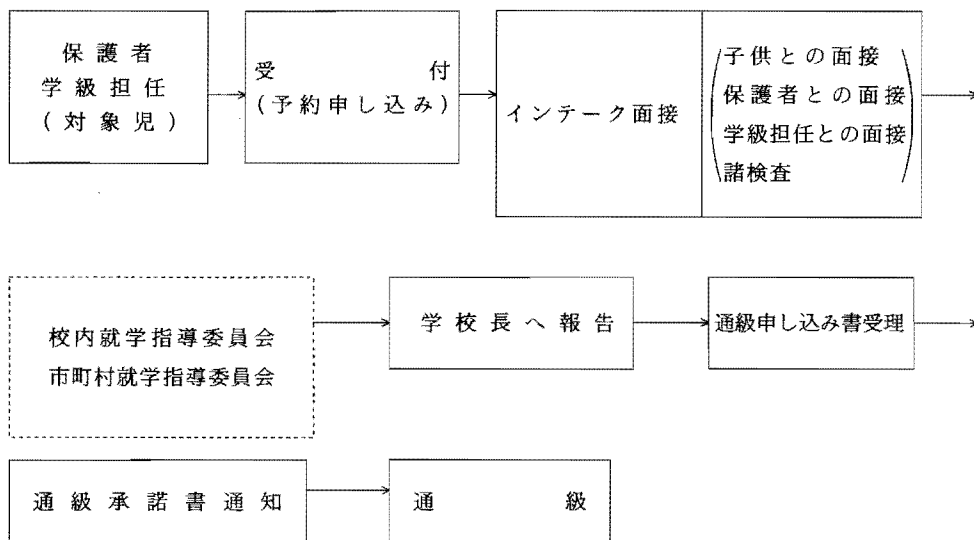
また、固定とは、在籍の児童生徒を、全日、情緒学級で指導に当たるシステムである。指導計画を作成するに当たっては、健全な児童生徒との交流の機会を多くするとともに、個別指導も十分に行えるように配慮することが大切である。

### (4) 個別・小集団による指導

指導に当たっては、一人一人の実態に応じて、教師と児童生徒との、1対1の個別指導、1対複数、複数対複数の小集団指導など、障害の状態に応じた指導形態を配慮することが必要である。児童生徒の心身の発達、障害の状態の変化、指導内容などに応じて、個別指導から小集団指導へ、小集団指導から個別指導へ、あるいは個別、小集団指導併用へと、柔軟で弾力的な指導が行えるようにすることが大切である。

## (4) 通級の手続き

他校から通級して情緒学級で指導を受ける場合の手続きは、次の様な手順で行われる。



- ① 保護者や学級担任からの通知や教育相談の希望は、直接情緒学級または教育委員会を通じて申し込む。
- ② インテーク面接においては、保護者や担任の話を十分に聞き、また、観察・検査などにより、対象児の状態、環境などについて情報を収集する。
- ③ 通級申し込み書は、対象児在籍の学校長より学級設置校の学校長へ提出する。
- ④ 通級承諾書は、学級設置校の学校長より対象児在籍校の学校長へ通知する。

#### (5) 早期発見のための手だて

いかなる問題に対しても、「早期発見・早期対応」が叫ばれるのだが、この情緒障害児教育においても重要性は同様である。情緒学級担任としても「早期発見」への働きかけは、本学級の状況から考えると困難は多々あるが、積極的に取り組んでいかねばならない活動である。

その活動の参考例として、次のような方法が考えられる。

- 校長会を通じて、学校関係者の情緒学級についての情報を流す。
- 幼稚園や保育園関係者への啓発及び情報収集活動をすると共に、就学时健康診断などで早期に発見する。
- 市町村教育委員会や福祉事務所、保健所と連絡ラインを作り、情報収集をする。
- 市町村の広報紙や校内PTA新聞などで、指導対象や指導法について、一般の人々に広く知らせる。
- 学級だよりを作り、校内の教職員はもとより、市町村教育委員会や福祉事務所、各小中学校、幼稚園、保育園などに送付し、理解を得よう努めると共に、年に1～2回感想や要望を聞いてみるのもよい。
- 指導を受けた子供の保護者による自然な宣伝効果も大きいので、学級経営や指導の充実を図る。
- 特殊学級担当者会などの協力を得て、(7)アの資料のような表を利用した実態調査を市町村の全学校（幼稚園や保育園についても情報収集できればよい）を対象として実施し、その結果、対応する必要がある児童生徒には積極的にかかわっていく。

#### (6) 通常学級及び家庭との連携

情緒障害児の教育にかかわるのは、親と情緒学級の担任ばかりではない。特に通級制の情緒学級では、対象児が生活する通常学級の担任との連携は不可欠となる。また、両親、担任と情緒学級担任との関係のよさが果たす役割の大きさも見逃すことはできない。

そこで、下記のような点に配慮しながら三者の連携を強め、共にかかわっている子供の変容に向けて努力していきたい。

- 何が問題で、どう指導を進めていくかも共通理解し合えるようにする。
  - ・現状での親や担任の考え、願いを十分傾聴する。（問題や課題の発見につながる）
  - ・当面の短期目標と最終的な長期目標の双方を相談して作成し、その関係を明らかにする
  - ・短期目標は達成可能な課題（最終目標に直結しなくてもよい）から導入し、本人、家族、担任などの取り組みに対する評価を短期間かつ定期的に行い、関係者を励ます。
- 不適切な対応を指摘する際には、それらに代わる具体的な手だてを必ず提示する。
- 家族間、家庭と学校、担任との関係に問題がある場合には、双方の意見を十分受容し、その上で改善策を検討する。
- 情緒学級担任は、親、子、担任の三者間のよきつなぎ手となって、望ましい関係づくり及び保持に努める。

次に情緒障害児を指導していく上で、通常学級の担任との間に共通理解を図っておきたい事柄を挙げることにする。

##### ① 基本的な生活習慣の学習

通常学級には、様々な指示や生活上のきまりに正しく反応できる子供がたくさんいて、

好ましい行動の多様なお手本が得られる。また、友達の手助けや指導が行き届くことも、基本的な生活習慣を学習するのに効果的と考えられる理由の一つである。

## ② 対人関係の拡大

通常学級の子供たちは、担任がかかわり方の範を示すことで、それぞれの個性に応じた方法で積極的にかかわるようになり、子供同士の相互作用や自然な触れ合いが深まる。

## ③ 長所を生かした、学級の一員としての役割配当

どの子供も必ず長所を持っている。それが生かされるような役割を与え、学級生活に喜びを感じさせるようにする。更に、係活動などを通して、自分が役立っていることを自覚させたりすることが大切である。

## ④ 障害に応じた特別な配慮や指導

健全な子供と同じように接することを原則とし、学級全体が障害児に対して安易な同情や保護をしたり差別感を持たないようにする。そのためには、心身に障害のある子供の問題をその子の特性として認め、学級集団の一員として援助する気持ちを育てるような学級づくりをする必要がある。

## ⑤ 教えねばならないこと

物事のけじめ、やってよいこと・いけないことは、初めからきちんと教えねばならない。甘えを受け止めてやることは必要ではあるが、甘やかすことはよくない。一度身につけたマイナスの行動をかえることはかえって難しくなるので留意しなければならない。

## ⑥ 教えるときのポイントは「冷静に、簡潔にわかりやすく、根気強く」

困った行動に対して、しっ責する方法だけで接することは、子供に恐れ之感から、「カラ」を固く閉じてさせてしまうばかりで、最も効果のないことになるので、冷静に対応し、簡潔でわかりやすく教える。また、根気強い指導も必要となる。

## ⑦ 学年・学期初めの安全管理（自閉児、多動児は勝手に教室を飛び出すことが多い）

自閉症やその傾向にある子供は、一般に環境の変化に対して不安定な状態になりやすい。特に学年始めは、担任や友達、教室などが変わり落ち着かなくなることが多い。教室を飛び出しても、大抵お気に入りの場所（トイレ、校長室、保健室、砂場、水道など）があるので、それをつかみ、追いかけてこにならないように留意する必要がある。

## ⑧ 問題行動（教室をうろうろする、奇声をあげるなど）への対応

本人なりに取り組める課題を与えるなどの配慮をし、少しずつ我慢をさせるようにし、あせらず気長に問題行動の減少に取り組んでいく。机の配置への配慮・工夫（教師の手が届く位置とか。机を3つ続けて2人の間に置くなど）をする。

## ⑨ 得意教科の伸長

能力や特性をよく見つけ、得意教科に自信をつけさせることにより、他の教科にも意欲を持たせるようにしていく。知的に低い子には技能教科を中心に参加を考えていく。低学年では基本的な生活習慣や対人関係を重視して指導することが有効となる。

## ⑩ 通常学級の旧担任と新担任の引き継ぎ

進級と共に学級担任が交替する場合には、旧担任と新担任の細かな連絡や引き継ぎが重要である。能力や特性、問題行動などを新担任が把握できるように、情緒学級担任と旧担任とで配慮することにより、新年度の円滑なスタートを図ることができる。



## (7) 学級の行事

各学校で実施される学校行事の他に、情緒学級では、生活経験を広め、社会性を育てるなどの目的で、学級の行事が計画、実施されている。これらは、情緒学級だけで行う行事の他、交流のねらいを含めて、市町村内の特殊学級が合同で行うものがある。また、保護者、教師の理解・啓発のための行事も実施されている。

以下は、学級の行事の例であるが、学級・地域の実情に応じて、計画、実施することが望ましい。

### ア 児童生徒対象の行事

#### (ア) 学級独自のもの

- ・誕生会    ・収穫祭    お楽しみ会（ひなまつり、七夕、クリスマス等）
- ・校外学習（遠足、体験学習等）

#### (イ) 市町村特殊学級で合同で行うもの

- ・手をつなぐ子らの作品展参加、見学    ・手をつなぐ子らの学習発表会参加、見学
- ・合同学習会（スポーツ交流会、学習発表会等）
- ・校外学習（遠足、体験学習、宿泊学習等）

### イ 保護者・教師対象の行事

- ・父親教室    ・母親教室    ・講演会    ・研修会等

#### ○ 母親教室年間活動計画例

月	活 動 内 容
5月	親の会の活動について
6月	心因性と器質性の情緒障害の違いについて
7月	折り染め小箱作り
9月	夏休みの生活の様子についての話し合い
10月	2学期の家庭・学校での生活の様子についての話し合い
11月	進路の問題（子供の状態と進路について）
12月	進路の問題（養護学校と特殊学級について）
1月	教材作り
2月	1年間の活動の反省とまとめ

(8) 運営の資料

ア. 情緒問題の実態調査用紙の例

平成 年度 情緒問題調査票

秘

学校名 \_\_\_\_\_ 電話 ( ) \_\_\_\_\_

取りまとめ責任者氏名 \_\_\_\_\_

(平成 年 月 日現在)

※ 該当項目に○印をつけてください。

No.	項目	学年	組	氏名	性別		
					男	女	不明
1	休み明けに欠席しがち(登校時になると身体に異常が起こる)である。						
2	毎月平均2日以上欠席がある。						
3	何かと理由をつけて、朝ぐずぐずすることが多い。						
4	学校で、頭痛や腹痛、気分不良を訴え、よく保健室に行く。						
5	登校時、家の人に送ってもらいたがる。(登校を嫌がる)						
6	学校と家との生活態度に大きな差がある。						
7	頻繁(授業中なども)にトイレに行きたがる。						
8	夜尿がある。						
9	給食をまったく食べない。						
10	チック(無意識のうちにしている、身体のごく一部の反復的な動き)がある。						
11	学校では、全くまたは殆ど話をしない。						
12	強迫行動(人に会うと何か言われそうで恐い、何度手を洗ってもまた洗わずにはいられないなど)がある。						
13	落ち着きがなく、学習中よく出歩く。						
14	興奮してかんしゃくを起こしたり、トラブルを起こしやすい。						
15	自分勝手な言動が多く、集団から外れがちである。						
16	全体的には普通の知能であるが、個人の中での能力差が非常に大きい。(例 極端に図形を描くのが苦手で、漢字等は細部を正確に覚えられない。例 計算問題はいつもよくできるが、文章題は殆どできない。)						
17	知能に比べて著しく学力が劣る。(学業不振)						
18	怠学傾向がある。						
19	行動に自主性がなく、まわりに対して依存的である。						
20	乱暴が激しく、破壊的行動がある。						
21	規則や決まりを守ろうとはせず、反抗的態度が多く見られる。						
22	盗みや、家からの金銭の持ち出しをする。						
23	嘘をつくことが多い。						
24	残忍な事をする。						
25	交わる友達がいず、学級でも孤立している。						
26	自閉傾向(人の呼び掛けにも反応しない、視線を合わせない、強いこだわりを見せる、多動など)がある。						
27	その他の問題行動(右の欄に具体的に記入してください。紙面が不足の場合には、別紙に記入のうえ添付してください。)						
今後の指	A 学級の指導で十分である。(このまま様子を見たい)						
	B できれば特別な指導を受けるほうが本人のためになる。						
	C 特別な指導を受けている。(医師、相談所、情緒教室など)						
知能指数	I Q (SSの場合は SS50のように書いてください)						

※ 児童生徒の欄が不足の場合にはコピーして御使用ください。

イ. 面接票（相談票）の例

秘 相 談 票




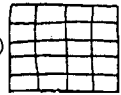
(記入年月日 平成 年 月 日)

ふりがな		男		生年		昭和	
児童生徒氏名		女		月日		平成 年 月 日	
保護者 氏名		続柄		( )		職業	
住 所				電 話			
家 族 構 成	氏 名	年齢	勤務 (在学) 先	氏 名	年齢	勤務 (在学) 先	
				家 庭 状 況			
相 談 歴	昭和 平成 年 月		相談機関名		結果		
	昭和 平成 年 月		相談機関名		結果		
	昭和 平成 年 月		相談機関名		結果		
	昭和 平成 年 月		相談機関名		結果		
生 育 歴	胎 生 期	妊娠中の母親の健康 良好 良くない 病気 ( )					
		妊娠中の異常など ( )					
出 生 期	出 生	出生時体重 ( ) g, 分娩 (正常 逆子 仮死 吸引 その他 )					
		熟産 早産 ( ケ月), 保育器: 有 ( ケ月) 無, 泣き方 (強 普通 弱)					
乳 児 期 △ 0 歳 か ら 1 歳 ▽	乳 養	乳の吸い方 (強 普通 弱), 出産時年齢: 父 ( 歳) 母 ( 歳)					
	発 育	栄養 (母乳 人工乳 混合乳 その他 ), 離乳 ( 歳 ケ月)					
		発育 (良 普通 悪い), 首の座り ( ケ月), 歯の生え始め ( ケ月)					
		かたことの話し始め ( 歳 ケ月), 歩き始め ( 歳 ケ月)					
		♥育てるのに特に気をつけたこと					
	♥育てるのに心配だったこと						

生	幼児期 1歳から6歳	発育 (良 普通 悪い), 知恵づき (早い 普通 遅い)
		健康 (良 普通 病気しやすい), この時期育てた人 ( )
		育て方は (厳しい 普通 過保護), 遊び:主に誰と ( )
		どんなことをして ( )
		近所の友達とは (よく遊びに行った 来れば遊んだ 遊ばない)
		幼稚園又は保育園への通園期間 ( 歳 ヶ月~ 歳 ヶ月) ( ) 年保育
		通園の様子 ( )
		♥お父さん, お母さんはどのように関わりましたか? -----
		♥心配だった行動や変わった癖はありますか? -----
		育
朝の様子 (目覚めが良い てきぱきと準備をする ぐずる事が多い)		
朝食を食べたがらない 洗面や歯磨きを嫌がる 通学班登校を嫌がる		
学業成績 (上 中 下), 好きな教科 ( ), 嫌いな教科 ( )		
運動 (好き 普通 嫌い), 出席状況 (ほとんど休まない 時々休む よく休む)		
友達 (多い あまりいない いない)		
既往症		
はしか ( 歳), 伝染性疾患 ( )		
その他の病気 ( )		
癖・習慣		
夜泣き, 寝ぼけ, けいれん, ひきつけ, 夜尿, 異食, 食べ物の好き嫌い		
指しゃぶり, 爪かみ, 性器いじり, 奇声, チック, 不眠, 事物へのこだわり		
落ち着かない, 風邪をひきやすい, その他 ( )		
現在の 身体 状況	身長 (長身 普通 小さい), 体重 (肥満 普通 やせ), 健康 (良 普 弱)	
	視覚 (近視 遠視 色弱 斜視 その他), 聴覚 (難聴 慢性中耳炎 その他)	
	言語 (吃音 (どもる) 幼児語 その他の言語障害 ( )	
	肢体 (発育不全 奇形 左利き その他 ( )	
相談の 理由	-----	
	-----	
	-----	

個別学習指導記録

1月24日 指導記録 児童名 ○ ○ ○ ○ 担当者 ○ ○

課題および手続き	児童の反応
1. あいさつ	○ OK
2. 会 話 ・登校の様子 ・学校の勉強 ・給食等	○ △△ちゃんの言動が気になって、話に集中できない。 ○ 朝の寒さなどについては実感がわかないらしく、適切なことばが返ってこない。
3. 絵をみて文を作る ① テーブルの(上)に ボールがあります。 (下)                  ねこがいます。 ② はこの(中)に ボールがあります。 (外)                  ねこがいます。 ③ 男の子の(前)に ボールがあります。 (後)                  ねこがいます。	○ 「あります」→「おいてる」と答えることも多い。 ○ 「います」→「ねむっています」とSPで答え、絵の状態をよくみている。 ○ 「テーブルの下に」→「テーブルの中に」と言ってしまう。 ○ 「中」はわかるが「外」ということばは出にくく、実際に教室から外に出してもわからなかった。
4. 算数 (かけ算を用いる文章題) ①  が3たばでは何本? ②  5人分では何こ? ③  8人分では何枚? ④  全部で何枚?	○ 「前」「後」の関係はことばでPr.すればわかる。 ○ 「ボールが」、「ねこが」という様に主語を先に出して文を作らせても、助詞の使い方はほぼまちがえない。  ○ 立式および計算はできるが、答えに何個とか、何本とかいうことばがでない。  ○ ④は立式もできなかった。
5. あいさつ	○ OK 全体を通して、まわりをキョロキョロしていることが多く、集中度が低かった。

エ. 備品一覧 (A校の例)

① 管理備品	ワープロ	画用紙整理棚
時計	冷蔵庫	園児用イス
清掃ロッカー	扇風機	扇形テーブル
裁断機	道具箱整理棚	通路用イス格納台車
電気掃除機	カッティングマット	録音機関係機器
黒板ふきクリーナー	平机	テープ式録音機
掛け図整理台	木製雑誌スタンド	ビデオカメラ
小黒板スタンド	テープキャビネット	ビデオカメラ三脚
告知板	紙芝居キャビネット	カメラ
保育整理ボックス	AVテーブル	ITPA 言語学習能力検査
軽量棚	ワイドテーブル	知能検査 (田中ビネー)
スチール戸棚	ビデオデッキ	(WISC-R)
スリッパ整理棚	ポータブルビデオ	(WPPSI)
ストーブ	ACアダプター	(コロンビア)
ストーブガード		(PBT)
		(大脳式)
② 教材・教具	色ビーズ通し	数の教具箱
オルガン	磁石積木	文字積木
PLM 知覚運動教具	寄せ木パズル	ことばあそびテープ
システム教材セット	ブロック積木	紅白玉いれ
知覚運動技能セット	視知覚学習ブック	動物ぬいぐるみ
平均台	トレーカー	トランポリン
ドライバークレジットボード	数遊び二面式	ままごとセット
発声発語促進器	卓上電話器セット	ジャンボボール
フラワーバスケット	アクリル三面鏡	シーソー
和式ままごとセット	スプリングボール	滑り台
センサーボックス	マルチングキューブ	ままごとサークル
認識テスト教具	ポスト	セブンブロック
カード分類器	立体交通安全セット	ネット投的板
実と小鳥の木	ドリームトンネル	くねくねトンネル
ノブ付きはめ絵	リヤカー	DLM 教育教材表現語絵カード
ローリングシーソー	一輪車	形合わせパズル
造型絵あわせカード	大太鼓	着せ替え人形
ジャンボ身体パズル	文字図形カード	
かな運筆	なわとびボール	
九々練習版	スタンプ遊び	
パイプ自動車	とび箱	
エスポー	スポーツマット	
マジック玉あて	生活訓練教具セット	
学習能力開発プログラム	ラボ絵あわせ	
モザイクパズル	ことば遊びセット	
動物セット	擬音笛	
マーブルマグポート	モンテッソリ色板	
姿勢・動作の模倣カード	野菜・果物模型セット	
足ながペグ		
学習基礎パズル		

### 3 学習指導計画

#### (1) かん黙

##### ア 問題の理解と指導方針

選択性かん黙児とは、場面かん黙児ともいわれ、言語の習得や理解に特別な障害がないにもかかわらず、特定の人や場所（多くは、園や学校などの集団の場）において、「言語を発しない状態の子供」を指してよぶ。その重篤度は、話をしない場面の広さ、筋の緊張の度合い、発症してからの期間の長さによって判断できるとされている。

選択性かん黙が、神経症的な問題として一括しきれないことは、多くの症例から明らかである。選択性かん黙の本質を対人的コミュニケーションの障害としてとらえてみると、コミュニケーションしようとする意欲の乏しさやひずみなどの、社会化への意欲の強さが問題となってくる。そこで社会化への意欲の程度を分類し、指導方針を立てることにした。

##### （ア）積極的依存タイプ

家族や親しい人たちとの間ではよく話すが、学校や幼稚園といった集団の中では話さなくなる。内と外との落差が大きい。沈黙することによって存在を主張しようとする面がある。他者との間に、基本的な信頼関係を形成する能力があり、指導及び予後の見通しは良好である。

##### a 退行現象のみられないタイプ

社会性の未発達がかん黙の主原因と考えられる。そこで指導方針としては、社会性の発達を促す必要がある。

##### b 退行現象のみられるタイプ

発症とともに赤ちゃん返りの現象がみられ、親からの分離に問題があると考えられる。そこで指導方針は安定した親子関係を確立することにある。子供側への指導としては、分離不安などから生じる、他人に対する過度の敏感さと防衛機制を軽くしていくことにある。同時に親への養育態度についての指導を必要とする。

##### （イ）消極的依存タイプ

家庭内でも無口な方で、言語面のみならず他の行動面も含めて、積極的依存タイプに比べて全体的に活力に欠ける。「話さない」という状態の中で安定して、緊張感も少ない。家族の問題意識が低い場合が多い。治療と予後は楽観できない。

##### a 自分を主張したり、承認や支持を要求しようとする傾向が少ないタイプ

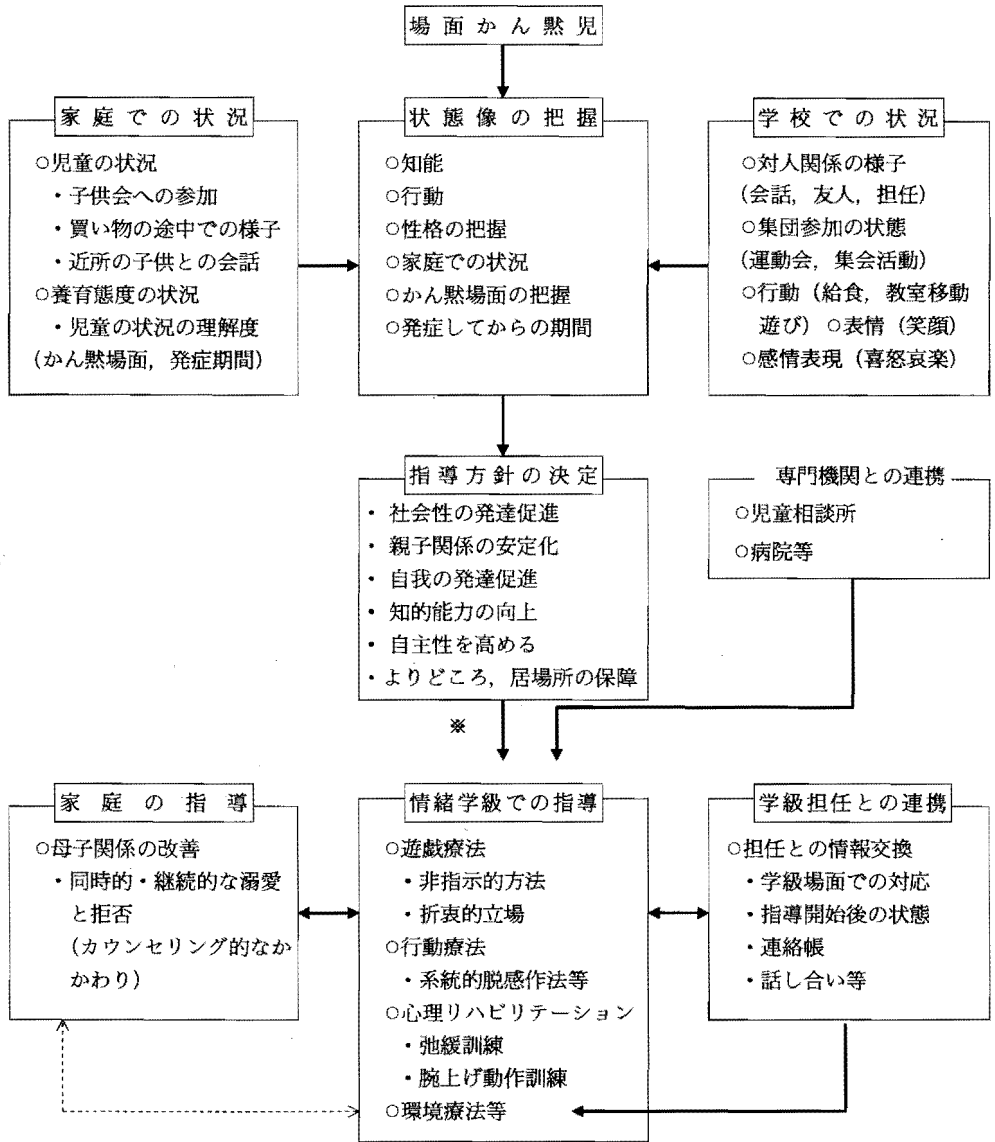
指導方針としては、自我の発達や知的能力の向上、社会的接触経験の拡大を考えていきたい。また同時に、親にも状況を正しく認識させて、共通理解のもとに指導をすすめる必要がある。

##### b 甘えや反抗の表現が a よりさらに少なく、自我の弱さを感じさせるタイプ

家族とのつながりも希薄である。指導方針としては、aタイプと同じであるが、全体的に活力を高める必要がある。

##### イ 指導の実際

##### （ア）全体計画



(イ) 指導の方法及び内容

かん黙児への指導法としては、いろいろな方法が考えられているが、言葉がなくても指導者との関係の形成できる遊戯療法が適していると考えられる。この中でも、非指示的立場や折衷的立場などがあるが、いずれにしても、かん黙の防衛的態度を弱めて、症児が自由に行動し、言語的活動が展開できるようにすることが第一の目標となる。究極的には、症児のパーソナリティーの変容を図る方法で、症児の状態に応じて検討・修正を加えながら展開することが大切である。また、同時に、症児を取り巻く環境の調整を行うことが効果的とされている。

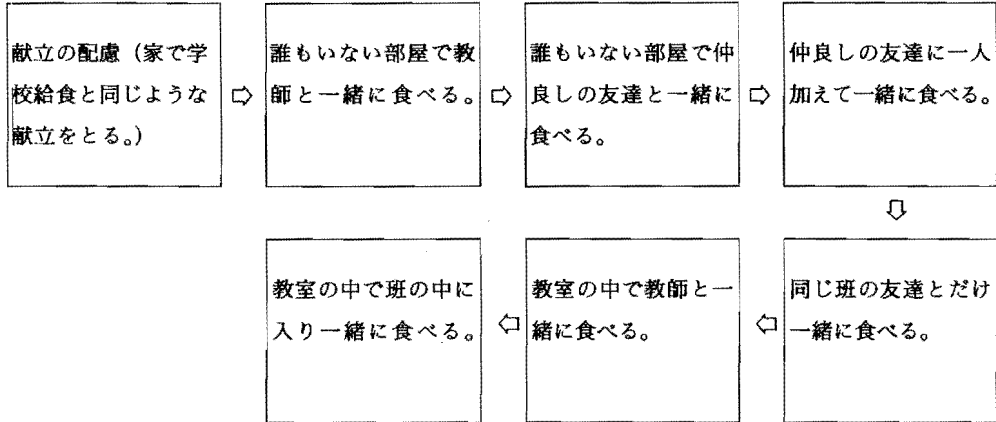


a 退行現象のみられないタイプの指導計画

段階	ね ら い	指 導 方 法	留 意 点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○症状の内面をあるがままに表現させる。</li> <li>○レポートの形成を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○非指示的遊戯療法</li> <li>○箱庭療法</li> <li>○散歩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○症児が活動を始めるまでは、あせらずじっくり待ち、動作や表情に合わせ、自然なかたちで語りかけをしていく。</li> <li>○歩く中で、自分の存在感を確かめさせる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○模範的な活動をさせる。</li> <li>○自主的な活動を促す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○身体的運動での掛け声                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・弛緩訓練的な方法</li> <li>・ラジオ体操の号令（模倣→自立）</li> </ul> </li> <li>○筆談</li> <li>○電話などを使ってサインの交換</li> <li>○うっかり反応場面の設定（個別→小集団）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情意面にふれる会話の内容よりも、日常的なあいさつ、号令などの声かけの模倣から入ると効果的である。</li> <li>○発語を誘導するに当っては、コミュニケーションする必要性を内面から求められるまで、あせりすぎないように待つ必要がある。</li> <li>○態度・表情に自由な感情の表出が見られたら、発語を誘導する「きっかけ」のでやすい場面を意図的に入れる。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○耐性の漸増を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○耐性法の導入                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食</li> <li>・教室移動</li> </ul> </li> <li>○集団遊戯療法                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由遊び</li> <li>・ドル療法</li> <li>・絵画療法</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担当者以外の者（友だち、担任等）を段階的に入れていくことにより、緊張場면을漸次高めていく。</li> <li>○他の児童を入れる場面は、症児と仲のよい児童か、低い活動レベルの児童から入れていく。入室には本人の同意を得る。（中間休み、誰もいない放課後等の時間の利用を考慮する。）</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現実場面への移転を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○通常学級で担当者と症児が対話をして遊ぶ。</li> <li>○家庭での対話の録音テープの利用</li> <li>○友達1～2名、担当者担任と一緒に声を出し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本人の同意を取り、通常学級で家庭での対話の録音テープを級友に聞かせることにより、「話せない」ことへの他児の偏見を除かせる。</li> <li>○本読みは、情緒学級で事前に十分指導した後、友だちの前</li> </ul>

	て本を読んだり、遊んだりする。 ○授業中（学級）本を読む ○うっかり反応場面設定（集団の中で）	で読ませて自信を持たせる。 ○担当者も教室後方で見ている。 ○集団の中で、発語を誘導する「きっかけ」のでやすい場면을意図的に入れる。
--	---	--

b 耐性を段階的に図った指導例（給食指導）



c 担任との連携

- 口をきかない自由を尊重し、無理に話をさせようとしない。
- 学級全体をお互いの気持ちが通う温かい雰囲気にしておく。（特別視をしない）
- 子供に言葉をかける時に、無理に返答を求めるような質問はさける。返答を求める時は、筆談（ノートや紙に書かせる）や手で合図をさせる。
- 常に、担任が児童へ関心をはらっていることが本人にわかるように、自然な態度で接する。
- 担任が一对一で接する機会を作る。（放課後残して遊ぶ、用事の依頼等）
- 緊張度が強く、給食など食べない子は、空き教室で食べさせる。
- 指導経過につれて、2・3人の仲間集団に入れて一緒に遊ばせる。
- 本人の了解を得て、家庭での対話テープを級友に聞かせる。しかし話せることを知った級友が、無理に話をさせたりしないように配慮する。

d 親への指導

かん黙の原因は、家庭的要因が大きいため、両親への教育相談は指導効果を上げるために大切である。親のタイプによっても異なるが、家では話をしているためあまり気にならない親が多い。このような親に対しては、児童の心理機制をよく理解させ、社会性を育てたり、買い物に連れ出したり、親せきや近所の人にあいさつをさせたり、親と一緒に遊んだり、各種の行事に参加させたりして、段階的に緊張場面に連れ出すように助言する必要がある。

(2) 登校拒否

ア 問題の理解と指導方針

身体的な条件や経済的な条件，地域や家庭的な条件などに，登校を妨げる問題がないにもかかわらず，主として心理的な原因で，断続あるいは連続して学校に行かない状態を「登校拒否」とよぶ。「登校しぶり」という言葉もあるが「登校拒否」との明確な区別はない。

その症状を，急性型と慢性型，神経症群と怠学傾向群などとさまざまな類型化がなされているが定説はない。自我の未発達，自主性の発達の遅れなども指摘されている。

登校しぶりや拒否の前歴のない突発的な神経症型の拒否児を除くと，かなり多くの拒否行動に，「学習された問題行動」として登校拒否が含まれていると考えられる。

つまり，さまざまな身体症状や欠席理由の訴えに対して，「学校を容易に休ませる」という，心理面，行動面でのパターンが，無意識のうちに学習されたと考えられる。

(イ) 身体症状を初期症状とする場合

④の流れは，疾病が無いかまたは心身症の場合に，身体症状そのものを受け入れて欠席させてしまうと，初期の心身症の症状をそのまま保持していくか，訴える身体症状が変化していくという形で，悪循環を作っていくもの。

⑤は，身体症状の訴えを認めて欠席させることによって身体症状があれば欠席できる

という学習を成立させることになり，拒否症状の悪化，固定化をまねく流れである。

(イ) 理由のはっきりしないしぶりや拒否行動を見せる場合

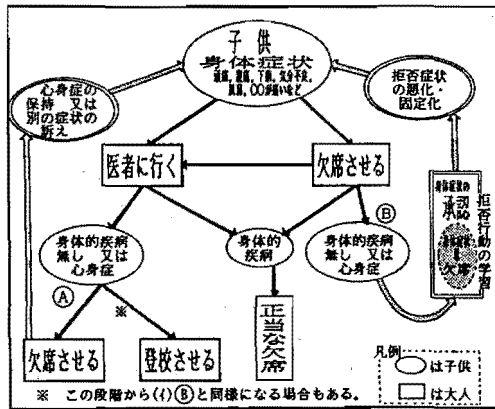


図1 登校拒否行動の学習過程 その1

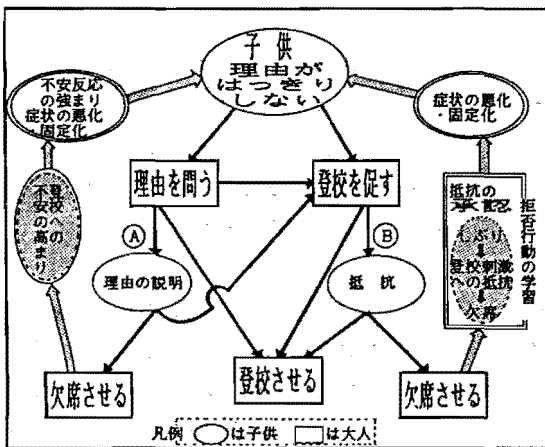


図2 登校拒否行動の学習過程 その2

理由を問うことに始まる④の流れにおいては，理由が聞き入れられることによって，学校への不安反応をより高め，症状の悪化，固定化を生むことになる。

また，理由を問わずに登校を促す働きかけをする⑤の展開においても，登校刺激への抵抗が成功して欠席できると，その欠席が抵抗への報酬となり，ここで拒否行動を学習させてしまうことになる。そして，症状の悪化，固定化につながっていく。

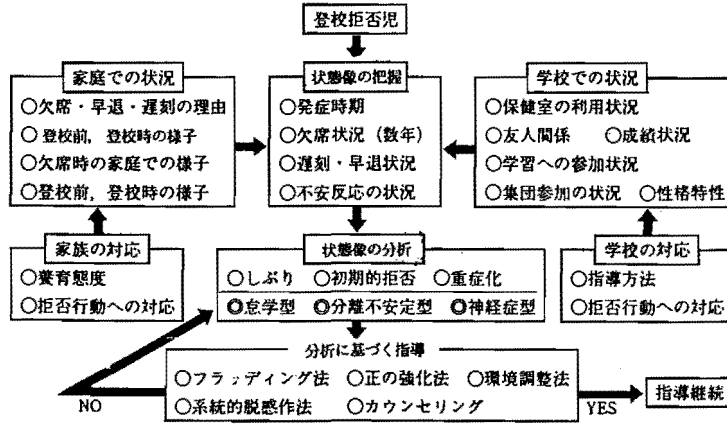
従って、学習された拒否行動に対する指導は、登校にむけての再学習ということを基本にすえて進める。

もちろん、下記のように、拒否の状態によって、指導の方針や対応は変わってこよう。

- 初期的な段階や小学校低学年、怠学傾向、甘やかされ型の拒否児の場合
  - ・フラッディング法
  - ・正の強化法（トークンエコノミー法）等
- 重症化した段階や小学校高学年、中学生及び神経症タイプの拒否児の場合
  - ・系統的脱感作法（継時近接法）
  - ・環境調整法
  - ・カウンセリング

イ 指導の実際

(7) 全体計画



(i) 指導の方法および内容

a 早期発見の手だて

登校拒否の準備状態というのは、幼児期からつくられていると言ってもよい。両親が「学校を休むなんて」と思う前に、何らかの指導をされることが望ましいのは言うまでもない。次のような行動を見せる児童には、早期に対応する必要がある。

- ① 幼稚園を含めて、過去によく休んだ。（年間10日で注意）
- ② 朝になると体調が悪い。（午後は元気）
- ③ 休み明けに体調が悪い。（土、日は元気）
- ④ 友達が少なく、外遊びを好まない。
- ⑤ 家ではわがままだが、学校ではおとなしい。
- ⑥ 父親は、やさしくて家庭内での影がうすい。（心理的な父親不在）
- ⑦ 母親は、過保護、過干渉である。（母親支配型）

b 行動療法的アプローチ

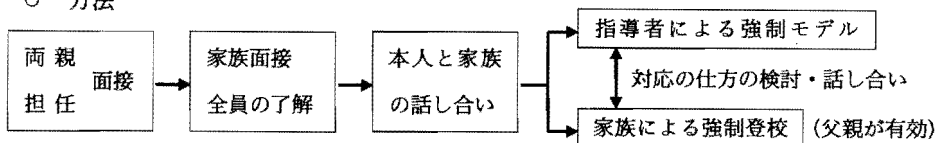
フラッディング法

○ 対象児

- ① 園児及び小学校低・中学年の児童（体力的に対応できる範囲に限られる）
- ② 登校しぶりの子や登校拒否の初期の段階、一過性の拒否の児童
- ③ 怠学傾向の強い登校拒否児（連続欠席、断続欠席ともに）

上記の3項目中、①は必須条件であるが、①～③全てにあてはまる対象児ほど有効である。中学生の神経症型の拒否児に適用することは、大変な危険を伴う。

○ 方法



○ 適用上の留意点

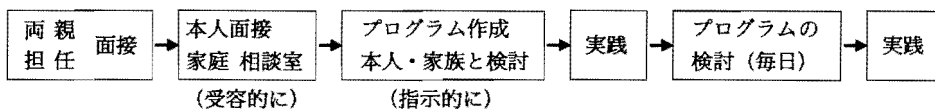
- ① 家族全員の了解を得てから、家族（特に父親）が本人に方針を伝えて導入する。
- ② 朝、拒否の理由を尋ねたり、登校の必要性をくどくど説明せずに、「学校を休むことはできない」といった短い言葉の繰り返しだけで対応する。
- ③ 負の強化による指導法なので、他の指導法（正の強化法）との併用をする。
- ④ 甘え、わがままと断定して、生活全般にわたって厳しく注意したり、指示したりしない。
- ⑤ 指導開始後は、1日の欠席も許さず、自主登校するまで継続する。
- ⑥ 朝の取り組み時以外は、学級、家庭ともに、他の児童と同じ接し方をする。

系統的脱感作法（継時近接法）

○ 対象児

- ① 小学校高学年以降の拒否児で、症状が進み、友人、学校への不安反応の強い児童
- ② 初期の段階だが、家族の対応や体力的な面でフラッシング法が不可能な児童
- ③ 怠学、慢性、分離不安型の拒否行動が長期化、重症化した児童
- ④ 神経症型の中でも、突発的に発症した児童

○ 方法



○ 学校へ導入するためのプログラム例（①，①+②，①+②+③・・・と付加する）

- ①朝7時に起きる ②食事をする ③制服を着る ④玄関まで出る ⑤門まで出る
- ⑥道路まで出る ⑦途中まで行く（A地点→B地点） ⑧校門まで行く ⑨昇降口まで行く ⑩校舎内に入る ⑪保健室に行く（短時間→長時間） ⑫友人との接解（1人→2人→3人・・・） ⑬学級の朝の会に出る ⑭1時間目に出る・・・。

○ 留意点

- ① 当初の本人面接は、受容的な態度で接し、登校刺激をしないようにする。
- ② 人間関係が成立した段階で登校の問題に触れ、本人の意志を十分に尊重したうえで、登校にむけての援助をすることを伝え、プログラム作成の話し合いをする。
- ③ 新しい課題の付加は、現在の課題の遂行状況から判断するが、指導初期には、本人の考えを抑え加減にし、できるだけ小さなステップで付加していく。
- ④ 新しい課題の提示は、予告せずに、導入直前にした方が不安反応が軽減される。
- ⑤ 新しい課題は、週の半ば過ぎ（木、金）に導入し、月曜日までには、不安反応が消失しているか、軽減されるようにしておく。

- ⑥ すでに達成している課題を拒否し、後戻りする状態がでた時には、指示的な強制によって課題を遂行させる必要がある。
- ⑦ 友人との自主登校を導入する際には、前日の晩自宅外（友人、親類）に宿泊させた方がスムーズに導入できる場合が多い。
- ⑧ 課題の遂行には必ず評価を与え（家族も）、それ以外の生活には干渉しない。
- ⑨ 課題の遂行状況により出席扱いになるような配慮をし、本人にもその旨を伝える。

### C カウンセリング的アプローチ

この指導法は、登校拒否児自身による問題解決に、相談、援助、助言などをして、その対象児の人間の発達を助成しようとするものである。様々な援助指導法のあるなかで、カウンセリングの基本的なよりどころとされている「非指導的カウンセリング」理論をもとに、援助のあり方と対象児の変容の過程を述べる。

「非指導的カウンセリング」の理論は、ロジャースによって提示されたものであるが、ここでは「カウンセラーの基本的態度」「非指示的な技法」「クライアントの変容の過程」を中心に記す。

#### (a) カウンセラーの態度の3条件

- ① 自己一致………カウンセラーが裏表なく、自分をごまかさずにクライアントに接する態度
- ② 無条件の肯定的尊重………カウンセラーの好みに合うような態度や考えなどが示された時にだけクライアントを受け入れるというのではなく、クライアントを一個の独立した人格として、彼自身の独自の感情と経験を持ち、彼自身の人生を切り開いていく自由と権利を有する存在として認めていこうとする態度。

#### (b) 非指示的技法（主なもの）

- ① 場面構成………期待や不安を持って来談するクライアントに、次のような事柄を伝えることが重視されている。
  - カウンセリングの場や時間はクライアント自身のためにあり、暴力さえ振るわなければクライアントが自由に振る舞うことのできる場面であるということ。
  - カウンセラーは、クライアントに教えたり指示したりするのではなく、クライアントと一緒にクライアントの問題に取り組んでいくのであるということ。
  - 面接は一定の約束した時間内に限るとのこと。
  - 秘密を守るとのこと。
- ② 単純な受容………「うん」、「はい」、「そう」など、クライアントの話に対する相づちを、価値判断や評価から離れ、クライアントの存在全てを受容するという態度によって行う。カウンセラーとしての修練の第一歩は徹底した「聞き上手」になることである。
- ③ 内容の繰り返し………クライアントが重要な意味を込めて使っている言葉をそのまま繰り返していこうとする応答である。クライアントの抽象的思考水準が低い場合にはこれが利用される。
- ④ 感情の反射………クライアントが表明した感情を、そのまま言い返す技法である。クライアントの様々な表現の底に込められている感情に焦点を当てて、その

まま受け取ろうとするもので、カウンセラーがクライアントの「鏡」になって、クライアントの内的世界を正確に写し出す存在になったとき、クライアントの自己探求が効果的に遂行されるとしている。

- ⑤ 感情の明確化……クライアントが自分の考えや感情をうまく言語化できない時や、ぴったりした表現が見つからない場面で、クライアントの気持ちを正確に深く察知して、適切な言葉や表現で言語化・明瞭化し、クライアントの感情表現を援助する技法である。これには、誤った明確化やカウンセラーの勝手な先読みなどが生じ易いので、クライアントとの相互作用で絶えず確認・訂正されるべきである。

(c) クライアントの変容の過程（体験的過程の変化から）

- ① 最も低い段階……自分自身にかかわる問題は語らず、表現の仕方もぎこちない。
- ② 中間の段階……自分を語るのに困難はあるが、自分の感情や反応に気づきそれを表現することができる。
- ③ 最も高い段階……いろいろな感情の間を自由に動くことができ、それをすばやく理解できる。

カウンセリング関係の中で、クライアントは上述のような変容の過程を歩むものと概念化されたが、より一般的には次の図3のようにまとめることができる。

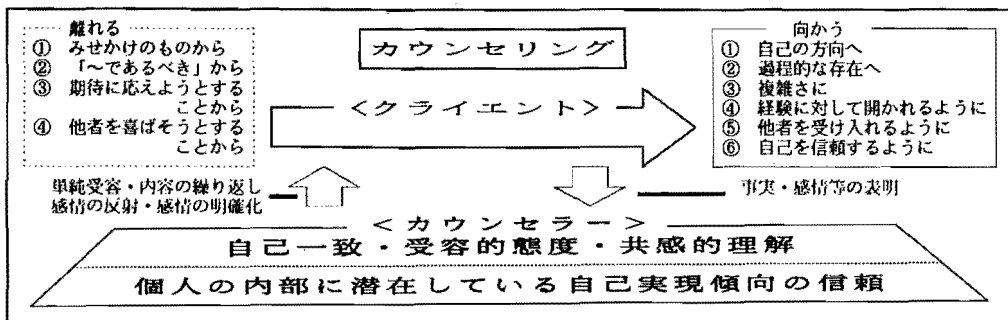


図3 カウンセリングの基本的な考え方（ロジャースの理論から）

(A) 両親への指導

親との信頼関係を深めることに努め、援助活動がスムーズに進められるようにするために、下記の点に留意したい。

- ① 問題点の指摘は、親の不安を高めてしまう。共感的な態度で接し、不安な気持ちをしっかりと受け止める。
- ② 子供の主体性の伸長を図るため、子供のペースで生活させ、自分のことは自分でやれるようなことが大切であると考えられるよう方向づける。
- ③ いたずらに親が登校刺激をしないよう援助する。
- ④ 両親が意志疎通を図り、それぞれの役割を明確にして対応できるよう援助する。
- ⑤ 親が神経質になったり、いらだったりすることなく明るい態度で接するよう援助する。

### (3) 自閉症

#### ア 問題の理解と指導方針

自閉症の状態像や原因論については様々な議論がなされてきたが、現在は本態は何かと問うよりも、行動特徴から定義される「症候群」として考えられている。

ここでは、アメリカ精神医学会によるDSM-III(1980)の定義を述べる。

#### DSM-III

- A 生後30ヵ月未満の発症
- B 他者に対する反応性の全般的な欠如(自閉症)
- C 言語発達における粗大な欠陥
- D 会話が存在する場合は、即時のまたは遅延した反響言語、隠喩的言語、代名詞の逆転のような特異な会話のパターン
- E 周囲の様々な状況に対する奇異な反応、例えば、変化への抵抗、生きているあるいは生命のない対象への特異な興味あるいは愛着
- F 「精神分裂病」におけるような妄想、幻覚、連合弛緩、減裂が存在しないこと。

現在、一般的な指示を得ているのは次の点である。

- 自閉症は、単一の原因から起こる障害ではなく、行動面の特徴から定義される「症候群」と考えられる。
- 基本的な原因は何らかの中枢神経系の機能障害であり、これに環境など周囲からの働きかけに対する子どもの反応が加わることによって多様な症状となってあらわれてくると考えられる。少なくとも、一時期言われたような心因性の情緒障害ではなく「発達障害」としてとらえられている。
- 医学的分野における研究も進んでおり、薬物による治療も報告されている。
- 定義にも示したように、知的発達の程度は広範囲にわたっており、多くは知的発達の程度に比べ、社会性の発達が大きく遅れている。

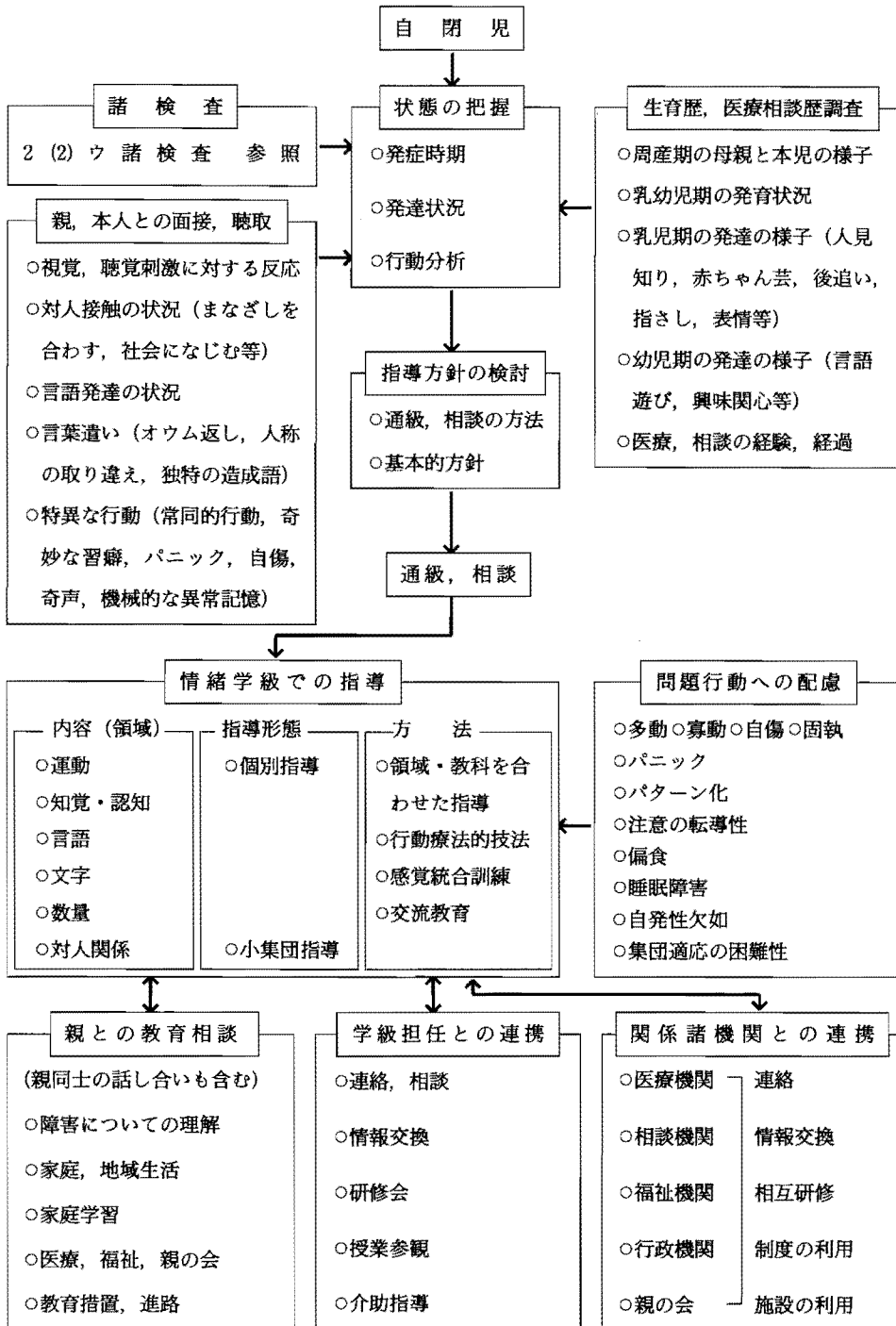
以上のように、個々によって様々な状態像を示し、能力や障害の型も多様な自閉児に対して、共通する画一的な指導法を考えることは難しいが、基本的な方針としては次のような点があげられる。

- 心因性や一過性の情緒障害ではなく中枢神経系の機能障害であることを考えた場合、問題となる行動を「治す」という観点ではなく、障害の特性に合わせていかにうまく「発達を援助する」かが教育の課題となる。
- 発達援助のための教育の場は、学校に限らず家庭や地域を含めて自閉児を取り巻く環境のすべてである。知能面、運動面、社会面、言語面など脳が司る各機能を統合するための、一貫性のある組織的、計画的な治療教育が必要であり、適切に連携して効果的な発達援助ができるよう配慮されなければならない。

#### イ 指導の実際

##### (ア) 全体計画





(イ) 指導の方法及び内容

自閉児は、特有の認知障害や能力のアンバランスがあるため、指導内容を工夫し、通級時数や指導形態に応じて、最も必要度の高い内容から重点的に指導していくことになる。

指導内容の例を、各領域ごとに以下の表に示すが、対象となる自閉児の状態に応じて取捨選択、あるいは新しく工夫したり考案したりしていく必要がある。

a <導 入>

内 容	配 慮 事 項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習態度の形成 呼びかけ、着席訓練</li> <li>○目と手の協応 簡単な事物の操作 (たいこ、びんのふた開け、ひもほどこき等)</li> <li>○簡単な動作模倣(両手を上、横、前に動かす 鼻をつまむ等)</li> <li>○ペグさし、穴うめ、棒さし、型はめ、円柱さし、パズルボックス、絵合わせ、ビーズ通し、図形模写、モザイク積み木、ピクチャーパズル、粘土遊び、トンカチ遊び、折り紙、切り絵、絵カードマッチング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多動・奇声・自傷・パニックなどの問題行動を持っていて指導する上で困る場合は、導入期でいかに消去するかが大きな課題となる。</li> <li>○ 多動な子の場合は、「自由気ままに動く状態」から「他人(指導者)が介入すること」「指導されること」に慣れさせることを目的とする。指導者とのやりとりの中で学習することが、楽しいことだということを味わわせるようにする。</li> <li>○ 自傷行動・パニックの多くは社会的に強化された行動と考えられる。従って、行動の出現を無視するなどの負の強化子を効率的に用いることで消去していく。</li> <li>○ 興味関心のあるもの、得意なもの、わかりやすいものの中から選ぶようにするとやりやすい。</li> </ul>

b <運 動>

段階	内 容	配 慮 事 項
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ランニング、ジョギング</li> <li>○歩行、行進(直線、後ろ歩き、横歩き、かかと歩き、つま先歩き等)</li> <li>○全力走、競争、リレー</li> <li>○動作模倣</li> <li>○ラジオ体操、県民体操、</li> <li>○ダンス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 段階1、2、3は、発達の低い段階から、かなり発達した段階までを示すものである。(他の領域でも同様) しかし、はっきりと段階別に分けることは難しいので、1段階は、歩・走・簡単な模倣を主とした。発達段階の高い子でも、身のこなしに特有のぎこちなさや不自然さが目立つことが多いので、発達の程度にかかわらず取り入れたい。</li> <li>○ 2段階は、器具を用いて体幹を回転させたりゆらしたりして、平衡感覚をつかませようとするものが主である。恐怖心を持っている</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○両足とび、片足とび</li> <li>○ケンケンパー</li> <li>○スキップ、ギャロップ</li> <li>○鉄棒運動</li> </ul>	

2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マット運動 (横回り, 前転, 後転等)</li> <li>○なわとび (短なわ, 長なわ)</li> <li>○幅跳び, 高跳び</li> <li>○とび箱, トランポリン</li> <li>○ローラーすべり</li> <li>○シーソー</li> <li>○ブロックわたり, 平均台</li> <li>○サーキットトレーニング</li> </ul>	<p>子もいるので, シーソーや鉄棒でゆらすなどして徐々に慣れさせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ スキップやなわとびなど連続した動きを要するものは, 基本的な動きを十分身に付けさせないとできにくい。また, 補助をはじめ, 簡単な動作模倣を身に付けているかどうかは重要であり, それだけに指導者と子供のラポートが十分であることも必要である。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○サッカーの基本運動</li> <li>○ミニバスケットの基本運動</li> <li>○ソフトボールの基本運動</li> <li>○左右非対称動作の模倣</li> <li>○連続動作の模倣</li> <li>○指の体操, 手遊び</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3段階は, 集団で行う運動の基本と, 巧み性の高い動きを主眼としている。ボール運動におけるパスは, ボールのやりとりを通して, 注意集中や対人関係の改善にも役立つものであり, よく相手を意識させて行うことが大切である。</li> </ul>

c <知覚・認知>

段階	内 容	配 慮 事 項
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○はめいた, ピクチャーパズル</li> <li>○絵や形と線図形とのマッチング</li> <li>○分類 (実物, 絵, 写真, 色, 形, 大小)</li> <li>○位置の対応           <div style="display: flex; align-items: center; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px; text-align: center; line-height: 20px;">○</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px; text-align: center; line-height: 20px;">○</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin-right: 5px;"></div> </div> </li> <li>○色彩弁別, 呼称, 想起, ぬり絵</li> <li>○音の認知と弁別 (物音, 鳴き声等)</li> <li>○音さがし (センサリーボックス)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ この領域は, 教科学習に直接結びつくものではないが, 自閉児のもつ障害に迫りやすいところである。教材も多数市販されているのでそれらを利用しても効果的である。(モンテッソリー, DLM, 各種発達プログラム教材等)</li> <li>○ 1段階は, 色, 形, 位置関係の知覚を主としたものである。&lt;導入&gt;の内容をそのまま利用してもよい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○比較, 系列化概念 (大小, 長短, 多少, 軽重, 硬軟, 遠近, 広狭等)</li> <li>○規則性の抽出, ルールさがし           <div style="margin: 5px 0;">○○×○○×○○×○○×……</div> <div style="margin: 5px 0;">1 2 3 1 2 3 1 2 3 1 2 3 ……</div> </li> <li>○図形構成 (基石, 積み木, 棒等)</li> <li>○立体構成</li> <li>○空間位置関係…上中下, 前後, 左右 人形を並べて           <ul style="list-style-type: none"> <li>・前から○番目はだれ?</li> <li>・〜と〜の間に〜を置いて</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2段階は, 比較, 構成, 空間関係など相対的な知覚や認知を主とするものである。目的に応じて教材を作成して利用するとよい。</li> <li>○ 新しい課題に入るときに抵抗を示す場合もあるので, いくつかの小さなステップを用意しながら根気よく続けることが大切である。</li> <li>○ 教材に絵や写真などを使う場合, それらが実物と同じものを意味していることがわからなかったり, 配置の仕方によっても反応が変わったりすることもある。だんだん変化をつけたり, 指さしなどの補助をつけて行なうようにするとよい。</li> </ul>

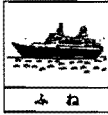
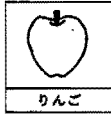
	○事物の関連…用途分類, なかま集め, 上位概念や材質による分類	○ 賞賛や笑顔の強化子は効果的である。
3	○相貌認知, 身体概念 <ul style="list-style-type: none"> <li>・耳をかくしたうさぎなど一部分が見えなくても何だかわかるか。</li> <li>・メスライオン, トラ, ヒョウ, ネコの区別がつくか。</li> <li>・メガネをかけてもだれかわかるか。</li> </ul> ○指さがし (どの指がかくれているか。) <ul style="list-style-type: none"> <li>○かくし袋 (同じものを袋の中に手を入れてとる。)</li> <li>○絵の中のまちがい探し</li> </ul>	○ 3段階は, 前段階よりも創造的な思考を要する課題内容である。自閉児の学習は, かなり機械的・形式的にとどまることが多いためこれを脱却, 発展させるためにも, 身ぶり手ぶりを交えながら応答させるようにする。

d < 言語 >

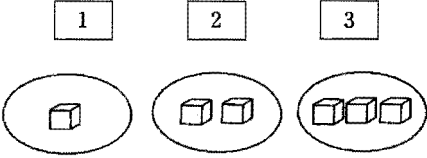
段階	内 容	配 慮 事 項
1	○聞き取り…耳を使う練習 (楽器などの音を聞かせる) ○名称の聞き取り (実物, 写真, 絵等) ○簡単な指示の理解 ○音声表現, 読字訓練 (自発発声, タイミング発声, 単音模倣, 要求等)	○ 音の刺激に対して過剰に反応を示すことがある。徐々にいろいろな音に慣れさせ音を聞くことに対して抵抗をなくすことが必要である。 ○ 発声・発音ができても, 発語ができるとは言えない。読字訓練は文字の弁別学習であり物, 文字, 音の一致をはかる。
2	○異同の識別, 表現 (同じ, 違う) ○状態の有無 (～している, ～していない) ○動作の表現 (～は, ～しています。) ○言語指示による動作 ○諾否応答 ○形容表現 ○短文づくり ○文章構成…2語文～複文, 重文 ○会話応答 ○質問ゲーム <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>質問者</p> <p>T — C</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>質問者</p> <p>C1 — C2</p> <p>          C3</p> <p>          C4</p> </div> </div> <p>「～さんに質問します。」</p>	○ 2段階は, 「～は～である。」というような表現に慣れさせ, これを発展させて簡単な会話応答まで広げていくことをねらいとしている。(オウム返しの消去) ○ 自閉児の多くは, 質問されることには慣れているが, 自分から質問することの経験は少ない。質問ゲームを通して, 質問する側, される側の立場に立って応答させることは有効である。このゲームでは, 立場の理解が難しく混乱してしまうことが多いので, 左図のようにあらかじめ質問者の席を決めておき, 質問者を交代させながら行なわせるとわかりやすい。また, 段階的に小集団で質問ゲームができるようにしていくことは, 対人関係の発達にも結びつくものであり, 重要である。 ○ 3段階の内容は, 大部分の自閉児にとって

	<p>「はい。」</p> <p>「好きな食べ物は何ですか。」</p> <p>「アイスです。」</p>	<p>大変高度なものである。断片的な表現をうまくつなぎ合わせていく補助が必要である。</p> <p>○ 算数文章題は、抽象的なことばの学習でもあるととらえ「あげました」「もらいました」などのことばを動作化するなどでいねいに指導する。</p> <p>○ 関係認識課題は、工夫された絵カードなどをもとにして、補助質問をしながら認識を深めるようにする。</p>
3	<p>○ 抽象的思考課題（算数文章題、用語定義、共通点・相違点の抽出、類推、反対類推等）</p> <p>○ 関係認識課題（場面の統合的表現、かくしテーマ、因果関係、時間推移、能動・受動表現、敬語表現、絵画配列、短文の理解等）</p>	

e <文字>

段階	内 容	配 慮 事 項
1	<p>○ 図形弁別</p> <p>○ 文字弁別</p> <p>○ 指先の機能訓練（ホック、ひも通し、ちぎり絵、はり絵等）</p> <p>○ 書くことに慣れる（なぞり書き、模写、ぬり絵、自由画等）</p>	<p>○ この領域は、&lt;知覚・認知&gt;&lt;言語&gt;と深く関連しており、これらと並行しながら実施するものである。2段階に移るまでには、読字訓練などにより、図形や文字の弁別ができていることが必要である。</p>
2	<p>○ 初歩的な文字学習（マッチング…文字と文字、絵と文字、文字パズル等）</p> <p>○ 漢字の基礎（線、溝書き、なぞり書き、模写、メタルインセツ等）</p> <p>○ 単語、名前を書く</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p>○ 簡単な文章を書く</p> <p>_____ は _____ です。</p> <p>○ 質問に答えて書く</p>	<p>○ 2段階では、なぞり書きや模写の学習を経て、音声を文字化できるようにするのがねらいである。この指導においても「音声を文字カードに置き換える」「文字カードを見ながら模写する」「文字カードを見ないで書く」など段階的に行なうことが必要である。</p> <p>○ 簡単な文章が書けたり、質問に答えて書くことは、多くの自閉児にとってはかなり困難な課題である。特に、助詞の使い方がわからない子には、文字カードを効果的に用いて補助する。</p> <p>○ 3段階では、意思を文字化することをねらいとしている。日記や作文が書け、さらに創作文まで書けるようになれば、通常学級での教科学習は十分可能であると考えてよい。</p>
3	<p>○ 日記</p> <p>○ 作文</p> <p>○ 創作文</p>	

f <数量>

段階	内 容	配 慮 事 項
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数遊び (ポーカーチップ、ブロックなどを並べたり重ねたりする。3～5個程度)</li> <li>○集合遊び (同じものを集める・なかま分け……色・形・大きさ・量)</li> <li>○1対1対応 (おさらにはスプーンやくだもの模型などを1つずつのせる)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数の概念の学習は、自閉児にとって困難な課題である。&lt;言語&gt;や&lt;文字&gt;と同様、あるいはそれ以上に、2、3と段階が進むにつれ、伸び悩むことがほとんどである。特に、数や量をまとまりとして正しくとらえられないことが多いので、1段階での集合遊びなどを、具体物を用いて、ていねいに指導しておくことが大切である。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数概念の基礎 数と実物の対応</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おさらを置く</li> <li>・数カードを置く</li> <li>・積み木をのせる</li> <li>○数唱、数系列 (順並べ、逆並べ、数かくし、大小比べ)</li> <li>○合成分解の基礎</li> <li>○簡単な数式の理解</li> <li>○序数、数詞の理解</li> <li>○各種のゲーム(輪投げ、さいころ、ボーリング、風船バレーボール)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数カードの数字が読めたようでも、順番をランダムにすると読めないことが多いので、課題の出し方に変化を持たせることも必要である。</li> <li>○ ゲームによっては、○×表などを用いて結果を数えさせてみることにより量感を持たせ、これに数字を対応させるなど、具体的・段階的に指導することが必要である。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多少比較</li> <li>○くり上がり、くり下がりの計算の理解</li> <li>○位取り……十進法の理解</li> <li>○かけ算、わり算の理解と応用</li> <li>○金銭計算の習熟</li> <li>○日数計算</li> <li>○時計読み、時間計算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 時間については、日常生活の中から特定の時刻を覚えさせておき、時間を考えて行動できるようにしておくことも大切である。</li> </ul>

g <対人関係>

段階	内 容	配 慮 事 項
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○返事……視線を合わせる</li> <li>○着席行動</li> <li>○基本的身辺処理 (排泄, 食事, 衣服着脱等)</li> <li>○生活習慣の確立 (手洗い, 洗顔, あいさつ等)</li> <li>○身辺の仕事 (当番や係の仕事, 身の回りの整理, 準備, 後始末等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自閉児は, 自分本位の動きは滑らかであるが, 指示・誘導されると動きがかたくなり, 指示者の承認を頼りにしてしまうことや, 行動や生活の方法など具体的に細かく指示されないと動けなくなってしまうことがある。1段階は, 集団適応のための基本的内容であり, 一日の生活の流れをつかませることが大切である。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○交互に取り組むゲーム (棒さしと輪ゴムかけ等)</li> <li>○相手といっしょの遊び (電車ごっこ, つな引き, シーソー等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 対人関係を育てるのは, 生活全般においてであり, どの領域の指導においても, よりよい人間関係をつくることを常に念頭におかなければならない。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○共同作業 (数人で大きな物を運ぶ, 共同作品を作る等)</li> <li>○初歩的な遊び, ゲーム, 競走 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム遊び (タンパリン, すずなどで同じリズムを順番に打つ)</li> <li>・自己紹介ゲーム (肩やひざをたたいて次の人に回す。…名前, 男女, ○年生等)</li> <li>・指さしゲーム (この中で～の人はだれでしょう…いっせいに指さす)</li> </ul> </li> <li>○その他 (かるた, いすとりゲーム, 買い物ごっこ, ことばあつめゲーム等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2, 3段階の内容は, 自閉児が課題に取り組む中で, 指導者や他の児童とかかわりを持たざるを得ない場面を考えたものである。</li> <li>○ これらの内容は, 小集団での指導, できれば精神遅滞児との混合集団が効果的である。場面に応じた助言や, ルール理解のための補助などが必要である。</li> <li>○ 集団の中で活動できているか, 楽しそうな表情で参加できているかということも, 評価のポイントである。</li> </ul>

(ウ) 関係諸機関との連携

多動, 自傷, 睡眠障害, 注意の転導性などが著しい場合には, 医療機関との連携が必要である。また, 軽重の差はあっても, 生涯背負っていく障害であることを考えれば, 福祉関係機関との連携も欠かせない。これらの諸機関との橋渡しをすることも情緒学級担当者の役割であろう。

# 相談教室個別学習指導案

指導者 ○○○○

- 1 課題 言語、弁別、数量課題（会話、応答、大小・長短・多少、  
合計金額の計算、おつりの計算）

## 2 課題設定の理由

本児は、コミュニケーションの手段としての言語の発達に遅れがある。そのため、会話の学習の時や質問されたことが理解できない時などに、オウム返しや泣き出ししたりする頻度が高い。

本児にとって、大小・長短・多少などの弁別や、買った品物の合計金額を算出することなどは、日常生活の中で必要なことである。

そこで、日常的な会話のパターンを指導するとともに、生活の中に生かしていける課題として、本課題を設定した。

## 3 目標

- ・言葉を理解したり、言葉で表現したりする能力の向上を図る。
- ・上下・前後・左右・大小・長短・多少・高低・軽重等の弁別力を高める。
- ・学習課題を遂行することにより、耐性・持続性・集中性を養う。

## 4 児童の実態

- (1) 児童名 C男（昭和56年○月○日生まれ、4年）  
 (2) 障害名 自閉症（診断・・・T大学K教授）  
 (3) 生育歴

胎 生 期	・特記事項なし。	出 産 時	3480g。吸引分娩。
乳 幼 児 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おとなしく、あまり手がかからない。・始歩11か月。</li> <li>・12か月、呼んでも振り向かない。</li> <li>・2歳頃から片言を使い始める。</li> <li>・一人遊びが多い。</li> <li>・看板やカレンダーの文字や数字にこだわる。</li> <li>・昭和61年10月、指導開始。</li> </ul> <p style="text-align: center;">（満5歳時）</p>	学 童 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和63年4月、本校入学。</li> <li>・不安感情が強く、初めての場所に連れて行こうとすると、泣き出し、しゃがみこんで抵抗する。</li> <li>・呼びかけや指示に対する反応が遅い。</li> </ul>

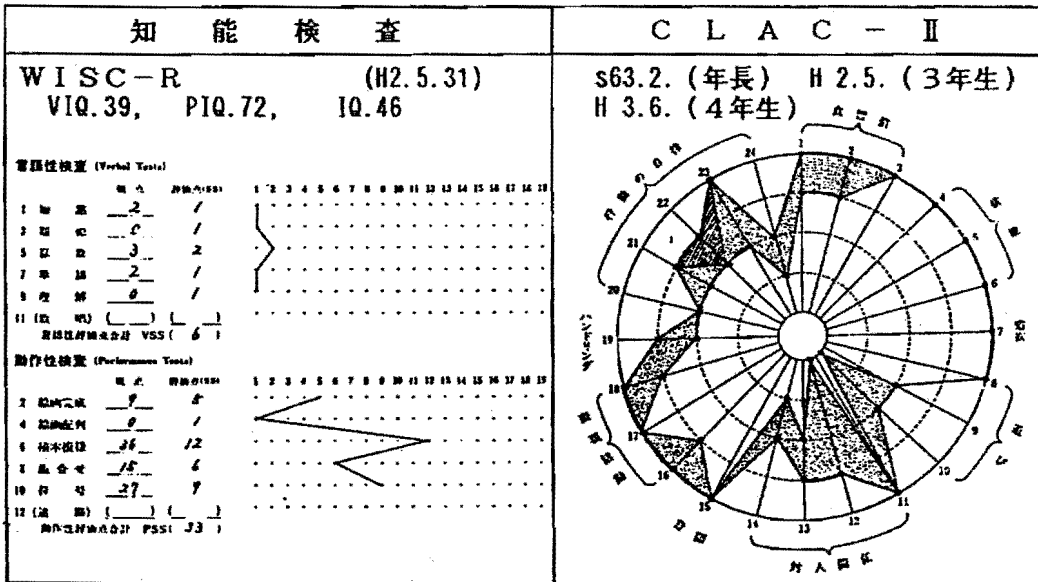
- (4) 家族構成 父親（会社員） 母親（無職） 妹（○歳）



(5) 問題傾向

- ・1単位時間着席していることは可能になってきたが、自分が何をやればいいのかがよく分からなかったり、周囲が騒がしいと泣き出すことがある。
- ・周囲の様子を見て行動することができるようになってきたが、指示を理解する能力が低いため、明確な指示をしないと、自発的に行動することは難しい。
- ・改善はされてきているが、偏食の傾向が残っており、食事に時間がかかる。
- ・コミュニケーションの手段としての言語の使用が未熟である。
- ・子供やあまり関係のとれていない人には、自分からかかわろうとしない。
- ・チャイムや音楽などの音に対して、耳をふさぐ、大声を出すなどの、過敏な反応を示す。

(6) 諸検査



5 指導経過

(平成3年7月20日現在)

- ・個別指導においては、着席行動・課題遂行行動・指示に従う行動等の形成をねらいとして、基礎的学力の向上を中心に、言語・数量・弁別・作業について課題学習を実施した。現在では、課題からの逃避が徐々に減少し、通常学級においても、計算練習や漢字練習などの学習に取り組める場面が増加している。
- ・小集団指導においては、模倣力・指示に従う行動・耐性・持続性などの伸長や、対人関係の幅を拡大させることをねらいとして、運動(踏み台昇降運動・筋力運動・サーキット運動・長なわとび等)や作業(スナップはめ・シール貼り・のれん作り・貼り絵・雑巾がけ等)を中心課題とした。現在では、動くことさえ嫌がらなくなり、友達が近くで大声を出しても、極端な回避が見られなくなってきている。

さらに、ルールや順番を守れるようになってきているとともに、模倣力等の伸長により、通常学級においても、体育や図工・書写等で集団適応場面が増加している。

- ・母親指導については、「心の安定の場はお母さん」であることを継続指導してきた結果、受容していく接し方や、場に応じて子供に対応していく柔軟な接し方が見られるようになってきている。
- ・通常学級の担任とは、毎日の情報交換により、担任や友達が、本児にどのようにかかわればよいかということや、偏食等に対するの対策において、連絡を取り合いながら指導を進めている。

## 6 指導計画

第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時 本時	第7時	第8時
あいさつ _____>							
小会話 _____>							
質問に対する応答 _____>							
大小・長短・多少の弁別 _____>							
合計金額の算出 _____>							
おつりの計算 _____>							
-----							
(予備)							
トランプ計算ゲーム      筋力運動      日記							

## 7 本時の指導

### (1) 目標

- ・質問や指示を集中して聞くことができる。
- ・質問に対して正しく応答することができる。
- ・会話や弁別課題を最後までやり通すことができる。

### (2) 準備

多様形ビーズ 長さ比較棒 コップ 水 品物・金額カード トランプ

### (3) 展開

具体目標	学習内容及び活動	指導上の留意点	評価
	1 あいさつをする。 2 お話をする。 ・月日・曜日・天気 ・朝食のメニュー等	・本児に号令をかけさせる  ・オウム返しの応答には、同じ質問を繰り返す。	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問に対して応答することができ</li> <li>る。</li> <li>・大小・長短・多少を比較することができる。</li> <li>・課題を理解し、正確に計算することができる。</li> </ul>	<p>3 学校や家庭のことについて答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校名・学年・組</li> <li>・担任名・氏名</li> <li>・住所・電話番号</li> <li>・家族について等</li> </ul> <p>4 大小・長短・多少を比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「～を取って。」</li> <li>・「～はどっち。」</li> </ul> <p>5 合計金額の計算をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2品以上の合計金額を計算する。</li> </ul> <p>6 おつりの計算をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5で計算した合計金額を使って。</li> </ul> <p>7 あいさつをする。</p>	<p>基本的には、「あなたの～は？」の形で質問し、言葉を変えても何度か実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オウム返しが改善されない時は、モデルを示す。</li> <li>・大小の弁別には多様形ビーズを、長短の弁別には長さ比較棒を、多少の弁別にはコップと水を使用する。</li> <li>・課題を把握できない時や弁別が困難な時には、モデルを示す。</li> <li>・合計金額の算出は、紙に計算させる。</li> <li>・計算の仕方を忘れてしまっている場合は、モデルを示す。</li> <li>・本児に号令をかけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問を注意して聞き、正しく応答することができたか。</li> <li>・途中で課題を回避せず、大小・長短・多少を比較することができたか。</li> <li>・自分から進んで、正確に計算することができたか。</li> </ul>
	<p>(予備)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算ゲーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に飽きてきた場合等に実施する。</li> <li>・トランプを使用し、出た数で四則の計算をさせる。+・-・×・÷の記号は、指導者が入れる。</li> </ul>	

# 相談教室小集団学習指導案

指導者〇〇〇〇

## 1 題材 よく考えよう

### 2 題材設定の理由

自閉児の集団適応や社会的自立には、体を動かすことを嫌がらないこと、相手の指示を理解すること、品物を弁別すること、周囲の人々と協調して活動できることなどが大切な要素として考えられる。

一般的に自閉児は、協調性に欠けるといわれているが、本校の自閉児も、周囲の友達となかなか協調して活動することができない。またなかには、体を動かすことを嫌い、動こうとしない自閉児もいる。

言語指示による運動課題は、体力の向上とともに、巧み性・協応動作・持続性・耐性・集中性・音声（言語）弁別力など、社会的自立のための基礎的能力を養うことができる。さらに、集団で運動することにより、友達の良いところを模倣する、お互いを励ますなどの、相手を意識して行動するという、集団適応に必要な力を伸ばすことができる。

また、言語（文字）指示による、色・形・品物・数・上下・左右などの弁別課題は、弁別力はもちろん相手の言葉や課題に対する集中性の向上に大きな役割を果たすものとする。

そこで、児童の能力差に応じた、指導者の言語指示による課題を遂行することで、集団適応や社会的自立に必要な基礎的能力を身につけられると考え、本題材を設定した。

### 3 目標

- ・ 体を使っての運動課題や言語指示による弁別課題により、運動能力や弁別力を高め、社会的自立に必要な基礎的能力を伸ばす。
- ・ 課題遂行のなかで、ルールや約束を守る態度を身につけることにより、集団適応を図る。
- ・ 小集団で活動するなかで、友達へのかかわり方や、子供同士で遊ぶ楽しさを体得させ、場に応じた言語の使用ができる能力を養う。

### 4 児童の実態

- (1) 児童名
- |     |                 |
|-----|-----------------|
| A 男 | (昭和〇年〇月〇日生, 2年) |
| B 男 | (昭和〇年〇月〇日生, 3年) |
| C 男 | (昭和〇年〇月〇日生, 4年) |
| D 男 | (昭和〇年〇月〇日生, 5年) |

## (2) 生育歴

	A 男	B 男	C 男	D 男
胎生期	・特記事項なし。	・特記事項なし。	・特記事項なし。	・特記事項なし。
出産時	・鉗子分娩。	・正常分娩。	・吸引分娩。	・正常分娩。
乳幼児期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始歩1歳2か月。</li> <li>・始語10か月。</li> <li>・3～4歳までは言葉の遅れが目立った。</li> <li>・幼稚園では、教室からの飛び出しが多かった。</li> <li>・友達と遊ぶことが少ない。</li> <li>・興味を持ったものには2～3時間取り組めるが、それ以外では、じっとしていることはできない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始歩11か月。</li> <li>・1歳3か月頃、意味不明音声が出始める。</li> <li>・言語としての発声は見られない。</li> <li>・知恵づきが遅く、友達とはあまり遊ばない。</li> <li>・言語面や社会性が未発達。</li> <li>・3歳6か月ごろからT病院で指導を受ける。</li> <li>・4歳6か月から保育所に入所。友達の活動を模倣する場面が少しずつ見られるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始歩11か月。</li> <li>・おとなしく、あまり手がかからない。</li> <li>・12か月、呼んでも振り向かない。</li> <li>・2歳頃から片言を使い始める。</li> <li>・一人遊びが多い。</li> <li>・看板やカレンダーの文字や数字にこだわる。</li> <li>・昭和61年10月、指導開始。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始歩1歳3か月。</li> <li>・1歳6か月頃、次男出産のため祖母宅で1か月養育、帰宅後喃語消失。</li> <li>・3歳頃、自動車の前に飛び出す。</li> <li>・5歳ごろ転居し、3か月ぐらいは、目を離すとどこかに行ってしまう。</li> </ul>
学童期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成2年4月より当教室で指導開始。</li> <li>・あることがらに執着し、それに向かっては、他への切り換えに時間がかかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成元年4月より当教室で指導開始。</li> <li>・外で遊ぶことを好む。</li> <li>・言語面や社会性が未発達。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和63年4月、本校入学。</li> <li>・不安感情が強く、初めての場所にいこうとすると泣き出し、しゃがみこんで抵抗する。</li> <li>・呼びかけや指示に対する反応が遅い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和62年9月より当教室で指導開始。</li> <li>・集団登下校ができる。</li> <li>・日常生活全般にわたり、時間はかかるが一人でできる。</li> </ul>

## (3) 家族構成

A 男	B 男	C 男	D 男
<ul style="list-style-type: none"> <li>・父親（公務員）</li> <li>・母親（無職）</li> <li>・妹</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・父親（農業）</li> <li>・母親（農業）</li> <li>・兄</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・父親（自営業）</li> <li>・母親（無職）</li> <li>・妹</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・父親（会社員）</li> <li>・母親（無職）</li> <li>・姉</li> <li>・弟</li> </ul>

(4) 監査

	A 男	B 男	C 男	D 男
知能検査	WISC-R (H2.5.21) VIQ. 100 PIQ. 130 IQ. 116	WISC-R 測定不能  PBT (H2.2.8) IQ. 104 DAM (H2.9.6) IQ. 62	WISC-R (H2.5.31) VIQ. 39 PIQ. 72 IQ. 46	WISC-R (H2.6.18) VIQ. 49 PIQ. 67 IQ. 50
CLAC-II	対人関係・行動の自律に落ち込みが見られる。	遊び・言語・表現活動・行動の自律に落ち込みが見られる。	遊び・対人関係・行動の自律に落ち込みが見られる。	遊び・対人関係・表現活動・行動の自律に落ち込みが見られる。

(5) 問題傾向

A 男	B 男	C 男	D 男
<ul style="list-style-type: none"> <li>・転導性が強い。</li> <li>・特定のことがらに執着し、それに向かっている時は、他への切り換えに時間がかかる。</li> <li>・自分の思い通りにならない時など、大声で泣くことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習中少しするとうなり声を出し、自分の思い通りにならない時などには、大声を出したり泣きさげんだりする。</li> <li>・言語による意思の疎通が図れない。</li> <li>・本児から他者への働きかけの頻度が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が何をやればいいのかがよく分からなかったり、周囲が騒がしいと泣き出すことがある。</li> <li>・指示を理解する能力が低く、明確な指示をしないと、自発的に行動することは難しい。</li> <li>・コミュニケーションの手段としての言語の使用が未熟である。</li> <li>・子どもや、あまり関係のとれていない人には、自分からかわろうとしない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順番を待っている時などに、他者を非難する言動が多く見られる。</li> <li>・他の人からの問いかけに対する反応が良くない。</li> <li>・コミュニケーションとしての言語の使用が未熟で、対人関係が円滑でない。</li> <li>・サ行がタ行に置換。</li> </ul>

## 5 指導経過

- ・特に本年度は、友達を意識したかかわりを多くすること、学級集団への適応を図ることを重点的な目標とし、小集団での日直当番をさせたり、順番を決める時などにジャンケンを多用したりしている。学級集団ではどうしても友達に保護されてしまう傾向にある児童たちであるが、小集団の中では責任を持って活動せざるをえない。日直として出席をとる仕事にしても友達が返事をするまで呼ばなければならない。また、はっきりと返事しなければ何回でも呼ばれるということになる。そのような活動の中から、責任感や連帯感を身につけ、通常学級への積極的参加の足がかりの1つになればと考え、実施している。
- ・話し合い活動の場面では、A男とD男が中心になるが、B男やC男のことも考えながら、話し合わせるようにしている。また場に応じた適切な言葉の使い方についても合わせて指導している。
- ・B男とC男には、それぞれの言語理解力に応じた言語指示により課題を提示している。また、言語によるコミュニケーションが、比較的円滑に図れるA男とD男は、単純な言語指示はもちろん文字による指示やクイズ方式による類推的な指示なども課題にしておき、対応できる場面が増えてきている。

## 6 指導計画

第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時 本時	第7時	第8時
集合・整列・あいさつ・出席確認					→		
言語指示の動作化					→		
筋力運動					→		
弁別ゲーム					→		

## 7 本時の指導

### (1) 目標

- ・最後まで運動をやり通すことができる。
- ・言語指示を理解し行動することができる。
- ・友達と仲良く活動することができる。

### (2) 準備

出欠板 色板 形の板 果物模型 得点板 得点マーク

(3) 展開

具体目標	学習内容及び活動	指導上の留意点		評価
		全体	個別	
<p>・言語指示を理解し行動することができる。</p> <p>・友達に声をかけながら運動することができる(A男・D男)</p> <p>・途中で拒否せず、運動ができる。(B男・C男)</p>	<p>1 あいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合・整列</li> <li>・あいさつ</li> <li>・呼名→返事</li> </ul> <p>2 言葉を聞いて動作をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手(右手・左手・両手)を上・横・前・頭・腹・まわすなど。</li> <li>・足(右足・左足・両足)を上げる・下げる・前・後ろ曲げるなど。</li> <li>・足(右足・左足・両足)で跳ぶ。</li> <li>・座る・寝る・立つなど。</li> </ul> <p>3 言葉を聞いて運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・腕立て</li> <li>・腹筋</li> <li>・背筋</li> <li>・スクワット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1列横隊で集合させる。</li> <li>・呼名は、きちんと返事ができるまで、何回でもさせる。</li> <li>・言語指示の動作化を通して、「聞く」ことへの集中力を高める。</li> <li>・自然な流れの中で、次の筋力運動への準備運動をさせたい。</li> <li>・集中できず動作化しない児童には、動作化の手助けをする。</li> </ul> <p>・言語指示の動作化から、自然な流れで筋力運動に入りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各運動を30カウントずつ2セット実施させる。</li> <li>・カウントは全員にさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「気をつけ、礼」の号令と出席確認は、C男にさせる。C男ができない時は、希望者にさせる。</li> <li>・左右を理解していないB男や、左右を間違えている児童には、正しく動作化している児童の模倣をさせる。</li> <li>・言語指示は理解できるが、気の散りやすいA男とD男には、必要に応じて言葉かけをし、注意を集中させる。</li> </ul> <p>・A男やD男が、友達を励ましながらか運動できるよう、言葉かけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中途半端な運動が予想されるB男とC男には、体に触れることによりしっかり取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語指示を理解し正しく動作化することができたか。</li> </ul> <p>・友達を励ましながらか、自分もしっかり運動することができたか。(A男・D男)</p> <p>・途中で泣かずに運動することができたか。(B男・C男)</p>



<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語や文字の指示により、弁別ができる。(B男)</li> <li>・言語や文字・クイズ方式の指示により、色・形・数・品物・上下・左右の弁別ができる。(A男・C男・D男)</li> </ul>	<p>4 さがしものゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色</li> <li>・形</li> <li>・果物模型</li> <li>・個数</li> <li>・上下</li> <li>・左右</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能力に応じて、課題を指示する。</li> <li>・友達への指示にも耳を傾けるよう、時々言葉かけをし、全員の注意を集中させたい。</li> <li>・課題遂行後に、全員で確認をし、正解の時には、みんなで拍手により賞賛する。</li> <li>・正解の時には、得点マークを得点版に貼らせ、その合計により競わせる。</li> <li>・最後に結果を発表しお互いのがんばりを拍手でたたえたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B男には、課題が明確にとらえられるよう、果物模型から取り組ませる。</li> <li>・B男が課題を把握したら、言語と文字による指示を並行して実施する。</li> <li>・A男・C男・D男には、言語・文字・クイズ方式による指示を並行して実施するが、C男は、その時の状態により、指示の仕方を配慮する。</li> <li>・各自に聞かせ、考えさせたいので、課題遂行中にA男とD男には、友達の援助をしないよう、必要に応じて言葉かけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語や文字の指示がわかり色・形・品物の個数を間違えずに持つて来ることができたか (B男)</li> <li>・指示を正確に理解し、弁別することができたか。(A男・C男・D男)</li> </ul>
	<p>5 片付けをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員に役割分担をし、片付けさせる。</li> <li>・早く終わった児童には、友達を手伝わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から動かないことが予想されるB男とC男には、言葉かけ・指差しなどで援助する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に片付けができたか。(B男・C男)</li> </ul>
	<p>6 あいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合・整列</li> <li>・あいさつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1列横隊で集合させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「気をつけ、礼」の号令は、C男にさせる。C男ができない時は、希望者にさせる。</li> </ul>	

#### (4) 神経性習癖

##### ア 問題の理解と指導方針

神経性習癖には、指しゃぶり、爪かみ、チック、夜尿、偏食、常同行動など様々な状態がある。習癖そのものは、多少の差はあれ健常児にもみられるものであるが、その行動が固定化してまわりに遠和感を与えるようになり、集団生活や社会生活上支障をきたすように悪化した場合は指導の対象となってくる。

人間は、心理的に不安が高まったり緊張状態におかれると、そわそわしたり、身体の一部を小刻みに動かすという無目的な動作がでることが多い。ところが、この無目的な動作が、一時的にしろその不安や緊張をやわらげたり、解消したりする役割を果たすと、強化因として併用してその動作を強め、次第に習慣化し、無意識の反応となって維持されるようになる。

子供の場合、心理的な不安や緊張をもたらす要因としては、しつけや勉学、行動などに対する両親の過度の干渉・支配が強く、特に清潔や整とんなどに完全主義が見られたり、家庭内における不和などが考えられる。また、指しゃぶり、爪かみ、チック、夜尿など、様々な問題行動のある子供は、一般的に落ち着きがないなどの問題をもつことが多く、普通以上に親の叱責や干渉を受けやすく、さらに不安や緊張が高まるなど、悪化・固定化しやすい傾向にある。

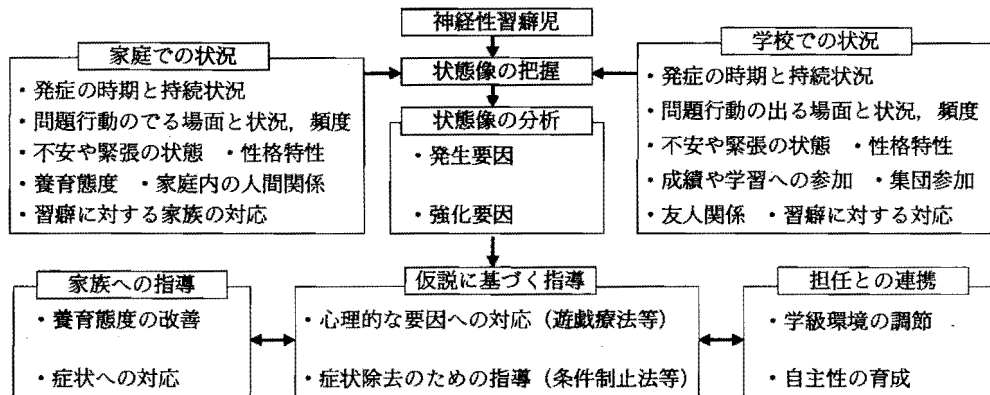
指導の方法は、大きく分けて次の2つになるが、双方を併行して進めることで、より効果が期待されよう。そこで基本的な方針としては次のような点があげられる。

(ア) 問題行動の背景にある心理的な不安や緊張を除去する。

(イ) 問題行動そのものを除去する。

##### イ 指導の実際

##### (ア) 全体計画



##### (イ) 指導の方法及び内容

指導方法としては、大きく2つに分けることができる。一つは、問題行動の背景となっている心理的な不安や緊張の除去に焦点をあてた指導法で、遊戯療法や自律訓練法、カウンセリングなどである。もう一つは、問題行動そのものを直接取り除くための指導法で、負の練習法(条件制止療法)やオペラント条件づけ法などである。

いずれの指導法となるにしても、子供の心理的ストレスの原因となっている、生活環境の改善には目が向けられなければならない。従って、子供をとりまく人々との（主に家族や学級担任）連絡を十分にとりながら、子供への一致したかかわりをするのが、指導効果を上げるうえでは大切になる。

a 遊戯療法

比較的自由な場面設定の中で、おもちゃや遊具などを使って、担当者と一緒に遊び自己の感情や考えを表出しながら、自律の方向に進むのを援助する方法である。ドールプレイ、フィンガーペインティング、サンドプレイ、サイコドラマ、ロールプレイングなども、この遊戯療法の一つの方法である。

b 自律訓練法

自律訓練とは、公式化された暗示内容を反復暗誦し、公式どおりの身体感覚を出現させ、生理的・心理的变化をはかろうとするものである。公式は、背景公式から段階を追った標準練習があり、手足の重感や温感、心臓や呼吸の調節などを体得していく。

c 負の練習法（条件制止療法）

除去しようとする問題行動の運動反応を、症児に一定回数（疲労を感じるまで）意図的に集中して連続反復させ、その後一定の休息を入れ（疲労が回復するまで）再び同様の練習を実施するものである。

d オペラント条件づけ法

問題行動の生じない状態を快刺激で強化し、問題行動の生起直後に快刺激を除去するという正の強化法と、問題行動が生起した時に嫌悪刺激を与えるという負の強化法とがある。それらの条件化で、問題行動の生起する頻度を低下させようとする方法である。

e 親への指導

親との面接により、養育歴、生活環境、問題行動の場面と状況やその頻度、症状への家族の対応を明らかにすることは、指導上重要である。子供の問題行動の場合、母親が子供に対して、必要以上に干渉・支配が強く、それらが子供の自主性の発達を抑圧したり、心理的な不安や緊張を高める原因になっていることが多いからである。それらの要素が明らかになった場合は、その要素の除去や軽減のために、指示的なカウンセリングを通して、症児をとり囲む環境を調整するための具体的な対策が立てられなければならない。

f 担任との連携

学校生活の中で、教師や友人との人間関係や学業上の問題などが、問題行動の発原因や強化因となっていることが考えられる。そこで、学級生活を中心に、症児をとりまく環境を総点検し、必要に応じた対策が立てられなければならない。特に、問題行動はもちろん、他の不適切な行動に対しても、注意や叱責を極力さけ、適切な行動への承認の機会を意図的に増やすようにすることや、心理的な不安や緊張が高くなる場面が明らかになった場合、段階を踏んで慣らしていくようなステップを用意し、必要に応じて集団場面や人的環境を調整するなど、担任との連携を保ちながら、一貫した指導をしていかななければならない。

## 第VIII章 指導内容系統表

本指導内容系統表は、国語、社会、算数及び数学、理科、生活、音楽、図画工作及び美術、体育及び保健体育、家庭及び技術・家庭、職業、英語、道徳とし、特別活動については通常学級用を準用することとした。

### 1 指導内容系統表の活用上の留意事項

- (1) 指導内容は、知能指数 I Q 50～75 程度の精神薄弱児を対象として作成した。〔小学校・中学校及び特殊教育諸学校学習指導要領（平成元年3月）題をよりどころに作成した。〕
- (2) I～Vの段階区分は、児童生徒の発達段階を考慮し、指導内容を見やすく整理した。〔特殊教育諸学校小学部・中学部学習指導要領（精神薄弱児）- 養護学校（精神薄弱教育）- 題（昭和三十八年 発）を参考とした。〕
- (3) 取り扱う学年の目安を示したが、一人一人の児童生徒の発達段階に合わせて活用することが望ましい。

段 階	I	II	III	IV	V	備 考
取り扱う学年の目安	小・低学年 程度	小・中学年 程度	小・高学年 程度	中・1, 2 学年程度	中・2, 3 学年程度	備考欄は、指導者が自由に活用する欄である。

### 2 指導内容系統表の見方

(例) 国語(その2)……………P. 参照

(注3) = (省略文⇒国 BV1)

区 分	I (注2)	II	III	IV	V	備 考
注1	1 くつ箱、机などの自分の印が分かる。	1 ひらがなで書かれた自分の名前が読める。	1 漢字で書いてある自分の名前を読むことができる。	1 漢字で書いてある身近な人の名前を読むことができる。	1 同左 (注4) (省略文⇒国 BV1)	
B	2 絵本やテレビなどに出てくる文字に興味をもつことができる。	2 いくつかのひらがなを読むことができる。	2 ひらがな五十音を読むことができる。	2 カタカナ五十音を読むことができる。	2 ひらがなやカタカナの単語や文を正確に読むことができる。	
読	(注5) (空欄)	3 濁音、半濁音、拗音、促音、長音、撥音が大体読める。	3 同左	3 拗音、促音、長音、撥音が文章の中で正しく読める。	3 同左	
む		4 簡単な漢字が読める。	4 簡単な漢字まじりの語句や短い文が読める。	4 同左	4 漢字まじりの文が読め、内容の大筋がつかめる。	
				5 ABCなどがおおよそ読める。 ※関連(技F III 1, 英A 2)	5 ローマ字がおおよそ読める。 ※関連(英B 2) (注6)	

(注1) 区分縦の欄は、領域及び内容を例示し『B 読む』は、小学校・中学校学習指導要領の領域及び内容を参考として区分してある。(例) 国語科の領域内容区分 A=聞く・話す B=読む C=書く

(注2) 区分横の欄は、おおよその段階を例示し『I～V(ローマ数字はラテン文字のみ)』は、難易度の段階を表し、Iの段階からVの段階へと程度が高くなっている。

(注3) 1 2 3 4 5(アラビア数字は算用数字のみ)は、内容項目を例示し、内容項目1の見方は、『教科は国語科 領域はB(読む) 到達段階はIVの段階』(省略文⇒国 BV1)

(注4) 国語 領域B 段階V 内容項目1 (省略文⇒国 BV1)の『1 同左』は、Vの段階の発展した内容であることを示す。

(注5) 内容が空欄の部分(国B I 2の下か空欄)は、指導内容がないことを示し、番号及び内容の書かれている『B II 3』から指導を開始する。

(注6) ※関連欄は、他の教科、領域、内容、段階の関連を記入した。(例) ※関連(技F III 1)は、教科は技術家庭科 領域はF(情報基礎) 到達段階はIII 内容は1(ワープロ)を示す。(P. 195 参照)

指導内容系統表の活用例=本指導内容系統表は、コピーし児童生徒各人の発達段階を把握することはもちろん、指導計画の作成資料や通常学級(協力学級)担任との連携資料にするなどの活用法がある。

### 3 各教科及び道徳 指導内容系統表

#### 国語（その1）

区分	I	II	III	IV	V	備考
A 聞 く 話 す	1 短い時間なら先生の方を見て話を聞くことができる。 2 相手の真似をして正しく発声しようとする。 3 名前を呼ばれたら返事ができる。 4 簡単な指示を聞いて行動できる。 5 絵本、テレビなどを見て簡単な動作表現ができる。 6 聞かれた時、学校や家庭のできごとを簡単に話すことができる。 7 みんなの前で話そうとする。 8 簡単なことば遊びができる。 9 分からないことがあったら動作や簡単なことばで訴えることができる。 11 簡単なごっこ遊びができる。	1 先生や友達の方を見て、注意して話を聞くことができる。 2 幼児語と正しいことばの違いに気付く。 3 名前を呼ばれたら元気に「はい」と返事ができる。 4 指示を聞いてみんなと一緒に行動できる。 5 絵本、テレビなどを見てたずねられたことについて話ができる。 6 聞かれた時、学校や家庭の主なできごとを話すことができる。 7 みんなの前で話そうすることができる。 8 簡単な伝言遊びができる。 9 分からないことがあったら先生にたずねることができる。 10 友だちの使っている乱暴なことばづかいが分かる。 11 友だちと一緒に簡単な劇遊びができる。	1 先生の話最後まで聞くことができる。 2 正しい発音で話すことが大体できる。 3 大勢の中で名前を呼ばれても返事ができる。 4 担任などの指示を理解して行動できる。 5 絵本、テレビなどを見て内容のあらましを話すことができる。 6 見聞したことや経験したことのあらましを時間の経過の順に話すことができる。 7 みんなにわかるように話すことができる。 8 用件を落とさずに簡単な伝言ができる。 9 分からないことがあったら友だちにたずねることができる。 10 ていねいなことばと普通のことばの使い方の違いが分かる。 11 簡単なセリフが言える。	1 最後まで注意して話を聞き、分からないときは聞き返すことができる。 2 同左 3 同左 4 実習などで指示や説明を聞きとって行動できる。 5 絵本、テレビなどを見て楽しみ、簡単な感想を話すことができる。 6 同左 7 電話で簡単な応答ができる。 ※関連（社会A2 技 家庭F2、職業A d3） 8 用件を落とさずに伝言できる。 9 わからないことやたずねたいことがあったら身近な人に自分から進んでたずねることができる。 10 先生や目上の人に、ていねいなことばを使うことができる。 11 劇の流れにそってセリフが言える。	1 同左 2 発音のなまりや癖を直すようにして話すことができる。 3 場に応じて適切な返事ができる。 4 必要な時は、メモをとったりして指示や説明を正しく聞きとることができる。 5 物語、劇、放送などを見たり聞いたりして感想を話すことができる。 6 身近な経験を話し感想を付け加えることができる。 7 自分の意見や考えをみんなにわかるように話すことができる。 8 用件を落とさずに要領よく伝言できる。 9 同左 10 場に応じて簡単な敬語を使うことができる。 11 感じをこめてセリフが言える。	注 ※関連（社会A2、技 家庭F2、職業A d3） については、特にその教科と関連が深いので参考すること。
B 読 む	1 くつ箱、机などの自分の印が分かる。 2 絵本やテレビなどに出てくる文字に興味をもつことができる。	1 ひらがなで書かれた自分の名前が読める。 2 いくつかのひらがなを読むことができる。	1 漢字で書いてある自分の名前を読むことができる。 2 ひらがな五十音を読むことができる。	1 漢字で書いてある身近な人の名前を読むことができる。 2 カタカナ五十音を読むことができる。	1 同左 2 ひらがなやカタカナの単語や文を正確に読むことができる。	

国語 (その2)

区分	I	II	III	IV	V	備考
B						
読 む	6 絵本を読んでもらって楽しむことができる。	3 濁音、半濁音、拗音、促音、長音、撥音が大体読める。 4 簡単な漢字が読める。 6 絵本や、やさしい読みものなどの文字の拾い読みができる。 8 こよみの文字や数字を読もうとする。 9 宛名、差出人がほぼおおよそ分かる。	3 同左 4 簡単な漢字まじりの語句や短い文が読める。 6 漫画や簡単な読みものなどを読むことができる。 7 新聞や雑誌の写真に興味を示し読もうとする。 8 こよみの日付の読み方が分かる。 9 簡単なはがきや手紙文などを読むことができる。	3 拗音、促音、長音、撥音が文章の中で正しく読めることができる。 4 同左 5 ABCなどがほぼおおよそ読める。 ※関連(技F III 1, 英A 2) 6 やさしい物語などを読むことができる。 7 新聞に掲載されているテレビ番組が分かる。 8 同左 9 簡単なはがきや手紙文の内容が大体読みとれる。	3 同左 4 漢字まじりの文が読め、内容の大筋がつかめる。 5 ローマ字がほぼおおよそ読める。*関連(英語B) 6 物語などをすすんで読むことができる。 7 新聞や雑誌の拾い読みができ、関心のある記事の大体が分かる。 8 こよみを見て日付や曜日を読み、生活に役立てることができる。 9 はがきや手紙文の内容を読みとることができる。	
	9 年賀状などをいってよる。					
書 く	1 いろいろな用具を使ってなぐり書きする。 2 丸や三角などの簡単な形を真似て書くことができる。 3 鉛筆やクレヨンなどで簡単な絵日記を書くことに興味をもつ。 4 濁音に気付く。 8 ひらがなで自分の名前を書くことに興味をもつ。	1 点線の上をなぞって書くことができる。 2 自分の名前をひらがなで書いたり、ひらがなの視写ができる。 3 簡単な絵日記を書くことができる。 4 濁音、半濁音が使える。 5 助詞の「は」「へ」「を」の使い方が大体分かる。 8 自分の名前を漢字で書くことに興味をもつ。 9 手伝ってもらって年賀状や暑中見舞状が書ける。	1 文字の形に注意して書くことができる。 2 ひらがな五十音を書くことができる。 3 簡単な短い文の日記を書くことができる。 4 拗音、促音、長音、撥音などの表記が大体できる。 5 助詞の「は」「へ」「を」の使い方が分かる。 6 句点、読点の使い方が分かる。 7 「」の意味が分かる。 8 自分の名前が漢字で書ける。 9 手本を見て年賀状や暑中見舞状が書ける。	1 点画の接し方、交わり方向などに注意して文字を正しく書くことができる。 2 カタカナ五十音を書くことができる。 3 一日の生活の流れにそって文章で表現することができる。 4 拗音、促音、長音、撥音などの表記が正しくできる。 5 助詞の「は」「へ」「を」に注意して文章を書くことができる。 6 句点、読点に注意して文章を書こうとする。 7 「」の使い方が分かる。 8 日常生活場面によく使われる簡単な漢字の書き方が分かる。 9 簡単な手紙文が書ける。	1 文字の大きさや配列に注意して読みやすく書くことができる。 2 ひらがなやカタカナを使って簡単な語句を書き表すことができる。 3 感想をまじえた日記を書くことができる。 4 拗音、促音、長音、撥音などを日記や作文の中で正しく使うことができる。 5 同左 6 句点、読点の正しい使い方に慣れる。 7 同左 8 覚えた漢字を日記や作文に応用できる。 9 ワードで簡単な表記ができる。*関連(技家F 1)	

社会（その1）

区分	I	II	III	IV	V	備考
対人関係	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 担任や友達の名前が分かる。</li> <li>2 来訪者や電話のかかったことを家の人に知らせる。</li> <li>3 手紙が分かる。</li> <li>4 自分のものと他人のものとか区別できる。</li> <li>5 友達と仲良く遊ぶ</li> <li>6 聞かれば、見たこと、遊んだことを話そうとする</li> <li>7 指示されれば「おはよう」「さようなら」「ありがとう」などが言える。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 家族の名前が分かる。</li> <li>2 電話のかけ方ができる。</li> <li>3 年賀状などが書ける。</li> <li>4 簡単な約束ができる。</li> <li>5 友達におもちゃや学用品を貸せる。</li> <li>6 見たこと、聞いたこと、遊んだことなどを話そうとする。</li> <li>7 日常のあいさつが大体言える。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教師や親戚、近所の人などの名前が分かる。</li> <li>2 自分の家や友達に電話をかけることができる。</li> <li>3 年賀状や礼状などの手紙が出せる。</li> <li>4 友達との約束を守り、実行できる。</li> <li>5 友達などが困っているのを見た時は、協力できる。</li> <li>6 日常生活で体験したことを話し合うことができる。</li> <li>7 自分から進んであいさつができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 場に応じて簡単な自己紹介ができる。</li> <li>2 来客への必要な対応や電話での伝言ができる。</li> <li>3 年賀状や礼状などの手紙のやりとりができる。</li> <li>4 他人の迷惑にならないように行動できる。</li> <li>5 友達と協力して仕事をすることができる。</li> <li>6 身近な問題を友達と話し合うことができる。</li> <li>7 場に応じて適切なあいさつができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 場に応じて適切な紹介やあいさつができる。</li> <li>2 メモによる伝言ができる。</li> <li>3 必要に応じていろいろな手紙のやりとりができる。</li> <li>4 集団の中で決まりを守り礼儀正しく行動ができる。</li> <li>5 人の立場を理解し、互いに協力し合って集団行動をとることができる。</li> <li>6 学級会、生徒会等で進んで意見を述べたり、話し合ったりすることができる。</li> <li>7 相手の立場を考えて適切な言葉や態度で対応できる。</li> </ol>	
社会の決まり	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 指示されれば、ごみの始末ができる。</li> <li>2 児童会などの決まりや約束があることが分かる。</li> <li>3 決められた場所で遊ぶ。</li> <li>4 他人のものはたまって持っていない。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 使い終わった後の始末が自分でできる。</li> <li>2 集会や校外学習などの時は、指示にしたがって行動できる。</li> <li>3 バスや電車を待っている時は、ふざけない。</li> <li>4 悪い遊びや危険な遊びをしない。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 決められた曜日に、決められたごみの処理をする。</li> <li>2 学校や学級の決まりが守れる。</li> <li>3 「立入禁止」「入室禁止」「危険」「進入禁止」「取扱注意」などの標識が分かる。</li> <li>4 人の迷惑になるような不衛生なことはしない。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市町村のごみ回収やし尿処理の仕組みが分かる。</li> <li>2 決められた時間に従って生活ができる。</li> <li>3 同左</li> <li>4 社会のしきたりなどを知り、それに従う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会環境を美しく保つ法律があることが分かる。</li> <li>2 生活する上で、社会にはいろいろな法律があることが分かる。</li> <li>3 いろいろな標識を見て、危険などときには友達にも注意できる。</li> <li>4 未成年者に禁じられていることが分かり、それを守る。</li> </ol>	
社会の仕組み	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 家の人の職業が言える。</li> <li>2 近くの交番や停留所、駅などが分かる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日常使われている品物がどこで作られているかに関心をもつ。</li> <li>2 生活で使われる水、電気、ガスなどの働きに気付く。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生活に必要ないろいろな品物が、工場や農家等で作られていることが分かる。</li> <li>2 警察署、郵便局、病院、市役所（町村役場）などのおよその働きが分かる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生産者と消費者をつなぐ市場、商店などの働きを知る。</li> <li>2 同左</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 労働と賃金の関係を知り計画的に生活することを知る。</li> <li>2 警察署、郵便局、病院、保健所、市役所（町村役場）などの働きが分かる。</li> </ol>	

社会（その2）

区分	I	II	III	IV	V	備考
D 公 共 機 関 の 利 用	1 電車やバスに乗るときは乗車券の必要なが分かる。 2 教師や家の人と一緒に横断歩道を渡れる。 3 避難訓練のときは、教師と一緒に行動できる。 4 救急車や消防車などがあることが分かる。 5 大人と一緒に公園や遊園地で遊べる。 6 郵便局の場所が分かる。 7 家の周りの様子を話すことができる。	1 日常利用している電車やバスの乗車券が買える。 2 交通信号が分かり、一人で横断歩道を渡れる。 3 火災報知器や消火器の働きが分かる。 4 救急車や消防車の役割に関心をもつ。 5 公園や遊園地で遊べる。 6 手紙や小包みなどを出すことができる。 7 簡単な絵地図や交通の路線図などが分かる。	1 駅構内のいろいろな表示が分かる。 2 「通行止」「横断歩道」「危険」などの道路標識が分かり、安全に歩行することができる。 3 教師と一緒に火災報知器や消火器を使うことができる。 4 救急車や消防車の役割が分かる。 5 公園や遊園地の遊具・施設を大切に扱うことができる。 6 郵便局のおよその動きが分かる。 7 家から学校や駅までの道順を簡単に言える。	1 いろいろな交通機関が大体利用できる。 2 どんな場所においても、交通規則を守り、適切な行動が取れる。 3 自分から火災報知器や消火器を使うことができる。 4 救急病院や消防署のしくみや働きが分かる。 5 公共施設を使う場合の簡単な手続きのあることが分かる。 6 郵便局の動きを知り、上手に利用できる。 7 家から学校や駅までの道順を正確に言える。	1 いろいろな交通機関を適切に利用できる。 2 同左 3 火災や事故のとき119番（火災）、110番（警察）に電話で通報することができる。 4 同左 5 公共施設などを利用することができる。 6 郵便局や銀行へ行って貯金や預金ができる。 7 地域の簡単な絵地図や交通の路線図などが書ける。	
E 地 域 の 様 子 と 社 会 の 移 り 変 わ り	1 簡単な絵地図に興味をもつ。 2 家の周りの様子を話すことができる。 3 自分の住む市町村名が言える。 4 自分の住む国名が言える。 5 テレビのマンガニュースなどに興味をもつ。 6 テレビのマンガ昔ばなしなどに興味をもつ。	1 絵地図が分かる。 2 通学道路付近の様子を話すことができる。 3 自分の住む県名が言える。 4 自分の住む国名が言える。 5 テレビのニュースなどを見る。 6 テレビマンガやマンガ雑誌などの昔ばなしなどに興味をもつ。	1 簡単な絵地図が書ける。 2 住んでいる地域の山、川、海などの名前が分かる。 3 近隣の県名が言える。 4 いくつかの外国の国名が言える。 5 テレビやラジオを通して地域の生活の様子に関心をもつ。 6 テレビや映画、絵本などを見て、昔の生活の様子に関心をもつ。	1 いろいろな絵地図が書ける。 2 住んでいる地域の地形や土地の様子が分かる。 3 県の地図を見て、自分たちの市（町・村）の位置が分かる。 4 世界の地図を見て、日本の位置が分かる。 5 テレビやラジオを通して地域の生活の様子分かる。 6 昔と今の生活の様子が大体分かる。	1 同左 2 地域の地形やそこに住む人たちの生活の様子が分かる。 3 日本の地図を見て、自分たちの県や市（町・村）の位置が分かる。 4 主な国の位置が分かる。 5 テレビやラジオ・新聞などを通して地域の生活の様子が分かる。 6 歴史に関する簡単な年表や本から関心ごとを調べることができる。	



算数及び数学（その1）

区分	I	II	III	IV	V	備考	
A 数 と 計 算	a 数	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 三種の中から同じ色、同じ形のものを選ぶ。</li> <li>2 絵カードを組み合わせたことができる。(2分割)</li> <li>3 組になったものを合わせる。</li> <li>4 1～10までの数を唱えたり数字を読んだりする。</li> <li>5 10までの数が分かり、書くことができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 同じ大きさのものを取り出す。</li> <li>2 3・4分割された絵カードを組み合わせる。</li> <li>3 対応させてもめ配れる。</li> <li>4 1～50までの数を唱えたり数字を読んだりする。</li> <li>5 30までの数が分かり、書くことができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 色、形、大きさなど、数種類の中から分類する。</li> <li>2 いろいろな絵カードを組み合わせる。</li> <li>3 同等、過不足が分かる。</li> <li>4 100までの数字を読む。</li> <li>5 100までの数が分かり、書くことができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 同左</li> <li>2 同左</li> <li>3 いろいろな素材であっても、差や多少が分かる。</li> <li>4 四桁以上の数字を読む。</li> <li>5 100以上の数が分かり、四桁以上の数字を書くことができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 身近なものを用途によって分類し、活用できる。</li> <li>2 同左</li> <li>3 同左</li> <li>4 電子計算器などの数字が読める。</li> <li>5 同左</li> </ol>	
	b 加法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 1～5までの数の比較ができる。</li> <li>2 5までの数を合わせて、いくつかが分かる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 5～10までの数の比較ができる。</li> <li>2 1位数+1位数の計算ができる(くり上がりなし)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 30, 50までの数の大小が分かる。</li> <li>2 2位数+1位数の計算ができる(くり上がりなし)</li> <li>4 計算器の簡単な扱い方ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 100までの数の大小が分かる。</li> <li>2 2位数+1位数の計算ができる(くり上がりあり)</li> <li>3 2位数+2位数の計算ができる(くり上がりあり)</li> <li>4 計算器を利用し加法ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 100以上の数の大小が分かる。</li> <li>2 3位数+3位数の計算ができる。</li> <li>3 大きな数の加法の計算ができる。</li> <li>4 生活の中で必要な加法計算ができる。</li> </ol>	
	c 減法		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 5までの数で、減るといくつかが、分かる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 1位数-1位数の計算ができる(くり下がりなし)</li> <li>2 2位数-1位数の計算ができる。</li> <li>3 計算器の簡単な扱い方ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 2位数-1位数の計算ができる(くり下がりあり)</li> <li>2 2位数-2位数の計算ができる。</li> <li>3 計算器を利用し減法ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 3位数-3位数の計算ができる。</li> <li>2 大きな数の減法の計算ができる。</li> <li>3 生活の中で必要な減法が分かり計算できる。</li> </ol>	
	d 乗法			<ol style="list-style-type: none"> <li>1 5ずつ数える。</li> <li>2 10ずつ数える。</li> <li>3 2倍が分かる。</li> <li>4 計算器の簡単な扱い方ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 いくつ分にあたる大きさがわかる。 (<math>5+5+5 \cdots 5 \times 3</math>)</li> <li>2 3倍が分かる。</li> <li>3 九九があることを知る。</li> <li>4 計算器を利用し乗法ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 同左</li> <li>2 同左</li> <li>3 生活の中で九九を利用することができる。</li> <li>4 生活に必要な乗法の意味が分かる。</li> </ol>	
	e 除法		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 半分が分かる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 半分の半分が分かる。</li> <li>2 物を人数分、均等に分割することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 <math>\frac{1}{2}</math>, <math>\frac{1}{4}</math>の数字の意味が分かる。</li> <li>2 計算器を利用し乗法計算ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 <math>\frac{1}{2}</math>や<math>\frac{1}{4}</math>を生活に使うことができる。</li> <li>2 簡単な除法計算ができる</li> <li>3 生活に必要な除法の意味が分かり、使える。</li> </ol>	

算数及び数学（その2）

区分	I	II	III	IV	V	備考
測定	B a 長さ	1 長さくらべができる。 (差の大きなもの)	1 長さくらべができる。 (差の小さなもの) 2 はかる器具のあることを知る。	1 3つ以上の長さくらべができる。 2 30cmのものさしか使える。	1 5cm, 10cm, 1mの単位が分かる。 2 1m以上のものさしなどが使える。	1 長さの目盛りが分かり、正確に測ることができる。 2 同左
	b 重さ	1 重さくらべができる。 (差の大きなもの)	1 重さくらべができる。 (差の小さなもの)	1 3つ以上の重さくらべができる。 2 はかる器具のあることを知る。	1 100g, 1kgの単位が分かる。 2 はかりを使って測定することができる。	1 重さの目盛りが分かり、正確に測ることができる。 2 同左
	c かさ	1 2つの容積をくらべることができる。(多い, 少ない)	1 3つ以上の容積をくらべることができる。 1 番多い, より多い 1 番少ない, より少ない	1 はかる器具を知り, 一定量がはかれる。	1 測定用具の目盛りを読みとることができる。 <small>レンジャーリットル</small> <small>リットル</small> (c c, d l, lなど)	1 生活の中で測定用具を利用し, いろいろなものをはかることができる。
	d 広さ	1 広さくらべられる。 (差の大きい2つの広さ)	1 広さくらべられる。 (差の小さい2つの広さ)	1 3つ以上の広さくらべられる。 (1 番広い, 1 番狭い)	1 m <sup>2</sup> の単位を使って簡単な面積が求められる。	1 単位の関係が分かり, 生活の中で利用できる。
	e 時間・時刻・暦	1 学校の日課, 時刻の合図を知り, 守れる。 2 起床, 就寝, 登校, 下校時刻の合図が分かる。	1 日課の時刻が大体分かり行動に移せる。 2 生活の中での主な活動が時刻に合わせてできる。	1 時間単位で時刻が読める。 2 日付や曜日が分かる。 3 1週間⇒7日や 1日⇒24時間が分かる。	1 5分, 10分単位で時刻が読める。 2 乗りものなどの簡単な時刻表を読むことができる。 3 1月⇒30~31日や 1年⇒12か月, 年号などが分かる。	1 1分, 1時間単位で時間計算ができる。 2 時刻表を正確に読み取ることができる。 3 時計や暦を正しく生活に利用できる。
C 図形	a 図形と方位	1 物の形のちがいが分かる。 2 円, 三角, 四角の名前が分かり区別できる。 3 上下, 前後などが分かる。	1 円, 三角, 四角の名前が分かる区別できる。 2 円, 三角, 四角が書ける。 3 上下, 前後などが分かる。	1 円, 三角, 正方形, 長方形の名前が言える。 2 形がよっきりと分かり正しく書ける。 3 左右, 遠近などが分かり区別することができる。	1 簡単な立体図形が分かる。 2 定規やコンパスを使って簡単な図形を書く。 3 方角が大体分かる。	1 いろいろな形の辺, 角, 頂点が分かる。 2 いろいろな形状の特徴が分かり, 説明できる。 3 東西南北が分かり, 生活に利用できる。
D 数量関係	a 表とグラフ	1 ○×の記号の意味が分かる。 2 遊びや生活表の中で○×表が使える。	1 絵グラフが分かる。	1 簡単な棒グラフを読んだり書いたりできる。	1 いろいろな図表を読んだり書いたりすることができる。	
E 実務	a 金銭処理	1 教師と一緒に, 簡単な買い物ができる。 2 簡単なおつりのある買い物ができる。	1 簡単な買物の計算は計算機を使うと便利にすることができる。	1 必要に応じて計算機を使って会計処理ができる。	1 ワープロの使用により計算ができる。 ※関連(国語C9, 技・家F1)	

理科斗 ( その 1 )

区分	I	II	III	IV	V	備考	
A 生物 と そ の 環 境	a 植 物	1 花つみ, 木の葉拾い, 落ち葉拾いなどをして遊ぶ。 2 同じ種類の草花や実を集めることができる。 3 一人で花壇の草花に水かけができる。	1 草花などを利用して遊び草花などに関心をもつ。 2 同じ種類の草花や実を集めることができる。 3 草花の中の雑草をとることができる。	1 学級園などの草花の名称と特徴に関心をもつ。 2 花壇の草花や庭木の種類によって花の形や色が違うことが分かる。 3 種子のまきかたや球根の植えつけ方が分かる。	1 身近な草花や野菜の名称や特徴が分かる。 2 花, 実, 葉, 茎, 根などの主な特徴が分かる。 3 植物や野菜がよく育つための世話の仕方が分かる。(水, 肥料, 除草)	1 季節と草花や野菜の関係が分かる。 2 植物の簡単な作りとはたらきが分かる。 3 植物は種子や球根で増え成長するのに良い時期のあることが分かる。	
	b 動 物	1 あり, ちょう, かたつむりなどを探したり, 見つけたりして遊ぶ。	1 野山の虫や鳥などの名前と特徴に気付く。 2 身近な動物の名称が分かる。(うさぎ, にわとり, すずめ) 3 動物の世話の手伝いをする。	1 同左 2 動物の種類によって色や形に違いのあることが分かる。 3 飼っている動物にえさや水をやったりできる。	1 野山の虫や鳥などの様子を観察する。 2 動物の習性や特徴に関心を持つ。 3 飼っている動物をかわいがり, その世話をする。	1 季節によって見られる昆虫や鳥などに違いのあることが分かる。 2 動物の習性や特徴を知る。 3 同左	
	c 人 の 体	1 体の主な各部の名称が分かる。 2 家には, 父母がいることが分かる。	1 体の主な各部の働きが分かる。 2 同左	1 体の主なつくりや働きに関心をもつ。 2 人は, 母体内で成長して生まれることが分かる。	1 心臓, 胃, 肺, 腸などの主な内臓の働きに関心をもつ。 2 男女の体のつくりの特徴があることが分かる。	1 心臓, 胃, 肺, 腸などの主な内臓の働きが分かる。 2 同左	
B 物質 と エ ネ ル ギ ー	a 音	1 音の出る物を叩いたり, こすったりして遊ぶ。(音あて遊び)	1 同左	1 糸電話を作って遊ぶことができる。	1 音の伝わり方に関心をもつ。	1 音の出ている物は震えていることや, 糸などは音を伝えていることが分かる。	
	b 光		1 鏡や虫めかねを使って遊ぶ。 2 同左	1 鏡は物を写したり, 光を反射する働きのあることに関心をもつ。 2 虫めかねで物が大きく見えることや物を焦がすことが分かる。	1 鏡の性質や用途が分かる。 2 日常生活に使われている光学製品が分かる。	1 同左 2 カメラや望遠鏡, 顕微鏡などの簡単な操作ができる。	

理科 (その2)

区分	I	II	III	IV	V	備考
物質とエネルギー	c 力	1 動くおもちゃで遊ぶ。	1 やじろべえ、風車などを作って遊ぶ。	1 ごむひもなどで簡単な動くおもちゃを作って遊ぶ。	1 ぜんまいや歯車などの玩具の仕組みに関心をもつ。	1 てこやころなどの道具や機械の働きを知る。
	d 磁石	1 磁石で遊ぶ。	1 磁石を使って砂鉄などを集め、その働きに関心を持つ。	1 磁石には、つくものとつかないものがあることが分かる。	1 SとNの2極のあることが分かる。	1 磁石を使って方位を調べることができる。
	e 電気	1 電灯や懐中電灯の点滅ができる。	1 電灯や懐中電灯に関心をもつ。	1 簡単な電気器具を取り扱うことができる。	1 日常生活に多く使われる簡単な電気器具などの扱いができる。	1 電気器具の簡単な仕組みが分かり、安全な取扱いができる。
	f 物質の状態	1 シャボン玉遊びができる。	1 石鹸を溶かしてシャボン玉遊びをする。	1 物には良く溶けるものと溶けないものがあることが分かる。 2 物の燃え方に関心をもつ。	1 物は温度によって溶け方に違いがあることが分かる。 2 水や石油・アルコールなどの違いが分かる。	1 水の温度によって、氷・水・水蒸気に変化することが分かる。 2 石油ストーブなどの正しい使い方が分かる。
地球と宇宙	a 天体	1 お日さま・お月さま・お星さまなどが分かる。	1 太陽、月、星などに関心をもつ。	1 太陽の動きや、月の変化(形)に気付く。	1 月の満ち欠けが分かる。(満月・半月・三日月…)十五夜	1 夜空の星や月を観測することができる。
	b 気象	1 晴、雨などの天気分かる。 2 寒い日や暑い日分かる。 3 その日の天気に関心を示す。	1 曇りの日、風の強い日、雪の日などが分かる。 2 夏・冬などが分かる。 3 翌日の天気に関心を示し先生に尋ねることができる。	1 天気の変化に関心をもつ。 2 春・夏・秋・冬が分かる。 3 天気予報に関心をもつことができる。	1 雲の様子から翌日の天気を予想することができる。 2 四季の気象が分かる。 3 テレビの天気予報がほしい分かる。	1 空模様と気温などからその日の天候が分かる。 2 四季と生活様式が分かる。 3 天気図が大体分かり、予報を知ることができる。
	c 地形	1 公園、野山、川、海などで遊ぶ。	1 山、川、池、海などの違いが分かる。 2 地震の揺れが分かる。	1 高い所、低い所などの地形の違いが分かる。 2 地震や火山活動に関心をもつ。	1 山、川、池、海などの大体的はたらきが分かる。 2 地震や火山活動について初歩的な知識をもつ。	1 山、川、池、海などででき方が分かる。 2 地震の変動が分かり、安全な生活の必要性が分かる。

生活（その1）

区分	I	II	III	IV	V	備考	
一人の健康で安全な生活	A	1 手足の汚れが分かり拭こうとする。 2 鼻汁がでたら紙で拭こうとする。 3 歯ぶらしを口に入れ左右に動かせる。 4 水を口に入れ吐き出せる。 5 櫛やブラシを髪をとかそうとする。 6 嫌がらないで髪を洗ってもらう。 7 爪を嫌がらず切ってもらおう。 8 顔の一部を水でぬらさせる。 9 パンツの上げ下げを手伝ってもらい用便ができる。 10 用便のとき、指示に従い紙を使ったり水を流したりできる。	1 手足の汚れを拭いたり洗ったりできる。 2 鼻汁をかむことができる。 3 歯ぶらしを上下左右に動かせる。 4 ブクブクのうがいができる。 5 一人で髪がけたいといかせる。 6 一人で髪がけたいし洗える。 7 爪を一人でたぐい切れる。 8 顔全体がけたいし洗える。 9 一人でトイレに行き用便ができる。 10 用便後は紙を使い水が流せる。 11 生理になったら知らせ手伝ってもらい処置できる。 12 スプーン、フォーク、はしを使ってこぼさずに食べる。 13 主食副食を適宜食べる。	1 汗をかいたり汚れたときは、その始末ができる。 2 左右交互に鼻汁が上手にかめる。 3 歯のすみずみまで上手に磨ける。 4 ガラガラとうがいができる。 5 髪をきれいにしようとする気持ちがありとかせる。 6 シャンプーやリンスを使い髪が洗える。 7 爪切りの使い方ができる。 8 手でこすってきれいに洗う。 9 用便が正しくできる。	1 体をきれいにしようとする気持ちがあり、清潔に保てる。 2 同左 3 食後、正しく歯みがきができる。 4 用途に応じて正しくできる。 5 髪をとかして整えられる。 6 洗った後、乾かしたりとかしたり正しくできる。 7 同左 8 石鹸を使って顔が洗える。 9 同左 10 用便後の後始末や身支度が正しくできる。 11 同左 12 マナーが分かり迷惑をかけずに食べる。 13 好き嫌いは体に悪いことが分かる。 14 食事の準備や後片付けの手伝いができる。 15 衣服の着脱が手早く正しくできる。 16 天候や場に応じて靴を選んで履ける。 17 入浴後の後片付けまで自分からできる。 18 目覚まし時計などを自分でセットし利用できる。	1 同左 2 同左 3 時と場に応じて歯みがきができる。 4 同左 5 髪の長さに応じて編んだり結んだりできる。 6 同左 7 常に爪をきれいにしておける。 8 同左 9 同左 10 同左 11 生理の予定日が分かり、自分で処置ができる。 12 マナーを守り楽しく食事ができる。 13 栄養を考えいろいろな食品を組み合わせる。 14 食事の準備や後片付けができる。 15 同左 16 同左 17 同左 18 同左	※関連保Ae3 家Ka2 ※関連保Aa1 家HaB ※関連家Ia1(服装) ※保Ac1睡眠
	B	1 一人で好きなことを遊ぶ。	1 大人と一緒に遊ぶ。	1 友達と簡単な遊びができる。	1 グループを作りルールを守って遊ぶ。 2 身近な地域で自転車を安全に利用し遊ぶ。 3 同左 4 同左 5 交通標識や道路標示を理解し下級生を導くことができる。 6 一人で切符を買い自転車などに乗れる。	1 仲間にはいれない友達を誘って遊ぶ。 3 同左 4 目的に応じて行動できる。 5 同左 6 いろいろな交通機関の利用ができる。	※生命の安全 要指導
	C	2 三輪車などに乗って遊ぶ。 3 廊下や階段など、転ばないよう歩く。 4 通学班の友達などと、学校へ一人で行く。 5 横断歩道・踏切・信号などが分かり、指示を受けて渡れる。 6 指導者がついていればバスの乗り物に乗れる。	2 補助車付きの自転車に乗れる。 3 左右が分かり、廊下や階段などを正しく歩く。 4 遊園地や友達の家遊びに行く。 5 横断歩道・踏切・信号などが分かり、一人で渡れる。 6 バス乗車のときは整理券の必要性が分かり整理券が取れる。	2 自転車に乗って遊ぶ。 3 横断をするときは、左右を確かめて安全に歩く。 4 近所へお供えに行く。 5 同左 6 バスの運賃表が分かりお金を払って乗り降りできる。	2 同左 3 同左 4 同左 5 同左 6 同左	3 同左 4 同左 5 同左 6 同左	

生活(その2)

区分	I	II	III	IV	V	備考
二 家族・近所の人との接し方 先生・友人との接し方 C 来訪者	1 周囲の人に「おはよう・きよなら」などのあいさつができる。 2 自分の名前が書える。 3 尿意、便意、粗相を告げる。 4 指示されて「ありがとう」「ごめんなさい」が書える。 5 指示されれば発表できる。 6 学校の行事に楽しんで参加する。 7 聞かされたら、遊んだことを話すことができる。 8 分からないことがあったら、先生などに尋ねようとする。 9 来訪者や電話のかかったことを家の人に知らせる。 10 友達と仲良く遊ぶ	1 身近な人に簡単な日常のあいさつができる。 2 家族の名前が書える。 3 腹痛、歯痛などを周囲の人に告げる。 4 「ありがとう」「ごめんなさい」が書える。 5 学校活動などで、手を上げて発表しようとする。 6 同左 7 聞かされたら、見たこと、聞いたこと、遊んだことを報告できる。 8 分からないときは、周囲の人に尋ねることができる。 9 電話のかけ方ができる。 10 友達におもちゃや学用品を貸せる。	1 同左 2 住所・電話番号が書える。 3 友達のかかりのときなど周囲の人に伝えられる。 4 「ありがとう」「ごめんなさい」が適切に書える。 5 学校活動などで、自分の意見を話す。 6 地域社会の行事に子どもどうして参加する。 7 見たこと、聞いたこと、遊んだことを積極的にできる。 8 分からないことがあった時など友達に尋ねることができる。 9 自分の家や友達に電話をかけることができる。 10 友達などが困っているのを見た時は、協力できる。	1 日常必要とする基本的な挨拶ができる。 2 簡単な自己紹介ができる。 3 用件を落とさずに簡単な伝言ができる。 4 感謝、謝罪の言葉を適切に書いて適切に言う。 5 生徒会活動などで自分の意見をみんなに分かるように話す。 6 生徒会、委員会、部活動などに参加し、友達と交流する。 7 同左 8 分からないことや尋ねたいことがあったら、進んで聞ける。 9 来客への必要な対応や電話での伝言ができる。 10 友達と協力して仕事を行うことができる。	1 時と場に応じた適切な挨拶ができる。 2 時と場に応じた自己紹介ができる。 3 用件を落とさずに要領よく伝言できる。 4 同左 5 生徒会活動などで他人の意見を聞き、自分の意見も伝える。 6 いろいろな活動に積極的に参加し交流する。 7 いっ、どこで、誰が、何を…、とおよその筋道を立てて話せる。 8 同左 9 メモによる伝言ができる。 10 人の立場を理解し、互いに協力し合って集団行動がとれる。	※社会A7 ※国語A8
三 A 学校等の公共物の決まり	1 保健室や図書室などを先生と一緒に利用できる。 2 友達から借りたおもちゃを返すことができる。 3 大人と一緒に公園や遊園地で遊ぶ。 4 電車やバスの乗り降りのときは定期券を見せることができる。	1 保健室や図書室など学校内の役割が分かる。 2 自分のおもちゃを返してもらうことができる。 3 同左 4 電車やバスの切符を先生などの指示で買うことができる。	1 学校内の施設をグループで利用できる。 2 学用品などを忘れて困っている友達に貸すことができる。 3 学校や公園の遊具・施設を大切に扱うことができる。 4 日常利用しているバスなどの切符を一人で買うことができる。	1 学校内の施設を一人で利用できる。 2 遊具などを譲り合って使うことができる。 3 公共物を使う場合の諸手続きのあることが分かる。 4 身近なところなら一人で交通機関の利用ができる。	1 同左 2 学校や公園の遊具の簡単な手入れをすることができる。 3 公共物を使う場合の諸手続きをすることができる。 4 知らない所でも一人で交通機関を利用することができる。	
四 A 生活と消費の整理整頓	1 指示により使った道具などが片付けられる。 2 貨幣や紙幣の必要性が分かる。 3 自動販売機を指示を受けて使うことができる。	1 同左 2 1円、10円、50円、100円、500円、1000円などの貨幣が分かる。 3 自動販売機が分かり、一人で使える。	1 学用品や道具を所定の場所に整理できる。 2 学用品や日用品のおよその値段が分かる。 3 お年玉などいけたいお金がある。	1 同左 2 値段の高い安いや分かり、上手な買い物ができる。 3 身近なものの値段が分かり買い物ができる。	1 使用した道具などの整理整頓や管理が正しくできる。 2 予算を立てて、計画的な買い物ができる。 3 金銭の受け払いが正しくできる。	※家庭J a 整理整頓
五 A B C 情報の伝達	1 名前を呼ばれたら返事ができる。 2 みんなの前で話そうとする。 3 来訪者や電話のかかったことを家の人に知らせる。	1 名前を呼ばれたら元気に「はい」と返事ができる。 2 簡単な電話のかけかたができる。*関連(社会A2 技家F2、職業Ad3) 3 同左	1 大勢の中で名前を呼ばれても返事ができる。 2 みんなの前で話すことができる。 3 年賀状や礼状などの手紙が出せる。	1 実習などで指示や説明を聞きとって行動できる。 2 みんなにわかるように話すことができる。 3 来客への必要な対応や電話での伝言ができる。	1 必要な時は、メモをとり指示や説明を正しく聞きとることができる。 2 自分の意見や考えをみんなにわかるように話すことができる。 3 必要に応じて、色々な手紙のやりとりができる。	*関連 国語A3 *関連(社A2、技家F2、職Ad3) *関連 社会A3

生活（その3）

区分	I	II	III	IV	V	備考
六 七 季節の 自然との 変化と 触れ合 い生活	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 あり、ちょう、かたつむりなどを探したり、見つけたりして遊ぶ。</li> <li>2 先生と一緒に、花壇の草花に水かけができる。</li> <li>3 花つみ、木の葉拾い、落ち葉拾いなどをして遊ぶ。</li> <li>4 七夕、正月、ひなまつりなどの行事に参加し楽しめる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 身近な動物の名称が分かる。（うさぎ、にわとり、すずめ）</li> <li>2 一人で花壇の草花に水かけができる。</li> <li>3 身近な動物や草花などを利用して遊ぶ。</li> <li>4 同左</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 動物の世話の手伝いをする。</li> <li>2 草花の中の雑草をとることが出来る。</li> <li>3 身近な動物や草花などに関心をもつ。</li> <li>4 地域の行事や伝承遊びに参加し、楽しめる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 飼っている動物にえさや水をやったりできる。</li> <li>2 種子のまきかたや球根の植えつけ方が分かる。</li> <li>3 野山の虫や鳥・植物などの様子を観察する。</li> <li>4 七夕、正月、ひな祭りや地域の行事を調べたり遊んだりする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 飼っている動物をかわいかりその世話をする。</li> <li>2 種物や野菜がよく育つための世話の仕方が分かる。（水、肥料、除草など）</li> <li>3 動物の習性や四季の草花の特徴が分かる。</li> <li>4 同左</li> </ol>	
八 製作・ 遊び	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 草木、木の葉、小石などを集めたり並べたりできる。</li> <li>2 ピーズを通してひも遊びができる。</li> <li>3 集会活動などに、教師と一緒に参加し楽しむことができる。</li> <li>4 教師と一緒に、準備や作業後の後始末ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 紙類などをちぎったり、切ったり、つないでたりして遊ぶ。</li> <li>2 ピーズなど色を変え、飾りものを作り遊ぶ。</li> <li>3 友達に合わせて、いろいろな遊びに参加できる。</li> <li>4 手伝ってもらって材料、用具の準備・後始末ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はさみで色紙などを簡単に切ったり、張り付けたりできる。</li> <li>2 紙類を主な材料とし、簡単なおもちゃなどが作れる。</li> <li>3 地域の行事や伝承遊びに参加し、楽しめる。</li> <li>4 所定の場所へ用具を整理することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はさみで色紙などを上手に切ったり、張り付けたりできる。</li> <li>2 作ろうとする物を絵や図に工夫して描ける。</li> <li>3 みんなで作るものについては自分の役割が分かり協力する。</li> <li>4 不要物、必要物が分かり正しく処理できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 カッターナイフで紙を曲線や円に沿って切ることができる。</li> <li>2 作業に必要な材料、用具の準備・後始末ができる。</li> <li>3 季節や文化の行事に関する作品を作って楽しむことができる。</li> <li>4 用具を決められた方法で正しく扱うことができる。</li> </ol>	
九 自分の 成長	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今日学校での出来事を思い出し発表することができる。</li> <li>2 指示により電灯の点滅ができる。</li> <li>3 名前を呼ばれたら返事ができる。</li> <li>4 両親を中心とした家族の名前がよそ分かる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 最近の学校での出来事を思い出し発表することができる。</li> <li>2 指示によりコンセントに電源コードを差し込むことができる。</li> <li>3 聞かれた時に学校や家庭の出来事を話することができる。</li> <li>4 生まれてから現在までの生活の様子を調べることができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 入学してからの主な出来事を振り返り、反省できる。</li> <li>2 指示により電灯、スイッチ、窓の開閉、戸締まりができる。</li> <li>3 先生や目上の人に対してやさしい言葉を使うことができる。</li> <li>4 生活を調べ、自分の成長の跡をたどることができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分の役割が増えている事から、成長していることが分かる。</li> <li>2 係、当番として電灯、スイッチ窓の開閉、戸締まりができる。</li> <li>3 与えられた仕事の大切さが分かる。</li> <li>4 両親や周りの人々の世話を受け成長していることが分かる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 成長したことを喜び、めあてをもって努力しようとする。</li> <li>2 状況に応じて電灯、スイッチ窓の開閉、戸締まりができる。</li> <li>3 仕事に責任をもち感謝の気持ちで生活することができる。</li> <li>4 周りの人から期待され大きくなっていることに感謝できる。</li> </ol>	
十 基本的な 生活習慣	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 おもちゃなど身近にあるもので遊ぶ。</li> <li>2 学習用具が並べられる。</li> <li>3 指示によりはさみやのりなどを準備する。</li> <li>4 教師と一緒に後始末ができる。</li> <li>5 給食のとき教師と一緒に食器を並べたり牛乳を配ったりできる。</li> <li>6 身近な人に「おはようさようなら」ができる。</li> <li>7 他人の物をだまっていってやめない。</li> <li>8 友達と仲良く遊ぶ。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 簡単な道具を組み立てたりして遊ぶ。</li> <li>2 机やロッカーの整理ができる。</li> <li>3 作るものが分かり、用具を準備する。</li> <li>4 物や道具を使ったあと一人で片付けられる。</li> <li>5 献立配りや給食配りなどの係活動ができる。</li> <li>6 身近な人に、簡単な日常のあいさつができる。</li> <li>7 注意されたことのある悪い遊びや危険な遊びをしない。</li> <li>8 友達かかけをしたときなどに保健室へ連れていける。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分たちで簡単な道具を作ったり遊ぶ。</li> <li>2 同左</li> <li>3 同左</li> <li>4 他人の使ったものでも片付けられる。</li> <li>5 日直、給食当番、掃除当番などの係活動ができる。</li> <li>6 教えられたり世話をしてくれる人に「ありがとう」が言える。</li> <li>7 他人に迷惑になるようなことが分かり、気を付ける。</li> <li>8 作業のときなど友達か困っているときに手伝いができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 グループなどで協力しあい道具を作って、安全に遊ぶ。</li> <li>2 身の回りにあるものを整理することができる。</li> <li>3 作る目的が分かり、材料や用具の準備ができる。</li> <li>4 物の配置や片付け方を工夫することができる。</li> <li>5 学級や学校の行事などで役割を分担して仕事をする。</li> <li>6 日常生活に必要な基本的な礼儀作法ができる。</li> <li>7 社会のルールなどが分かり、それに従う。</li> <li>8 友達などのことを考えて行動できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 同左</li> <li>2 教室全体の整理整頓に気を配ることができる。</li> <li>3 作業に応じた材料や用具の準備ができる。</li> <li>4 引き受けの作業などは最後まで責任を果たす。</li> <li>5 自分の役割分担に責任をもって最後までやり遂げる。</li> <li>6 時と場に応じた適切な礼儀作法ができる。</li> <li>7 未成年者に禁じられていることが分かり、それらを守る。</li> <li>8 相手に気を配って、扱ったり接したりできる。</li> </ol>	





音 楽 ( その 1 )

区 分	I	II	III	IV	V	備 考
A	a	1 リズムに合わせて教師と一緒に手足を動かす。	1 簡単な音楽の拍や拍子に合わせて手足や全身を動かす。	1 同左	1 音楽に合わせて、やや複雑な手足の表現ができる。	1 曲の拍子やリズムを、手拍子や歩き方で表現できる。
		2 みんなと一緒に「かごめかごめ」のような簡単な歌遊びをする。	2 「せっせっせ」「花いちもんめ」のようなリズムカルで簡単な集団遊びができる。	2 同左	2 いろいろな歌のゲームをする。	2 歌いながら、リズムカルに、いくつかの連続動作をする。
		3 動物のまねをして、はねたり、とんだりする。	3 歌や曲に合わせて模倣遊びをする。 4 教師の動きを見ながら動作をつけようとする。	3 音楽を聴いて、自由な身体表現をする。 4 簡単なフォークダンスをする。	3 曲型にふさわしい自由な身体表現をする。 4 フォークダンスや民謡が楽しくできる。	3 同左 4 フォークダンスや民謡を上手に踊れる。
現 楽 器	b	2 カスタネット、鈴、コップなどで音遊びをする。	1 ハーモニカ、木琴、鉄琴、トライアングル、シンバルなどの音あて遊びをする。 2 タンプリンやカスタネットなどで、拍子打ちをする。	1 レコードやCD(コウウチ、ウチ)音楽に合わせて模倣楽器を使って楽しむ。 2 教師の拍子打ちや、リズム打ちを模倣する。	1 レコードやCD音楽に合わせてリズム楽器を演奏する。 2 いろいろな拍子打ちやリズム打ちをする。	1 いろいろなメロディーやリズムに合わせて演奏する。
		3 打楽器を自由にたたく。	3 歌に合わせて、みんなと一緒に楽器を鳴らすことができる。  5 指示されれば楽器を正しいに扱える。	3 打楽器を使って、簡単な合奏をする。  4 簡単なリズム絵譜を見て合奏をする。  5 指示により、決められた場所に楽器をしまえる。	3 同左  4 リズム絵譜を見て、分担当や合奏をする。  5 それぞれの楽器の扱いが分かり、決められた場所にしまえる。	2 簡単な合奏譜を見て、いろいろなリズム打ちや旋律奏をする。 3 指揮をしたがって演奏する。 4 簡単な合奏譜を見て、いろいろな楽器を使って演奏する。 5 楽器に応じて、正しいに扱ったり、保管したりできる。

音楽（その2）

区分	I	II	III	IV	V	備考
A 表 現 唱	<ol style="list-style-type: none"> <li>やさしいメロディーの一部を口ずさむ。</li> <li>好きな歌を部分的に歌う。</li> <li>みんなと歌おうとする。</li> <li>教師と一緒に大きな声で歌える。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>やさしい曲なら、正しいメロディーで歌う。</li> <li>簡単な歌を通して歌う。</li> <li>みんなと一緒に歌う。</li> <li>簡単な歌をまねて歌える。</li> <li>教師の合図で歌える。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>リズムやメロディーに気をつけて歌う。</li> <li>やさしい歌詞なら、間違えないで歌える。</li> <li>みんなと声を合わせて歌える。</li> <li>曲の感じに合わせて歌える。</li> <li>前奏を聴いて大人と一緒に歌える。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>いろいろな歌が歌える。</li> <li>指笛に合わせて歌える。</li> <li>歌詞の内容に合わせて歌える。</li> <li>前奏が分かり、一人で歌える。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>はっきりした発音、正しい音程で歌える。</li> <li>同左</li> <li>簡単な独唱や輪唱ができる。</li> <li>歌詞の内容が分かり、気持ちを込めて歌える。</li> <li>伴奏に合わせて歌える。</li> </ol>	
B 鑑 賞	<ol style="list-style-type: none"> <li>知っている曲や好きな曲が始まるとよろこんで聴きたがる。</li> <li>オルゴールやレコード・CDなどで単純なメロディーを聴く。</li> <li>教師などの歌や演奏に興味を示す。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>知っている歌のレコードやCDを楽しんで聴く。</li> <li>楽器の音に興味を示す。</li> <li>歌や演奏の楽しさが分かる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>同左</li> <li>身近な楽器の音色が分かる。</li> <li>リズムカルな音楽とゆったりした音楽の感じが分かる。</li> <li>自分の歌や友だちの歌に関心を示す。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>自分の好きなレコードやCDを選んで、かけて楽しむ。</li> <li>日常よく耳にする楽器の名前と音色が分かる。</li> <li>音楽を聴いて曲想の変化に気付く。</li> <li>自分の歌や演奏を録音し再生して聴き、楽しむことができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>いろいろな音楽を聴いてその良さが分かる。</li> <li>いろいろな楽器の音色の特徴が分かる。</li> <li>音楽を聴いて曲全体のイメージが分かる。</li> <li>自分の歌や演奏を録音し再生してより楽しい表現をしようとする。</li> </ol>	

図画工作及び美術（その1）

区分	I	II	III	IV	V	備考	
A 表 画	a	<p>1 クレヨン、パスなどを使って簡単なぬり絵ができる。</p> <p>2 母親や父親の絵を描いたり、簡単な花の絵を描くことができる。</p> <p>3 赤、青、黄などの色が分かる。</p> <p>4 簡単な絵の具遊びができる。</p>	<p>1 クレヨンなど好きな色を使って思いのままに描く。</p> <p>2 事物の色や形をよく見て描く。</p> <p>3 緑、白、黒、ピンクなどのクレヨンや色紙などの名前が言える。</p> <p>4 人、動物、植物などをそれらしい色で描く。</p>	<p>1 中心になるものを決めて簡単な絵が描ける。</p> <p>2 かきたいものの位置や形をよく見て描く。</p> <p>3 同左</p> <p>4 対象によっていろいろな色を組み合わせ、着色できる。</p> <p>5 簡単なポスターや案内図が描ける。</p>	<p>1 見たこと、感じたこと、考えたことなどを絵に描くことができる。</p> <p>2 中心になるものとまわりものの関係をよく見ながら描くことができる。</p> <p>3 クレヨン、色紙などの12色以上の名前が言える。</p> <p>4 描くものや目的に応じ、簡単な彩度、明度、色相の変化のある表現ができる。</p> <p>5 同左</p>	<p>1 見たこと、感じたこと、考えたことなど、描く場所や描き方が工夫できる。</p> <p>2 同左</p> <p>3 同左</p> <p>4 描くものや目的に応じ、ある程度の彩度、明度、色相の変化のある表現ができる。</p> <p>5 簡単なレタリングや平面構成によるポスターや案内図が描ける。</p>	
	b	<p>1 いろいろな色や形を集めたり、並べたりできる。</p> <p>2 草花、木の葉、小石などに関心をもち、集めたり並べたりできる。</p> <p>3 紙類などをちぎったり、折ったり、切ったり、つないでりして遊ぶ。</p>	<p>1 いろいろな色や形を使って、簡単な模様ができる。</p> <p>2 色紙、包装紙、箱など身近な材料を使って自由な立体的表現ができる。</p> <p>3 はさみで画用紙や色紙などを簡単に切ったり、自由に貼り付けたりできる。</p> <p>5 身の回りや教室の簡単な飾り付けができる。</p>	<p>1 色や形の違いや感じの違いを生かして表現できる。</p> <p>2 同左</p> <p>3 はさみで画用紙や色紙などを上手に切ったり、美しく張り付けたりできる。</p> <p>4 はさみで紙を直線にそって切ることができる。</p> <p>5 行事などの際、飾り付けをすることができる。</p>	<p>1 同左</p> <p>2 色や形などの構成を工夫して、立体的に表現できる</p> <p>3 同左</p> <p>4 はさみ、カッターナイフで紙を曲線や円に沿って切ることができる。</p> <p>5 同左</p>	<p>1 色や形などの組み合わせを工夫して、作ったり、飾ったりできる。</p> <p>2 同左</p> <p>3 同左</p> <p>4 同左</p> <p>5 教室の掲示物、飾りなどの配色や配置を考え、教室を美しくすることができる。</p>	
現 ザ イ ン							

図画工作及び美術（その２）

区分	I	II	III	IV	V	備考	
表	c 版画	1 身近な物の形を写して遊ぶ。	1 木の葉、手のひらなどの形を組み合わせたり付け加えたりして版画にする。 2 バレン、ローラーを使うことができる。	1 紙版画で簡単な作品を作る。 2 同左	1 石膏版画や木版画で簡単な作品を作る。（凹版） 2 三角刀やニードルやプレス機を使うことができる。	1 凸や凹版の一般多色刷りができる。 2 丸刀、平刀、切り出しなどを効果的に使える。	
	d 彫塑・焼成	1 土・泥・粘土などをこねたり、ちぎったりして遊ぶ。 2 粘土をたいたり、伸ばしたり、丸めたりして遊ぶ。	1 粘土のかたまりからひねりだして好きなものを作る。 2 粘土で長いひもや球を作ったり、竹ナイフで切ったりできる。	1 同左 2 形がわかり、粘土が落ちないように付けることができる。	1 粘土で人物、動物、乗り物など簡単な形が作れる。 2 簡単な形が作れる。 3 粘土で器物を形成し、必要に応じて焼成できる。	1 細部がわかって、ある程度製作できる。 2 製作過程が分かり、創造的に取り組める。 3 粘土を使って自分の力で焼成できる。	
	工 作 ・ 工 芸	1 ビーズを通してひも遊びができる。 3 積木などで、いろいろな形を作ったり、くずしたりして遊ぶ。	1 ビーズなど色を変え、飾りものが作れる。 3 はさみやのりを使って簡単なはり絵ができる。	1 同左 2 紙袋を主な材料として、簡単なおもちゃなどが作れる。 3 電動米のこぎりや小刀の基本的な扱いに慣れる。 4 ニスやエナメルなどの塗料の使い方が分かる。	1 ビーズなどを利用し、いろいろな飾りものが作れる。 2 木や竹などを切ったり、穴をあけたりして、いろいろな物が作れる。 3 けんのう、のこぎり、きりなどを使って、いろいろな物が作れる。 4 同左 5 作ろうとする物を絵や図に工夫して描ける。	1 同左 2 木材などで日用品や模型を作ることができる。 3 工具や機械などの正しい取り扱いができ、物を作ることができる。 4 塗料の初歩的技法を理解し、活用することができる。 5 生活を楽しく豊かにするものを製作することができる。	
B 鑑 賞	1 自分の好きな色、形、絵などを選んだり、集めたりすることができる。	1 描いたり、作ったりしたものを見ることに関心をもつことができる。	1 展示してあるいろいろな作品を大切にすることができる。	1 絵画・彫刻・デザイン・工芸作品などを見て感想が述べられる。	1 日本や世界の文化遺産として、また、国際親善として果たす役割の大きいことを知る。		

区分	I	II	III	IV	V	備考
A 体 操	a 集団 行動	1 合図で立ったり座ったり また、集会したりする。 2 手をつないで指示どおり 歩いたり、直線上を一列に 並んで歩いたりできる。	1 指示にしたがって並ぶこ とができる。 2 リズムに合わせて正しく 行進する。	1 正しく整列できる。 2 二列ではや足・かけ足行 進ができる。	1 前後左右の区別が分かり 方向変換ができる。 2 数列の綱球や縄球ではや 足・かけ足行進ができる。	1 同左 2 数列の綱球や縄球で方向 変換ができ、能率的で安全 な集団行動ができる。
	b 基 本 の 運 動	1 教師の動きを見て、脚を 前後左右に開いたり、腕を 振ったり回したりできる。 2 両足を揃えたり、前をよく 見て姿勢よく立てる。 3 一人で片足立ちがどうに かできる。 4 合図で、はったり、くぐ ったり、またいたりなどの 動作ができる。	1 体の前後屈、側屈、回旋 腕の前後、上下、内外回旋 ができる。 2 「気を付け」の姿勢がで きる。 3 ふらふらしないで片足で 立てられる。 4 同左 5 台への登り降りや遊具を 使い、ぶらさがり、よじ登 り、飛び降りなどができる。 6 器具を使ってバランス遊 びができる。 7 手をつなぎその場跳びや 片足跳びができる。	1 身体各部位の屈伸、ねん 転、回旋ができる。 2 「気を付け」「休め」の 姿勢が正しくできる。 3 片足立ちで跳ぶことがで きる。 4 用具を使って敏しょうに 動作ができる。 5 固定施設を使って遊ぶこ とができる。 6 しゃがみずもうや片足ず もうができる。 7 なわとび遊びができる。	1 簡単な徒手体操ができる 2 同左 3 片足立ちでいろいろな動 作ができる。 4 同左 5 いろいろな変化を加えて 連続的に運動できる。 6 トランポリンや平均台で いろいろな遊びができる。 7 変化のあるなわとびがで きる。	1 徒手体操が正しくできる (準備、整理、補強運動等) 2 同左 3 同左 4 同左 5 状況に応じた正確な動き ができる。 6 バランスよく体の動きが 変えられる。 7 立ち幅跳びや垂直跳びが できる。
B 器 械 運 動	a 鉄 棒	1 低鉄棒にぶら下がること ができる。 2 跳び上がったりを蹴つ たり前回り降りができる。	1 ぶらさがり、体を前後に 振ったり、懸垂振りをする 2 跳び上がり、跳び降り、 足ぬき回りができる。	1 斜め懸垂の姿勢で腕の屈 伸ができる。 2 前方回転降り、補助逆上 がりなどができる。	1 膝かけ上がり、逆上がり ができる。 2 懸垂ができる。	1 連続した動作ができる。 2 高鉄棒で振り跳び降りが できる。
	b 跳 び 箱	1 低い跳び箱に乗ったり、 降りたり、またがったりす る。	1 跳び箱を使って、またぎ 乗り、またぎ降り、跳び上 がり、跳び降りなど教師に 支持された運動ができる。	1 同左 2 支持されて、台上前転が できる。	1 開脚跳びができる。 2 一人で台上前転ができる。	1 同左 2 高い跳び箱で台上前転が できる。
	c マ ット	1 いろいろな方向へころが ることができる。 1 マットあそびができる。	1 前転ができる。 2 同左	1 後転ができる。 2 直立のまま前に倒れ両手 で着地することができる。	1 開脚前転、開脚後転がで きる。 2 首倒立、頭倒立、片足水 平立ちができる。	1 技の組み合わせができる。 2 技の組み合わせができる。
	d 平 均 台	1 低い平均台の上を支えら れて歩く。	1 低い平均台の上を、立っ たり、横歩きができる。 2 平均台遊びができる。	1 平均台の上で立ったり座 ったりする。 2 同左	1 跳び上がったりを、跳び越 したりする。 2 色々な動きができる。	1 平均台の上で自由に、前 進、後進ができる。 2 色々な表現ができる。

体育及び保健体育

体育(その2)

区分	I		II	III	IV	V	備考
C 陸上競技	a 短距離走	1 手をひかれて走ったりできる。 2 まっすぐ走る。	1 一人で同じ調子でかけ足ができる。 2 ゆるやかなカーブを走ることができる。	1 ジグザグS字などのコースに合って走る。 2 全力50m走をする。 3 やや長い距離を走る。	1 速度や方向を変えて、歩いたり走ったりする。 2 全力100m走をする。 3 500~1000m程度を走る。	1 短距離走、長距離走、持久走をする。 2 全力200m走をする。 3 1000~1500m程度を走る。	
		b リレー	4 折り返しリレーなどをする。	4 リレーでバトンパスをする。	4 ルールを守って正しいバトンパスをする。	4 同左	4 同左
	c 障害走	1 障害物をさけて走る。	1 約30cmの高さのゴムひもをまたいで走る。	1 ゴムひも障害走をする。	1 障害物を跳び越して走ることができる。	1 ハードルを跳んで走ることができる。	
	d 幅跳び・高跳び	1 片足や両足で踏み切れる。 2 ゴムひもをまたぎ越す。	1 できるだけ高く跳び上がり着地する。 2 バーをまたぎ越す。	1 立ち幅跳びができる。 2 バーか跳び越せる。(両足で踏み切る)	1 走り幅跳びをする。 2 高く跳び上がってバーが越せる。	1 ルールを守って走り幅跳びができる。 2 走り高跳びができる。	
D 水泳	1 浅いプールで水遊びができる。	1 ひざ位の深さの水の中で遊ぶ。 2 プールサイドではた足ができる。	1 水の中での沈み方、浮き方に慣れる。 2 水の中に顔をつけ、泳ぐ。	1 水の中で呼吸の仕方を覚える。 2 水の中で呼吸の仕方を覚える。	2 クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、横泳ぎなどができる。		
E 球技	1 ボールを転がしたり、投げたりして遊ぶ。	1 相手に向かって、ボールを投げたり、蹴ったりする。 2 近い距離でボールを投げたり受けたりする。 3 両手、片手でボールつきができる。 4 円形ドッチボールができる。	1 簡易ルールでフットベースボールやサッカーをする。 2 ゴロ、フライが捕れる。ボールが打てる。 3 パスやドリブルをして、相手にボールを渡すことができる。 4 ドッチボールができる。 5 卓球、バトミントンなどをする。	1 ルールを守りサッカーなどができる。 2 ソフトボールができる。 3 バスケボールができる。 4 同左 5 ルールが分かりプレーができる。	1 同左 2 同左 3 同左		
F 武道				1 簡単な柔道や剣道ができる。 2 簡単な相撲ができる。	1 同左 2 同左		
G 表現運動	2 動物や乗り物のまねをして、とんだり跳ねたりする 3 サイドステップができる	1 音楽に合わせて歩いたり跳んだりする。 2 いろいろな模倣遊びをする。 3 スキップができる。	1 簡単なリズム遊びをする。 2 簡単な民謡やフォークダンスをする。 3 ギャロップステップができる。	1 歌に合わせて自由な表現ができる。 2 民謡やフォークダンスが楽しく踊れる。 3 クロスステップ、フォローステップができる。	1 いろいろな表現活動をする。(曲想、自然現象等) 2 民謡やフォークダンスが上手に踊れる。 3 いろいろなステップができ、楽しく表現できる。		
H その他				1 スキー、スケートをする。	1 スキー、スケート、釣りに関する。		

区分	I	II	III	IV	V	備考	
A 健 深 環 境 から だ の 発 育	a 食 事	1 明るい雰囲気の中で楽しく食べられる。	1 主食、副食をとりあわせて食べる努力ができる。	1 好き嫌いをしないで食事の量の調節ができる。	1 身体の調子を考えて食事ができる。	1 日常食品と栄養と健康の関係を知り適切な食事ができる。	
	b 清 潔	1 いつもハンカチやちり紙を用意できる。 2 指示により、手や足を洗ったり拭いたりできる。 3 指示により歯みがきができる。 4 おもらしをしたら先生に告げることができる。	1 ハンカチ、ちり紙の使い方ができる。 2 自分で手・足・顔などを洗って拭ける。 3 自分から歯みがきができる。 4 いつも清潔な下着を身に着けることができる。	1 指示されなくても必要なときにハンカチが使える。 2 入浴のときは、見えない部分もよく洗える。 3 正しい歯の磨き方ができる。 4 同左	1 いつも清潔な身なりを保つことができる。 2 入浴の時は、体のすみずみまでよく洗える。 3 同左 4 自分の下着は自分で洗濯できる。	1 同左 2 同左 3 同左 4 同左	※関連 家庭1b2
	c 睡 眠 ・ 休 養	1 一人で就寝できる。 2 身体の調子が悪いときなど親や教師に告げる。	1 決まった時刻に寝起きできる。 2 同左	1 同左 2 身体の調子が悪いときなど保健室を利用することができる。	1 目覚まし時計が自分でセットし使える。 2 同左	1 同左 2 病気のときや疲れたときは自分の意思で直ぐ休養がとれる。	※関連 生活Aa18
	d 環 境	2 指示により、戸や窓の開閉、照明の点滅などができる。	1 指示により衣服の調節ができる。 2 戸や窓の開閉、照明の点滅などができる。	1 寒暖や天候に合わせて衣服の調節ができる。 2 指示により部屋の換気や採光に注意できる。	1 同左 2 部屋の換気・採光・照明の健康に必要なことが分かる。	1 同左 2 同左	
	e から だ の 発 育	1 付き添われて健康診断や予防接種が受けられる。 4 体の主な部分の名前が言える。	1 いやがらずに自分から受診できる。 2 身体測定の結果に関心をもつ。 3 生理になったら、知らせ手伝ってもらい処置する。 4 体の主な部分のつくりやはたらきに関心をもつ。	1 同左 2 身体測定の結果から自分の体の成長に関心をもつ。 3 生理の時は始末を告げ、自分で処置する。 4 体の主な部分のはたらき分かる。	1 健康診断や予防接種の大切さが各種の資料から判断できる。 2 発育と体の各部位の働きを知る。 3 小さなけがや生理の処置が自分でできる。 4 心臓・胃・腸・肺などの主な内臓のつくりやはたらきに関心をもつ。	1 同左 2 各部位の働きと健康との関係が分かる。 3 生理の予定日が分かり、自分で準備ができる。 4 心臓・胃・腸・肺などの主な内臓のつくりやはたらき分かる。	※関連 生活Aa11 家庭Aa2

区分	I	II	III	IV	V	備考
A 健康 病気の予防	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 体の調子の悪いときは先生の指示に従う。</li> <li>2 日常用いる主な医薬品に関心をもつ。</li> <li>3 外から帰ったときは、うがいをする。</li> <li>4 汗をかいたら指示にしたがってタオルで汗を拭ける</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 いやがらずに手当を受ける。</li> <li>2 薬を指示どおり服用できる。</li> <li>3 外から帰ったときや、かぜをひいたときは、すすんでうがいをする。</li> <li>4 自分の平熱が分かる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 調子の悪いときの様子が伝えられる。</li> <li>2 病気やけがの治療に医薬品の必要なわけが分かる。</li> <li>3 指示にしたがって消毒などができる。</li> <li>4 必要に応じて体温計が使える。</li> <li>5 うつる病気と、うつらない病気のあることを知る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 体の調子の悪いときの対処が分かり、注意できる。</li> <li>2 持ち薬を自分で管理し、自分で服用できる。</li> <li>3 消毒の働きや予防の意味が分かる。</li> <li>4 体温と健康の関係を知る</li> <li>5 主な伝染病と、その予防について知る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 同左</li> <li>2 同左</li> <li>3 病気にする細菌を理解し、病気の予防や消毒の仕方を知る。</li> <li>4 健康を保つためには体温が重要な役割を果たしていることが分かる。</li> <li>5 性病の恐ろしさを理解する。</li> </ol>	
B 安全 生活の安全	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 階段やストープのそばで悪ふざけをしない。</li> <li>2 ガス栓、マッチ、刃物、ライターなどの危険物にむやみに触れない。</li> <li>3 地震、火事などの時、教師や親の指示に従うことができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 物を投げたり、高いところへ登るなど、危険な遊びをしない。</li> <li>2 日常のガス器具などの使用を学ぶ。</li> <li>3 教師や親の指示が分かり安全に避難できる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 家や学校内外の危険な場所を選ばない。</li> <li>2 安全に取り扱うことに慣れる。</li> <li>3 危ないときは、自分から逃げたり、他人に知らせたりすることができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 体育施設、用具の使い、方遊び方などを知り、けがのないように注意できる。</li> <li>2 取り扱いに注意し、正しく使うことができる。</li> <li>3 危険物を発見したときははっきり周りの人達に知らせることができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 安全に注意して運動する。</li> <li>2 同左</li> <li>3 危険物を発見したときは適切な処置が取れる。</li> </ol>	
B 安全 交通安全	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 交通信号に注意しながら教師や親と一緒に行動できる。</li> <li>2 教師や親と一緒に道路を安全に歩く。</li> <li>3 道路を横断するときは、教師や親と一緒に、左右を確かめ、手を上げて渡る。</li> <li>4 踏切を渡るときは、教師や親と一緒に、左右を確かめ、警報器のあるときはそれに従う。</li> <li>5 道路へ急に飛び出さない。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 道路を歩くときには、自動車などに気をつける。</li> <li>2 道路を何人かで歩くときは、横に並んだりふざけたりしない。</li> <li>3 道路は右側を歩き、歩道のある場合は歩道を歩く。</li> <li>4 同左</li> <li>5 道路では遊ばない。</li> <li>6 自転車の乗り方ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 交通信号の見方が十分わかり、信号に従う。</li> <li>2 同左</li> <li>3 「通行止」「横断禁止」「危険」などの標識が分かり交通標識の指示を守る。</li> <li>4 踏切では、左右を確かめ警報器のあるときはそれに従う。</li> <li>5 交通事故の原因を知り、注意できる。</li> <li>6 自転車の正しい乗り方ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 交通状況に合わせて安全に歩行できる。</li> <li>2 同左</li> <li>3 交通規則が守られる。</li> <li>4 同左</li> <li>5 同左</li> <li>6 道路の状況に合わせて自転車の利用ができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 同左</li> <li>2 同左</li> <li>3 同左</li> <li>4 同左</li> <li>5 同左</li> <li>6 同左</li> </ol>	



家庭及び対技術 ● 家庭 (技術 その1)

区分	I	II	III	IV	V	備考
A 木材加工	<p>1 材料に半分打ち込んだ小さな釘をげんのうでたたくことができる。</p> <p>2 部屋の電灯や懐中電灯の点滅ができる。</p>	<p>1 げんのうやきりなどの簡単な使い方ができる。</p> <p>2 指示によりコンセントに電源コードを差し込むことができる。</p> <p>3 安全と危険の区別がなおよそ分かる。</p>	<p>1 のこぎり、かんなど簡単な使い方ができる。</p> <p>2 指示にしたがい電動ドリルの使い方ができる。</p> <p>3 危険、頭上注意、止まれ安全第一、取扱注意などの用語が理解でき、安全に注意することができる。</p>	<p>1 木工用具の基本的な取扱方ができる。</p> <p>2 指示にしたがい電動工具の取扱いができる。</p> <p>3 切断、型取り、木取り、研磨、着色、接着、塗装などの経験から、用語が日常的に使える。</p>	<p>1 木工用具の正しい使い方が分かり、色々な作品を作ることができる。</p> <p>2 安全に留意し、電動工具の取扱いができる。</p> <p>3 同左</p>	<p>(最終的な作品例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ マルチボックス</li> <li>○ コーナーテーブル</li> <li>○ 折りたたみ椅子</li> <li>○ ブックエンド</li> <li>○ 本立て</li> </ul>
B 電気	<p>1 部屋の電灯や懐中電灯の点滅ができる。</p> <p>2 高圧電源や電柱、高圧線鉄塔などには絶対に近寄らないことが分かる。</p>	<p>1 指示によりコンセントに電源コードを差し込むことができる。</p> <p>2 同左</p>	<p>1 指示により乾電池を利用した、簡単な電気模型作品などを作ることができる。</p> <p>2 家庭の電気器具の簡単な仕組みが分かり、安全な取扱いができる。</p>	<p>1 同左</p> <p>2 高圧電源、漏電、アースカットアウトスイッチ、ヒューズ、ブレーカーなどの用語の意味が大体分かる。</p>	<p>1 乾電池や交流電源を利用した作品を作ることができる。</p> <p>2 家庭電気器具の清掃ができる。特に扇風機などは組立てや整理ができる。</p> <p>3 電動機を使った簡単な模型作品が作れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 電子ブザー</li> <li>○ インターホン</li> <li>○ ミニライト</li> <li>○ ラジオ</li> </ul>
C 金属加工	<p>1 指示によりやすりがけをすることができる。</p>	<p>1 同左</p>	<p>1 ペンチ、プライヤーなどの簡単な使い方ができる。</p>	<p>1 ぶりき板などを切ったり曲げたり、伸ばしたりすることができる。</p> <p>2 電動工具の簡単な扱い方ができる。</p>	<p>1 金工用具の正しい扱い方ができる。</p> <p>2 安全に留意して電動工具を使い、身の回りの工作品が作れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伝言板</li> <li>○ ちりとり</li> <li>○ ねじまわし</li> <li>○ ペンスタンド</li> <li>○ ふんちん</li> </ul>

家庭及び技術・家庭 (技術 その2)

区分	I	II	III	IV	V	備考
D 機械	1 自転車のハンドルやブレーキなど簡単な名称が指示できる。	1 自転車などを布で拭き掃除することができる。	1 自転車の簡単な手入れができる。 2 指示により簡単な機械工具の使い方ができる。	1 いろいろな工具を使い、自転車の分解ができる。 2 機械工具の簡単な扱いができる。 3 オートバイなどの動力の伝達が分かる。	1 工具を正しく使い、自転車の分解から組立てまでができる。 2 安全に留意して機械工具を使い、簡単な工作品が作れる。 3 同左	○ 自転車の整備 ○ 動くおもちゃ(動力の伝達) ○ オートバイ(50cc以下)の手入れ
E 栽培	1 抜き取った雑草を指示された場所へ集めることができる。 2 なす、トマト、きやいんげん、えんどうまめ、とうもろこしなどを抜き取ることができる。 3 作物を踏みつけないことができる。 4 指示により作物にじょうろなどで水かけをすることができる。	1 指示により雑草を素手で抜き取り、穀物と雑草がおおよそ区別することができる。 2 じゃがいも、さつまいも、だいこんなどを農具を使わないで掘り出すことができる。 3 カンナやマリーゴールドなどの草花の植え付けができる。 4 同左	1 スコップなどを使って穴を掘り雑草を土の中へ埋めることができる。 2 簡単な農具を使ってじゃがいもなどを掘り出すことができる。 3 定規を使って同じ間隔にさつまいもなどの定植ができる。 4 水ホースなどを使っていねいに散水することができる。	1 カマなどを使って雑草を抜き取ることができる。 2 農具を使い、ていねいに作物を掘り出すことができる。 3 定規などを使わなくてもおおよその間隔で種をまいたり定植することができる。 4 粒状の肥料や堆肥を施すことができる。 5 簡単な農具で田畑を耕すことができる。	1 まんのうやくわを使って雑草を土で被り隠すことができる。 2 農具を正しく使い分け、いろいろな農作物を収穫することができる。 3 同左 4 粉末肥料や液肥を施すことができる。 5 同左	○ トマト なす きゅうり ○ とうもろこし いね ○ じゃがいも さつまいも だいこん ○ いんげん えんどうまめ ○ カンナ マリーゴールド サルビヤ
F 情報基礎	1 ワープロのキーボードに関心を示す。 2 ことは遊びができる。	1 五十音のキーボードがたたくける。 2 簡単な電話のかけ方ができる。	1 短い文章を作ることができる。 2 ※関連(国語A7)	1 自分の作文などを、漢字変換などをつかって作成することができる。 また、計算処理などが簡単にできることを知る。 2 みんなにわかるように話すことができる。	1 自分たちの作文や学級新聞などを、漢字変換などを使って作成することができる。 2 自分の意見や考えをみんなに分かるように話せる。	○ 電話機の操作 ○ ワードプロセッサの操作 ※関連(国語C9)

(家庭 その1)

区分		I	II	III	IV	V	備考
G 家庭 生活	a	1 遊びに出る時は家人に告げることができる。 2 頼まれた簡単な手伝いができる。 3 お金で物を買うことが分かる。 4 家の人と楽しく遊べる。	1 同左 2 簡単な手伝いやお使いがすすんでできる。 3 指示のもとに、お金で物が買える。 4 同左	1 外出する時は家人に行き先を告げることができる。 2 手伝いの意味(分業)が大体分かり仕事をする。 3 小遣いを計画的に使うことができる。 4 余暇や休日の過ごし方が分かる。	1 外出時、家人に行き先、用件、帰着時刻が言える。 2 家庭内の仕事の種類や分担が分かり手伝える。 3 労働と賃金の関係を知り計画的に生活したり、貯蓄の必要性が分かる。 4 家の人と余暇や休日を楽しく過ごすことができる。	1 一日の生活に見通しをもち、生活できる。 2 家族の役割を理解しその一員として役割を果たす。 3 家計について知り、家族の経済生活に協力することができる。 4 余暇や休日を楽しく、健康的に過ごせる。	
	b 応 対	1 来訪を身近な人に知らせることができる。	1 指示により来訪者に茶菓子などを出すことができる。	1 来訪の時は、簡単な応対をし、取り次ぎができる。	1 必要な応対(接待)や伝言ができる。	1 礼儀正しく応対し、メモをとるなどの伝言ができる	
H 食 養	a	1 すききらいをしないで食べられる。 2 食べたい物が言える。	1 主食、副食を取り合わせて食べられる。 2 簡単な献立の名前が分かる。	1 好き嫌いを食べて食べると体に良いわけが分かる。 2 食べたい献立の名前が言える。	1 栄養を考えて、いろいろな食品を組み合わせて食べられる。 2 簡単な献立が立てられる。	1 日常食品の栄養と健康の関係を知り、適切な食事ができる。 2 日常食の献立が立てられる。	
	b 作 法	1 指示されて、食前とうがい・手洗いができる。 2 食事の途中で席を立たないでいられる。	1 作法を守って食事ができる。 2 指示によりお茶などを汲むことができる。	1 作法を守って楽しく食事ができる。 2 人数と茶器の数などが一致し、簡単な作法ができる。	1 体や衣服を清潔にして食事のそむことができる。 2 同左	1 同左 2 適切な話題を出し、楽しく食事ができる。	
物 調 理	c	4 指示のもとに、配膳の手伝いや食器洗いができる。	1 献立の材料を指示のもとに大体区分けできる。 2 簡単な献立の名前が分かる。 3 調理器具の名前が大体分かる。 4 同左	1 献立の名前と材料が大体分かる。 2 食べたい献立の名前が言える。 3 指示のもとに簡単な調理器具が使える。 4 配膳、盛り付けや食器器具などの片付けができる。	1 献立に合わせて、必要な材料を取りそろえることができる。 2 簡単な献立が立てられる。 3 簡単な調理器具が使える(ガスの火加減、その他) 4 同左	1 献立に合わせて必要な材料の買い物ができる。 2 日常食の献立が立てられる。 3 調理器具が安全に正しく使える。 4 配膳や盛り付けの工夫や片付けが正しくできる。	

区分		I	II	III	IV	V	備考
I 被服装	a	1 簡単な衣服の着脱ができる。 2 上着、下着の前後、表裏の区別ができる。 3 靴の左右の区別が分かる 4 かさの開閉ができ、濡れないようにかさがさせる。	1 同左 2 同左 3 くつむぎが正しく結べる 4 風向きに応じてかさがさせる。	1 衣服の着脱が正しくできる。 2 衣服の乱れに気付き直せる。 3 同左 4 同左	1 作業服と制服を上手に着分けられる。 2 寒暖や天候に合わせて衣服が調節できる。 3 色々な履き物を場所や天候に合わせて使える。 4 まわりの安全に気を配りかさがさせる。	1 衣服の着脱が速く正しくできる。 2 自分の体に合った衣服を選んで着られる。 3 同左 4 同左	※関連 生活Aa15
	b	1 指示により、洋服、帽子、かばん、くつなどが所定の場所に置ける。 2 ハンカチやタオルなどの小物がたためる。	1 洋服、帽子、かばん、くつなどが所定の場所に置ける。 2 ハンカチやタオルなどの洗濯ができる。	1 同左 2 洗濯用具が分かり、指示により簡単なアイロンかけもできる。	1 自分の衣服や持ち物を、決められた場所に正しく整理できる。 2 くつしたや下着類などは自分で洗濯しアイロンかけができる。	1 次に使うときのことを考え、整理の仕方を工夫することができる。 2 布地や汚れに応じた洗濯の仕方や生地の種類に応じたアイロンかけができる。	
	c	3 ボタン、スナップなどが区別できる。	1 指示を受けながら針の糸通しなどができる。 3 指示をうけてボタン、スナップなどをはずすことができる。	1 糸通し、玉結び、玉どめなどができる。 2 ミシンで直線縫いなどができる。 3 型紙に合わせて裁断し、小物や袋などが作れる。 4 簡単な刺しゅうができる	1 基礎縫いができる。 2 ミシンの使い方を知りスモックなどが縫える。 3 同左 4 編み棒などを使って簡単な編み物ができる。	1 ほころび程度の補修ができる。 2 ミシンの使い方に習熟しいろいろなものが縫える。 3 寸法や型紙の取り方が分かり、簡単な物の製作ができる。 4 刺しゅう、編み物などができる。	
J 住居安全	a	1 指示のもとに、使った遊具などが片付けられる。 2 簡単な掃除ができる。 ※関連(社会B1I~V)	1 同左 2 ほうき、雑巾、モップなどを使い掃除ができる。	1 学用品、遊具などを所定の場所に整理できる。 2 同左	1 同左 2 各種の清掃用具を使い、手際よく掃除ができる。	1 自分の持ち物の整理整頓が正しくできる。 2 清掃用具の取扱いやごみの処理を適切にする。	
	b	1 指示のもとに窓やドアのカギが開められる。 2 避難訓練のときは、家の人と一緒に行動できる。	1 窓やドアのカギが完全に閉められる。 2 以下 ※関連(社会D3)	1 部屋の換気や採光に注意できる。 2 同左	1 換気、採光、照明など住まいの工夫ができる。 2 同左	1 暑さや寒さを防ぐ住まいの工夫ができる。 2 同左	
K 保 育	a	1 男子・女子の体の違いが分かる。 2 いつも清潔な下着を身に付けることができる。	1 親の世話を受け成長していることが分かる。 2 同左 ※関連(保健A b)	1 男子・女子らしい態度がとれる。 2 生理の役割を知り処理ができる(※関連保健A e 3) 3 幼児と遊べる。	1 同左 2 同左 3 乳幼児の世話の手伝いができる。	1 異性の正しい交際の仕方結婚について理解できる。 2 妊娠、出産について理解できる。 3 乳幼児の世話ができる。	

取扱業（その1）

区分	I	II	III	IV	V	備考
A 仕 事 関 心 態 度 及 び 習 慣	a	1 簡単な仕事に興味を示す。 2 家庭や学校で簡単な手伝いや係活動ができる。	1 仕事に関心を示し、簡単な仕事に参加できる。 2 手伝いを喜んですることができる。	1 同左 2 物を作ったりすることに関心を示し、仕事への意欲を持つ。	1 仕事の達成に喜びを感じることができる。 2 同左	1 同左 2 完成の喜びを味わい、仕事への自信を持つ。
	b 責 任 中 感	1 そのつど指示を受けながら簡単な仕事ができる。	1 一定時間あきずに仕事ができる。	1 与えられた仕事にすぐ入る。	1 自分の分担を理解して行うことができる。	1 自分の役割分担に責任をもって最後までやりとげる。
	c 対 人 関 係	1 簡単な仕事をみんなと一緒にできる。	1 同左 2 指示や注意がわかる。 3 失敗したら先生に伝えることができる。	1 与えられた簡単な仕事が一人できる。 2 ふざけたりむざむざ話、よそ見しないで仕事ができる。 3 他人の失敗をあなどらない。	1 グループに協力して仕事ができる。 2 指示や注意に対して協力的に対応できる。 3 同左	1 お互いの役割を知って協力できる。 2 分からない事は、進んで聞くことができる。 3 失敗を繰り返さないよう注意できる。
	d 接 遇 ・ 対 応	1 名前を呼ばれたら返事ができる。 2 始まりや終わりのあいさつができる。	1 先生や友達に進んであいさつを交わすことができる。 2 同左 3 簡単な電話のかけかたができる。	1 同左 2 簡単なことからの伝達ができる。 3 電話や来客があったときは取り次ぎができる。	1 指導者やお客さんに丁寧なあいさつができる。 2 2～3のことからの伝達ができる。 3 電話を正しくかけたり受けたりできる。	1 相手や状況に応じて適切なあいさつができる。 2 仕事の伝達が正しくできる。 3 仕事に関する電話を正しくかけたり受けたりできる。
	e 安 全	1 作業中は悪ふざけしない。 ※関連（保健B a 1 1）	1 指示された注意は守り、危険なことはしない。	1 危険なものに対する指示や表示が分かる。 ※関連（技術A 2 Ⅲ）	1 危険物の取扱いに注意できる。	1 安全に留意して、いろいろな作業をすすめることができる。
	f 準 備 ・ 後 始 末	6 指示により電灯の点滅ができる。	2 手伝ってもらって材料、用具の準備ができる。 3 手伝ってもらって材料、用具の後始末ができる。 4 指示により、不要物の始末ができる。 5 指示により、作業後の掃除ができる。 6 指示によりコンセントに電源コードを差し込むことができる。	2 同左 3 同左 4 同左 5 作業後の掃除ができる。 6 指示により電灯、スイッチ、窓の開閉、戸締まりができる。	1 作業の内容に応じた身支度ができる。 2 指示された材料、用具の準備ができる。 3 所定の場所へ用具をしまうことができる。 4 不要物の区分ができる。 5 仕事が終わったり作業場を離れる時は報告ができる。 6 係、当番として電灯、スイッチ、窓の開閉、戸締まりができる。	1 同左 2 作業に必要な材料、用具の準備ができる。 3 用具を決められた方法で正しくしまうことができる。 4 不要物、必要物が分り正しく処理できる。 5 作業後の掃除、後始末が正しくできる。 6 状況に応じて電灯、スイッチ、窓の開閉、戸締まりができる。

職業 (その2)

区分	I	II	III	IV	V	備考	
本 基 的 な 技 能	a 測定・計算	1 指示により同じ物を並べることができる。	1 指示により大きい、小さい、長い、短い、重い、軽いなどが分かり比較できる。	1 10の単位で数えることができる。 2 はかる器具を知り、一定量がはかれる。 3 印をつけて一定量の長さをはかれる。 4 印をつけて一定量の重さをはかれる。 5 簡単な計算用計算器を使って処理できる。	1 100の単位で数えることができる。 2 1ダースの意味が分かり作業ができる。 3 同左 4 はかりを使って物の重さをはかれる。 5 必要に応じて計算器を使って会計処理ができる。	1 作業の中で測定用具を利用し、いろいろなものを測ることができる。 2 同左 3 必要なだけ、ものさしてはかれる。 4 重さの目盛りが正しく読め、正確にはかれる。 5 同左	
	b 道具・作機械の		1 指示により簡単な道具や工具が使える。 2 指示により釜・ガス・刃物の操作ができる。 3 指示により簡単な道具の拭き掃除ができる。	1 限られた道具や工具が使える。 2 自分で、釜・ガス・刃物などの扱い方に注意できる。 3 指示により簡単な道具や機械の手入れができる。 4 使われる道具や機械の名称が分かる。	1 限られた道具や工具が上手に使える。 2 同左 3 同左 4 一般に使われる道具や機械の名称が分かる。	1 各種の道具や工具が上手に使える。 2 電気器具、ガス器具、石油器具等が安全に扱える。 3 道具や機械の手入れが正しく安全にできる。 4 道具や機械の役割を正しく理解し操作できる。	
	c 製品の否	1 製品であることが分かりていかに扱うことができる。	1 製品をていねいに並べたり重ねたりすることができる。	1 極端な不良品が分かる。	1 不良なところが見つけれられる。	1 製品の良否が分かり、不良品を出さないよう注意できる。	
	d 事務・実務			1 指示により簡単な事務用機器が扱える。(計算器等) 2 指示により簡単な領収書が書ける。 3 製品の値段が分かり、少額の金銭の受け払いができる。(計算器使用可)	1 同左 2 見本を見て、簡単な領収書が書ける。 3 同左 4 指示された額の集金ができる。	1 事務用品や簡単な事務用機器が扱える。 2 見本を見て、請求書・領収書などが書ける。 3 金銭の受け払いが正しくできる。 4 伝票にあった集金ができる。	
	e 進路		1 自分の好きな遊びが言える。	1 自分のやりたい系や部活動が選択できる。 2 家族の職業に関心をもつ。 3 職場見学に関心をもつ。	1 自分の進路について関心をもつ。 2 家族や先輩の職業が分かる。 3 同左	1 自分の適性に合う職業のある程度選択できる。 2 いろいろな職業と生活の関係が分かる。 3 公共職業安定所の主な仕事の内容が分かる。	
	f 職業生活		1 お金で品物を買うことが分かる。	1 働くことによって報酬が得られることが分かる。	1 同左 2 休憩時間・休日がある。	1 労働と賃金の関係を知り計画的に生活することの必要性が分かる。 2 休日の適切な生活ができる。 3 市町村や場で諸届ができる。	

区分	中学校 第1学年～第3学年	備考
<p>A</p> <p>アルファベット</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 英語に使われる文字は「アルファベット」という26文字からできていることが分かる。</li> <li>○ ABCの歌が歌える。</li> <li>○ 単語の元になる、AからZまでの26文字「アルファベット」について、絵を見ながら型（ブロック体・筆記体・活字体）の区別や大文字・小文字などがあることが分かる。</li> <li>○ アルファベットの文字あそびができる。</li> <li>○ アルファベットの文字あそびなどをとおして、アルファベットを書くことができる。</li> </ul>	
<p>B</p> <p>ローマ字</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鉄道の駅名、町の通りの名前、交通標識、商店の看板などの日本語を「アルファベット」を使って「ローマ字」で書いてあることを知る。</li> <li>○ ローマ字は、日本語文を外国の人に伝えるのに便利なことを知り、自分の名前や知名度のある国・町・海・山・川などの読み方のあることを学ぶ。</li> <li>○ ヘボン式ローマ字（例 siをshiと書き[シ]と読む 以下同じ si⇒shi ti⇒chi hu⇒fu zi⇒ji など）があり、便利なことを知る。</li> <li>○ やさしい日本語をローマ字文で表現することを学ぶ。</li> </ul>	
<p>C</p> <p>身近な英語 生活英語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 朝のあいさつは元気よく、MORNINGなど……、つづりは、原則として単数で表現するなどの配慮から、楽しい雰囲気になることができる。</li> <li>○ 時間によって変わるあいさつが分かる。（朝 昼 夜 などが使い分けられる。）</li> <li>○ 記号として覚えなくてはならない大切な単語 STOP ONE WAY PARKING P DANGER WARNING EXIT CAUTION BE QUIET などを中心に絵と対応することができる。</li> <li>○ 学校生活、家庭生活、動物園、あそび、乗り物、色、形、季節、天気、月、週、数、時間、日用品、食事（食べ物）、働く人、買い物……など絵と対応させ（かるたとりなどでの工夫）楽しく学ぶことができる。</li> <li>○ 短い英会話や簡単な英語の文章を読んだり書いたりすることができる。</li> </ul>	
<p>D</p> <p>その他の 外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外国語が日本語化しているのを外来語ということを知る。</li> <li>○ 外来語はカタカナで書くことを知る。</li> <li>○ 英語のほかにアメリカ英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、ギリシャ語、ポルトガル語、スペイン語、オランダ語などがあることを知る。</li> </ul>	

道 徳 ( その 1 )

区 分	I	II	III	IV	V	備 考
1 主として、自分自身に関すること。	1 自分の持ち物と他人の持ち物の区別ができる。 2 日常生活に関することが自分できる。 3 良いことと悪いことが分かる。 4 うそは悪いことだと分かる。	1 物や金銭を大切にできる。 2 自分の仕事をがんばってやることができる。 3 間違えたらあやまることができる。 4 うそやごまかしをしないで生活できる。	1 自分で身の回りを整えられる。 2 やろうと決めたことは、粘り強くがんばれる。 3 よく考えて行動し、あやまちを改めることができる。 4 正しいと思うことは勇気をだして行うことができる。 5 自分の生活を少しでも良くするよう考えられる。	1 自分の生活を振り返り、節度を守ることができる。 2 自分から目標を立て努力することができる。 3 自分で考え行動したことに責任がもてる。 4 事の善悪を判断し、目当てのある生活ができる。 5 自分の特徴に気付くことができる。	1 きまり良い生活を身につけ調和のある生活ができる。 2 身近な経験を通して生きることへの希望と積極的に取り組む勇気ももてる。 3 自主的に考え行動し、責任がもてる。 4 目標に向かって明るい心で生活できる。 5 自分の良いところを伸ばし向上しようとする事ができる。	
2 主として他人とのかかわりに関すること。	1 身近な人への簡単なあいさつができる。 2 おじいちゃんやおばあちゃんに親切にできる。 3 身近な友達と遊ぶことができる。 4 お世話になったとき、ありがとうが言える。	1 場に応じたあいさつができる。 2 幼い子のめんどうをみる事ができる。 3 友達と仲よくし、助け合うことができる。 4 日ごろ世話になっている人々に感謝することができる。	1 だれに対しても気持ちよくあいさつができる。 2 相手のことを思いやり、親切にすることができる。 3 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことができる。 4 生活を支えている人々や高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接することができる。 5 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえることができる。	1 時と場に応じた礼儀作法ができる。 2 思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることができる。 3 互いに信頼し、友情を深め、男女仲よく協力し助け合うことができる。 4 謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にすることができる。 5 同左	1 時と場に応じた適切な礼儀作法ができる。 2 他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつよう努力できる。 3 心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うことができる。 4 男女は、互いに相手の人格を尊重し、健全な異性観をもつようにできる。 5 他人の個性や立場を尊重しいろいろなもの見方や考え方があることを理解して、謙虚に学べる。	
3 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること。	1 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接することができる。 2 生命を大切にすることをもち。 3 美しいものに触れ、すがすがしい心ももてる。	1 自然のすばらしさや不思議さを知り、自然や動植物を大切にできる。 2 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にできる。 3 美しいものや気高いものに感動する心ももてる。	1 自然の偉大さを知り、自然崇拝を大切にすることができる。 2 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重をする。 3 美しいものに感動する心や人間の力を越えたものに対する畏敬の念をもつ。	1 自然を愛し、美しいものに感動する豊かな心をもつことができる。 2 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重するようにする。 3 人間には弱さや醜さもあるが、それを克服するように努める。	1 自然愛、美に感動する心で、人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深める。 2 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重するようにする。 3 弱さや醜さや克服する強さや気高さがあることを信じ、生きること喜びを見い出すように努める。	



道 徳 (その2)

区 分	I	II	III	IV	V	備 考
4 主として集団 や社会とのかか わりに関するこ と。	1 みんなが使うものを大切にし、約束やきまりが守れる。 2 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いをする。 3 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級の生活を楽しむことができる。	1 約束や社会のきまりを守り、公德を大切にすることを。 2 働くことの大切さを知り進んで働くようにする。 3 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで明るく楽しい家庭をつくるように努める。 4 先生や学校の人々を敬愛し、明るく楽しい学級をつくるように努める。 5 郷土の文化や生活に親しみ、郷土を大切にすることを。 6 我が国の文化や伝統に関心をもち、国を大切にすることを。	1 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。 2 公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たすようにする。 3 たれに対しても差別をすることや偏見をいなくことなく、公正、公平にし、正義の実現に努める。 4 働くことの意義を理解するとともに、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つようにする。 5 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つようにする。 6 先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくるように努める。 7 郷土や我が国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。 8 外国の人々や文化を大切にすることをもち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。	1 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深める。 2 法の精神を理解し、自他の権利を重んじ義務を確実に履行するように努める。 3 正義を重んじ、たれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に尽くすように努める。 4 勤労の尊さを理解し社会への奉仕の気持ちを深め、進んで公共の福祉と社会の発展に尽くすように努める。 5 父母、祖父母に敬愛の念を深め家族の一員としての自覚をもち充実した家庭を築くようにする。 6 学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立するようにする。 7 地域社会の一員としての自覚をもち、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に尽くすようにする。 8 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に尽くすとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に役立つように努める。 9 世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献するように努める。	1 役割と責任を自覚し、協力し合って集団生活の向上に努める。 2 公德心をもち社会の秩序と規律を高めていくように努める。 3 正義を重んじ、たれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に尽くすように努める。 4 勤労の尊さを理解し社会への奉仕の気持ちを深め、進んで公共の福祉と社会の発展に尽くすように努める。	

## 参考文献（文部省刊行物及び辞典等は除く）

- |                    |              |               |
|--------------------|--------------|---------------|
| 精神薄弱児の指導と生活単元学習    | 丹野由次 秋山一乗    | めいけい出版        |
| 実践生活単元学習           | 小出進          | 学習研究社         |
| ちえ遅れの子どもの国語        | 近藤原理 中谷義人    | 学習研究社         |
| ちえ遅れの子どもの算数・数学     | 川口延 藤原鴻一郎    | 学習研究社         |
| がらくたであそぶ           | 菅原道彦         | 草土文化          |
| 知能障害児の指導           | 井田範美         | 明治図書          |
| 精神発達遅滞児の知的学習       | 井田範美 田中道治    | 明治図書          |
| —新しい可能性を求めて—       |              |               |
| 交流の多い特殊学級教育        | 宮崎直男         | 東京書籍          |
| 精神薄弱教育             | 松原隆三         | 協同出版          |
| 実践精神遅滞児の教育         | 日本教育大学協会     | 家の光協会         |
| 障害児の進路指導           | 石部元雄 澁沢久     | ミネルヴァ書房       |
| 心理テスト入門            | 伊藤隆三 松原達哉    | 日本文化科学社       |
| 言語障害治療学            | 田口恒夫         | 医学書院          |
| ことばの治療学            | ヴァン・ライパー     | 新書館           |
| 言語治療用ハンドブック        | 田口恒夫         | 日本文化科学社       |
| 言語障害ことばの指導         | 大熊喜代松        | 日本文化科学社       |
| 職能教育の基礎            | 中野善達         | 東京大学聴覚障害教育研究会 |
| 言語発達の病理            | 田口恒夫         | 医学書院          |
| 口語サインと発音指導         | 坂田午二郎 小野順子   | はまゆう言語教育研究会   |
| 小児のことばの障害          | 田中美郷 前川彦右エ門  | 医歯薬出版株式会社     |
| 言語治療マニュアル          | 福迫陽子 伊藤元信    | 医歯薬出版株式会社     |
| 普通学級における難聴児の理解と指導  |              | インデグレーション研究会  |
| ことばの遅れとその治療        | 笹沼澄子         | 大修館書店         |
| 言語障害児教育実践シリーズ      | 日本言語障害児教育研究会 | 日本文化科学社       |
| ②どもり               |              |               |
| 情緒障害児の教育 かん黙       | 全国情緒障害教育研究会  | 日本文化科学社       |
| 現代のエスプリNo.139 登校拒否 | 佐治守夫・神保信一    | 至文堂           |
| 行動治療法入門            | 祐宗省三・春木豊     | 川島書店          |
|                    | 小林重雄         |               |
| 子どもは変わる            | 東正           | 川島書店          |
| 神経性習癖をもつ子ども        | 上出弘之・伊藤隆二    | 福村出版          |
| 自閉症児の集団適応          | 小林重雄         | 学習研究社         |
| 自閉症児の学習指導          | 佐々木正美        | 学習研究社         |
| 子どもの臨床行動療法         | 園田順一・高山巖     | 川島書店          |

# 「特殊学級における教育課程 及び指導計画の手引」作成委員

## 1 研究協力員

### 小学校精神薄弱特殊学級グループ

茨城町立川根小学校教諭	豊田 光 恵
日立市立宮田小学校教諭	石井 正 子
大野村立大同西小学校教諭	萩原 眞佐子
下館市立竹島小学校教諭	為我井 せつ子
竜ヶ崎市立竜ヶ崎小学校教諭	黒田 慶 子

### 中学校精神薄弱特殊学級グループ

日立市立駒生中学校教諭	野村 浩 子
大野村立大野中学校教諭	下河辺 幸 枝
取手市立永山中学校教諭	後藤 賢 一
岩井市立東中学校教諭	古矢 業 子
石岡市立城南中学校教諭	沼尻 久 子

### 小学校難聴・言語障害特殊学級グループ

神栖町立息栖小学校教諭	村井 典 子
石岡市立東小学校教諭	岡野 はつ子
笠間市立笠間小学校教諭	椎名 芳 男
日立市立助川小学校教諭	中村 節 子
総和町立中央小学校教諭	広瀬 好 子

### 情緒障害特殊学級グループ

美野里町立美野里中学校教諭	野村 享 久
高萩市立高萩小学校教諭	乾 孝 之
土浦市立土浦第二小学校教諭	大久保 真理子
取手市立永山小学校教諭	廣瀬 由美子
八千代町立中結城小学校教諭	生井 紀 子

## 2 平成3年度に携わった方々

茨城県立鉾田一高校長	酒井 貫 全	(前茨城県立教育研修センター所長)
石岡市立石岡南小学校校長	佐藤 信 夫	(前茨城県立教育研修センター特殊教育課長)
鉾田町立串挽小学校	大川 みど里	
波崎町立太田小学校教諭	西村 力	
境町立境第一中学校	野口 洋 子	
八郷町立柿岡中学校教諭	田口 茂	
茨城県立土浦養護学校教諭	山口 良 輔	

## 3 茨城県教育研修センター

所長	高久 清 吉	
次長	倉持 了	
教育相談・特殊教育課長	佐伯 進 悟	
指導主事	染谷 正 俊	
指導主事	小野澤 正 孝	
指導主事	矢口 賢 壽	(平成4年11月1日付で茨城県教育庁へ)
指導主事	西野 和 夫	
指導主事	飯塚 勉 美	
指導主事	北山 知 正	
心身障害教育相談員	大川 清 正	
	小谷 清 正	

研究報告書第1号

＜特殊教育に関する調査研究＞

特殊学級における教育課程及び指導計画の手引き

平成3・4年度

平成5年3月発行

茨城県教育研修センター

茨城県西茨城郡友部町中町字山ノ輪410番地

TEL 0306-(78) 2121 (代表)